

第2回

大学院生生活実態調査報告書

キャンパスライフ



Campus

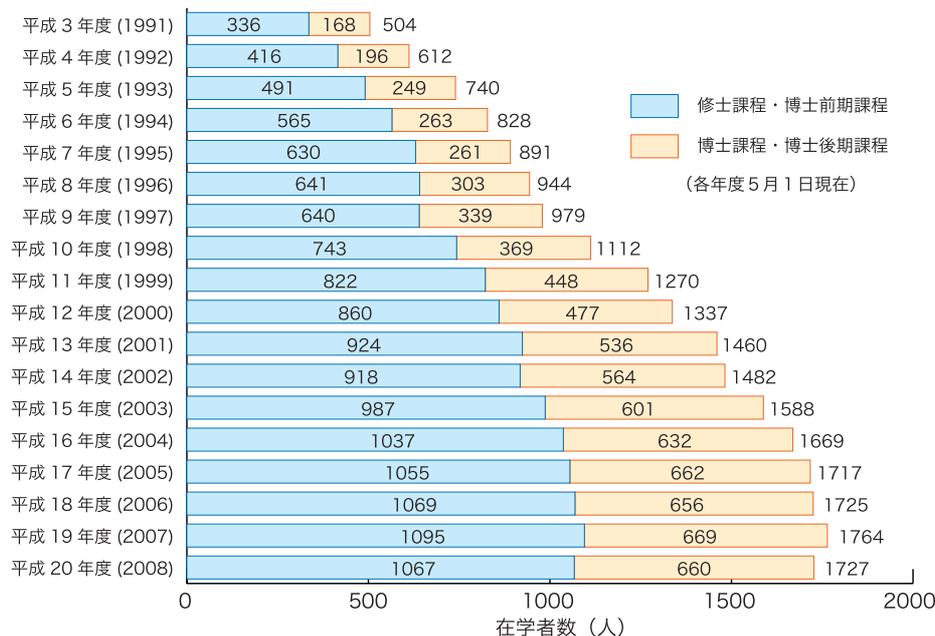
徳島大学

The University of Tokushima

ま え が き

第2回大学院生の生活実態調査をお届けします。今回は博士前期課程・博士後期課程の院生も含めた大学院生全員を対象とした調査となっています。本学の大学院も平成21年度からは人間・自然環境研究科が総合科学教育部に改組され、地域科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）がスタートします。7つの教育部に博士課程の設置が完成し、今後、研究に基礎を置く本学大学院の教育研究の一層の発展が期待できます。

徳島大学大学院在学者数の推移



学部教育と同様に大学院教育においても、20世紀の量的拡大の時期から、21世紀の「知識基盤社会」の担い手養成機関としての質的変革期をむかえています。従ってまた、国際化への対応が喫緊の課題です。今回の調査でも、第5章「修学状況について」での諸項目を見る限り、院生の意見としては修学状況におおむね満足しているようにみえます。しかし、一方では本学の大学院在学者数は一昨年をピークに減少傾向がみられ、大学院教育の魅力を創出する必要が感じられます。この報告書にみられる院生の意見を真摯に受け取り、マスの時代に適合した大学院生が勉強しやすい教育環境づくりを推進いただければ幸いです。

本実態調査は、企画・実施・分析を徳島大学学生支援センター学生生活支援室運営会議の委員の先生方と学務部職員の方々に行っていただきました。末筆ながら、野間隆文委員長をはじめとするみなさんに深く感謝いたします。また、調査に協力いただきました大学院生のみなさんにも、この場を通じて感謝いたします。

平成21年3月

徳島大学理事（教育担当）

川 上 博

目 次

まえがき	1
序 章 大学院生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 回答票の回収状況	5
7 図中の％表示	5
8 前期課程・後期課程	5
9 研究科・教育部の略語表示	5
附表 「平成20年度学生生活実態調査票」(日本人学生用)	8
附表 「2008 STUDENT LIFE SURVEY」(外国人留学生用)	16
第1章 本調査の対象者について	32
1-1 出身地	32
1-2 大学院生の最終学歴	33
1-3 社会人大学院生と留学生	33
第2章 住居, 通学方法, 収入・支出について	35
2-1 家庭の年間所得	35
2-2 住居区分	36
2-3 住居費	37
2-4 通学方法	38
2-5 通学時間	38
2-6 1ヶ月の平均収入額	39
2-7 親等からの援助額	40
2-8 1ヶ月の平均支出額	41
2-9 奨学金	42
2-10 ティーチングアシスタント	43
2-11 リサーチアシスタント	44
2-12 アルバイト	45
2-13 アルバイト従事時間数	46
2-14 アルバイトの目的	47
2-15 アルバイト収入	48
2-16 アルバイトにおけるトラブル	48
第3章 健康状態について	50
3-1 睡眠時間	50
3-2 気になる症状	51
3-3 症状の内容	51

3-4	主な悩みと不安	52
3-5	相談相手	53
3-6	現在の精神状態	54
3-7	保健管理センターの認識	55
3-8	保健管理センターの利用	56
3-9	保健管理センターの対応	57
第4章	学生生活上の問題点について	58
4-1	配偶者や子供の有無と子供の世話	58
4-2	迷惑行為	60
4-3	学生相談室	61
4-4	盗難等犯罪の被害	63
4-5	大学事務室の対応	64
第5章	修学状況について	66
5-1	教育理念・方針と教育に対する満足度	66
5-2	本学を選んだ理由と目的	70
5-3	研究活動と研究指導	74
5-4	研究環境と所属大学院に対する満足度	79
5-5	図書館の利用状況	82
5-6	海外渡航の経験と英会話	84
5-7	日本語会話	88
5-8	学習への取り組みと本学の教育への期待	90
第6章	進路・就職について	94
6-1	博士後期課程への進学意志	94
6-2	進学希望先	94
6-3	就職希望職種	95
6-4	進路選択の要件	97
6-5	進路選択の情報入手手段	98
6-6	就職支援室の利用状況	99
6-7	就職に関する大学への要望	100
第7章	研究科・教育部の現状と課題	103
7-1	人間・自然環境研究科	103
7-2	医科学教育部（医学研究科）	105
7-3	口腔科学教育部（歯学研究科）	107
7-4	薬科学教育部	109
7-5	栄養生命科学教育部（栄養学研究科）	111
7-6	保健科学教育部	113
7-7	先端技術科学教育部（工学研究科）	115
特記	留学生の現状と課題	118
第8章	総括と提言	120
	あとがき	122

序章 大学院生生活実態調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、本学大学院生の生活の実態や要望を把握し、今後の福利厚生施設等の改善並びに修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の組織

この調査は、徳島大学学生支援センター学生生活支援室運営会議の次の委員が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区 分	氏 名	所 属	職 名
委 員 長	野 間 隆 文	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教 授
委 員	近 藤 正	”	教 授
委 員	吉 田 秀 夫	”	教 授
委 員	北 村 清一郎	”	教 授
委 員	佐 野 茂 樹	”	教 授
委 員	桂 修 治	総 合 科 学 部	教 授
委 員	伊 藤 正 幸	”	教 授
委 員	長 尾 文 明	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教 授
委 員	井 崎 ゆみ子	保 健 管 理 セ ン タ ー	准教授
委 員	金 成 海	国 際 セ ン タ ー	教 授

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学大学院修士・博士前期課程及び博士・博士後期課程に在学する学生全員1,592人（平成20年11月1日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、各研究科（教育部）の学務（教務）係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配布し、回答用紙（マークカード）を回収した。

4. 調査の時期

この調査は、平成20年11月4日から11月12日まで実施し、11月1日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を11月17日までとした。

5. 調査の内容

調査項目は、大学院生の生活全般を把握できるように精選した。

6. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者 1,592 人のうち回答数は 939 人で、回収率は 59.0%であった。研究科・教育部・専攻別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

7. 図中の%表示

端数処理の関係で合計が 100%にならない場合がある。

8. 前期課程・後期課程

報告書中では、修士課程と博士前期課程を合わせて前期課程、博士後期課程と 4 年生博士課程（医・歯）を合わせて後期課程と表現した。

9. 研究科・教育部の略語表示

本報告書中、研究科・教育部名を以下のとおり略語で記載する。

人間・自然環境研究科 → 人間・自然環境
医科学教育部（医学研究科） → 医科学
薬科学教育部 → 薬科学
栄養生命科学教育部（栄養学研究科） → 栄養生命科学
保健科学教育部 → 保健科学
先端技術科学教育部（工学研究科） → 先端技術科学
口腔科学教育部（歯学研究科） → 口腔科学

平成20年度 大学院生生活実態調査 集計表 (研究科・教育部・専攻・学年別)

研究科・教育部名	修士・博士前期課程												修士・博士後期課程																									
	1年				2年				小計				1年				2年				3年				4年				小計				回収率					
	全体 (人)	うち留学生 (人)	在学数 (人)	提出数 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	在学数 (人)	提出数 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	在学数 (人)	提出数 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	在学数 (人)	提出数 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	在学数 (人)	提出数 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	在学数 (人)	提出数 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	在学数 (人)	提出数 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	在学数 (人)	提出数 (人)	全体 (%)	うち留学生 (%)				
人間・自然環境研究科	人間環境専攻	12	5	4	1	18	7	3	1	30	12	7	2	400	286																							
	自然環境専攻	12	6	0	0	20	13	0	0	32	19	0	0	584																								
	臨床心理学専攻	11	8	0	0	13	6	0	0	24	14	0	0	583																								
医学教育部 (医学研究科)	小計	35	19	4	1	51	26	3	1	86	45	7	2	523	286																							
	医学専攻	9	8	1	0	18	9	1	1	27	17	2	1	630	500																							
	内科系専攻																																					
医学教育部 (医学研究科)	外科系専攻																																					
	医学専攻																																					
	プロテオミクス医学専攻																																					
口腔科学教育部 (歯学研究科)	小計	9	8	1	0	18	9	1	1	27	17	2	1	630	500																							
	口腔科学専攻																																					
	創薬科学専攻	28	13	1	0	29	14	0	0	57	27	1	0	474	0.0																							
薬学教育部	医療生命薬学専攻	36	16	0	0	39	14	0	0	75	30	0	0	400																								
	小計	64	29	1	0	68	28	0	0	132	57	1	0	432	0.0																							
	人間栄養科学専攻 (栄養学研究科)	20	16	0	0	22	18	1	1	42	34	1	1	810	1000																							
保健科学教育部	保健学専攻	22	12	0	0	14	6	0	0	36	18	0	0	500																								
	知的力学システム工学専攻	64	53	5	2	84	65	5	2	148	118	10	4	737	400																							
	環境創生工学専攻	94	68	2	0	101	67	2	0	195	135	4	0	692	0.0																							
先端技術科学教育部 (工学研究科)	システム創生工学専攻	175	137	10	6	170	117	12	3	345	254	22	9	736	409																							
	工学研究科 (博士前期課程)																																					
	物質材料工学専攻																																					
工学研究科 (工学研究科)	マクロ制御工学専攻																																					
	機能システム工学専攻																																					
	情報システム工学専攻																																					
工学研究科 (工学研究科)	エコシステム工学専攻																																					
	小計	333	258	17	8	358	250	19	5	691	508	36	13	735	361																							
	合計	483	342	23	9	531	337	24	8	1014	679	47	17	670	362																							

(注) 在学者数欄は11月1日現在で、休学者を除いた数である。

〈学年別〉

課 程	学 年	全 体		回 收 率 全 体 (%)
		対象者数 (人)	回 収 数 (人)	
修士・博士前期課程	1 年	483	342	70.8
	2 年	531	337	63.5
	小 計	1,014	679	67.0
博士・博士後期課程	1 年	146	65	44.5
	2 年	180	91	50.6
	3 年	171	73	42.7
	4 年	81	31	38.3
	小 計	578	260	45.0
	合 計	1,592	939	59.0

〈男女別〉

課 程	研 究 科 ・ 教 育 部 名	回 収 率		
		男	女	計
修士・博士前期課程	人間・自然環境研究科	40.9	64.3	52.3
	医科学教育部（医学研究科）	68.8	54.5	63.0
	薬科学教育部	39.4	47.5	43.2
	栄養生命科学教育部(栄養学研究科)	100.0	77.8	81.0
	保健科学教育部	50.0	50.0	50.0
	先端技術科学教育部(工学研究科)	74.0	69.1	73.5
	小 計	68.6	61.8	67.0
博士・博士後期課程	医科学教育部（医学研究科）	27.6	44.4	32.9
	口腔科学教育部（歯学研究科）	50.0	70.8	58.3
	薬科学教育部	36.7	18.8	30.4
	栄養生命科学教育部(栄養学研究科)	62.5	36.0	46.3
	保健科学教育部	100.0	80.0	83.3
	先端技術科学教育部(工学研究科)	53.1	74.3	56.9
	小 計	42.1	51.4	45.0
	合 計	59.6	57.3	59.0

平成20年度 学生生活実態調査

平成20年11月
徳島大学

お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生施設等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成20年11月1日現在、本学に在学する大学院学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入していただき、他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

[調査実施期間 11月4日～11月12日]

回答用紙（マークカード）の提出期限は、11月17日（月）です。
所属研究科（教育部）の学務（教務）係へ提出してください。

回答記入上の注意事項

- 1 平成20年11月1日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号をHBの黒鉛筆で塗りつぶして回答してください。
ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けています。質問中、回答用紙（マークカード）の裏面に記入する必要がある場合は、質問番号とその内容を記入してください。
また、大学内における学生生活全般について、気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。

学生生活実態調査票（大学院）

A. 基本的事項について

1 【全員】所属研究科・教育部はどこですか。

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 人間・自然環境研究科 | 2. 医科学教育部（医学研究科） |
| 3. 口腔科学教育部（歯学研究科） | 4. 薬科学教育部 |
| 5. 栄養生命科学教育部（栄養学研究科） | 6. 保健科学教育部 |
| 7. 先端技術科学教育部（工学研究科） | |

2 【全員】専攻はどこですか。

人間・自然環境研究科

- [1. 人間環境専攻 2. 自然環境専攻 3. 臨床心理学専攻]

医科学教育部（医学研究科）

- [1. 医科学専攻 2. 内科系専攻 3. 外科系専攻 4. 医学専攻]
[5. プロテオミクス医科学専攻]

口腔科学教育部（歯学研究科）

- [1. 口腔科学専攻（歯学専攻）]

薬科学教育部

- [1. 創薬科学専攻 2. 医療生命薬学専攻]

栄養生命科学教育部（栄養学研究科）

- [1. 人間栄養科学専攻（栄養学専攻）]

保健科学教育部

- [1. 保健学専攻]

先端技術科学教育部（工学研究科）

- [1. 知的力学システム工学専攻 2. 環境創生工学専攻 3. システム創生工学専攻
4. 工学研究科（博士前期課程）（建設工学専攻, 機械工学専攻, 化学応用工学専攻, 電気電子工学専攻, 知能情報工学専攻, 生物工学専攻, 光応用工学専攻, エコシステム工学専攻）
5. 物質材料工学専攻 6. マクロ制御工学専攻 7. 機能システム工学専攻
8. 情報システム工学専攻 9. エコシステム工学専攻]

3 【全員】何年生ですか。

- | | | |
|-----------------|-----------------|--------------|
| 1. 修士・博士前期課程1年生 | 2. 修士・博士前期課程2年生 | 3. 博士後期課程1年生 |
| 4. 博士後期課程2年生 | 5. 博士後期課程3年生 | 6. 博士課程1年生 |
| 7. 博士課程2年生 | 8. 博士課程3年生 | 9. 博士課程4年生 |

4 【全員】性別はどちらですか。

1. 男 2. 女

5 【全員】出身地はどこですか。

1. 徳島県 2. 四国（徳島県以外） 3. 九州 4. 中国 5. 近畿
6. 中部（新潟, 富山, 石川, 福井, 山梨, 長野, 岐阜, 静岡, 愛知）
7. 関東（茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川）
8. 東北 9. 北海道

6 【全員】現在所属している教育部・研究科に進学する前の最終学歴はどこですか。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 徳島大学 | 2. 徳島大学以外の国内の大学 |
| 3. 高等専門学校専攻科 | 4. 外国の大学 |
| 5. 徳島大学大学院修士・博士前期課程 | 6. 徳島大学大学院以外の国内の大学院 |
| 7. 外国の大学院 | |

7 【全員】社会人または留学生ですか。

1. 社会人大学院生 2. 留学生 3. どちらでもない

B. 家族・住居・通学について

8 【全員】あなたの家庭の年収（税込み）はおよそどれくらいですか。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 250万円未満 | 2. 250～500万円未満 |
| 3. 500～750万円未満 | 4. 750～1,000万円未満 |
| 5. 1,000～1,500万円未満 | 6. 1,500万円以上 |

9 【全員】あなたの住居区分はどれですか。

1. 自宅（家族と同居） 2. アパート・マンション（家族と別居） 3. 国際交流会館
4. 間借り 5. 親戚・知人宅 6. その他

10 【国際交流会館入居者を除く自宅外通学者】1か月の家賃（電気代、ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。

1. 3万円未満 2. 3万円～4万円未満 3. 4万円～5万円未満
4. 5万円～6万円未満 5. 6万円～7万円未満 6. 7万円～8万円未満
7. 8万円～9万円未満 8. 9万円～10万円未満 9. 10万円以上

11 【全員】あなたの主な通学方法は何ですか。

1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク（原付自転車・自動二輪） 4. 自動車 5. バス・JR

12 【全員】通学時間はどれですか。

1. 15分未満 2. 15分～30分未満 3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満 5. 2時間以上

C. 収入・支出について

13 【全員】あなたの1か月の平均収入額（親等からの援助を除く）はいくらですか。

1. 3万円未満 2. 3～5万円未満 3. 5～7万円未満
4. 7～10万円未満 5. 10～15万円未満 6. 15～20万円未満
7. 20～25万円未満 8. 25～30万円未満 9. 30万円以上

14 【全員】親等からの援助はいくらありますか。

1. 全くない 2. 3万円未満 3. 3～5万円未満
4. 5～7万円未満 5. 7～10万円未満 6. 10～15万円未満
7. 15～20万円未満 8. 20万円以上

15 【全員】あなたの1か月の平均支出額（授業料支出は除く）はいくらですか。

1. 3万円未満 2. 3～5万円未満 3. 5～7万円未満
4. 7～10万円未満 5. 10～15万円未満 6. 15～20万円未満
7. 20～25万円未満 8. 25～30万円未満 9. 30万円以上

16 【全員】奨学金を受けることを希望しますか。

1. 現在受給中であるが、更に希望する 2. 現在受給していないが、希望する
3. 現在受給していないし、希望もしない

17 【全員】TA（ティーチングアシスタント）をしていますか。

1. 現在している 2. 希望しているが、従事していない 3. 希望しない

18 【全員】RA（リサーチアシスタント）をしていますか。

1. 現在している 2. 希望しているが、従事していない 3. 希望しない

19 【全員】現在、アルバイトをしていますか。

1. はい 2. いいえ

20 【問19で「1」を選んだ方】①1週間の従事時間は平均何時間ですか。（移動に要する時間も含む）

1. 5時間未満 2. 5～10時間未満 3. 10～15時間未満
4. 15～20時間未満 5. 20～25時間未満 6. 25時間以上

21 【問19で「1」を選んだ方】②アルバイトは主にどのような目的でしていますか。（複数回答可）

1. 生活費や学費のため 2. 学会参加のため 3. レジャー・旅行費のため
4. 日常の娯楽・嗜好品等購入のため 5. 高額商品（パソコン、バイク、自動車等）購入のため
6. 社会体験のため 7. その他

22 【問19で「1」を選んだ方】③あなたのアルバイトによる収入（1か月平均）はいくらですか。

1. 3万円未満 2. 3～5万円未満 3. 5～7万円未満
4. 7～10万円未満 5. 10～15万円未満 6. 15万円以上

23 【問 19 で「1」を選んだ方】④アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。(複数回答可)

1. ない
2. 給料の不払い
3. 給料が契約より低かった
4. 客とのトラブル
5. 解雇
6. 雇用者との意見の不一致
7. 事故・ケガ
8. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 23 とその内容を書いてください)

D. 健康状態について

24 【全員】1日の睡眠時間は平均何時間ぐらいですか。(休日を除く)

1. 4時間未満
2. 4～6時間未満
3. 6～8時間未満
4. 8～10時間未満
5. 10時間以上

25 【全員】現在気になる症状はありますか。

1. ない
2. 時々ある
3. 常にある

26 【問 25 で「3」を選んだ方】気になる症状は何ですか。(複数回答可)

1. 頭痛
2. 腹痛・嘔気
3. めまい・立ちくらみ
4. 動悸・不整脈
5. 下痢・便秘
6. 咳・痰
7. 生理痛・生理不順
8. その他

27 【全員】現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。(複数回答可)

1. ない
2. 経済状態
3. 勉学
4. 交友・異性関係
5. 身体的不調
6. 家族関係
7. 自分の性格
8. 就職や進路
9. 生き甲斐や目標
10. その他

28 【全員】悩み事は誰に相談しますか。(複数回答可)

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. 学生相談室
5. 保健管理センター
6. 学務(教務)係
7. 1～6以外の人
8. 誰にもしない

29 【全員】現在の精神状態はどうですか。

1. 充実している
2. 気分は普通
3. いろいろする
4. なんとなく不安
5. 落ち込みやすい
6. やる気がでない
7. その他

30 【全員】保健管理センターを利用したことがありますか。(複数回答可)

1. 健康診断のために行ったことがある
2. 健康診断以外(診療, 相談, 健康機器の利用, 証明書作成など)で利用したことがある
3. 保健管理センターがあることを知らなかった
4. 保健管理センターは知っているが, 行ったことがない

31 【問 30 で「2」を選んだ方】今後保健管理センターを利用したいと思いますか。

1. これからも利用したい
2. 健康診断だけに利用する
3. 特に考えていない

32 【問 30 で「1」「2」を選んだ方】保健管理センターの対応はどうでしたか。

1. 満足である
2. どちらかといえば満足である
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は, 回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 32 とその理由を書いてください)

E. 学生生活上の問題点

33 【全員】あなたには現在, 生計を共にしている配偶者・子供がいますか。

1. 配偶者なし, 子供なし
2. 配偶者なし, 子供あり
3. 配偶者あり, 子供なし
4. 配偶者あり, 子供あり

34 【問 33 で「2」「4」を選んだ方】授業や研究をしているとき, 子供の世話は誰がみていますか。(複数回答可)

1. 配偶者
2. 親や親戚
3. 保育施設にあずける
4. 小学校等の学校に通っている
5. その他

(注: 要望事項があれば, 回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 34 とともに書いてください)

35 【全員】あなたは、現在所属の大学院入学以来、迷惑行為を受けたことがありますか。(複数回答可)

1. 受けたことはない
2. 悪徳商法に引っかかった
3. いたずら電話を受けた
4. ストーカーにあった
5. 大学内でセクハラを受けた
6. 大学内でアカハラを受けた
7. 飲酒を強要された
8. インターネットによる誹謗・中傷を受けた
9. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号35とその内容を書いてください)

セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)とは
相手を不快にさせる性的な言動を行い、それに対する反応によって学習・研究上で一定の不利益を与えたり、精神的な苦痛などを与えること。

アカハラ(アカデミック・ハラスメント)とは
大学などで、指導教員が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。

36 【問35で「5」を選んだ方】誰に相談しましたか。(複数回答可)

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. 学生相談室
5. 学務(教務)係
6. 1～5以外の人
7. 誰にもしない

37 【問35で「6」を選んだ方】誰に相談しましたか。(複数回答可)

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. 学生相談室
5. 学務(教務)係
6. 1～5以外の人
7. 誰にもしない

38 【全員】学生相談室を利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. 学生相談室があるのは知っているが、利用したことがない
3. 学生相談室を知らない

39 【問38で「1」を選んだ方】学生相談室を利用して対応はどうでしたか。

1. 満足である
2. どちらかといえば満足である
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号39とその理由を書いてください)

40 【全員】あなたは、現在所属の大学院入学以来、盗難(盗み)、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。(複数回答可)

1. 被害に遭ったことがない
2. 盗難(盗み)に遭ったことがある
3. 強盗に遭ったことがある
4. 傷害に遭ったことがある
5. 痴漢に遭ったことがある
6. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号40とその内容を書いてください)

41 【全員】大学事務室の対応に満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足である
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号41とその理由を書いてください)

F. 修学状況

42 【全員】所属する教育部・研究科の教育理念や教育方針を知っていますか。

1. 良く知っている
2. だいたい知っている
3. あまり知らない
4. 知らない

43 【問42で「1」「2」を選んだ方】上記の教育部・研究科の教育理念や教育方針で教育を受けていると思いますか。

1. 思う
2. 思わない

44 【全員】あなたは学位の授与(修了)に至るまでの教育課程について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号44とその理由を書いてください)

45 【徳島大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 現在所属する大学院が第一志望だった
2. 現在所属する大学院は第二志望だった
3. 現在所属する大学院は第三志望だった
4. その他

46 【他大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 現在所属する大学院が第一志望だった
2. 現在所属する大学院は第二志望だった
3. 現在所属する大学院は第三志望だった
4. その他

47 【全員】あなたが現在所属する大学院に入学した主な理由は何ですか。(複数回答可)

1. 出身大学だから
2. 希望する研究分野があるから
3. 指導教員に勧められたから
4. 地元の大学だから
5. 就職等将来を考慮して
6. 国立大学だから
7. 希望する就職先がなかったから
8. 継続して修学するため
9. 先輩や友人に勧められて
10. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号47とその内容を書いてください)

48 【全員】大学院で勉学することにより、あなたの目指すものは何ですか。

1. 高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人
2. 創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者
3. 確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員
4. 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人
5. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号48とその内容を書いてください)

49 【全員】あなたは、あなたが受講している授業の内容や進め方について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号49とその理由を書いてください)

50 【全員】授業以外の自分で行う研究活動は週何時間ですか。

1. 30分未満
2. 30分～90分未満
3. 90分～5時間未満
4. 5～10時間未満
5. 10～20時間未満
6. 20～40時間未満
7. 40～60時間未満
8. 60時間以上

51 【全員】研究の直接の指導教員は誰ですか。

1. 教授
2. 准教授
3. 講師
4. 助教
5. その他

52 【全員】指導教員から週何時間ぐらい研究指導をうけていますか。

1. 30分未満
2. 30～90分未満
3. 90分～5時間未満
4. 5～10時間未満
5. 10時間以上

53 【全員】あなたは研究指導の内容や進め方について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号53とその理由を書いてください)

54 【全員】あなたは修士(博士)論文の研究テーマに満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号54とその理由を書いてください)

55 【全員】指導教員とコミュニケーションがとれていると思いますか。

1. 充分とれている
2. ある程度とれている
3. あまりとれていない
4. まったくとれていない

56 【全員】大学院に相応しいレベルでの教育が行われていると思いますか。

1. 充分に行われている
2. ある程度行われている
3. あまり行われていない
4. 全く行われていない

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号56とその理由を書いてください)

57 【全員】現在の研究環境についての満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

58 【問57で「3」「4」を選んだ方】その理由はどれですか。(複数回答可)

1. 施設・設備
2. 研究費用
3. 研究時間
4. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号58とその内容を書いてください)

- 59 【全員】あなたは所属している教育部（研究科）・専攻に全体として満足していますか。
1. 満足している
 2. どちらかといえば満足している
 3. どちらかといえば不満足である
 4. 不満足である
- (注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 59 とその理由を書いてください)
- 60 【全員】図書館をどのくらいの頻度で利用しますか。
1. ほぼ毎日利用している
 2. 1週間に2～3回ぐらい利用する
 3. 1週間に1回程度利用する
 4. 2週間に1回程度利用する
 5. 1か月に1回程度利用する
 6. 半年に1回程度利用する
 7. 1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である
- 61 【全員】図書館ウェブサイトによる文献検索（SciFinder など）をどのくらいの頻度で利用しますか。
1. ほぼ毎日利用している
 2. 1週間に2～3回ぐらい利用する
 3. 1週間に1回程度利用する
 4. 2週間に1回程度利用する
 5. 1か月に1回程度利用する
 6. 半年に1回程度利用する
 7. 1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である
- 62 【全員】図書館ウェブサイトに対する満足度はどの程度ですか。
1. 満足している
 2. どちらかといえば満足している
 3. どちらかといえば不満足である
 4. 不満足である
- (注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 62 とその理由を書いてください)
- 63 【全員】現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか。
1. よく学習している
 2. かなりしている
 3. あまりしていない
 4. 全然していない
- 64 【全員】入学後、海外渡航をしたことがありますか。
1. ない
 2. 1回
 3. 2回
 4. 3回
 5. 4回以上
- 65 【問 64 で「1」以外を選んだ方】海外渡航の目的はどれでしたか。（複数回答可）
1. 留学
 2. 語学研修
 3. 学会参加
 4. 学術調査
 5. 社会活動
 6. 観光
 7. 一時帰国
 8. その他
- 66 【日本人の方】国際学会において自身で研究発表をしたことがありますか。
1. 海外の国際学会で口頭発表したことがある
 2. 海外の国際学会でポスター発表したことがある
 3. 国内の国際学会で口頭発表したことがある
 4. 国内の国際学会でポスター発表したことがある
 5. 国際学会で研究発表をしたことはない
- 67 【日本人の方】英語の会話はどの程度できますか。
1. 専門用語を使った会話ができる
 2. 日常会話ができる
 3. なんとか日常会話ができる
 4. あまりできない
 5. できない
- 68 【日本人の方】語学力を高めるために何をしていますか。（複数回答可）
1. 英会話等の学校に通っている
 2. ラジオ・テレビの英会話番組で学習している
 3. TOEIC TOEFL 等を受験する
 4. 外国語の新聞、雑誌を購読している
 5. 外国のラジオ、テレビを視聴している
 6. つとめて外国人と英語でコミュニケーションする
 7. 何もしていない
- 69 【留学生の方】日本語の会話はどの程度できますか。
1. 専門用語を使った会話ができる
 2. 日常会話ができる
 3. なんとか日常会話ができる
 4. あまりできない
 5. できない
- 70 【留学生の方】徳島大学が開講する日本語コースを受講していますか。
1. 受講している
 2. 以前受講したことがある
 3. 今後受講する予定である
 4. 受講の予定はない
- 71 【問 70 で「1」「2」を選んだ方】日本語コースの満足度はどの程度ですか。
1. 満足している
 2. どちらかといえば満足している
 3. どちらかといえば不満足である
 4. 不満足である
- (注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 71 とその理由を書いてください)

72 【全員】あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか。(複数回答可)

1. 統合的な学習課題を体系的に履修するコース
2. 複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導
3. 企業等での長期間の実践的なインターンシップ
4. 高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会
5. 産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究
6. 個々の教員の教育・研究指導能力の向上
7. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号72とその内容を書いてください)
8. 特になし

73 【全員】本学は国際化への対応について積極的であると思いますか。

1. 非常に積極的であると思う
2. どちらかといえば積極的であると思う
3. どちらかといえば積極的とは思わない
4. 積極的とは思わない

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号73とその理由を書いてください)

G. 進路選択・就職について

74 【修士・博士前期課程の方】博士(後期)課程への進学を考えていますか。

1. 進学したい(進学予定者を含む)
2. 奨学金等の経済的支援があれば進学したい
3. 未定
4. 進学しない

75 【問74で「1」「2」を選んだ方】それは本学ですか、他大学ですか。

1. 本学
2. 他大学
3. 未定

76 【問74で「3」「4」を選んだ方及び博士後期・博士課程の方】希望職種は何ですか。(複数回答可)

1. 大学・官公庁の教育・研究職
2. 1以外の公務員
3. 技術職
4. 事務職
5. 企業等の研究職
6. 教育職
7. マスコミ関係
8. 専門職(医師等)
9. 既に就職している
10. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号76とその内容を書いてください)

77 【全員】進路選択で重視するものは何ですか。(3個以内で回答)

1. 収入
2. 就職先の将来性・安定性
3. 社会的評価
4. 能力を発揮できること
5. 勤務地の地理的条件
6. 先端技術を駆使しているところ
7. 経営方針
8. 企業規模
9. 転勤・異動の有無
10. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号77とその内容を書いてください)

78 【全員】進路を考える上での情報入手手段は何ですか。(複数回答可)

1. 指導教員
2. 就職担当教員
3. 先輩・知人
4. 直接会社に照会
5. 就職情報誌・新聞・マスコミ
6. 家族等
7. 大学内資料
8. Web・インターネット
9. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号78とその内容を書いてください)

79 【全員】本学の就職支援室を利用したことがありますか。

1. 現在も利用している
2. 以前に利用したことがある
3. 利用したことがない

80 【全員】就職に関して大学に要望することはありますか。(複数回答可)

1. 就職情報誌など就職関係書籍の充実
2. 面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実
3. 公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実
4. 企業説明会の内容充実
5. 就職支援室の一層の強化
6. 求人企業の開拓
7. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号80とその内容を書いてください)

その他ご意見・ご要望等があれば回答用紙の裏面の自由記入欄に「意見・要望等」と記し具体的に
記載してください

ご協力ありがとうございました

2008 STUDENT LIFE SURVEY

November 2008

The University of Tokushima

The purpose of this survey is to grasp the general life conditions of the students studying in UT. The collected data will be used to improve welfare facilities and to develop more effective educational support system for students.

This is an anonymous survey administered to all students enrolled at The University of Tokushima as of November 1, 2008. The collected information shall not be used for any other purposes, and your honest responses to the questions will be highly appreciated.

It may take considerable time to answer all the questions, but please understand the purpose and benefits. Your cooperation is greatly appreciated.

[Survey Period: November 4 - 12]

Answer sheets (computer-scored answer sheets) must be submitted no later than November 17 (Mon.) at the School Affairs Section (Educational Affairs Section) of the graduate school you belong to.

NOTES

1. Please answer questions as of November 1, 2008.
2. Optical answer sheet (computer-scored answer sheet) is used for this survey. Please choose one answer for each question and fill out the numbered blanks using HB pencils.
Note that some questions allow multiple answers.
3. Some questions are administered to only certain respondents. Answer questions that are applicable to you.
4. For the questions that require written answers, use the back of the answer sheet with the number of the question and the specifics.
You may also write comments or requests regarding school life on the back of the answer sheet (if any).

STUDENT LIFE CONDITIONS SURVEY (GRADUATE SCHOOL)

A. BASIC INFORMATION

1. 【Subject: ALL】

Which Graduate School do you belong to?

1. Graduate School of Human and Natural Environment Sciences
2. Graduate School of Medical Sciences (Graduate School of Medicine)
3. Graduate School of Oral Sciences (Graduate School of Dentistry)
4. Graduate School of Pharmaceutical Sciences
5. Graduate School of Nutrition and Bioscience (Graduate School of Nutrition)
6. Graduate School of Health Sciences
7. Graduate School of Advanced Technology and Science (Graduate School of Engineering)

2. 【Subject: ALL】

What do you major in?

Graduate School of Human and Natural Environment Sciences

1. Human Environment
2. Natural Environment
3. Clinical Psychology

Graduate School of Medical Sciences (Graduate School of Medicine)

1. Medical Science
2. Internal Medicine
3. Surgery
4. Medicine
5. Proteomics Medical Sciences

Graduate School of Oral Sciences (Graduate School of Dentistry)

1. Oral Science

Graduate School of Pharmaceutical Sciences

1. Pharmaceutical Chemistry
2. Pharmaceutical Life Sciences

Graduate School of Nutrition and Bioscience (Graduate School of Nutrition)

1. Human Nutrition (Nutrition)

Graduate School of Health Sciences

1. Health Sciences

Graduate School of Advanced Technology and Science (Graduate School of Engineering)

1. Intelligent Structures and Mechanics Systems Engineering
2. Earth and Life Environmental Engineering
3. Systems Innovation Engineering
4. Engineering (First Program of the Doctoral Course) (Civil Engineering, Mechanical Engineering, Chemical Science and Technology, Electrical and Electronic Engineering, Information Science and Intelligent Systems, Biological Science and Technology, Optical Science and Technology, Ecosystem Engineering)
5. Materials Science and Technology
6. Macro-Systems Control Engineering
7. Functional Systems Engineering
8. Information System Engineering
9. Ecosystem Engineering

3. 【Subject: ALL】

What grade are you in?

1. First year in the Master's Course/first program the Doctoral Course
2. Second year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
3. First year in the second program of the Doctoral Course
4. Second year in the second program of the Doctoral Course
5. Third year in the second program of the Doctoral Course
6. First year of the Doctoral Course
7. Second year of the Doctoral Course
8. Third year of the Doctoral Course
9. Fourth year of the Doctoral Course

4. 【Subject: ALL】

What is your gender?

1. Male
2. Female

5. 【Subject: ALL】

Where are you originally from?

1. Tokushima Prefecture
2. Shikoku Region (other than Tokushima)
3. Kyushu Region
4. Chugoku Region
5. Kinki Region
6. Chubu Region (Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Yamanashi, Nagano, Gifu, Shizuoka, Aichi)
7. Kanto Region (Ibaraki, Tochigi, Gunma, Saitama, Chiba, Tokyo, Kanagawa)
8. Tohoku Region
9. Hokkaido
10. Other than Japan (Write your country on the back of your answer sheet)

6. 【Subject: ALL】

What is your academic history prior to the enrollment in the current graduate school?

1. The University of Tokushima
2. University in Japan other than The University of Tokushima
3. Advanced Course of a Technical College (Koutou-senmon Gakkou) in Japan
4. University abroad
5. Master's Course/first program of Doctoral Course of The University of Tokushima
6. Graduate School in Japan other than The University of Tokushima
7. Graduate School abroad

7. 【Subject: ALL】

Are you a working student or a foreign student?

1. Student working outside of the campus
2. Foreign student
3. Neither

B. FAMILY, LIVING CONDITION, COMMUTING

8. 【Subject: ALL】

How much is the annual income (including tax) of your family?

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. Less than ¥2,500,000 | 2. ¥2,500,000 – 4,999,999 |
| 3. ¥5,000,000 – 7,499,999 | 4. ¥7,500,000 – 9,999,999 |
| 5. ¥10,000,000 – 14,999,999 | 6. More than ¥15,000,000 |

9. 【Subject: ALL】

What is your housing condition?

1. Family home (living with family)
2. Apartment (Not living with family)
3. International House of The University of Tokushima
4. Boarding house
5. Home of a relative/acquaintance
6. Others

10. 【Subject: All excluding International House residents】

How much is the monthly rent for your housing (excluding electricity, gas, or other utilities)?

- | | | |
|----------------------|---------------------|-----------------------|
| 1. Less than ¥30,000 | 2. ¥30,000 – 39,999 | 3. ¥40,000 – 49,999 |
| 4. ¥50,000 – 59,999 | 5. ¥60,000 – 69,999 | 6. ¥70,000 – 79,999 |
| 7. ¥80,000 – 89,999 | 8. ¥90,000 – 99,999 | 9. More than ¥100,000 |

11. 【Subject: ALL】

How do you usually commute to the university?

- | | | |
|---------------|---------------|---|
| 1. By walking | 2. By bicycle | 3. By motorcycle (motor scooter, two-wheeled motor vehicle) |
| 4. By car | 5. By bus/JR | |

12. 【Subject: ALL】

How long does it take to commute to the university?

- | | | |
|-------------------------|----------------------------|--------------------------------|
| 1. Less than 15 minutes | 2. 15-less than 30 minutes | 3. 30 minutes-less than 1 hour |
| 4. 1-less than 2 hours | 5. More than 2 hours | |

C. INCOME / EXPENDITURE

13. 【Subject: ALL】

How much is your average monthly income (excluding financial assistance from parents)?

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. Less than ¥30,000 | 2. ¥30,000 – 49,999 | 3. ¥50,000 – 69,999 |
| 4. ¥70,000 – 99,999 | 5. ¥100,000 – 149,999 | 6. ¥150,000 – 199,999 |
| 7. ¥200,000 – 249,999 | 8. ¥250,000 – 299,999 | 9. More than ¥300,000 |

14. 【Subject: ALL】

How much is the average amount of financial assistance from your parents?

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. None | 2. Less than ¥30,000 | 3. ¥30,000 – 49,999 |
| 4. ¥50,000 – 69,999 | 5. ¥70,000 – 99,999 | 6. ¥100,000 – 149,999 |
| 7. ¥150,000 – 199,999 | 8. More than ¥200,000 | |

15. 【Subject: ALL】

How much is the average monthly expenditure (excluding tuition)?

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. Less than ¥30,000 | 2. ¥30,000 – 49,999 | 3. ¥50,000 – 69,999 |
| 4. ¥70,000 – 99,999 | 5. ¥100,000 – 149,999 | 6. ¥150,000 – 199,999 |
| 7. ¥200,000 – 249,999 | 8. ¥250,000 – 299,999 | 9. More than ¥300,000 |

16. 【Subject: ALL】

Do you wish to receive a scholarship?

1. Yes, I am currently receiving a scholarship and wish to continue it.
2. Yes, I am NOT currently receiving any scholarship but wish to receive one.
3. No, I am NOT currently receiving any scholarship and do not wish to receive any.

17. 【Subject: ALL】

Are you working as a TA (Teaching Assistant)?

- | | | |
|--------|---------------------------------|-------|
| 1. Yes | 2. No, but I hope to work as TA | 3. No |
|--------|---------------------------------|-------|

18. 【Subject: ALL】

Are you working as a RA (Research Assistant)?

- | | | |
|--------|---------------------------------|-------|
| 1. Yes | 2. No, but I hope to work as RA | 3. No |
|--------|---------------------------------|-------|

19. 【Subject: ALL】

Do you have a part-time job?

- | | |
|--------|-------|
| 1. Yes | 2. No |
|--------|-------|

20. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

① How much is the average weekly work hours (including commuting time)?

- | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. Less than 5 hours | 2. 5-less than 10 hours | 3. 10-less than 15 hours |
| 4. 15-less than 20 hours | 5. 20-less than 25 hours | 6. More than 25 hours |

21. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

② What is the purpose of having a part-time job?

1. For living expenses or tuitions
2. To attend academic conferences
3. For leisure/travel
4. For daily leisure (ex. favorite food or beverages, etc.)
5. To purchase expensive products (PC, motorcycle, car, etc.)
6. To gain social experiences
7. Others

22. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

③ How much is the average monthly income from your part-time job?

- | | | |
|----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. Less than ¥30,000 | 2. ¥30,000 – 49,999 | 3. ¥50,000 – 69,999 |
| 4. ¥70,000 – 99,999 | 5. ¥100,000 – 149,999 | 6. More than ¥150,000 |

23. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

④ Have you experienced any difficulties with your part-time job?

- | | |
|--|-------------------------------|
| 1. No | 2. Unpaid salary |
| 3. Paid less than agreed in contract | 4. Trouble with customer(s) |
| 5. Termination of employment | 6. Disagreement with employer |
| 7. Accident/injury | |
| 8. Others (use the back of the answer sheet to write the number of this question (23) and the specifics) | |

D. HEALTH CONDITIONS

24. 【Subject: ALL】

How long do you sleep per day (excluding weekends and holidays)?

- | | | |
|-------------------------|------------------------|------------------------|
| 1. Less than 4 hours | 2. 4-less than 6 hours | 3. 6-less than 8 hours |
| 4. 8-less than 10 hours | 5. More than 10 hours | |

25. 【Subject: ALL】

Are there any physical conditions you are concerned about?

- | | | |
|--------|--------------|---------------|
| 1. Yes | 2. Sometimes | 3. Constantly |
|--------|--------------|---------------|

26. 【Subject: Those who chose (3) for Q25】

What is/are the symptom(s)? (Multiple answers allowed)

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1. Headache | 2. Stomachache/ nausea |
| 3. Dizziness/ lightheadedness | 4. Palpitation/irregular heartbeat |
| 5. Diarrhea/ constipation | 6. Coughs/sputum |
| 7. Menstrual cramps/ menstrual irregularities | 8. Others |

27. 【Subject: ALL】

Do you have any other concerns or worries? If any, what is/are the main concern(s)?

(Multiple answers allowed)

- | | | |
|--------------------------|----------------------------|----------------------------------|
| 1. No | 2. Financial concerns | 3. Research and Study |
| 4. Friends/relationships | 5. Poor physical condition | 6. Family relation |
| 7. Own personality | 8. Future career | 9. Motivation or purpose in life |
| 10. Others | | |

28. 【Subject: ALL】

Who do you usually consult concerns or worries? (Multiple answers allowed)

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. Friend(s) | 2. Family |
| 3. Teacher/professor | 4. School counselor |
| 5. Health Service Center | 6. Section of Academic Affairs in your Department/Faculty |
| 7. Those other than 1-6 | 8. Nobody |

29. **【Subject: ALL】**

What is your current emotional state?

- | | | |
|-----------------------------------|---------------------|---------------|
| 1. Fulfilled | 2. Normal | 3. Irritated |
| 4. Anxious for no apparent reason | 5. Easily depressed | 6. Low energy |
| 7. Others | | |

30. **【Subject: ALL】**

Have you ever visited the Health Service Center? (Multiple answers allowed)

1. Yes, I have visited there for health check-ups.
2. Yes, I have visited there for reasons other than health check-ups. (examination, consultation, healthcare equipment, issuance of certificate, etc.)
3. No, I have never visited there, since I have never heard of the facility.
4. No, I have never been there, though I have heard of the facility.

31. **【Subject: Those who chose (2) for Q30】**

Do you want to visit the Health Service Center again?

1. Yes
2. Yes, only for health check-up purpose.
3. No/no plan

32. **【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q30】**

How was the service at the Health Service Center?

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1. Satisfying | 2. Satisfactory |
| 3. Slightly unsatisfactorily | 4. Unsatisfactory |

(Note: If you chose (3) or (4) for this question, please use the back of the answer sheet to write the number of this question (32) and the specific reasons why.)

E. ISSUES CONCERNING YOUR STUDENT LIFE

33. **【Subject: ALL】**

Do you have a spouse or child(ren) living with you?

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1. No spouse or child | 2. No spouse, but have child(ren) |
| 3. Have a spouse, but no child | 4. Have a spouse and child(ren) |

34. **【Subject: Those who chose (2) or (4) for Q33】**

Who takes care of your child(ren) while you are attending a class or doing research? (Multiple answers allowed)

- | | |
|---------------------|---|
| 1. Spouse | 2. Your or spouse's parent(s)/relative(s) |
| 3. Daycare facility | 4. School (elementary school, etc.) |
| 5. Others | |

(Note: If you have any requests for the University, use the back of the answer sheet to write the number of this question (34) and the specifics.)

35. **【Subject: ALL】**

Have you ever been a victim of any nuisance since the enrollment in the current graduate school?
(Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes, I have been a victim of an illegal business practice.
3. Yes, I have received an obscene phone call.
4. Yes, I have been a stalking victim.
5. Yes, I have experiences sexual harassment on campus.
6. Yes, I have experienced academic harassment on campus.
7. Yes, I have been forced to drink alcohol.
8. Yes, I have been defamed on the internet.
9. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (35) and the specifics.)

SEXUAL HARASSMENT:

It involves physical, verbal, or nonverbal behavior of a sexual nature in which a person may suffer certain disadvantage in academic/research conditions or emotional distress due to his or her response to the harassment.

ACADEMIC HARASSMENT:

It refers to the continuous use of power by a teacher/professor to harass a student in academic and research situations, including disturbance to one's study or research activities.

36. **【Subject: Those who chose (5) for Q35】**

Have you consulted anyone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

- | | |
|---|-------------------------|
| 1. Friend | 2. Family |
| 3. Teacher/professor | 4. School counselor |
| 5. School Affairs (Educational Affairs) Section | 6. Those other than 1-5 |
| 7. Nobody | |

37. **【Subject: Those who chose (6) for Q35】**

Have you consulted anyone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

- | | |
|---|-------------------------|
| 1. Friend | 2. Family |
| 3. Teacher/professor | 4. School counselor |
| 5. School Affairs (Educational Affairs) Section | 6. Those other than 1-5 |
| 7. Nobody | |

38. **【Subject: ALL】**

Have you ever visited School Counseling Room?

1. Yes
2. No, I have never been there although I have heard of the facility.
3. No, I have never heard of such facility.

39. 【Subject: Those who chose (1) for Q38】

How was the service at the School Counseling Room?

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. Excellent | 2. Satisfactory |
| 3. Slightly unsatisfying | 4. Unsatisfying |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (39) and the specific reasons.)

40. 【Subject: ALL】

Have you ever been a victim of a crime, such as theft, burglary, assault, or sexual molestation since the enrollment in the current graduate school? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes, I have been a victim of theft.
3. Yes, I have been a victim of burglary.
4. Yes, I have been a victim of assault.
5. Yes, I have been a victim of sexual molestation.
6. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (40) and the specifics.)

41. 【Subject: ALL】

How would you rate the service of the administration office of The University of Tokushima?

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1. Excellent | 2. Satisfactory |
| 3. Slightly unsatisfactory | 4. Unsatisfactory |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (41) and the specific reasons.)

F. EDUCATION ENVIRONMENT

42. 【Subject: ALL】

Are you familiar with the educational philosophies or policies of your graduate school?

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. Very familiar | 2. Moderately familiar |
| 3. Slightly unfamiliar | 4. Unfamiliar |

43. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q42】

Do you think the education you are receiving reflects the philosophies or policies of your graduate school?

- | | |
|--------|-------|
| 1. Yes | 2. No |
|--------|-------|

44. 【Subject: ALL】

How would you rate the curriculums of your graduate school?

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1. Excellent | 2. Satisfactory |
| 3. Slightly unsatisfactory | 4. Unsatisfactory |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (44) and the specific reasons.)

45. **【Subject: Graduates of The University of Tokushima】**

Was your current graduate school of The University of Tokushima the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.
2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.
4. Others

46. **【Subject: Graduates of universities other than The University of Tokushima】**

Was your current graduate school of The University of Tokushima the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.
2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.
4. Others

47. **【Subject: ALL】**

What is (are) the reason(s) you chose the graduate school you are currently enrolled in? (Multiple answers allowed)

Because:

1. I am a graduate of The University of Tokushima.
2. The field that meets my interests is available.
3. It was recommended by the previous professor.
4. It is in my hometown.
5. The field is open to relatively wide range of career opportunities.
6. It is a national university.
7. There were no jobs available that suited my preferences at that time.
8. I wanted to continue my education.
9. It was recommended by an experienced person or friend.
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (47) and the specifics.)

48. **【Subject: ALL】**

What do you hope to achieve through the education of the graduate school?

1. To be a highly-specialized professional with advanced knowledge and skills
2. To be a researcher with creativity and ability for research and development
3. To be a college professor with strong capability for research and education
4. To work as a sophisticated, intelligent member of society who can lead the knowledge-based society
5. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (48) and the specifics.)

49. **【Subject: ALL】**

How would you rate the contents and structures of the classes you are attending?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (49) and the specifics.)

50. **【Subject: ALL】**

What is the average amount of hours spent for self research per week?

1. Less than 30 minutes
2. 30-less than 90 minutes
3. 90 minutes-less than 5 hours
4. 5-less than 10 hours
5. 10-less than 20 hours
6. 20-less than 40 hours
7. 40-less than 60 hours
8. More than 60 hours

51. **【Subject: ALL】**

Who provides guidance to you throughout your research?

1. Professor
2. Associate Professor
3. Lecturer
4. Assistant Professor
5. Others

52. **【Subject: ALL】**

How long do you receive guidance from the person you answered in Question 51?

1. Less than 30 minutes per week
2. 30-less than 90 minutes per week
3. 90 minutes-less than 5 hours per week
4. 5-less than 10 hours per week
5. More than 10 hours per week

53. **【Subject: ALL】**

How would you rate the contents and structures of the research guidance?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (53) and the specific reasons.)

54. **【Subject: ALL】**

Are you satisfied with the research thesis for the Master's (Doctoral) Degree?

1. Satisfying
2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (54) and the specific reasons.)

55. **【Subject: ALL】**

How is the communication between you and your instructor?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

56. **【Subject: ALL】**

Do you think the level of the guidance you are receiving is appropriate for graduate school?

1. Highly appropriate
2. Moderately appropriate
3. Minimally appropriate
4. Not appropriate

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (56) and the specific reasons.)

57. **【Subject: ALL】**

How would you rate your satisfaction with the research environment?

1. Satisfied
2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

58. **【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q57】**

What is (are) the reason(s)? (Multiple answers allowed)

1. Facility/equipment
2. Research funding
3. Research time
4. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (58) and the specific reasons.)

59. **【Subject: ALL】**

How would you rate your overall satisfaction with the graduate school you belong to?

1. Satisfied
2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (59) and the specific reasons.)

60. **【Subject: ALL】**

How often do you visit the library?

1. Almost everyday
2. 2-3 times a week
3. Once a week
4. Once in two weeks
5. Once a month
6. Once in six month
7. Once a year or less

61. **【Subject: ALL】**

How often do you use the bibliographic search systems (SciFinder, etc.) of the library website?

1. Almost everyday
2. 2-3 times a week
3. Once a week
4. Once in two weeks
5. Once a month
6. Once in six month
7. Once a year or less

62. **【Subject: ALL】**

How would you rate your satisfaction with the library?

1. Satisfied
2. Relatively Satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (62) and the specific reasons.)

63. 【Subject: ALL】

How would you rate your efforts for your study/research as a graduate school student?

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. Very high | 2. High |
| 3. Low | 4. No effort |

64. 【Subject: ALL】

Have you ever been abroad (other than Japan) since the enrollment in the current graduate school?

- | | | |
|----------------|-------------------------|----------|
| 1. No | 2. Once | 3. Twice |
| 4. Three times | 5. More than four times | |

65. 【Those who chose (2), (3), (4), or (5) for Q64】

What was the purpose of the travel abroad? (Multiple answers allowed)

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1. To study | 2. To learn language |
| 3. To attend academic conference | 4. For academic research |
| 5. For social activities | 6. Sightseeing |
| 7. Returning home temporarily | 8. Others |

66. 【Subject: JAPANESE students】

Have you ever made a presentation at an international academic conference?

1. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held abroad.
2. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held abroad.
3. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held in Japan.
4. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held in Japan.
5. No, I have never made a presentation at an international academic conference.

67. 【Subject: JAPANESE students】

How is your English conversational skill?

1. I can communicate in English using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in English.
3. I can somewhat communicate in English.
4. I can scarcely communicate in English.
5. I cannot communicate in English at all.

68. 【Subject: JAPANESE students】

Are you making any efforts to improve your language skills? (Multiple answers allowed)

1. Attending a language school.
2. Learning through language programs on radio/TV.
3. Taking language tests regularly (TOEIC, TOEFL, etc.)
4. Subscribing to newspapers/magazines written in foreign language.
5. Watching/listening to TV/radio programs in foreign language.
6. Trying to communicate with foreigners using English.
7. Not making any particular efforts.

69. 【Subject: FOREIGN students】

How is your Japanese conversational skill?

1. I can communicate in Japanese using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in Japanese.
3. I can somewhat communicate in Japanese.
4. I can scarcely communicate in Japanese.
5. I cannot communicate in Japanese at all.

70. 【Subject: FOREIGN students】

Are you taking the Japanese Courses provided by The University of Tokushima?

1. Yes, I am currently taking the Japanese course.
2. Not currently, but I used to take the Japanese course.
3. Not currently, but I am planning to take the Japanese course.
4. No, and I am not planning to take the Japanese course in the future.

71. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q70】

How would you rate your satisfaction with the Japanese Course of The University of Tokushima?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively Satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (71) and the specific reasons.)

72. 【Subject: ALL】

For the sake of your future, what do you expect from the education of The University of Tokushima?

1. Courses with comprehensive and systematic educational themes.
2. Education and research guidance from more than one teachers/professors to gain different perspectives.
3. Practical and long-term internship programs at companies and organizations.
4. Opportunities for education and research at other high-level graduate schools.
5. Proactive cooperation and joint researches with industries or communities.
6. Improvement in the educational/instructional capabilities of each teacher/instructor.
7. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (72) and the specifics.)
8. No particular expectations.

73. 【Subject: ALL】

How would you rate the efforts of The University of Tokushima in responding to the trend of internationalization?

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. Very high | 2. Relatively high |
| 3. Relatively low | 4. Very low |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (73) and the specific reasons.)

G. FUTURE CAREER

74. **【Those who are currently in the Master's Course/first program of the Doctoral Course】**

Are you planning to advance to the Doctoral Course (second program)?

1. Yes (If you are already accepted, choose this answer.)
2. Yes, only if I could receive a financial support, such as a scholarship.
3. Not decided yet.
4. No

75. **【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q74】**

Where are you planning to receive the education?

1. The University of Tokushima
2. Other university
3. Not decided yet.

76. **【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q74 / Those who are currently enrolled in the Doctoral Course/ second program of the Doctoral Course 】**

What kind of career do you hope to pursue?

1. Educator/researcher at a university, government or other public offices
2. Government employee other than answer (1)
3. Technical career
4. Administrative career
5. Corporate researcher
6. Educator
7. Media
8. Professional career (medical practitioner, etc.)
9. Currently employed
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (76) and the specifics.)

77. **【Subject: ALL】**

What do you place the most value on when choosing a career? (Choose up to three items.)

1. Income
2. Potential and stability of the employer
3. Social recognition/evaluation
4. That I can demonstrate my full potential and skills
5. Geographic condition
6. Whether or not the state-of-the-art technologies are used
7. Managerial policies
8. Business size
9. Possibility of transfer or relocation
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (77) and the specifics.)

78. 【Subject: ALL】

What is (are) the method(s) you use to access information on future career? (Multiple answers allowed)

1. Teacher/instructor
2. Occupational counselor
3. Older students/friends
4. Direct inquiry to the companies/schools
5. Job information magazine/newspapers/media
6. Family
7. Information available at the university
8. Web/Internet
9. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (78) and the specifics.)

79. 【Subject: ALL】

Have you ever used the Career Support Room (*shushoku shien-shitsu*) of The University of Tokushima?

1. Yes, I am currently using the facility.
2. Yes, I have used the facility in the past.
3. No

80. 【Subject: ALL】

Do you have any requests for The University of Tokushima regarding future career? (Multiple answers allowed)

1. Enhancement of books/documents, such as career information magazines
2. Enhancement of practical support for interview practice or resume development
3. Enhancement of support for examination preparation, i.e., workshops for civil service employee exam, teacher certification exam, etc.
4. Improvement of the contents of corporate orientation programs
5. Further strengthening of the Career Support Room (*shushoku shien-shitsu*)
6. Identifying companies with job openings
7. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (80) and the specifics.)

{ If you have any other comment or request, use the back of the answer sheet to write "COMMENTS/REQUESTS" and the specifics. }

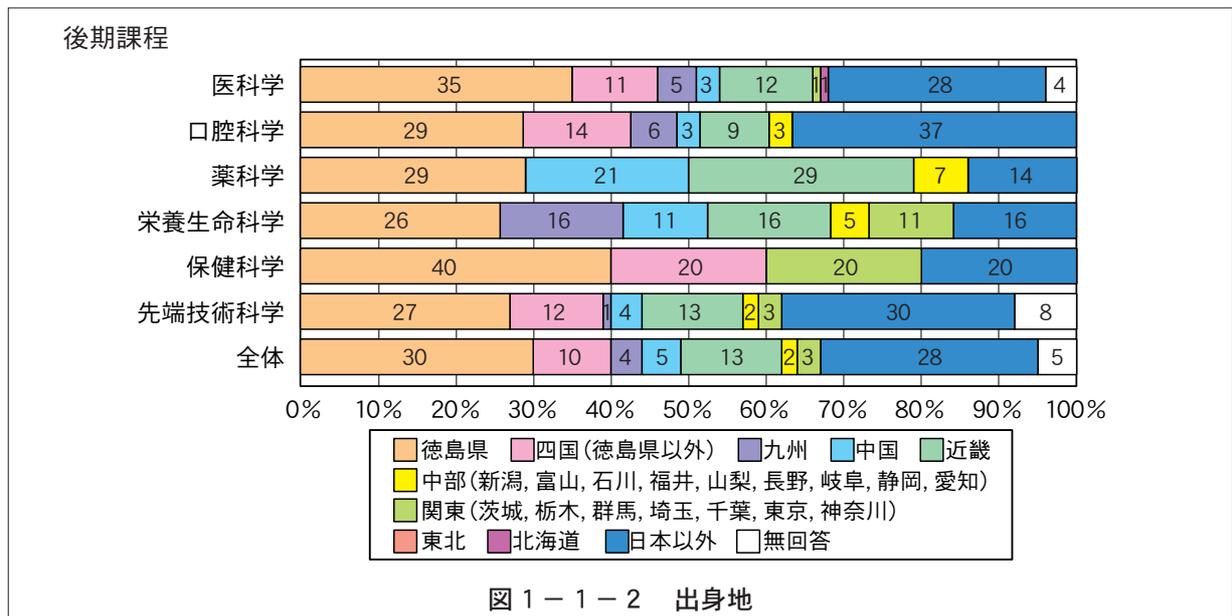
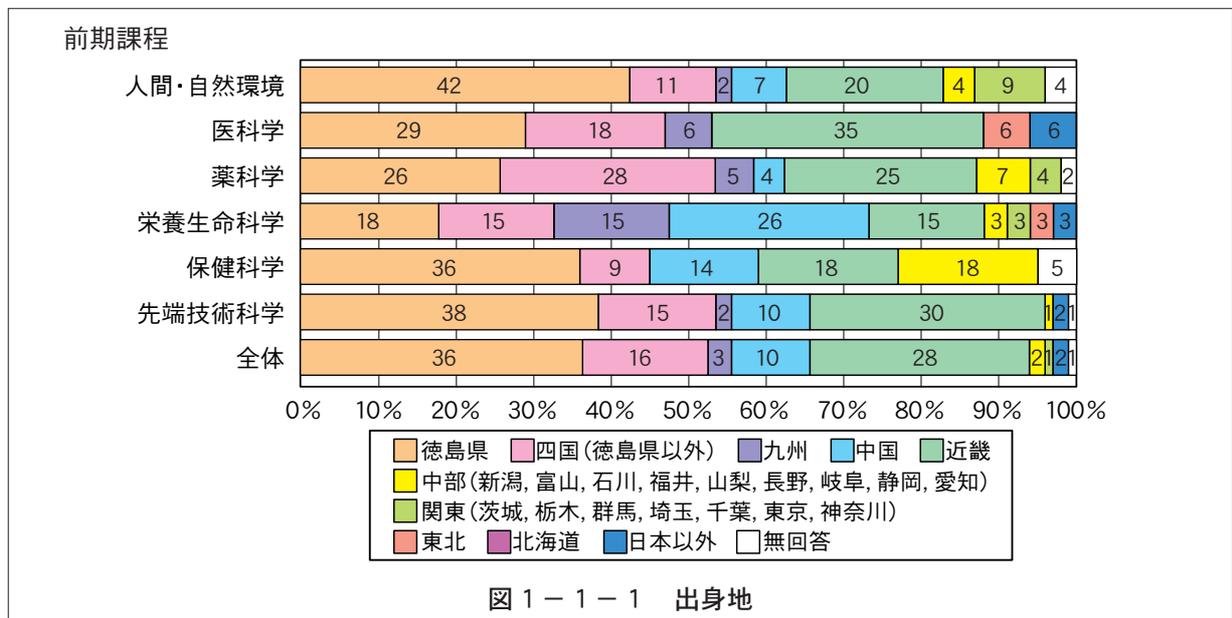
Thank you for your cooperation.

第1章 本調査の対象者について

平成17年度に行った大学院生生活実態調査では、大学院修士課程・博士前期課程の大学院生を対象としたが、今回の調査ではそれに加え、博士後期課程の学生も含む、すべての大学院生を対象とし、合計939名の大学院生の回答を得た。なお、平成21年4月に、総合科学教育部〔地域科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）〕が発足しているが、この調査の時点では、改組前の人間・自然環境研究科（修士課程）の大学院生が調査対象となっている。

1-1 出身地 (図1-1-1, 図1-1-2)

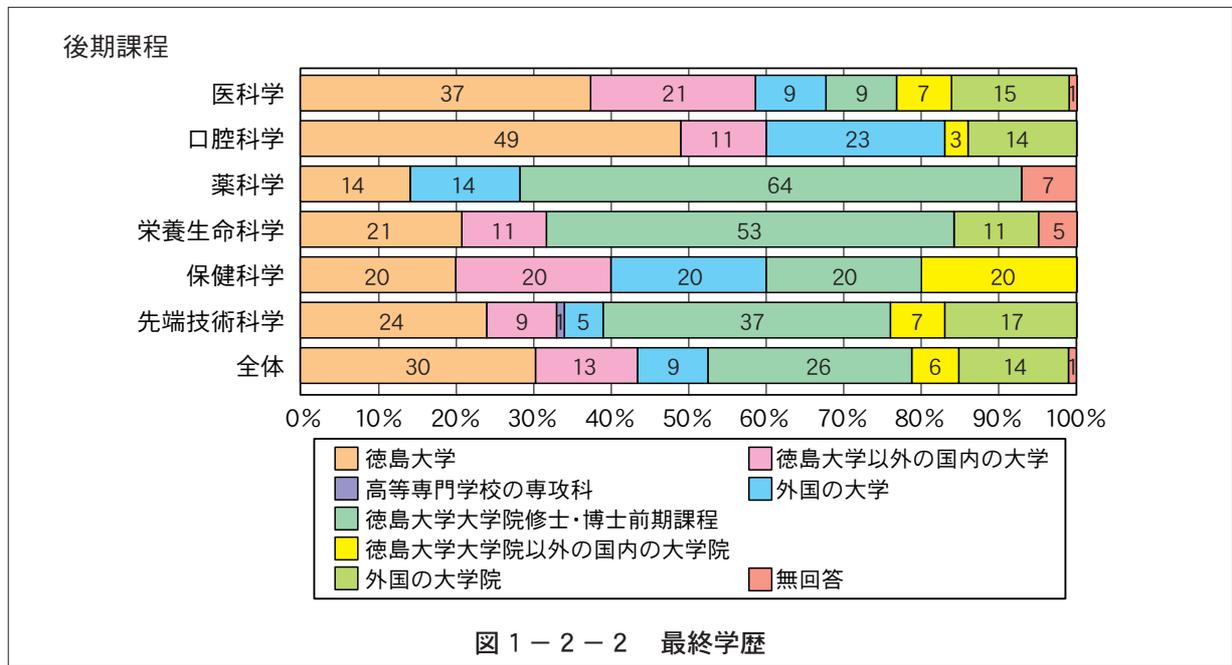
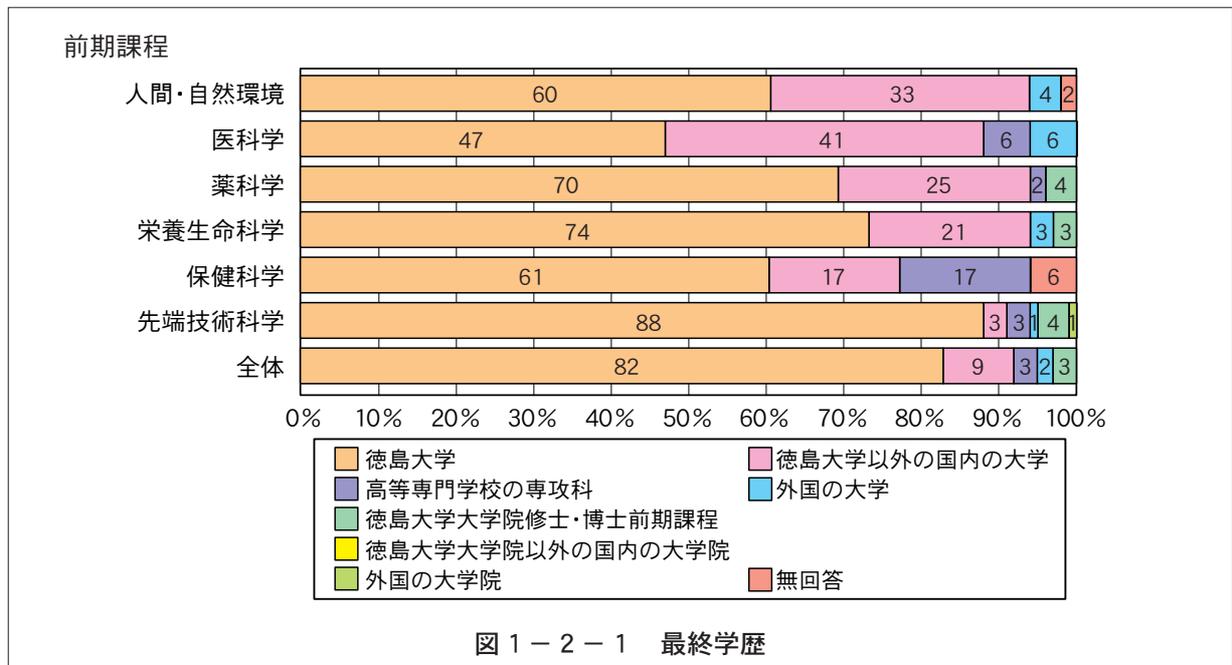
回答者の出身地を見ると、前期課程では徳島県（36%）、近畿（28%）、徳島県以外の四国（16%）、これら以外の日本各地（16%）、日本以外（2%）の順となっている。後期課程では、徳島県（30%）、近畿（13%）、徳島県以外の四国（10%）、これら以外の日本各地（14%）、日本以外（28%）となって



いる。これらから徳島大学大学院学生の出身地域を読み取ることができる。

1-2 大学院生の最終学歴 (図1-2-1, 図1-2-2)

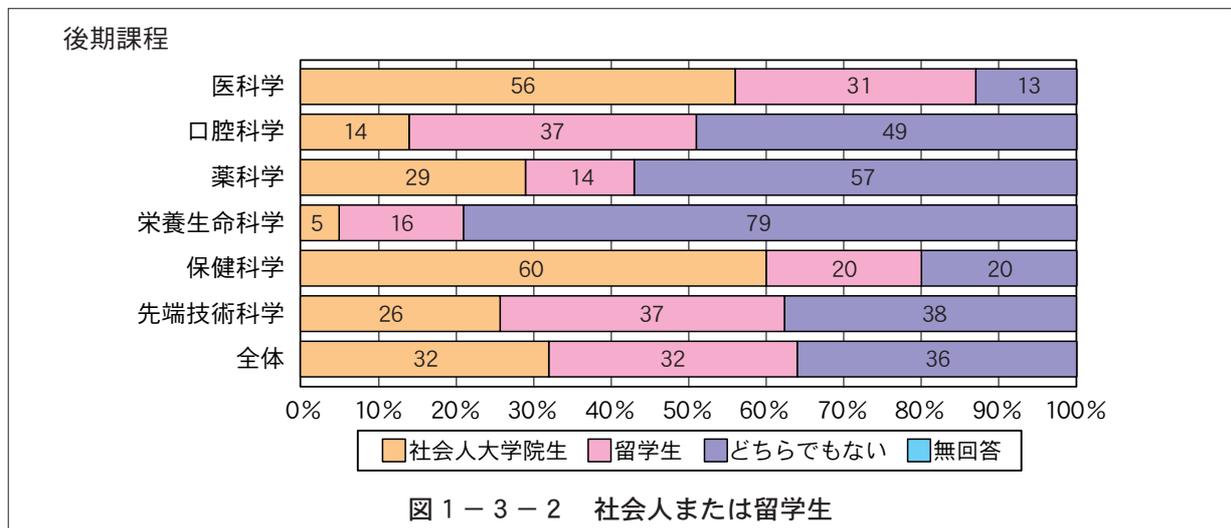
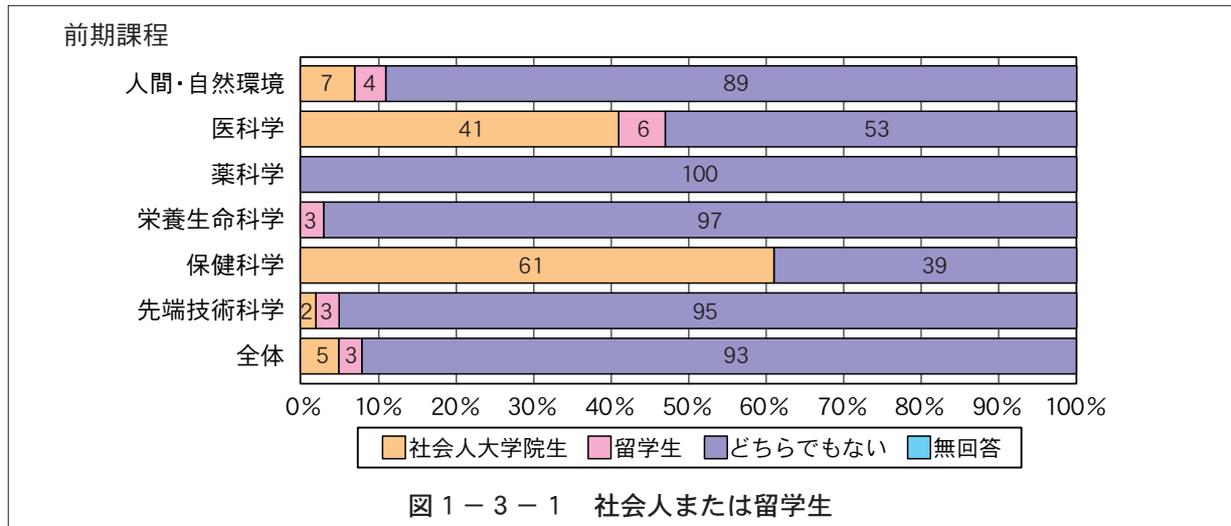
回答者全体で見ると徳島大学出身者が約68%を占めているが、医科学などのように徳島大学以外の日本の大学の出身者が多いところもあり、大学院による差が大きい。



1-3 社会人大大学院生と留学生 (図1-3-1, 図1-3-2)

回答者全体の中で社会人大大学院生は8パーセントを占めている。特に、保健科学（前期課程61%、後期課程60%）、医科学（前期課程41%、後期課程53%）では社会人大大学院生の割合が高い。留学生は回答者全体の10.6%を占めるが、その割合は後期課程では一段と高くなっている（32%）。また、多く

の留学生が在籍しているのは、先端技術科学後期課程（37%）、口腔科学博士課程（37%）、医科学博士課程（31%）などである。

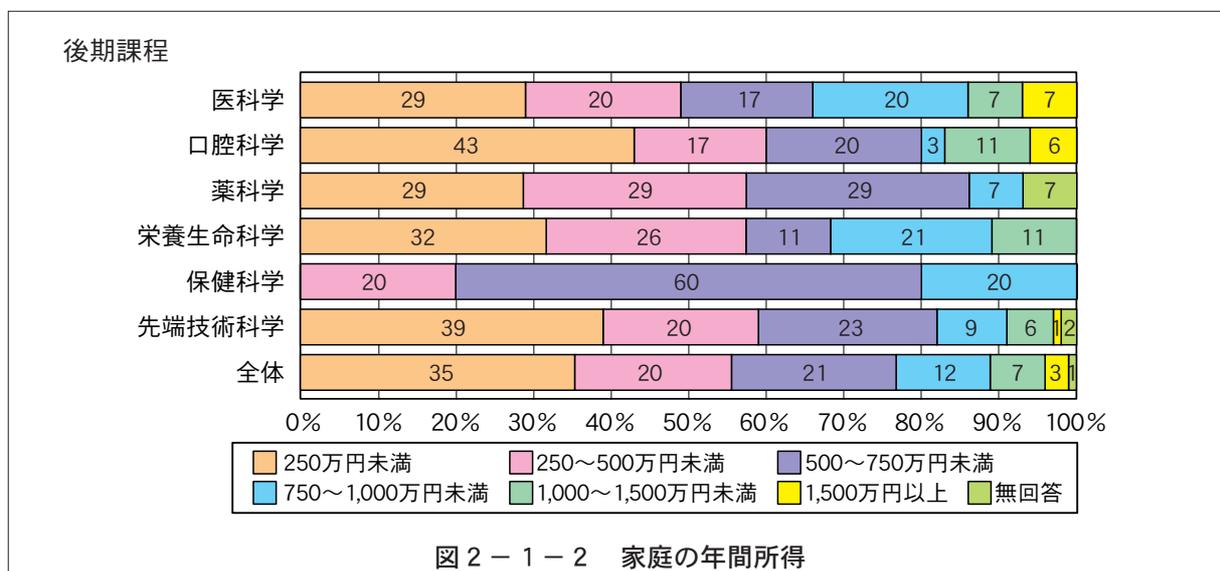
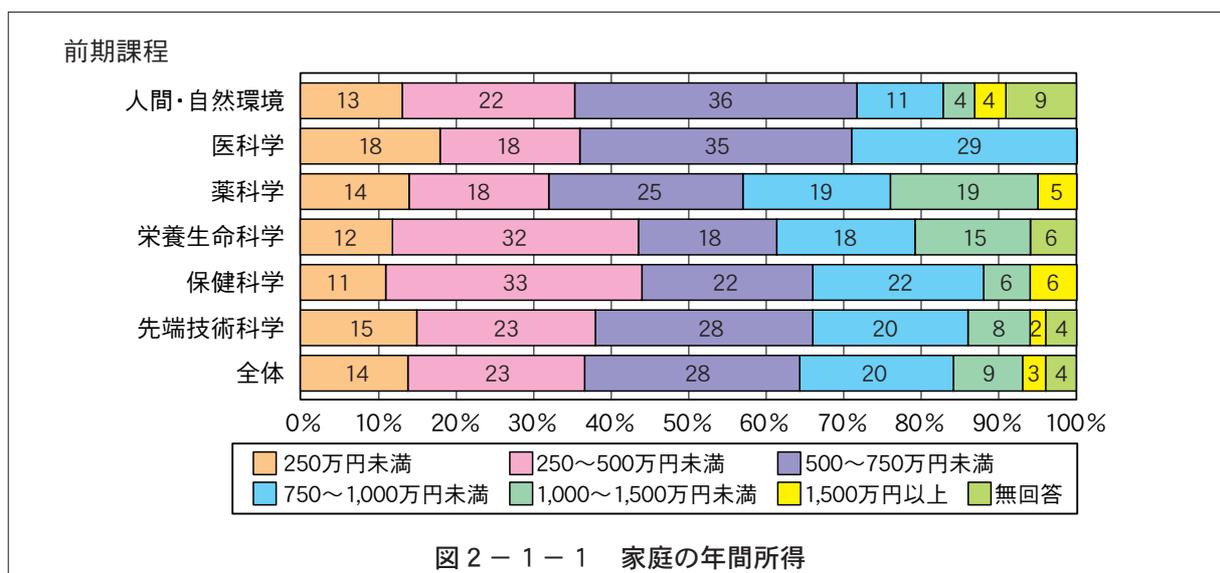


第2章 住居，通学方法，収入・支出について

2-1 家庭の年間所得 (図2-1-1, 図2-1-2)

前期課程では，全体で500万円～750万円未満(28%)が一番多く，次いで250万円～500万円(23%)，750万円～1,000万円(20%)となり，この3つの範囲で合計が71%になっている。次いで，250万円未満(14%)，1,000万円～1,500万円(9%)，1,500万円以上(3%)，無回答(4%)となっている。徳島大学全体の比率は，先端技術科学の比率とほぼ一致しており，これは回答者の75%が先端技術科学の学生で，その割合が全体の結果に大きく影響している。研究科・教育部の比較では，医科学(医科学専攻)の1,000万円以上が0%であるが，これは実数が少ないためばらついているものと思われる。薬科学では，1,000万円以上が24%と多くなっている。留学生は250万円未満が71%を占めた。

後期課程では，250万円未満(35%)が一番多く，次いで500万円～750万円未満(21%)，250万円～500万円未満(20%)，750万円～1,000万円未満(12%)，1,000万円～1,500万円未満(7%)，1,500万円以上(3%)となっている。徳島大学全体の比率は，先端技術科学の比率とほぼ一致しており，これは回答者の43%が先端技術科学の学生で，その割合が全体の結果に大きく影響している。また，研究

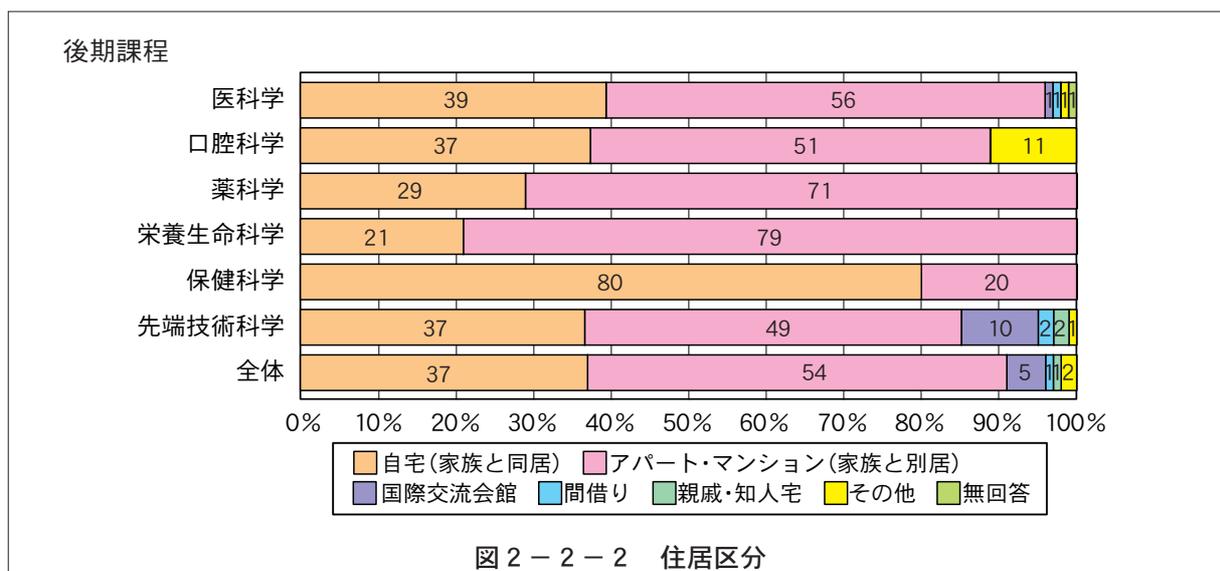
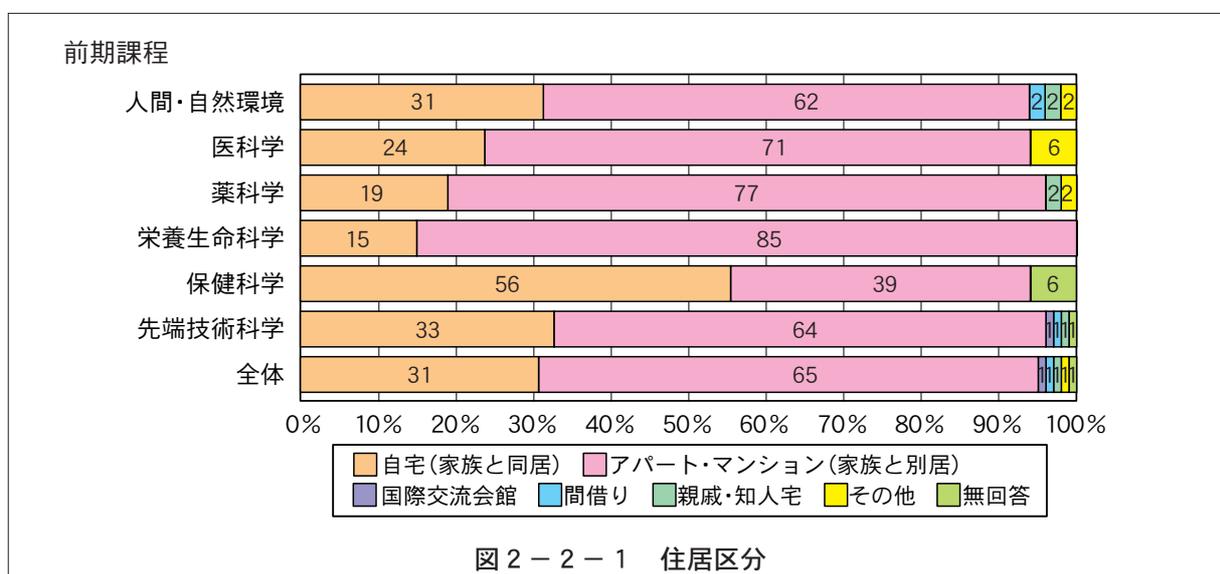


科・教育部別では、薬科学、栄養生命科学、保健科学では、実数が少ないためそのまま比較するのは適当でない。留学生は250万円未満が86%を占めた。

2-2 住居区分 (図2-2-1, 図2-2-2)

前期課程では、全体で、アパート・マンション(家族と別居)(65%)が最多で、自宅(31%)がこれに次ぎ、この両方で96%を占める。国際交流会館入居者は実数で7名である。ここでも先端技術科学の結果が全体の結果に大きく影響している。研究科・教育部の比較では保健科学で社会人大学院生が多いことと実数が少ないため、結果がばらついている。

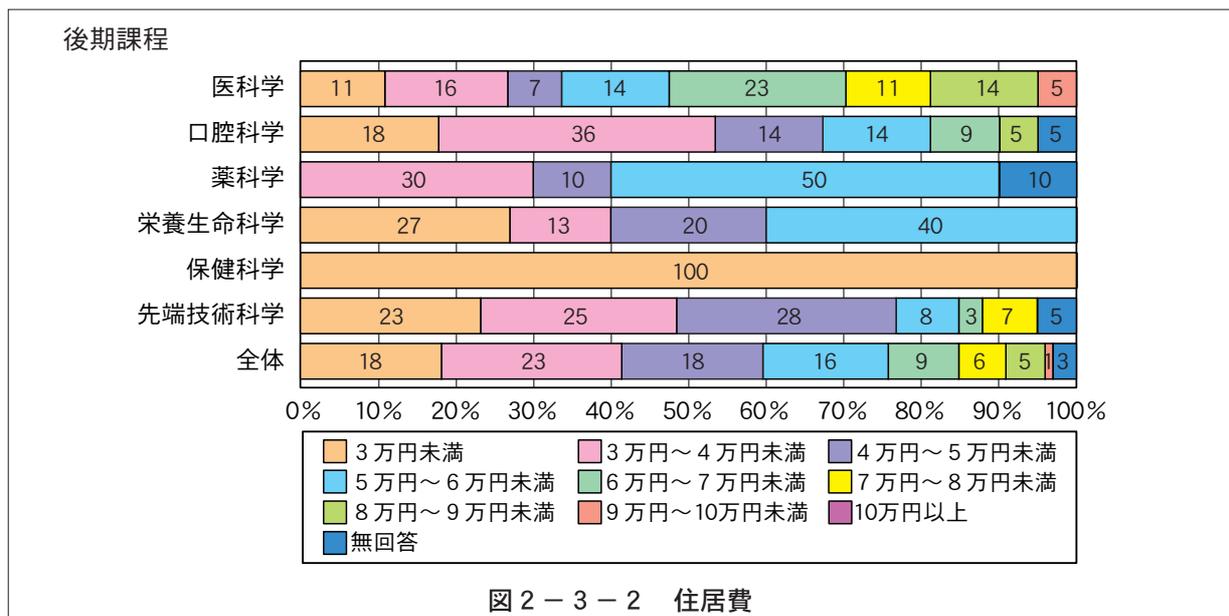
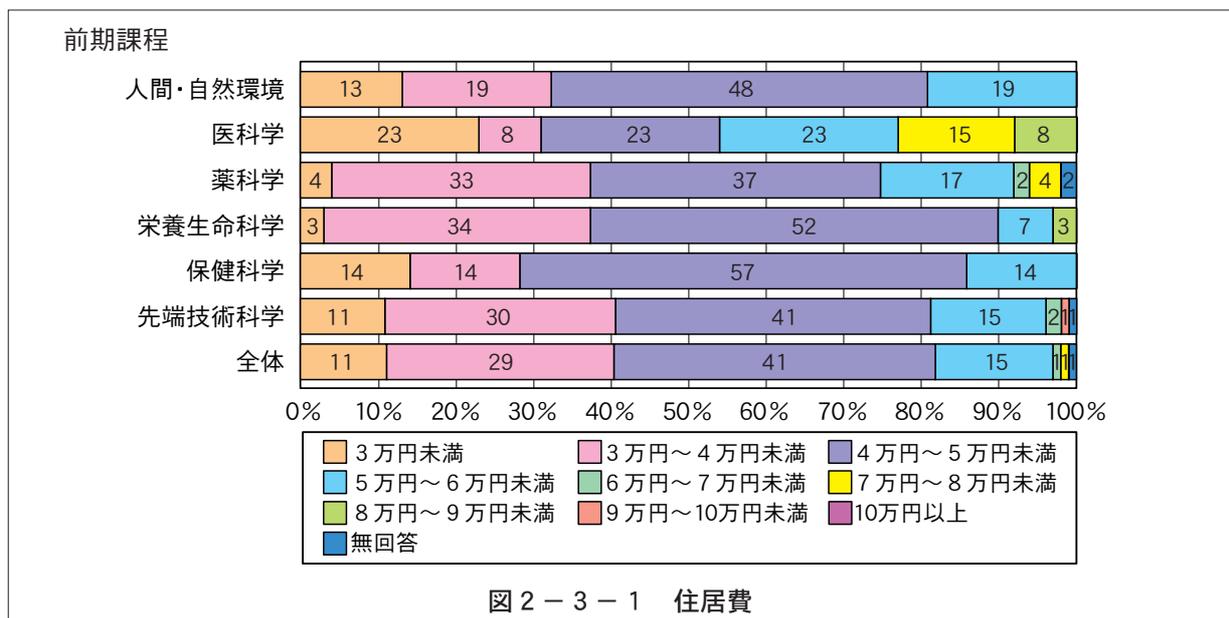
後期課程では、前期課程の結果と比較して、国際交流会館の入居者の実数が12名で増加している。ここでも先端技術科学の結果が全体の結果に大きく影響している。研究科・教育部の比較では、保健科学で社会人大学院生が多いことと実数が少ないため結果がばらついている。留学生はアパート・マンションが51%、自宅が27%、国際交流会館が14%であった。



2-3 住居費 (図2-3-1, 図2-3-2)

前期課程では、全体で4万～5万円未満(41%)が一番多く、次いで3万～4万円(29%)、5万～6万円(15%)、3万円未満(11%)と続く。6万円以上のところに住んでいる学生は少数である。研究科・教育部の比較では、医科学(医科学専攻)と保健科学では、実数が少ないため結果がばらついている。

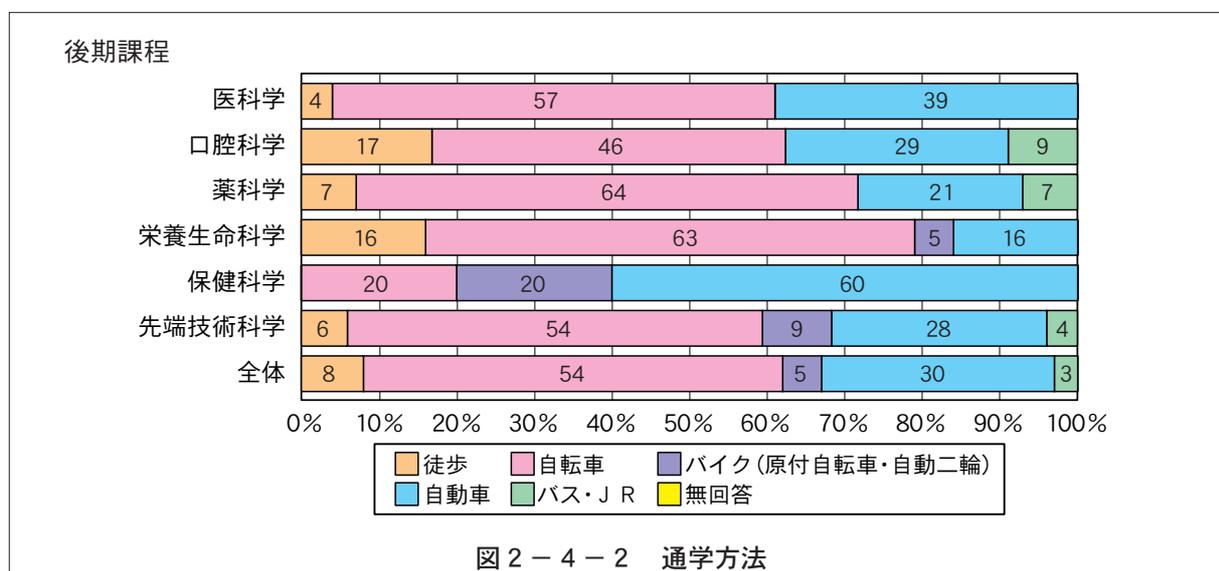
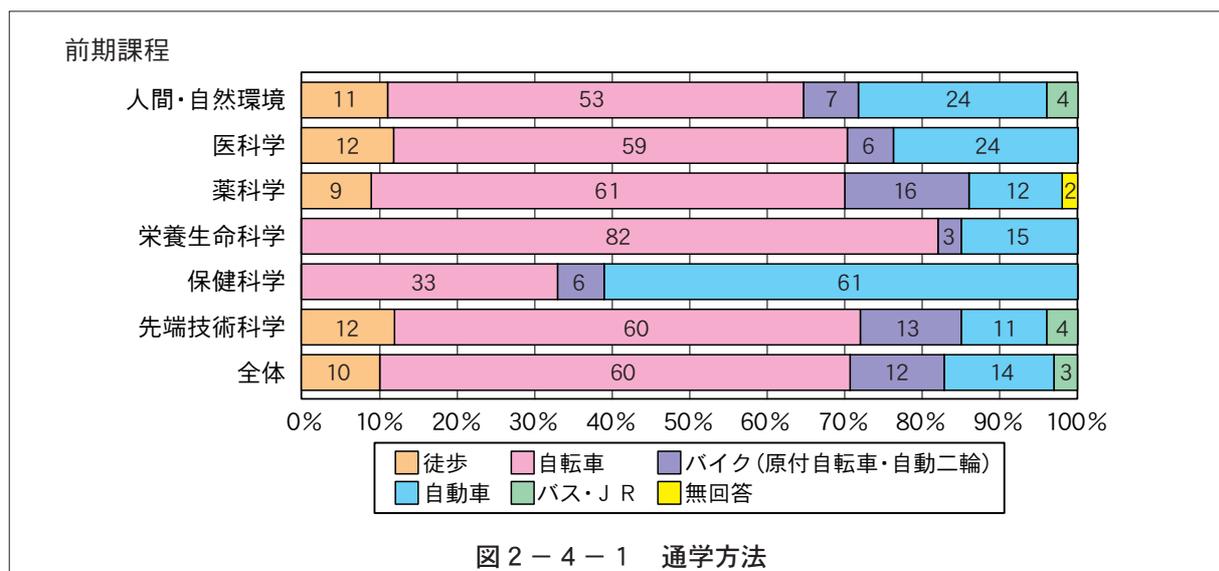
後期課程では、前期課程と比較して比率が異なっている。全体では3万～4万円(23%)が一番多く、次いで3万円未満(18%)、4～5万円(18%)、5万～6万円(16%)、6万～7万円(9%)と続く。6万円以上のところに住んでいる学生の比率が多くなっている。研究科・教育部の比較では、医科学の約半数の学生が6万円以上の所に住んでいる。薬科学、栄養生命科学、保健科学では、実数が少ないためそのまま比較するのは適当でない。留学生は3万円未満(37%)、3～4万円未満(37%)、4～5万円未満(20%)であった。



2-4 通学方法 (図2-4-1, 図2-4-2)

前期課程では、自転車通学(60%)が最も多く、続いて自動車(14%)、バイク(12%)、徒歩(10%)、バス・JR(3%)となっている。保健科学では、社会人大学院生が多いことと実数が少ないので結果がばらついている。

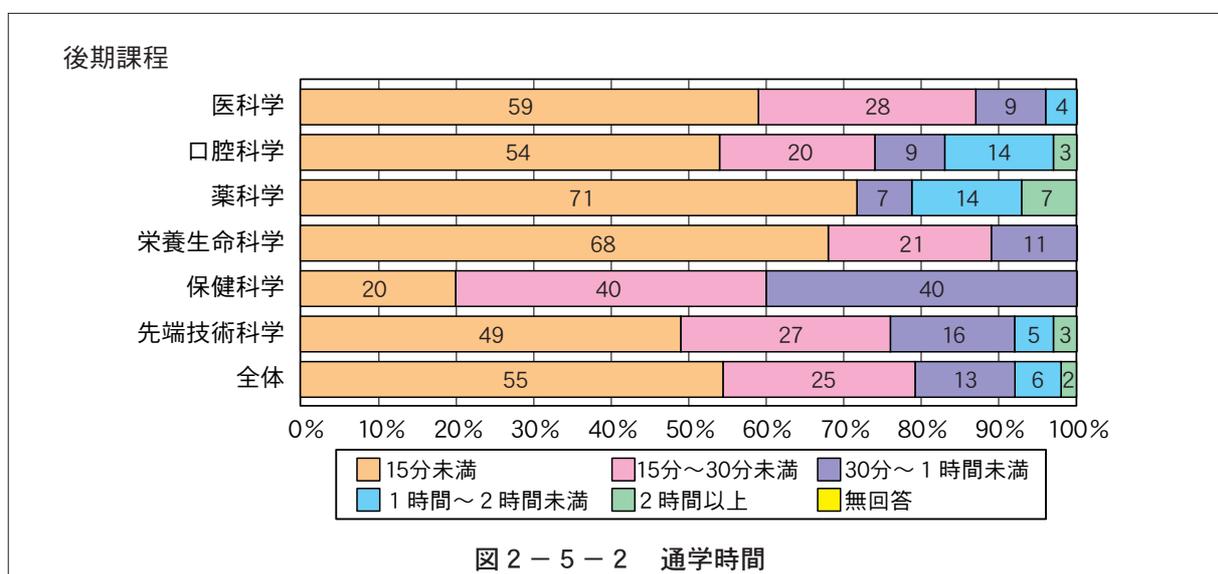
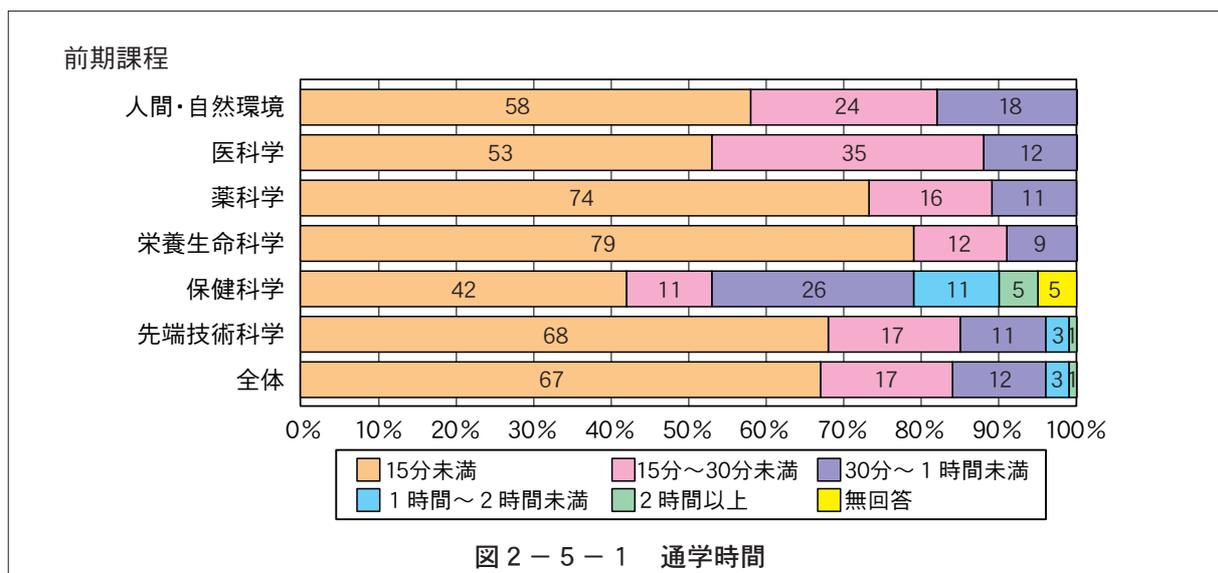
後期課程では、前期課程と比較して比率が少し異なっている。自転車通学(54%)が最も多く、次に自動車(30%)で自動車の比率が多くなっており、この2つで84%を占めている。保健科学では、社会人大学院生が多いことと実数が少ないので結果がばらついている。留学生は、自転車(76%)、徒歩(11%)、自動車(7%)であった。



2-5 通学時間 (図2-5-1, 図2-5-2)

前期課程では、15分未満が67%を占める。次いで15分～30分未満(17%)、30分～1時間未満(12%)、1時間～2時間未満(3%)である。

後期課程では、前期課程の学生の通学時間と比較して、15分～30分未満(25%)が少し増加しており、その分ほかの通勤時間の比率が減少している。留学生は15分未満(69%)、15分～30分未満(22%)、

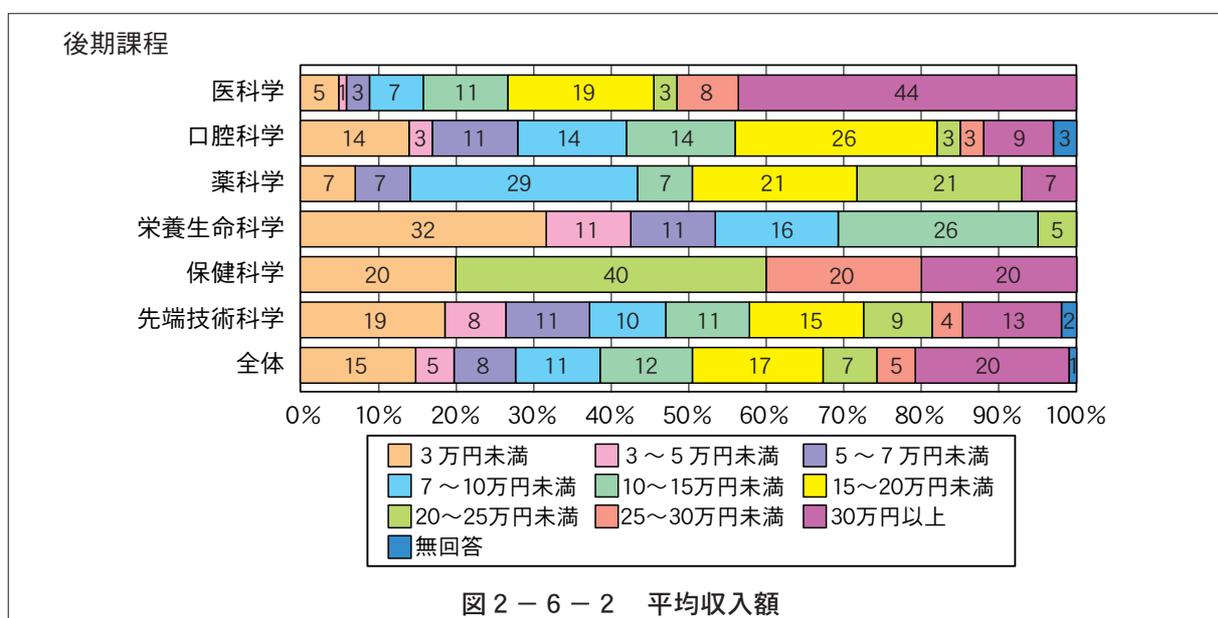
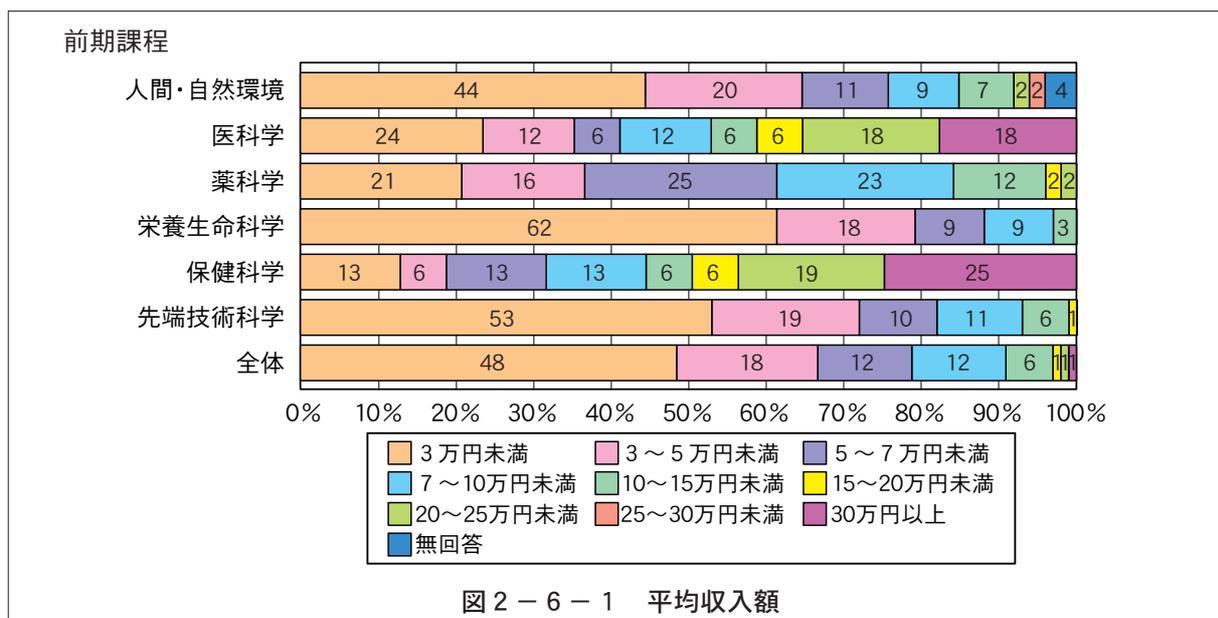


30分～1時間未満（8%）であった。

2-6 1ヶ月の平均収入額 (図 2-6-1, 図 2-6-2)

前期課程では、全体で親等からの援助を除いた平均収入額は3万円未満が約半数（48%）を占めている。そして、収入額の増加とともに比率が減少している。研究科・教育部の比較では、保健科学では社会人大学院生が多いので、30万円以上の平均収入額（25%）が最も多く、次いで20万円～25万円未満（19%）となり、この2つで44%を占めている。栄養生命科学では3万円未満が62%となっている。

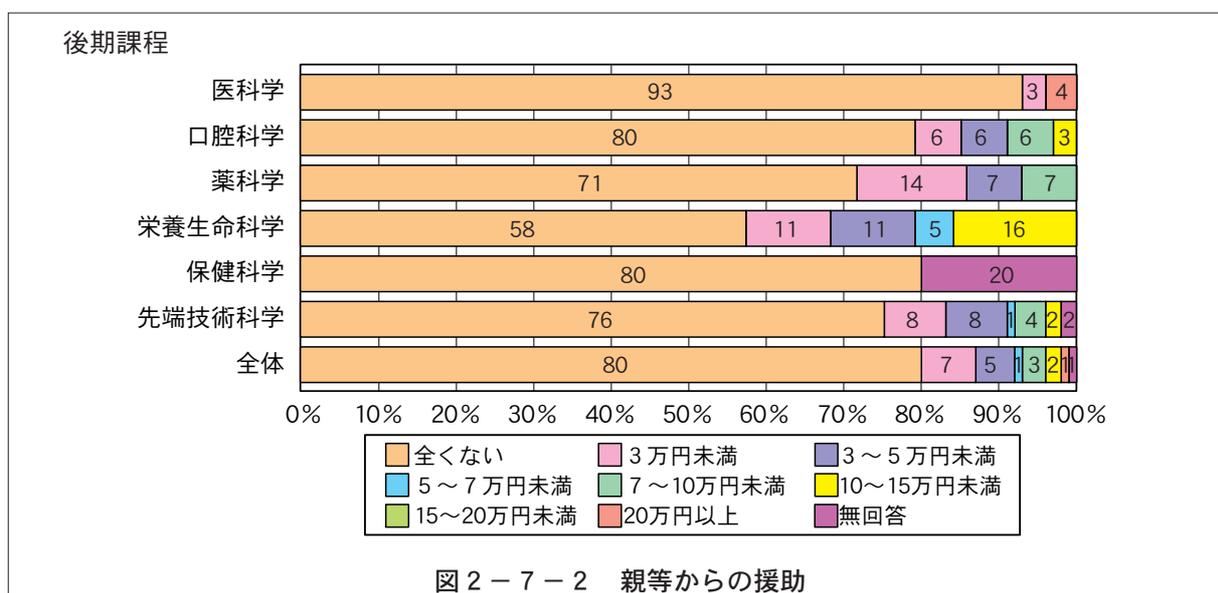
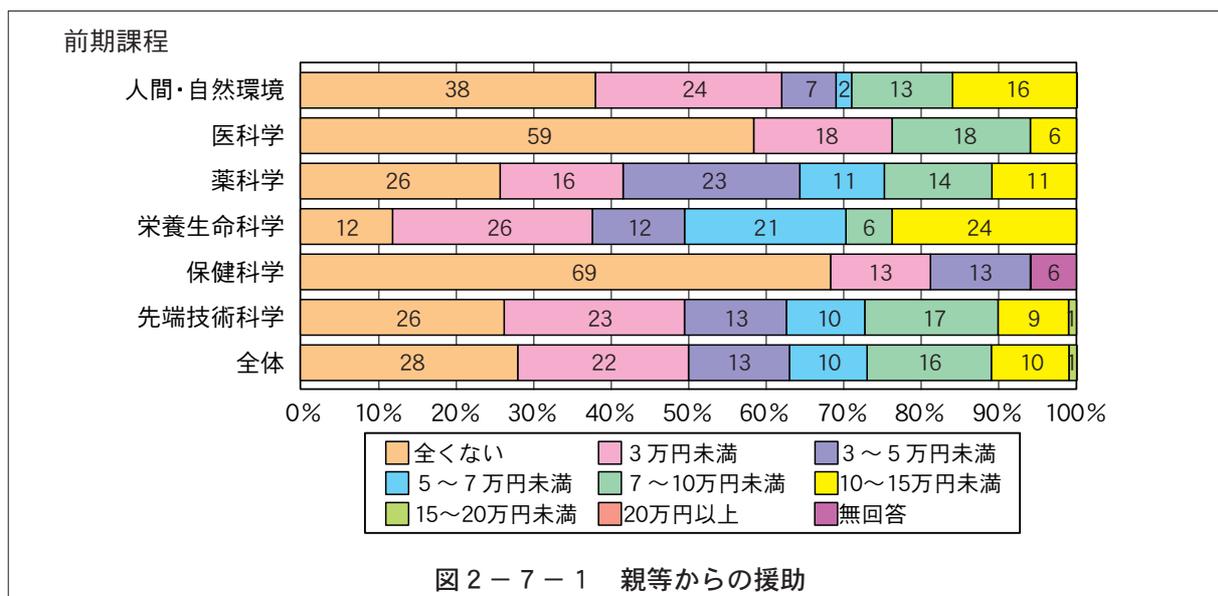
後期課程では、前期課程の学生の平均収入額の比率とは大きく異なっている。全体では30万円以上が20%と最も多く、次に15万～20万円未満（17%）になっている。研究科・教育部の比較では、各研究科・研究部で比率が異なっており、特に医科学では30万円以上が44%となっており、保健科学では20万円～25万円未満が40%になっているのが目立つ。これは社会人大学院生が多いことによる。留学生は15～20万円未満が41%で最も多くなっている。



2-7 親等からの援助額 (図 2-7-1, 図 2-7-2)

前期課程では、全体で親等からの援助が全くないが28%と最も多く、次に3万円未満となっており、この2つで50%になっている。研究科・教育部の比較では、医科学と保健科学では社会人大学院生が多いので、親等からの援助が全くないが半数を超えている。逆に栄養生命科学では12%と最も少なくなっている。

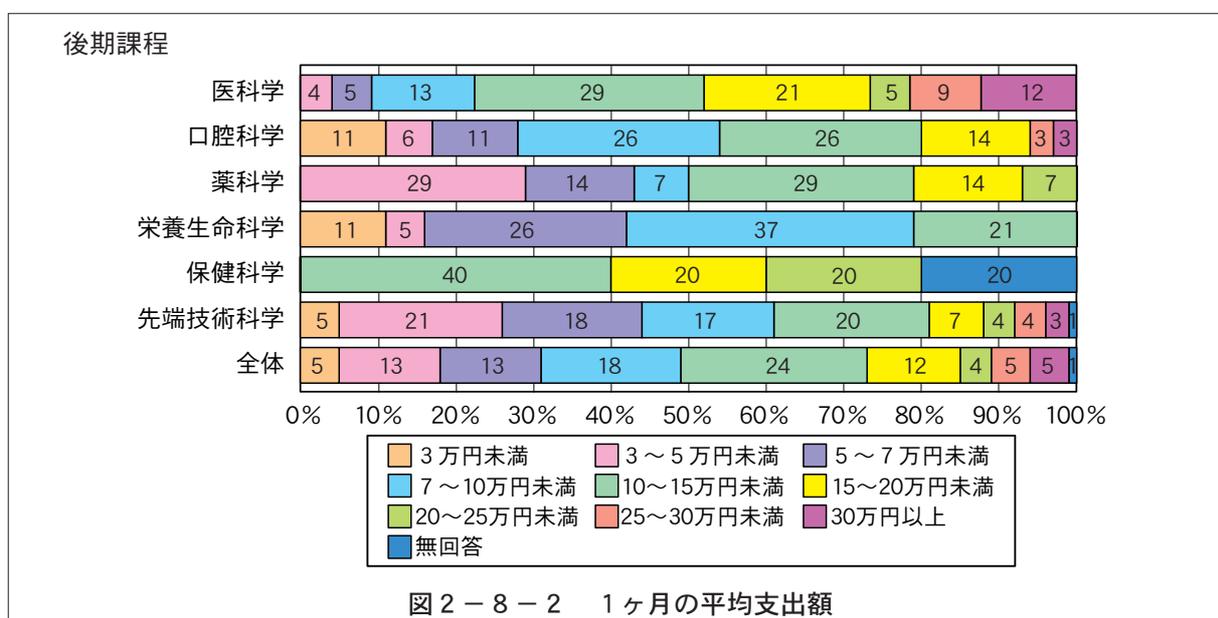
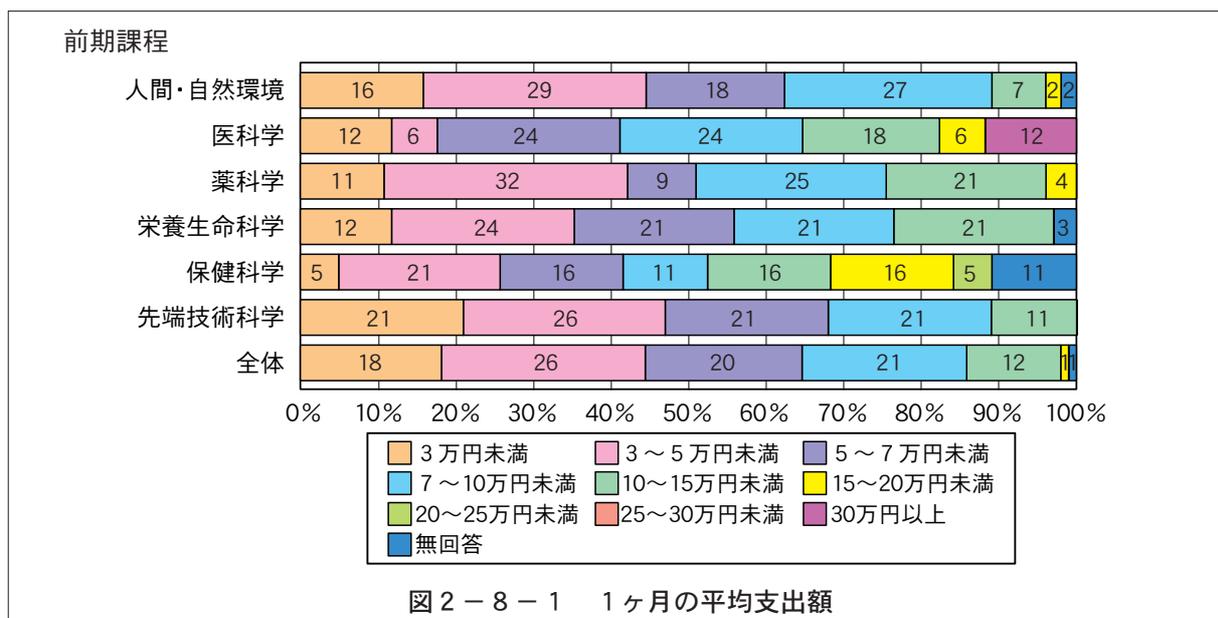
後期課程では、前期課程の学生の親等からの援助額の比率とは大きく異なっている。全体では親等からの援助が全くないが80%にも達して最も多くなっている。研究科・教育部の比較では、栄養生命科学では親等からの援助が全くないが58%と最も少なくなっている。これは社会人大学院生が少ないことによる。留学生は、88%が「全くない」と回答している。



2-8 1ヶ月の平均支出額 (図 2-8-1, 図 2-8-2)

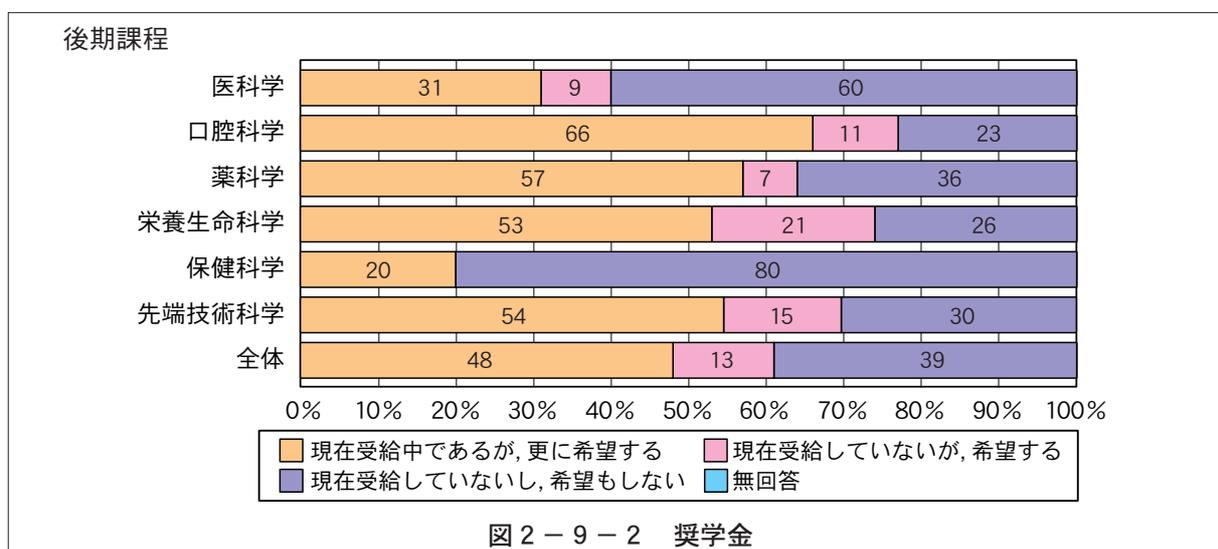
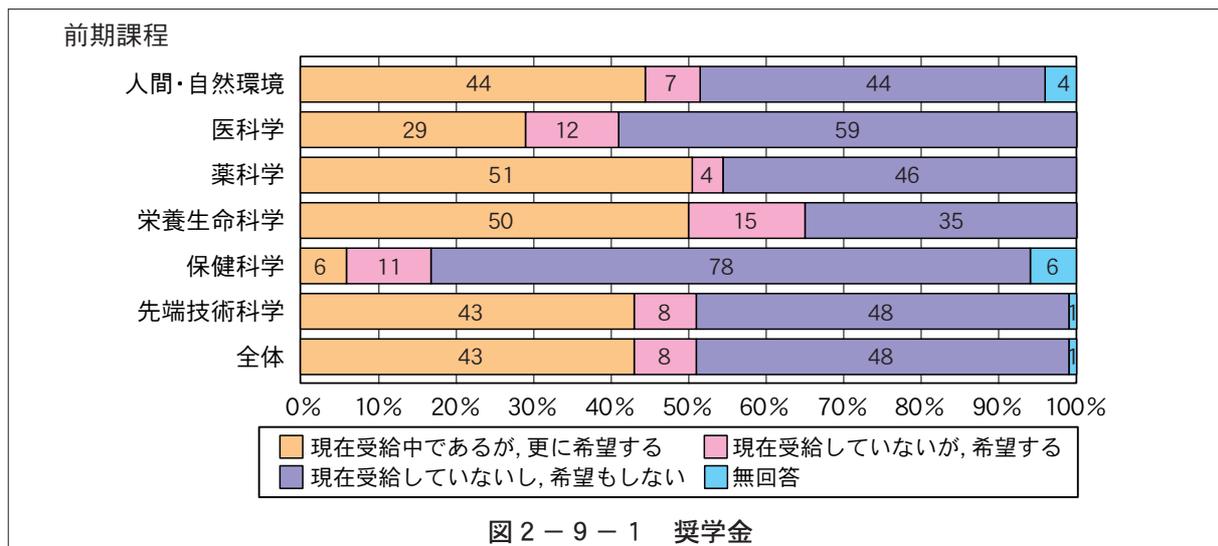
前期課程では、全体で1ヶ月の平均支出額は3万円～5万円未満(26%)が最も多く、3万円未満(18%)、5万円～7万円(20%)、7万円～10万円(21%)、10万円～15万円(12%)となっている。研究科・教育部の比較では、保健科学では社会人大学院生が多いので、3万円未満が5%と最も少なくなっている。

後期課程では、前期課程の学生の平均支出額の比率とはかなり異なっている。全体では10万円～15万円未満(24%)で最も多く、次に7万～10万円未満(18%)になっている。研究科・教育部の比較では、社会人大学院生が多い医科学と保健科学で15万円以上が半数近くになっている。その他の研究科・教育部では15万円以上は約20%の割合である。留学生は、10～15万円未満が35%で最も多くなっている。



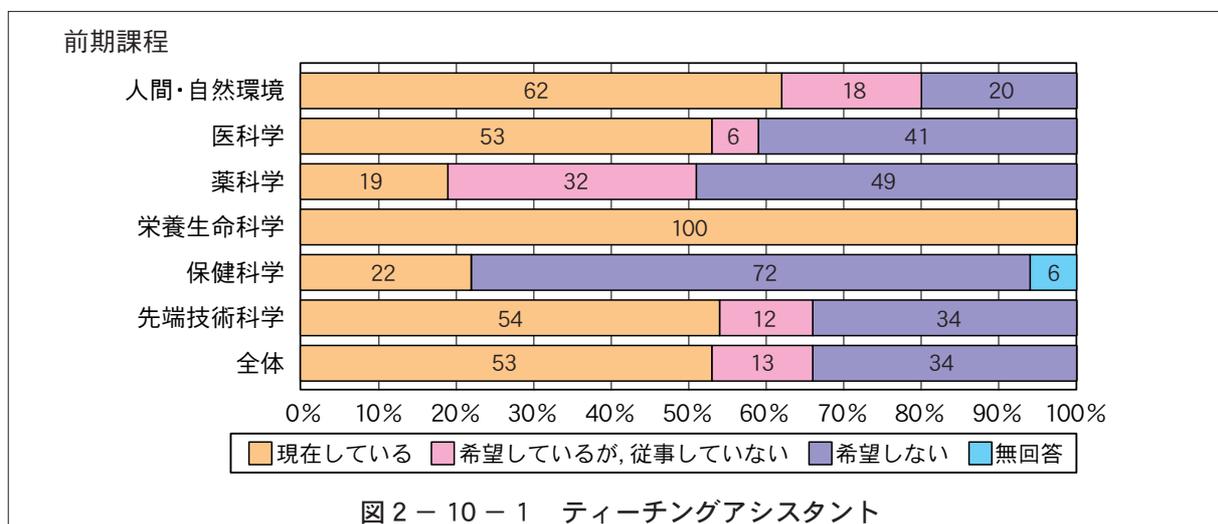
2-9 奨学金 (図 2-9-1, 図 2-9-2)

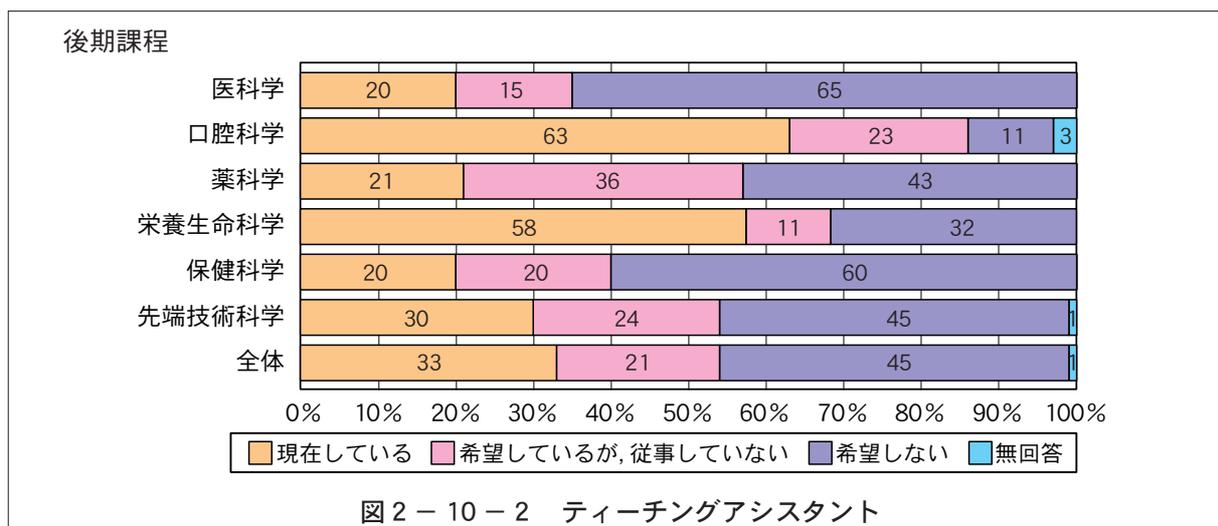
前期課程の学生は、「現在受給中であるが、更に希望する」と「現在受給していないが、希望する」の2つをあわせると、奨学金を希望する学生が約半数である。これに対して、後期課程では奨学金を希望する学生が61%となり増加している。研究科・教育部の比較では、医科学と保健科学において、奨学金を希望する学生が少ない。これは、2つの教育部とも社会人学生が多いことによる。また、口腔科学では「現在受給中であるが、更に希望する」の割合が多い。留学生は、83%が「現在受給中であるが、更に希望する」と回答しており、「現在受給していないが、希望する」も16%あった。



2-10 ティーチングアシスタント (図 2-10-1, 図 2-10-2)

ティーチングアシスタント (TA) を「現在している」との回答は、前期課程で 53%あるが、後期課程では 33%と減少している。研究科・教育部の比較では、前期課程では、栄養生命科学が 100%と多く、

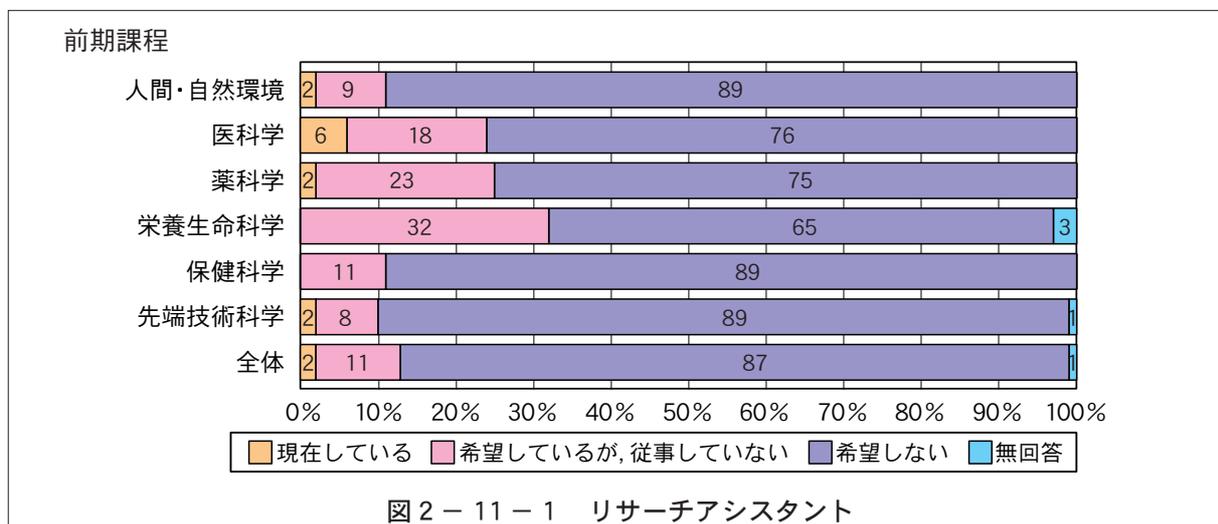


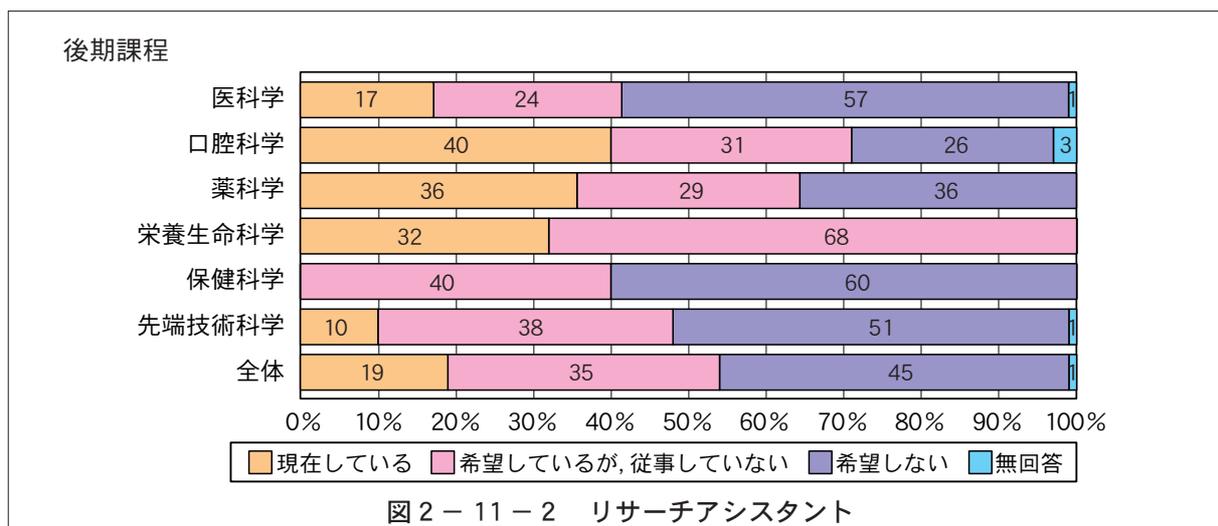


薬科学と保健科学で約20%と少なくなっている。後期課程では、「現在している」の回答が、口腔科学で63%、栄養生命科学で58%と多くなっている。留学生は、「希望しているが、従事していない」が39%と最も多く、次に「現在している」で35%あった。

2-11 リサーチアシスタント (図 2-11-1, 図 2-11-2)

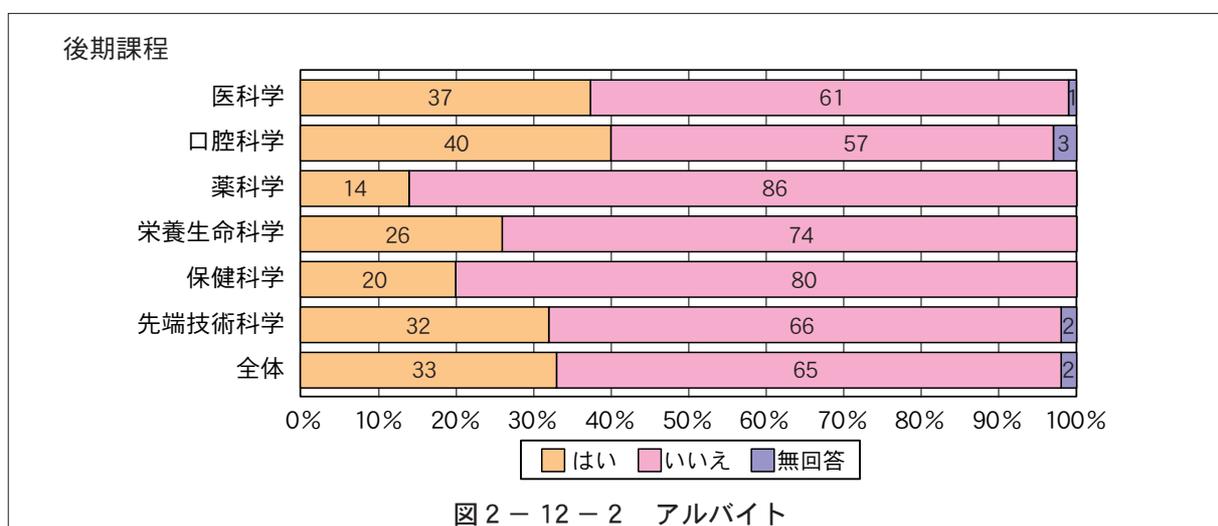
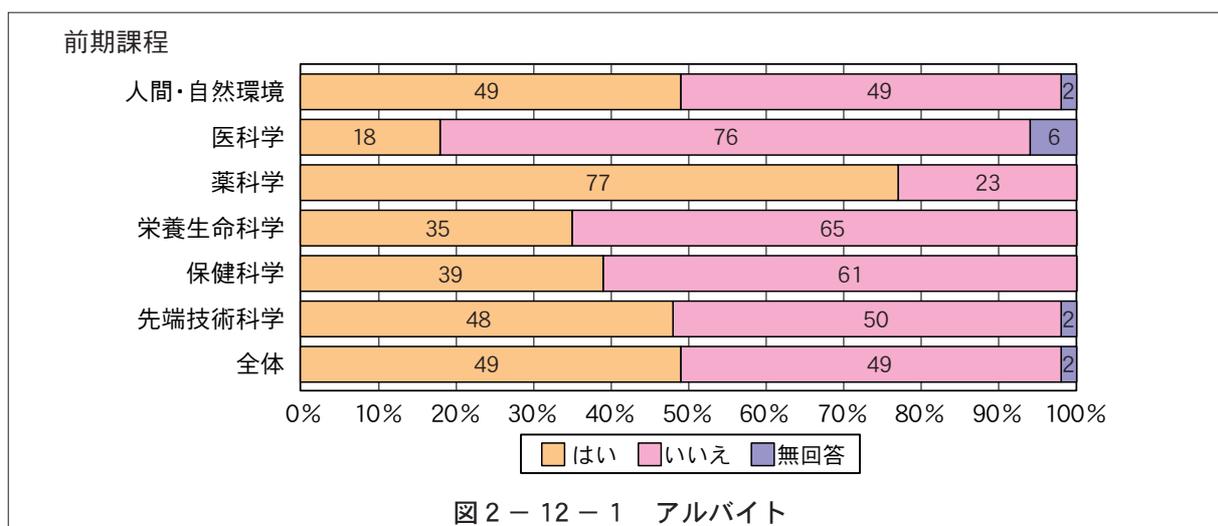
リサーチアシスタント (RA) を「現在している」との回答は、全体で、前期課程では2%と非常に少なく、後期課程でも19%と少ない。しかしながら、後期課程では「希望しているが従事していない」が35%あり、希望者が多いことがわかる。特に栄養生命科学では前期課程と後期課程の両方で希望者の比率が高い。留学生は、「希望しているが従事していない」が53%で最も多かった。





2-12 アルバイト (図 2-12-1, 図 2-12-2)

全体では、前期課程では49%が、後期課程では33%がアルバイトをしており、前期課程の方が高い割合になっている。研究科・教育部の比較では、「アルバイトをしている」が、前期課程の医科学で18%と割合が少なく、前期課程の薬科学で77%と割合が多くなっている。また、後期課程の薬科学では14%

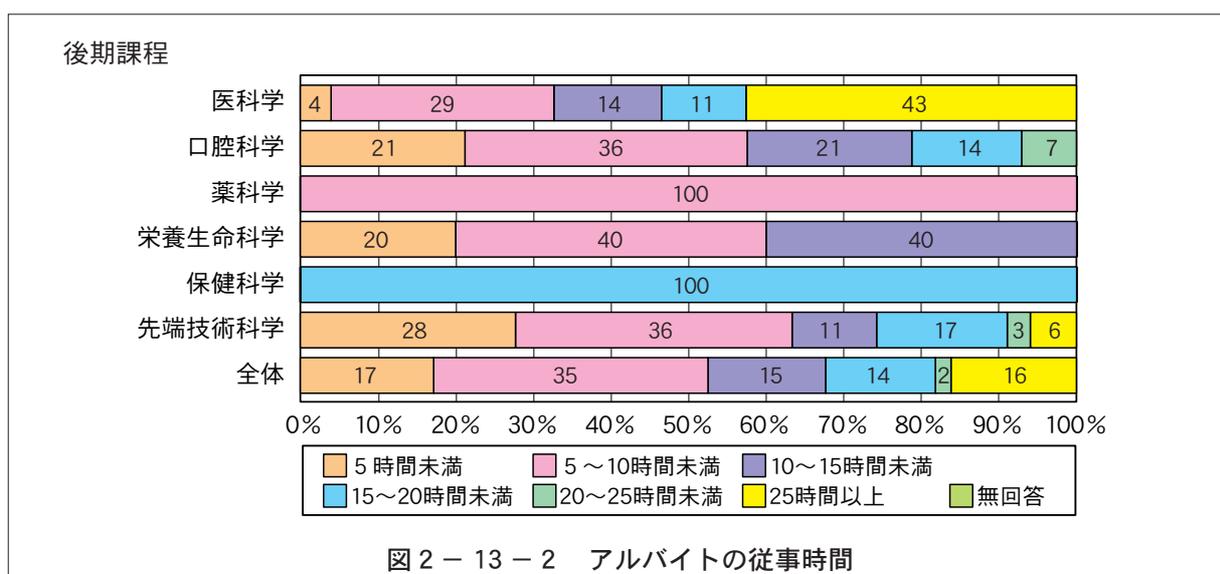
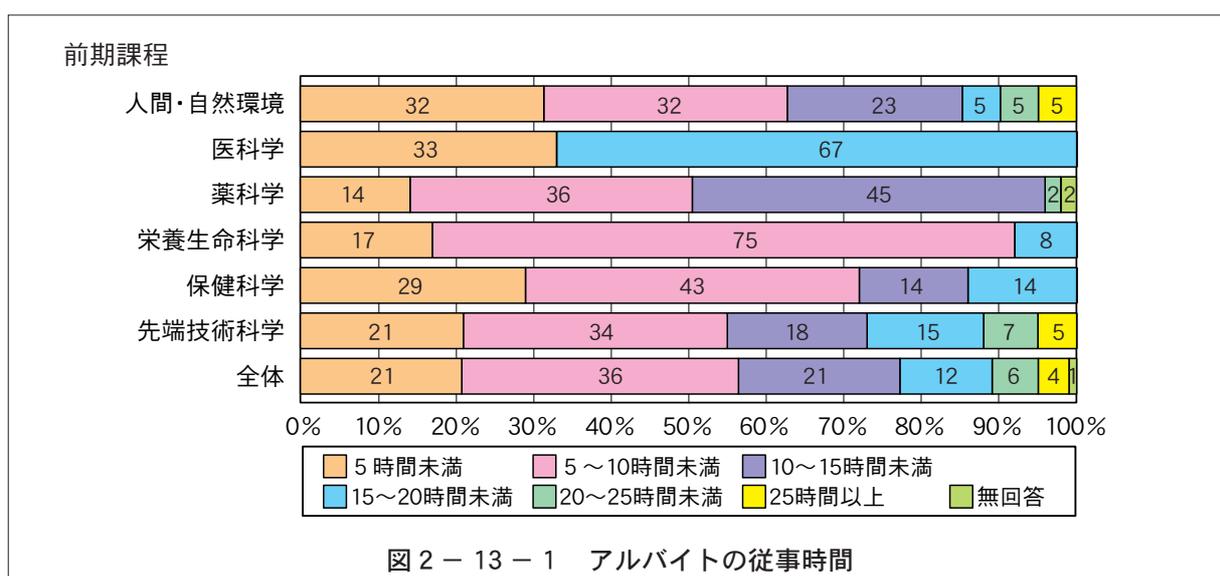


と少なくなっている。留学生は、「アルバイトをしていない」が75%（62名）で、「アルバイトをしている」が24%（20名）あった。

2-13 アルバイト従事時間数（図2-13-1, 図2-13-2）

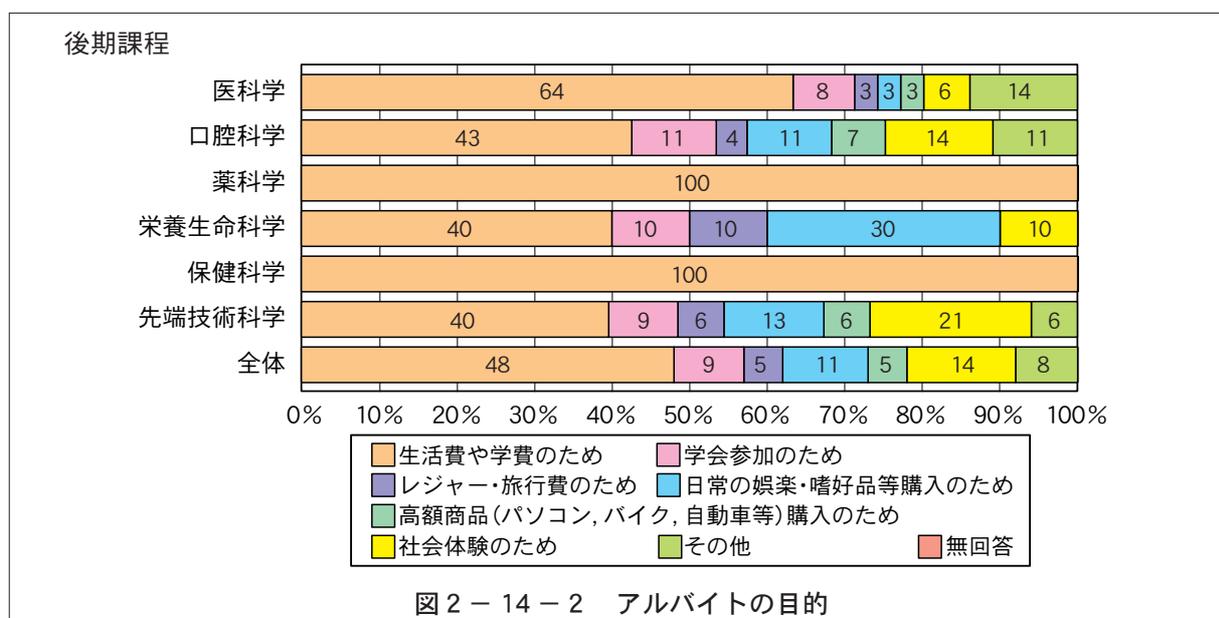
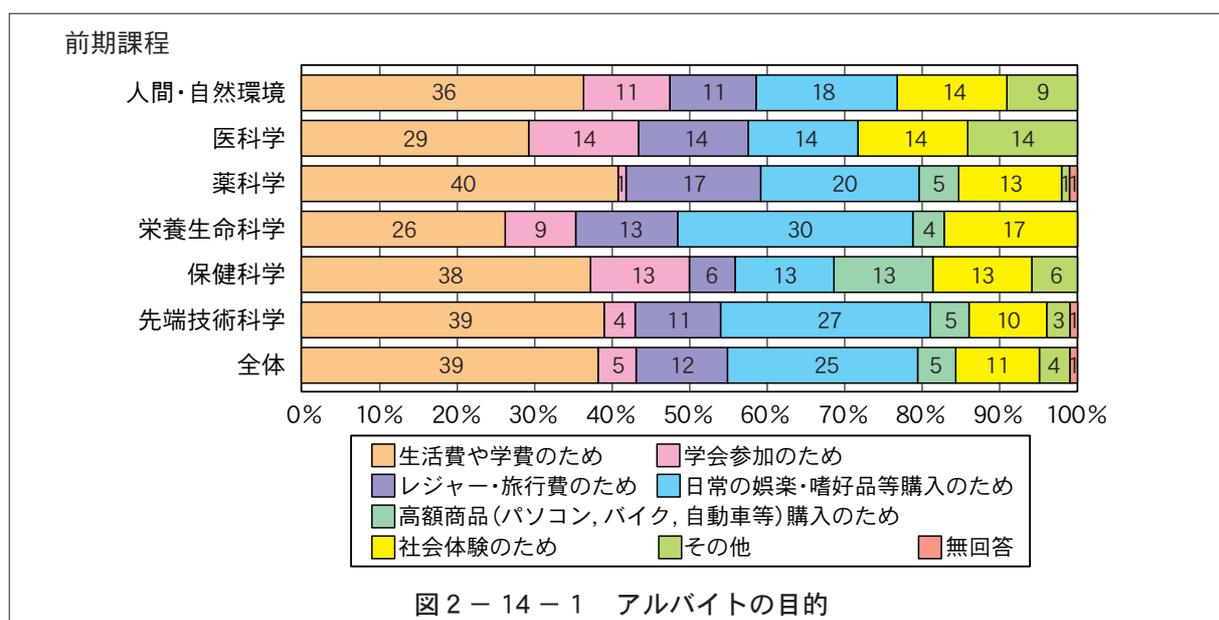
前期課程では、全体で10時間未満が57%である。研究科・教育部の比較では、医科学、栄養生命科学、保健科学で2-12で「アルバイトをしている」を選んだ学生の実数が、3名、12名、7名と少ないため、結果がばらついて比較することが困難である。薬科学では10時間以上15時間未満が45%あり最も多くなっている。

後期課程では、全体で10時間未満が52%である。医科学と先端技術科学以外は、「アルバイトをしている」を選んだ学生の実数が少ないため結果がばらついており、比較することが困難である。医科学では、25時間以上が43%あり比率が最も多くなっている。



2-14 アルバイトの目的 (図2-14-1, 図2-14-2)

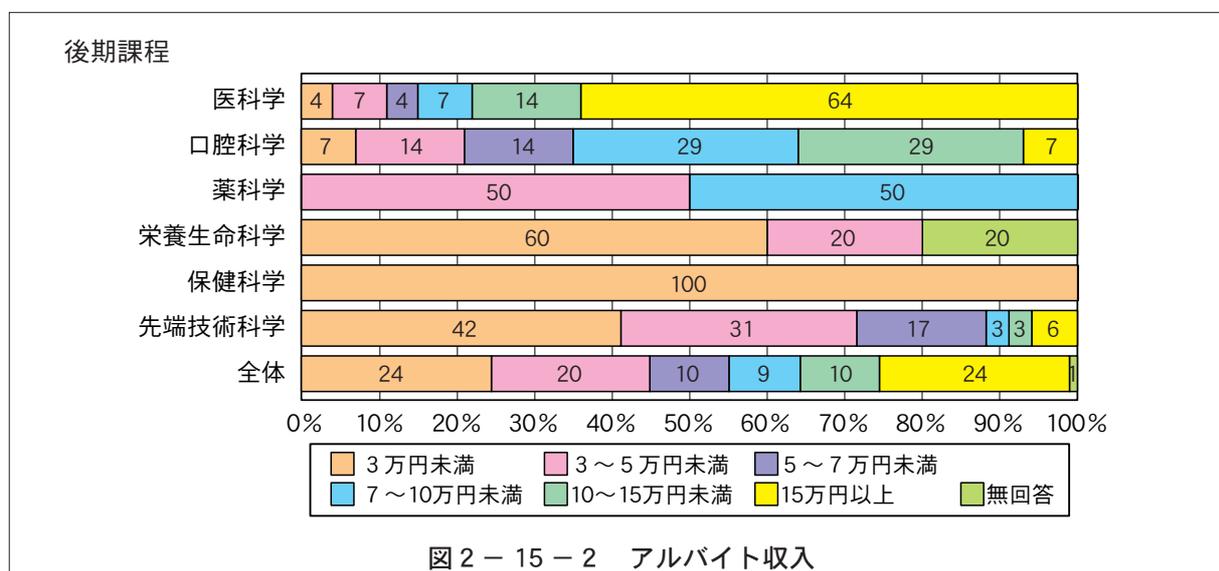
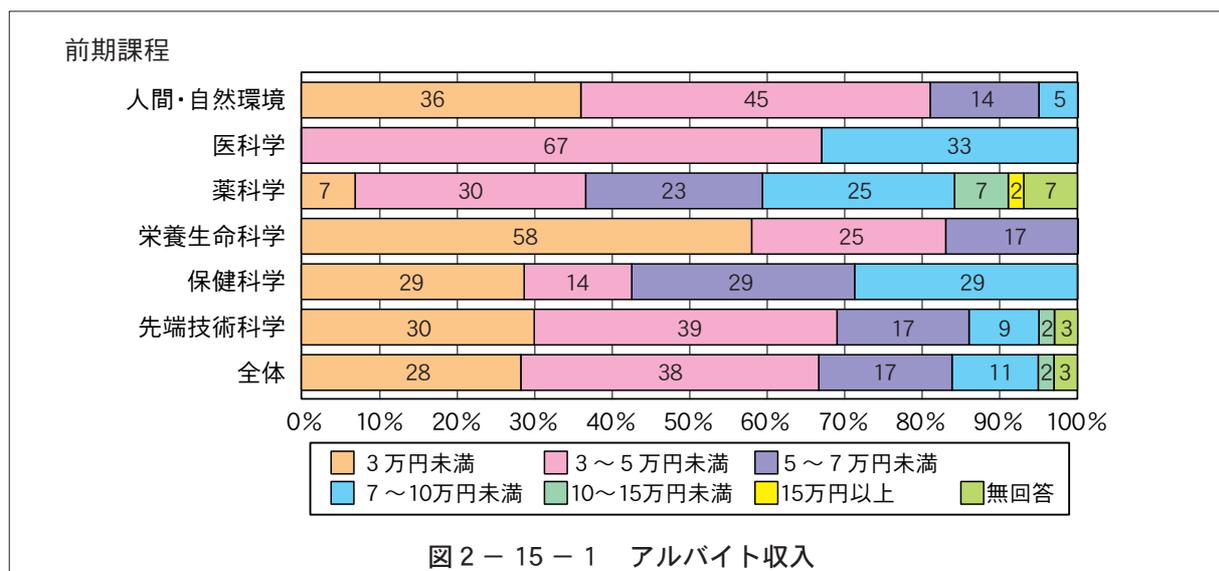
複数回答が可能な設問である。前期課程では、アルバイトの目的として最も多いのは、「生活費や学業のため」であり、全体で39%になっている。次に「日常の娯楽・嗜好品購入のため」が25%、「レジャー・旅行費のため」が12%と続いている。アルバイトの目的として「生活費や学業のため」が約40%で最も多く、学生の経済状態が苦しいことがわかる。次に、後期課程では、アルバイトの目的として最も多いのは、「生活費や学業のため」であり、全体で48%になっており、前期課程と比較して比率が増加している。研究科・教育部の比較では、薬科学、栄養生命科学、保健科学で、2-12で「アルバイトをしている」を選んだ学生の実数が、2名、5名、1名と少ないため、結果がばらついて比較することが困難である。医科学では、「生活費や学業のため」が64%あり、比率が大きくなっている。



2-15 アルバイト収入 (図2-15-1, 図2-15-2)

前期課程では、全体で3万円未満と3～5万円未満をあわせた5万円未満の比率が66%あり、5万円～7万円未満が17%、7～10万円未満が11%と続く。研究科・教育部の比較では、薬科学で5万円未満が37%と減少して、5万円以上～10万円未満が48%と増加している。人間・自然環境では、5万円未満が81%となり多くなっている。その他の研究科・教育部では、2-12で「アルバイトをしている」を選んだ学生の実数が少ないため、結果がばらついて比較することが困難である。

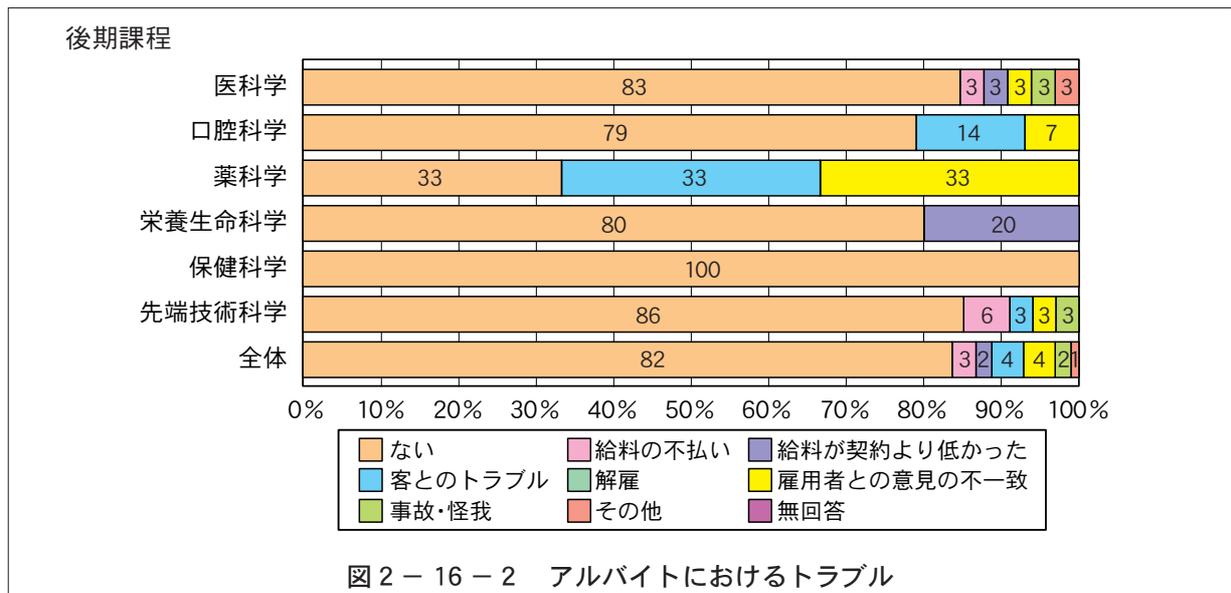
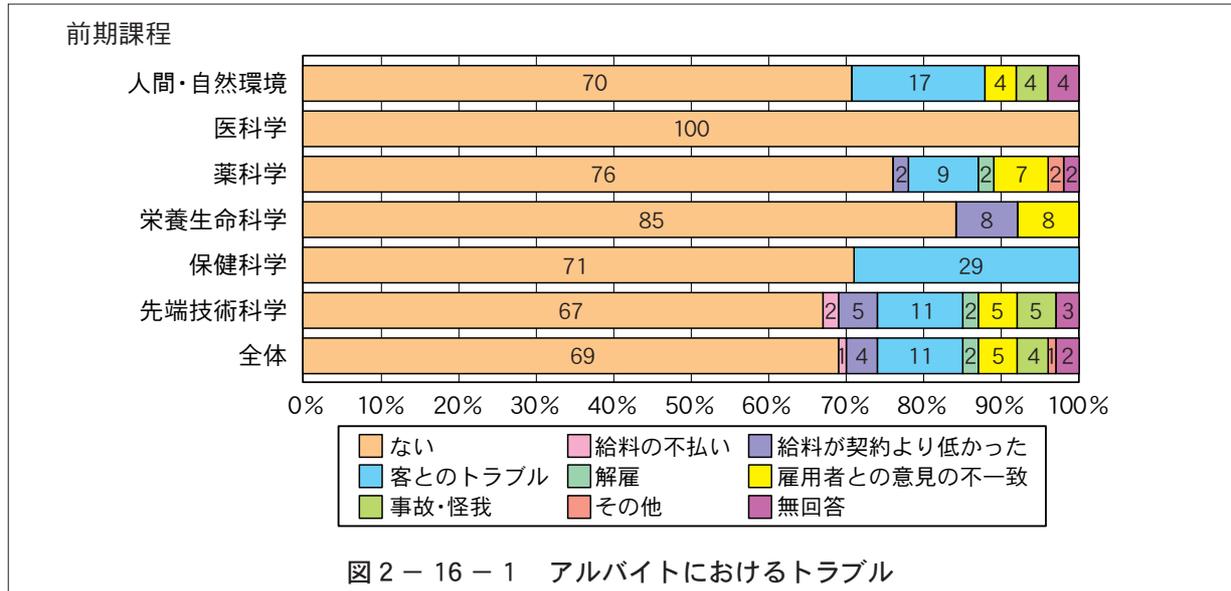
後期課程では、全体で5万円未満が44%で、前期課程と比較して少なくなっており、15万円以上が24%となって増加している。



2-16 アルバイトにおけるトラブル (図2-16-1, 図2-16-2)

複数回答が可能な設問である。前期課程では、「トラブルがない」の回答は全体で69%あり、「トラブルがあった」は28%になった。トラブルで最も多いのは、客とのトラブル(11%)で、次に雇用者との意見の不一致(5%)である。研究科・教育部の比較では、医科学、栄養生命科学、保健科学で、2-12で「アルバイトをしている」を選んだ学生の実数が、3名、12名、7名と少ないため、結果がばらつ

いており比較することが困難である。後期課程では、「トラブルがない」の回答は全体で82%あり、「トラブルがあった」は15%になった。研究科・教育部の比較では、医科学、先端技術科学が全体とほぼ同じ分布をしている。その他の研究科・教育部では2-12で「アルバイトをしている」を選んだ学生の実数が少ないため比較することが困難である。



第3章 健康状態について

3-1 睡眠時間 (図3-1-1, 図3-1-2)

睡眠時間は前期課程と後期課程で差はなく、「6～8時間未満」がそれぞれ56、55%と最多であった。最も健康的な睡眠時間は7～8時間未満といわれているため、過半数の学生の睡眠は良好であることが窺える。しかし6時間未満の学生が40%弱おり、睡眠不足の蓄積は心身の疲労の蓄積に直結し、活動性の低下や心身の変調につながりやすいため、注意を要する。睡眠不足時の注意力は飲酒運転時と同じであることも実証されているため、多忙な院生活、研究生活の中ではあるが、必要な睡眠時間の確保の重要性については、学生本人のみならず、指導者も認識しておく必要がある。

留学生については、6時間以上の睡眠時間を確保している割合が多く、睡眠時間に関する問題が少ないと考えられた。

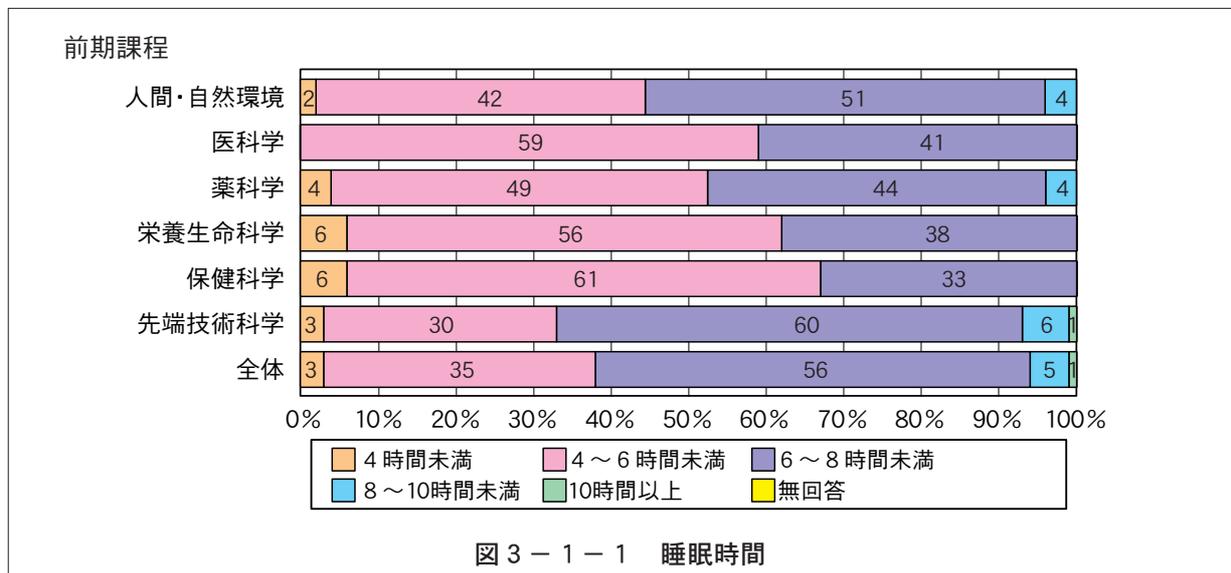


図3-1-1 睡眠時間

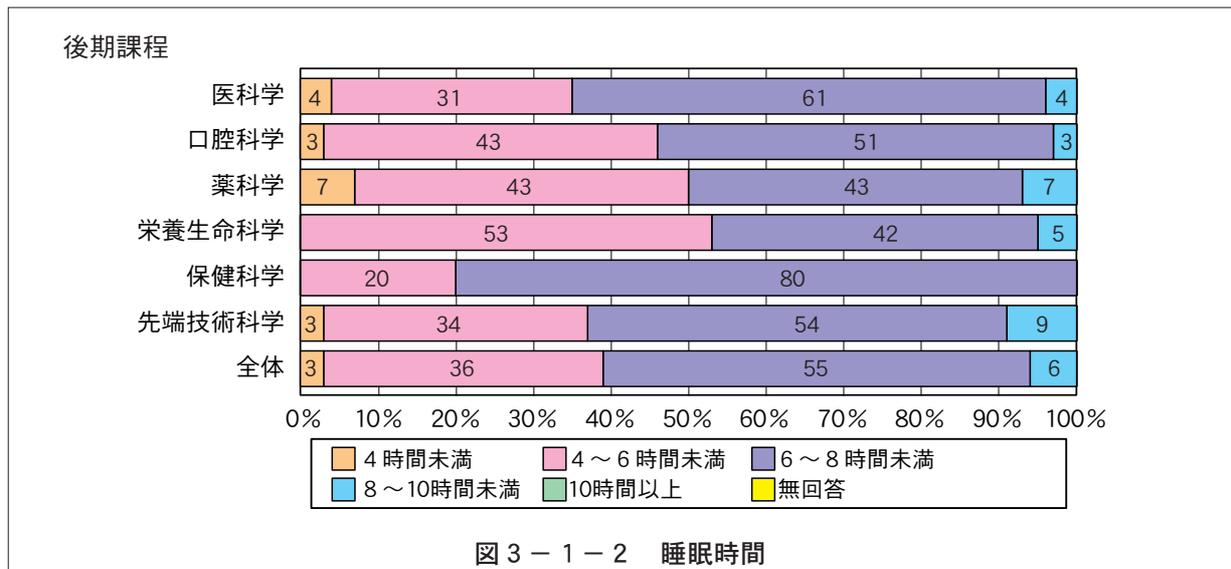
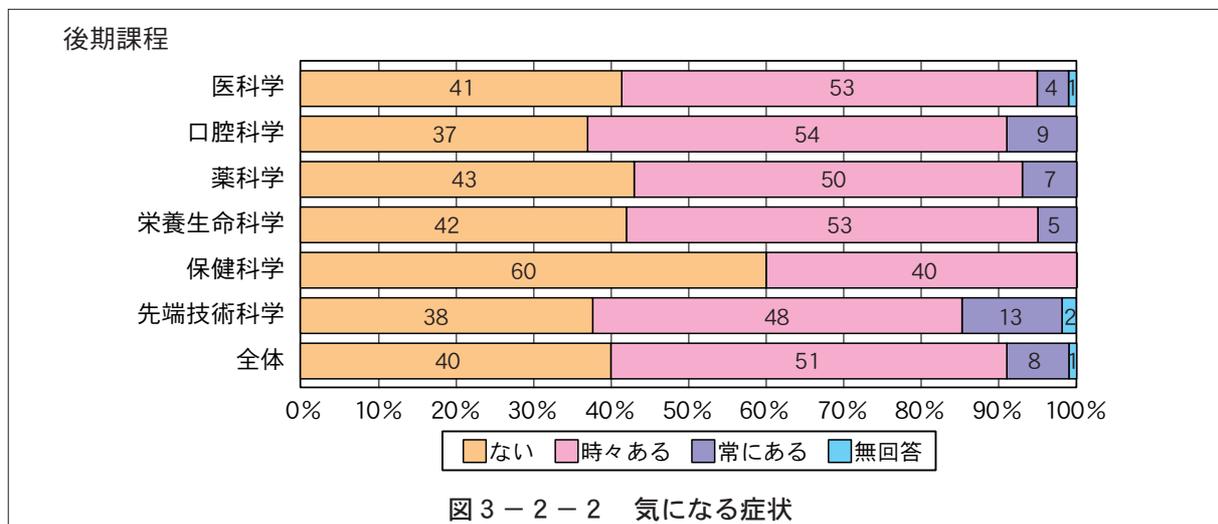
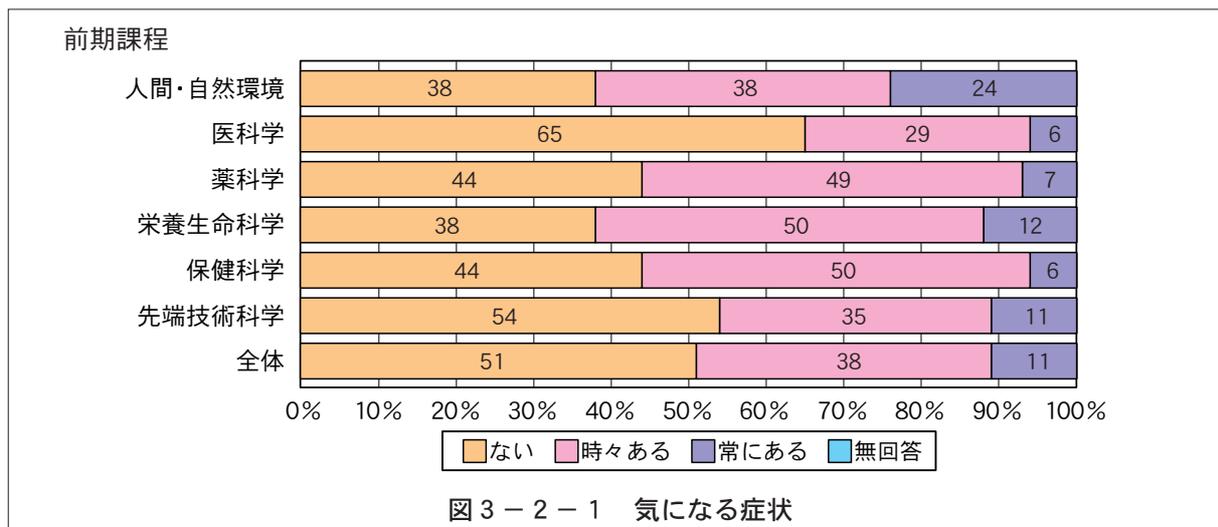


図3-1-2 睡眠時間

3-2 気になる症状 (図3-2-1, 図3-2-2)

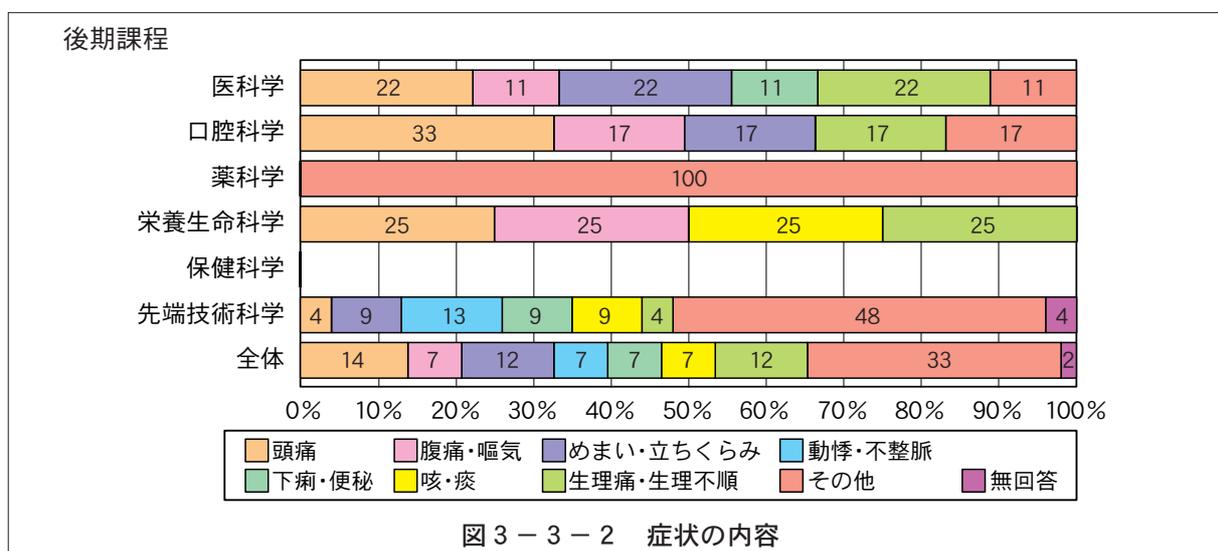
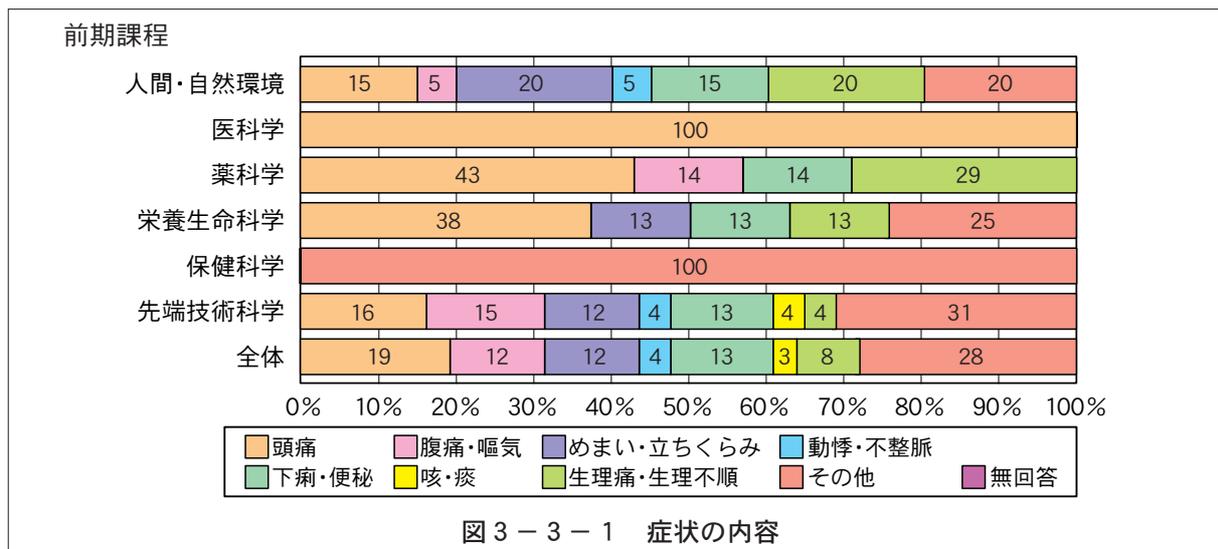
気になる症状が「常にある」か「時々ある」学生が、前期課程では49%、後期課程では59%であり、何らかの健康面の問題もしくは健康上の不安を抱えている学生が過半数を超えていることが認識された。男女別では、気になる症状が「常にある」割合は1割程度と男女ほぼ同じであるが、「時々ある」学生は女子が54%、男子が37%と女子に多くなっている。人間・自然環境の学生の4人に1人が気になる症状が常にあるとしており生活指導、健康相談など何らかの対策を要すると考えられた。

留学生では気になる症状が「常にある」か「時々ある」学生が、前期72%、後期84%と高率になっており、健康面の問題や不安に対する支援の必要性を示している。



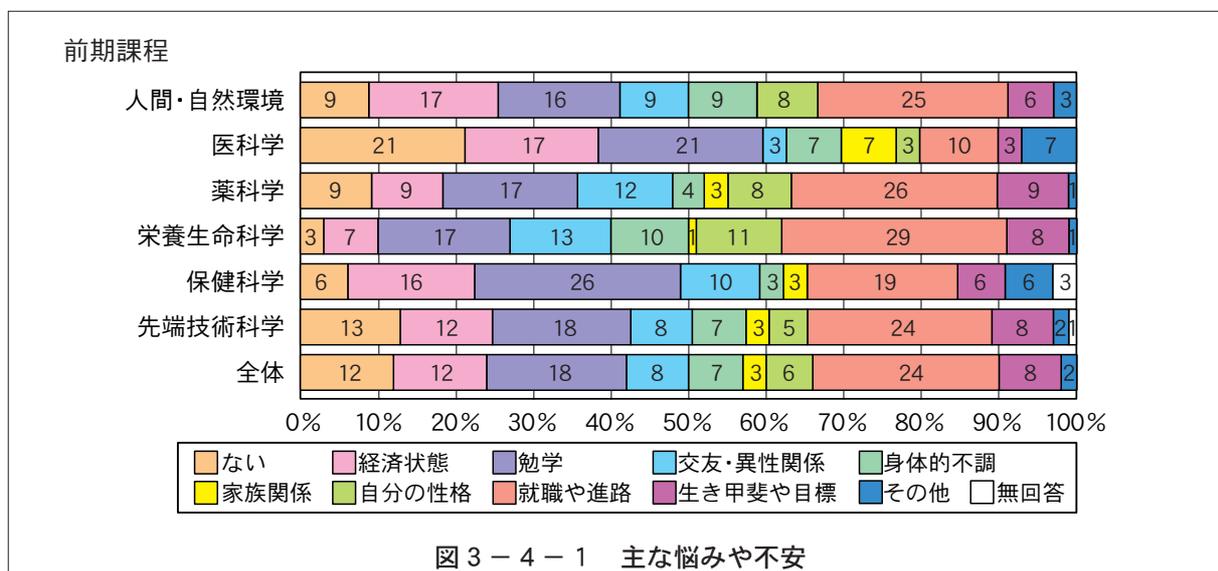
3-3 症状の内容 (図3-3-1, 図3-3-2)

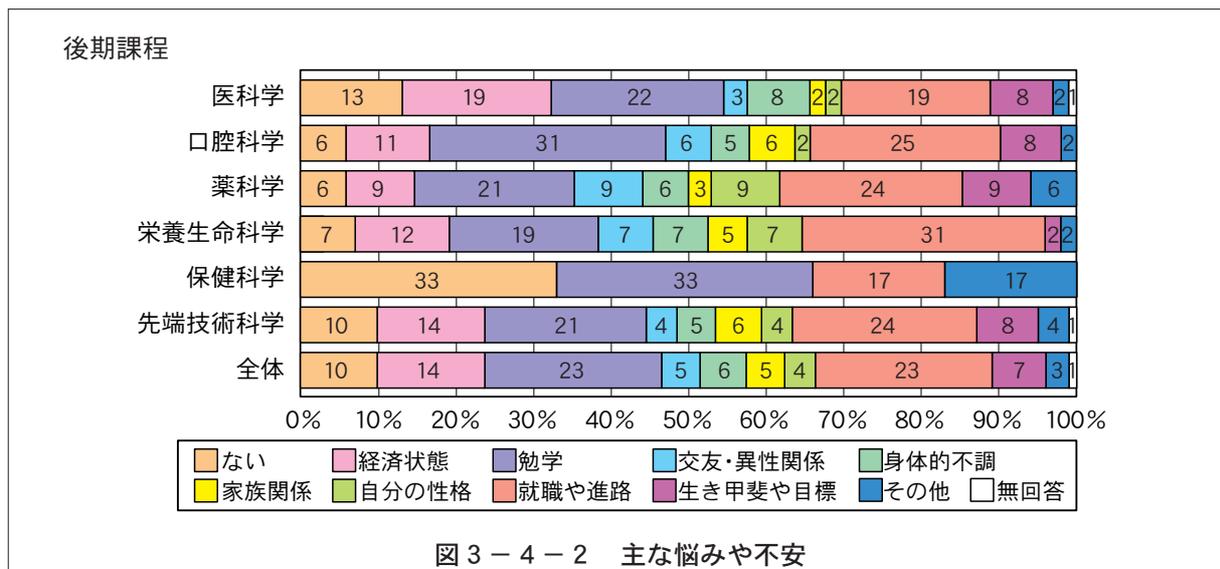
頭痛がやや多く、下痢・便秘や腹痛・嘔気の腹部症状、めまい・立ちくらみと続いた。めまい・立ちくらみに関しては、女子にみられやすい貧血との関連も深いのが、男子にも見られていることから、生活リズムの乱れや夜型生活などからくる低血圧症状の関連が考えられる。また、男子で、その他を選んだ学生が多く、アレルギー疾患や倦怠感、不眠などが含まれる可能性が考えられる。



3-4 主な悩みと不安 (図 3-4-1, 図 3-4-2)

悩みや不安として最も多かったのが「就職や進路」続いて「勉学」であり、これは前期課程、後期課



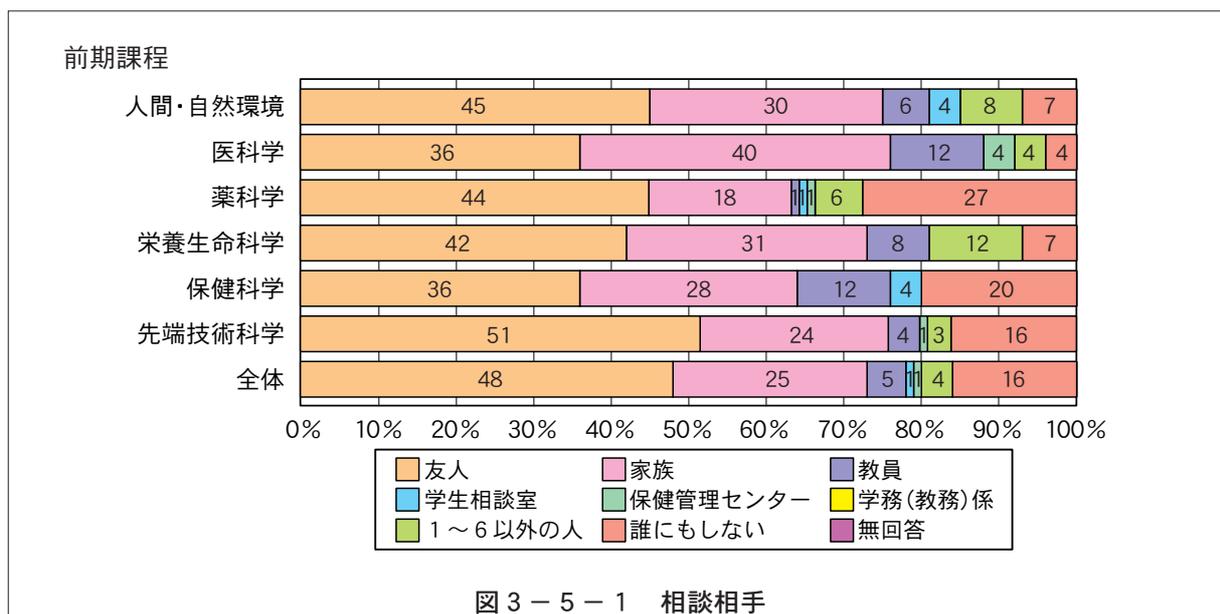


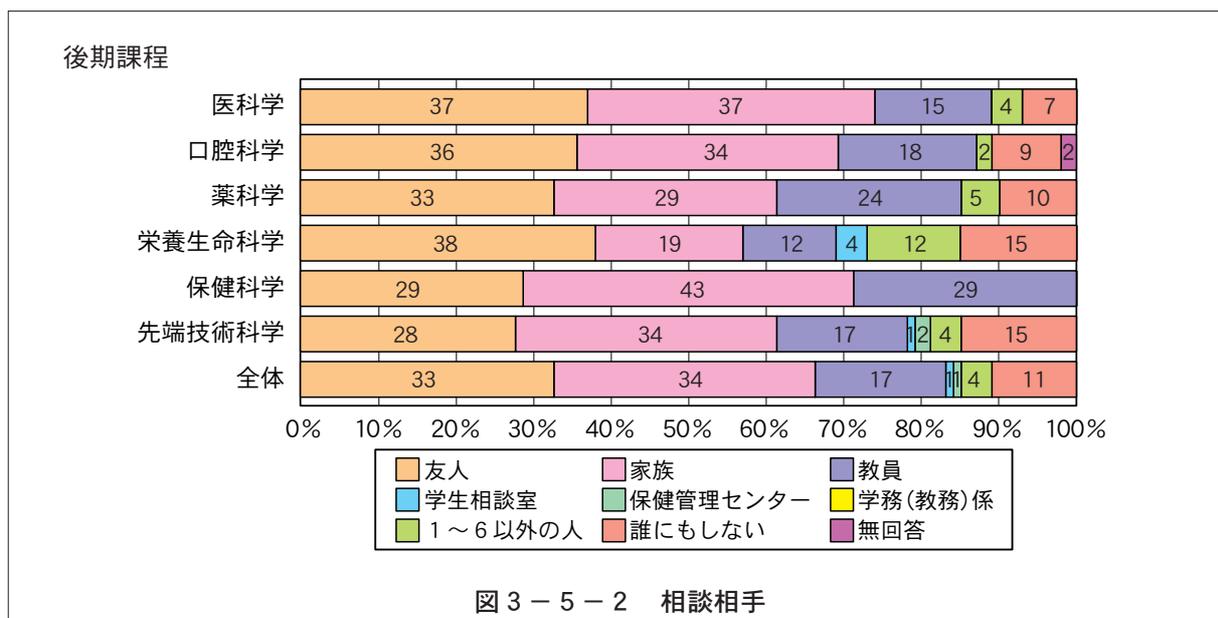
程ともに、また男女ともに共通しており、学生特有の問題に関する悩みと考えられる。「交友・異性関係」、「自分の性格」、「生き甲斐や目標」といった悩みは少なく、一方前回調査と比べて増加しているのが「経済状態」の悩みである。学生が、学業・進路および経済的状況などの現実的問題を悩みとしている様子が窺われる。「身体的不調」を悩みとしている学生は、3-2で気になる症状が「常にある」とした学生の割合とほぼ同じと考えられる。

留学生に関しては、主な悩みは、「勉強」続いて「進路や就職」であり、全体と同じだが、悩みがないという学生が3~4%とわずかであり、「経済状態」が悩みである学生が多くなっている。

3-5 相談相手 (図3-5-1, 図3-5-2)

悩みごとは、6~7割の学生が友人もしくは家族に相談するとしており、悩みを最も身近な人に相談することでストレスを軽減したり、問題解決につなげるなど適切な対処行動をとっていることが推測される。一方悩みの主なものが勉強や就職・進路であるため、教員が相談相手となりやすいとも考えられるが、後期課程の学生では教員に相談する者が17%と多いものの、前期課程の学生では5%と少なかった。また悩みを誰にも相談しないという学生が、教育部・研究科によってもばらつきがあるが前期課程





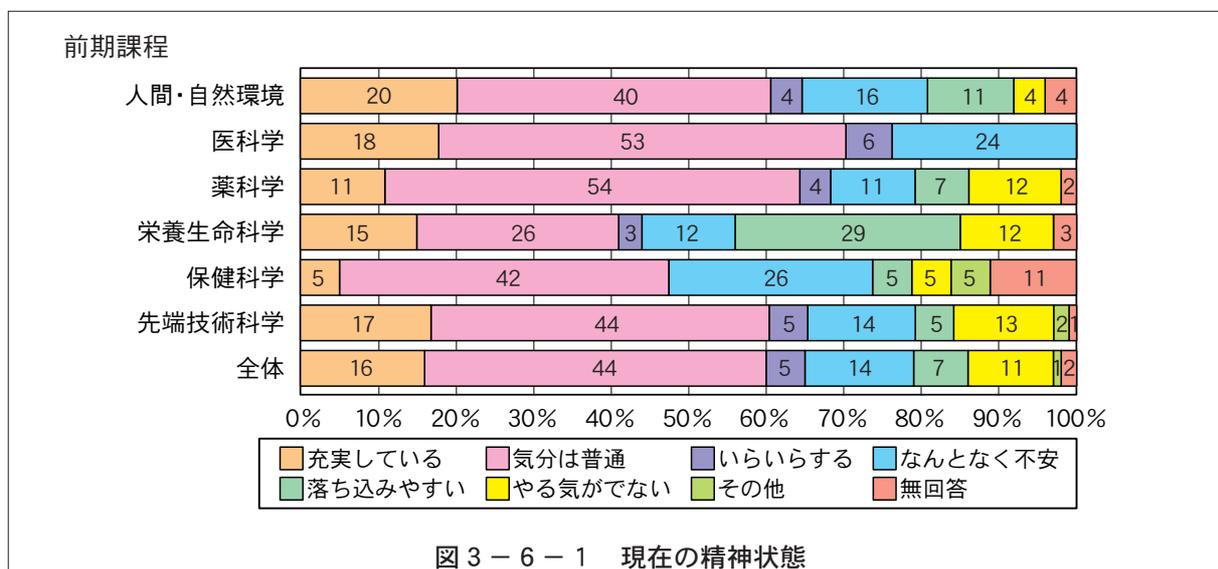
にやや多い。このような場合、自分だけで解決しえないストレスにさらされた場合に抱え込んでしまい、対処行動がとりにくいことが危惧される。

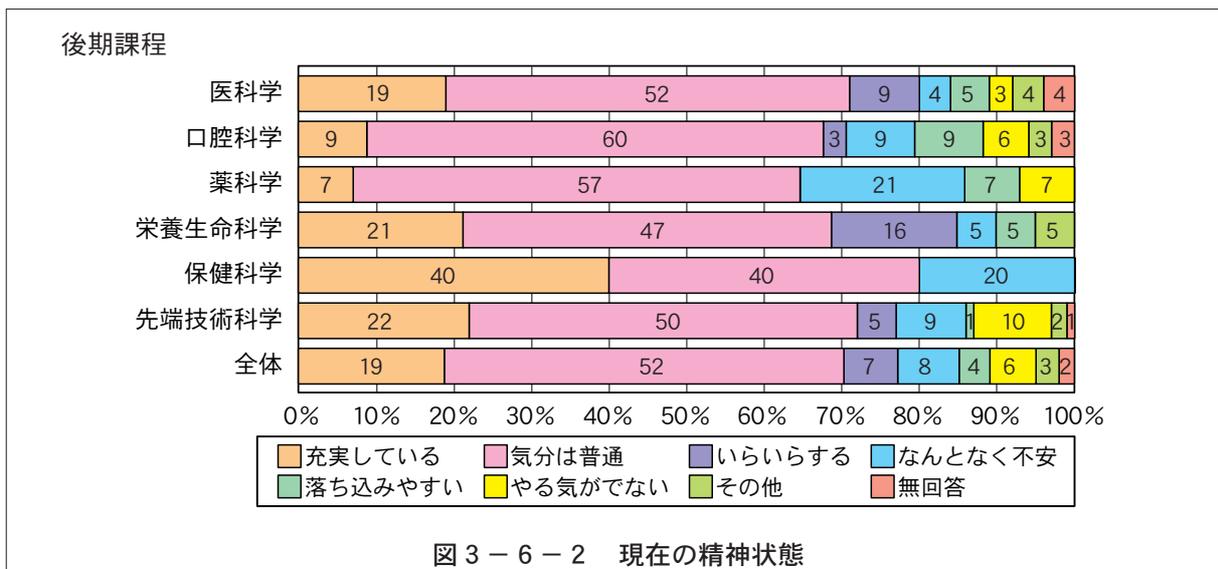
留学生ではほとんどの学生が、悩み事を友人、家族、教員などの誰かに相談していることが分かる。

3-6 現在の精神状態 (図 3-6-1, 図 3-6-2)

「充実している」「気分は普通」と答えた学生が男子でそれぞれ18%、46%、女子でそれぞれ12%、38%であり、女子でやや低くなっていた。全体で約6割の学生が精神的健康を保っており、4割がなんらかの精神的症状をもっていた。栄養生命科学（前期課程）の学生は「落ち込みやすい」が29%、「やる気が出ない」12%でありともに高くなっており、うつ状態などのメンタルヘルスの悪化が危惧される。今後、学生生活上の様々な方面でのストレスチェックを行い、対策を講じる必要があると思われる。また、薬科学（前期課程）、先端技術科学（前期課程）では「やる気が出ない」が多くなっており、研究生活での不適應などが心配される。

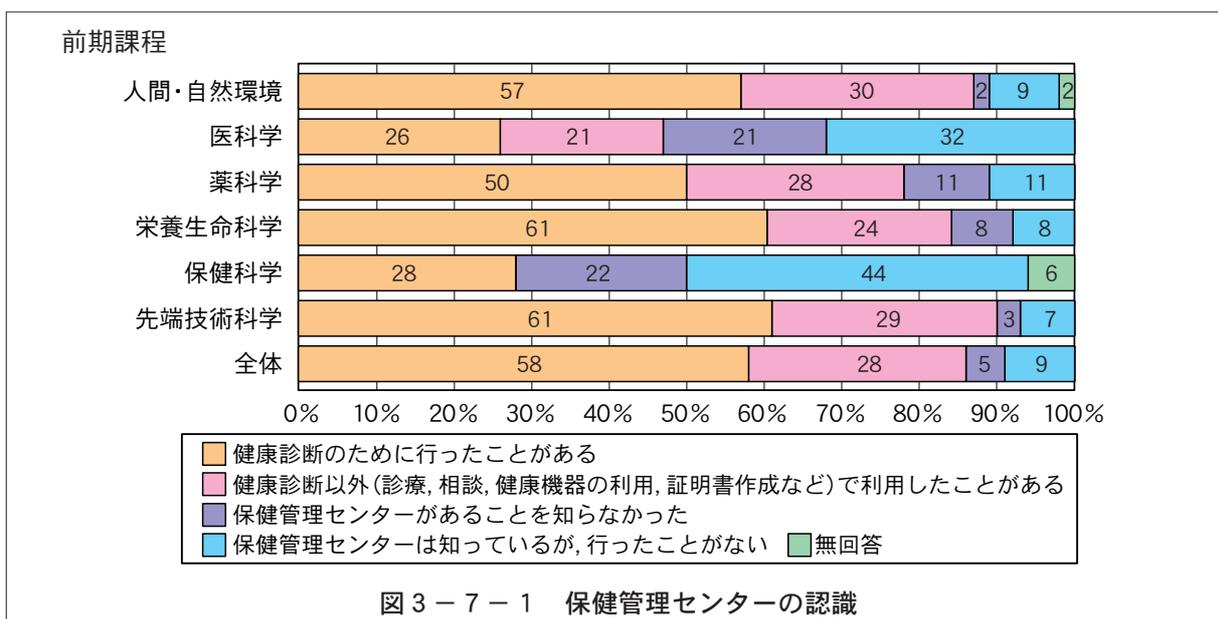
留学生ではなんらかの精神的症状をもつ学生は2～3割と少なく、充実感はさほどではなくとも、精神的健康は比較的保たれている。

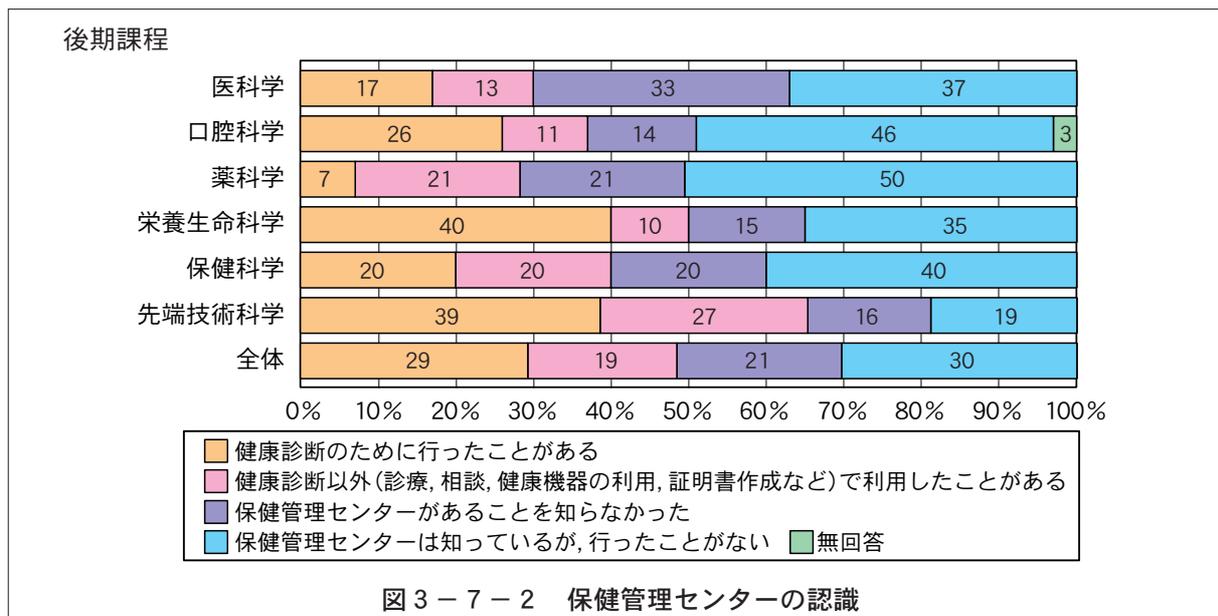




3-7 保健管理センターの認識 (図 3-7-1, 図 3-7-2)

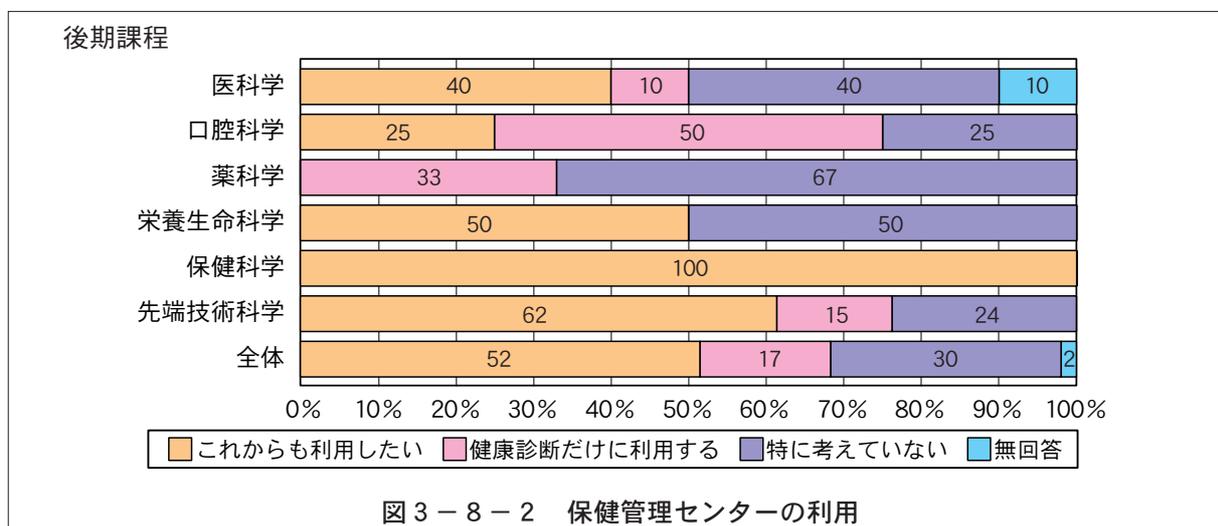
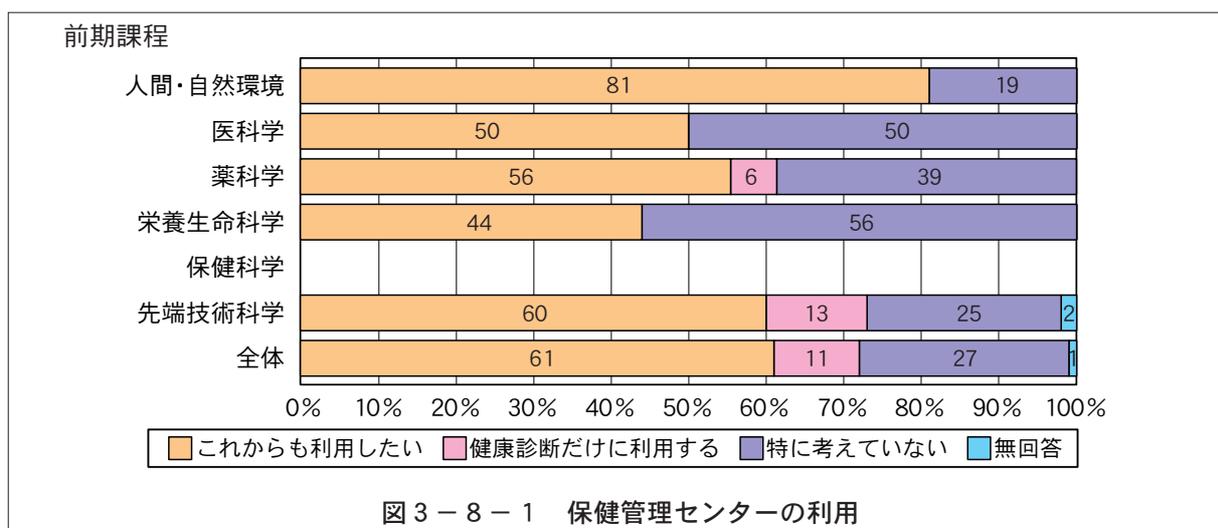
蔵本地区の教育部の学生における利用率および認識率が低く、その傾向は後期の学生でより顕著である。蔵本地区の学生への便宜を図るために蔵本保健室を設置し3年が経過し、診療体制も徐々に整備されてきているが、今後、蔵本保健室の利用促進を図るために、さらに利便性向上や周知を図っていく必要がある。





3-8 保健管理センターの利用 (図 3-8-1, 図 3-8-2)

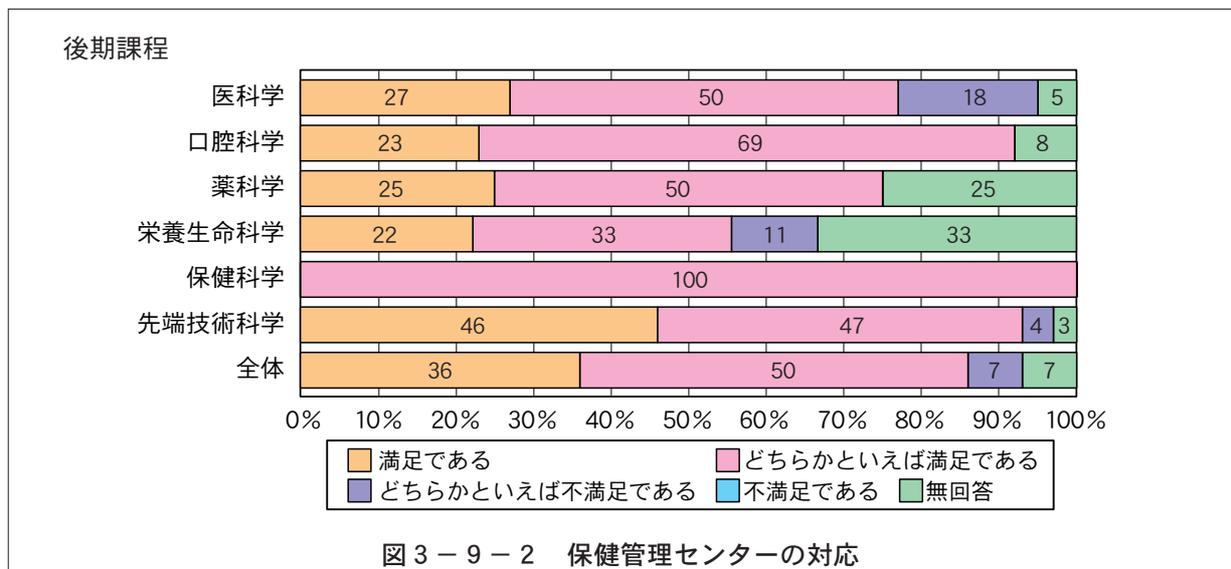
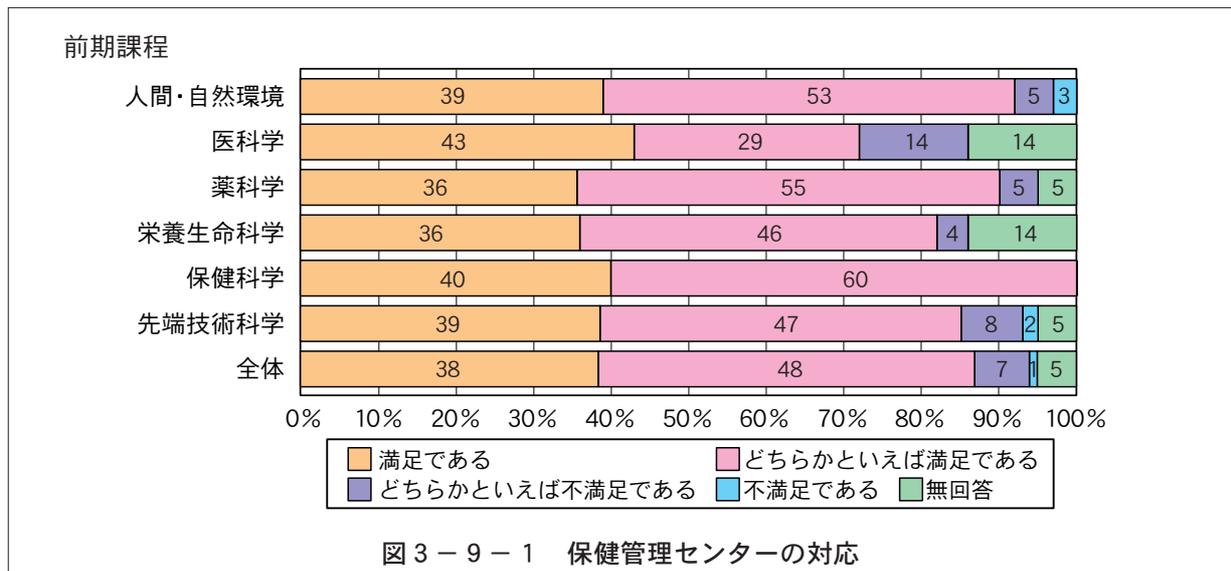
何らかの形で保健管理センターを利用した学生は前期課程で86%, 後期課程で48%であった。今後



利用したいとする学生は約7割であることから、保健管理センターの役割については期待が寄せられている。ただし、蔵本地区では利用希望の低い教育部があり、蔵本地区での活動の充実が求められる。

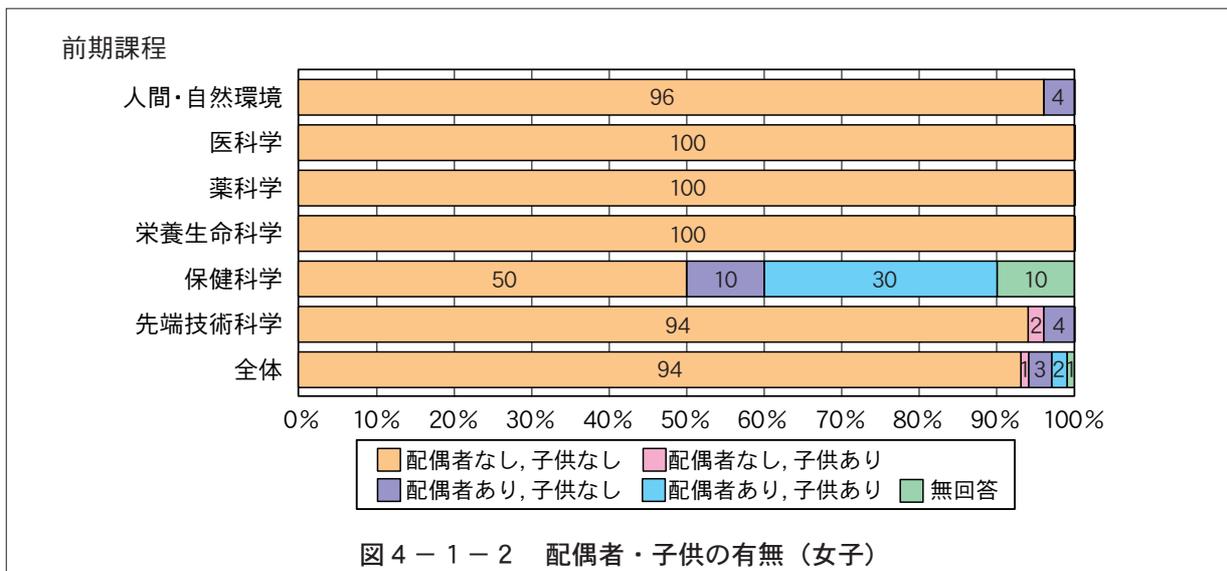
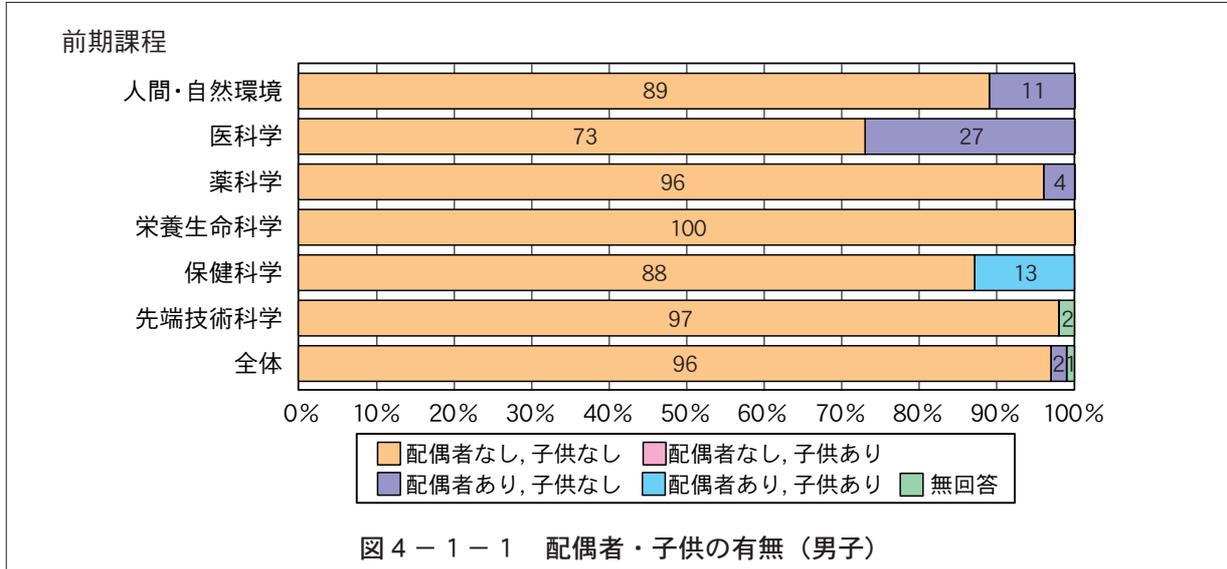
3-9 保健管理センターの対応 (図3-9-1, 図3-9-2)

80～90%の学生が「満足」もしくは「どちらかといえば満足」と答えており、概ね利用した学生のニーズにこたえていると思われる。一方、医科学の前期課程(14%)・後期課程(18%)や栄養生命科学後期課程(11%)では「どちらかといえば不満足」という回答が比較的多いことから、蔵本地区での健康診断書の発行が常三島地区に比べ手間がかかるなど、ニーズに十分答えられていない場合があると考えられる。3-7から3-9の結果からは、大学院生への保健管理センターの存在、機能、役割の周知が不足していること、また蔵本地区での活動の充実が課題であることが認識された。



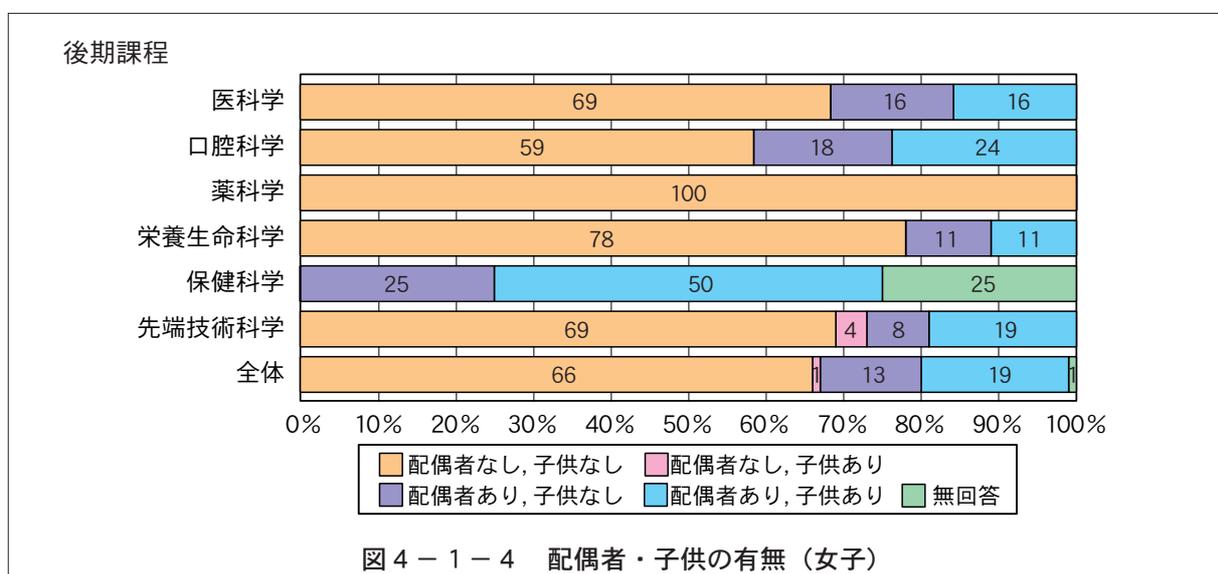
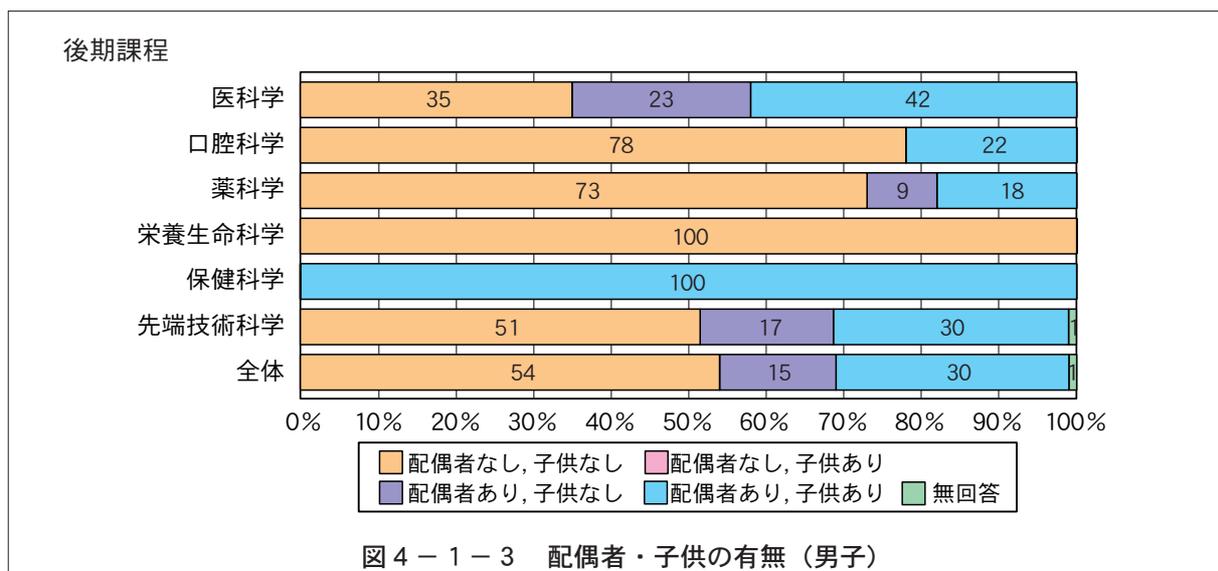
第4章 学生生活上の問題点について

4-1 配偶者や子供の有無と子供の世話 (図4-1-1~図4-1-4)



[配偶者の有無]

男女に分けて研究科・教育部毎に比較する (図4-1-1から図4-1-4)。年齢層からみて当然かもしれないが、配偶者をもつ割合は、男子でも女子でも、前期課程に比べて後期課程で多い。男女間の比較では、前期課程では、前回ほどの差は出なかったものの、女子でわずかに男子を上まわった。一方、後期課程では、男子では約2分の1、女子で約3分の1の学生が配偶者をもっており、むしろ男子で高かった。研究科・教育部別にみると、保健科学では両課程で配偶者をもつ割合がかなり高く、医科学や先端技術科学では、後期課程で半数近くの学生が配偶者をもつ。日本人と留学生での比較では、前期課程では日本人662名中14名(2%)と留学生17名中3名(18%)、後期課程では日本人179名中63名(35%)と留学生81名中43名(53%)がそれぞれ配偶者を持ち、配偶者をもつ割合は留学生で高い。



[子供の有無]

子供があると回答したのは、前期課程では保健科学4名と先端技術科学4名の8名（うち留学生は1名）である。後期課程では、全研究科・教育部にわたる69名で、うち留学生は28名（うち蔵本地区17名）である。やはり、子供をもつ割合も留学生で高い。なお、後期課程（図4-1-3と図4-1-4）で比較してみると、子供有りと回答した割合は、女子に比べ男子で多い。

[子供の世話]

母数（回答者4名）の少ない前期課程は避け、母数が83名の後期課程のみを対象に、日本人（49名）と留学生（34名）の各々を男女別に分析する。日本人男子（37名）では、配偶者が最も多く（17名）、学校に通っている（8名）、保育施設（5名）、親と親戚（4名）、その他（3名）と続くが、日本人女子（12名）では、親・親戚と保育施設がそれぞれ4名で、その他（2名）、配偶者と小学校（各1名）の順である。一方、留学生男子（24名）では、配偶者（13名）、小学校（5名）、保育施設（4名）、小学校と無回答が各1、親や親戚が0であるが、留学生女子（10名）では配偶者（5名）、小学校（2名）、親や親戚、保育所、無回答が各1、その他が0である。日本人男性と留学生では配偶者が最も多いのにかかわらず、日本人女性では配偶者が少なくなり、その分、親・親戚と保育所がかなり増加する。

配偶者や子供をもつ割合が後期課程で高く、後期課程をもつ研究科・教育部が増加しており、18歳人口の減少で、社会人や留学生の受入が不可欠である現状を考えると、子供の世話に関する悩み、例えば、

配偶者や親・親戚がみているにせよ、それで問題はないのか、保育施設に預けている場合の問題点、学校へ通っている場合の放課後の問題点などの調査を、各研究科・教育部や国際センターで行い、それをもとに具体的な対応策を講じていくことが必要である。自由記述欄では、高い保育料に対する何らかの援助や、学内保育施設の充実の声があがっており、検討に値する。

4-2 迷惑行為 (図4-2-1, 図4-2-2)

前期課程で17%、後期課程で14%の学生が何らかの迷惑行為を受けているが(図4-2-1と図4-2-2)、前回調査した前期課程では32%の学生が迷惑行為を受けていたことからすると、迷惑行為が減少していることが窺える。留学生では、101の回答があって、91は迷惑行為を受けていないとしているが、残り10の内訳は、1が悪質商法、2がいたずら電話、1がストーカー、1がセクハラ、2がその他、3が回答無しとなっている。

[悪質商法]

全員が男子で、前期課程14名、後期課程で2名が引っかけたと回答しているが、うち先端技術科学の回答がそれぞれ13名と1名である。

[いたずら電話]

前期課程で15名、後期課程で8名が受けたと回答している。うち女子がそれぞれ5名と3名で、男子の回答者の方が多い。比率的にも男女間での差はなくなりつつある。

[ストーカー]

3名(女子1名と男子1名)がストーカーにあったと回答している。

[セクハラ]

前期課程で8名(女子4名)、後期課程で3名(女子1名)が受けたと回答している。女子だけでなく男子もセクハラを受けていることが分かる。

[アカハラ]

どの研究科・教育部でもその回答が目立つ。男女での比率は、男子で前期課程3%、後期課程2%、女子では両課程ともに4%で、女子でわずかに多い。母数の多さから比率的には目立たないが、前期課程24名(うち男子18名)のアカハラ回答者中17名(うち男子15名)が先端技術科学である。一方、後期課程では、アカハラ回答者(7名)が占める比率は、前期課程より少ないが、その中で口腔科学

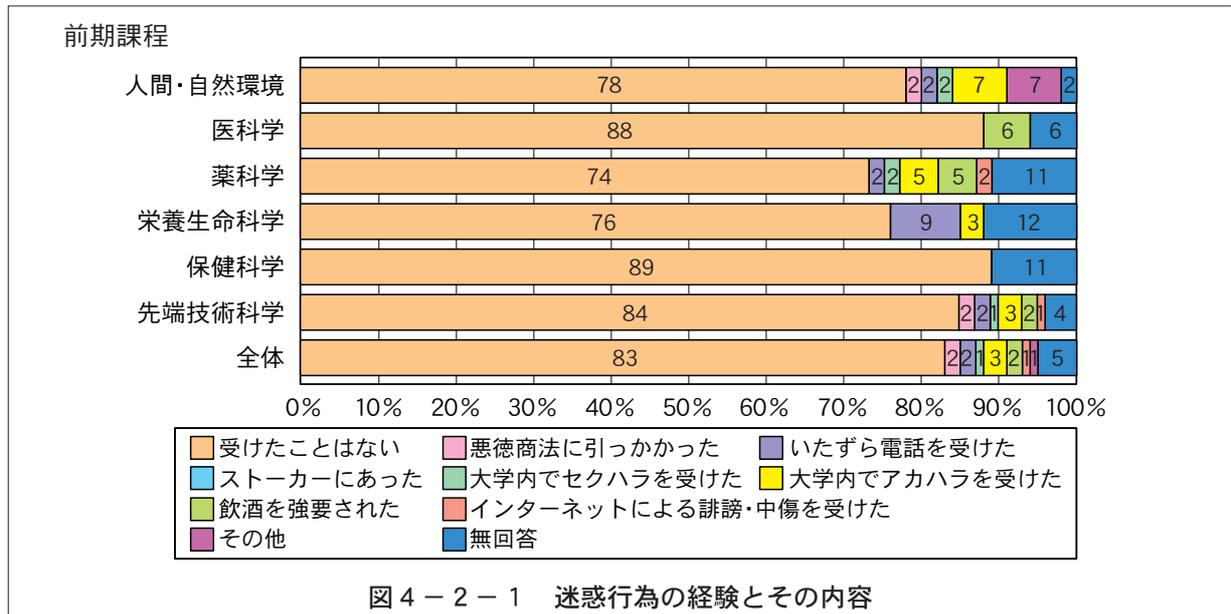
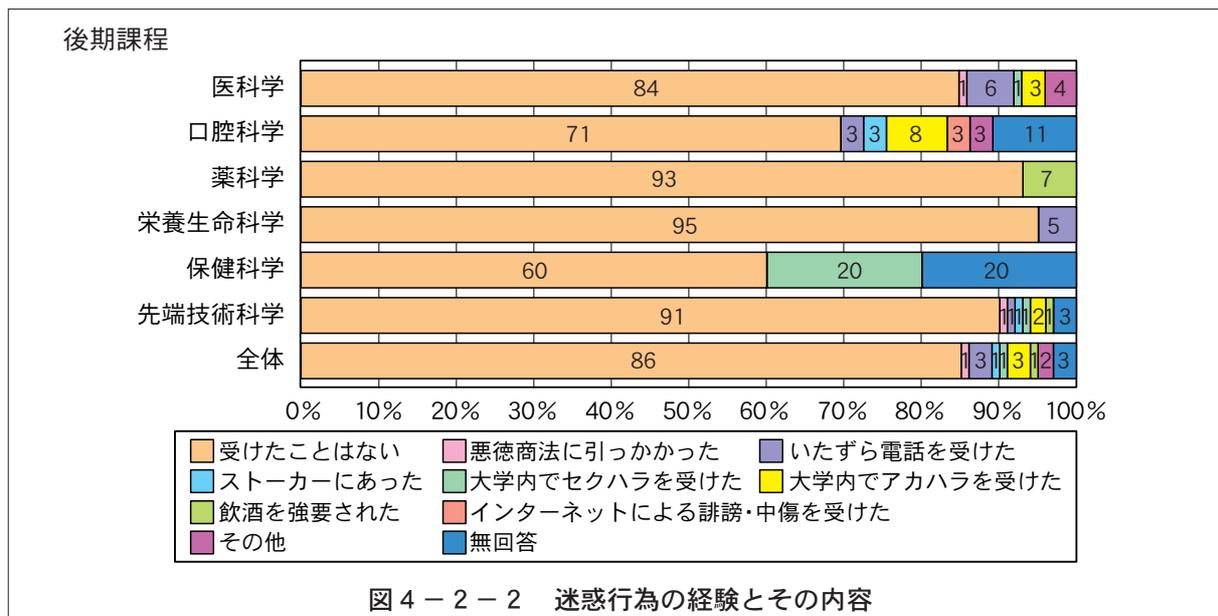


図4-2-1 迷惑行為の経験とその内容



(3名)での比率の高さが目立つ。

[飲酒の強要]

全員が男子で、前期課程で13名、後期課程で2名が受けたと回答している。15名中10名が先端技術科学、4名が薬科学、1名が医科学である。比率的には薬科学で高い。

[インターネットによる誹謗・中傷]

前期課程で6名、後期課程で1名の計7名が受けたと回答している。先端技術科学が5名、薬科学が1名、口腔科学が1名、男子6名、女子1名の内訳である。

悪質商法に関しては、先端技術科学の前期課程学生の中に悪徳商法に関わっている学生のいる可能性がある。被害実態の把握など、同教育部での具体的な対応が必要である。アカハラについては女子でわずかに多いものの、いたずら電話、ストーカー、セクハラともに、もはや女子のみの問題ではないようである。これらの迷惑行為に対しては、男女両方の学生を視野にいれ、啓蒙・啓発活動を行うことが必要である。なお、自由記述欄で、同一研究科でのアカハラ・セクハラ之苦情が3件もあがっている。当該研究科で実情を調べ、何らかの方策を講じる必要がある。

4-3 学生相談室 (図4-3-1, 図4-3-2)

[セクハラを受けた際の相談先]

受けたとする回答者が少ないので、この質問に対する回答数も少なく、前期課程で11、後期課程で3の計14である。内訳は友人4、家族2、教員2、学生相談室が0、学務(教務)係が0、その他1、誰にも相談しないが4、無回答1である。

[アカハラを受けた際の相談先]

この質問に対する回答数は前期課程で29、後期課程で11の計40である。内訳は友人20、家族5、教員4、学生相談室が4、学務(教務)係が1、その他0、誰にも相談しないが5、無回答1である。

[学生相談室の存在を知っている学生]

後期課程に比べて、前期課程で多い(図4-3-1と図4-3-2)。前期課程では、保健科学を除いて、70~80%の学生がその存在を知っているが、後期課程では栄養生命科学を除いて、60%前後の学生が知っているに過ぎない。なお、極端ではあるが、後期課程の栄養生命科学では、学生相談室を知っ

ている割合は、95%と高い値を示すのに対し、前期課程の保健科学では39%とかなり低い。常三島地区と蔵本地区で比較すると、前期課程では、前者で80%強、後者で、保健科学を除いて70～80%で、前者でやや高いが、後期課程では両者で顕著な差は見られない。

留学生では100の回答があり、利用したことのある学生は後期課程の5名、利用したことがあるが存在を知らない学生が40名、存在を知らない学生が52名、無回答が3である。

[学生相談室を利用したことのある学生]

前期課程48名、後期課程8名で、比率的に見てもそれぞれ7%と3%で、前期課程で多い。合わせた56名を地区別に見ると、常三島地区が48名、蔵本地区が8名である。

[学生相談室の対応]

前期課程の利用者48名中、満足22名、どちらかということ満足16名、どちらかということ不満足3名、不満足2名で、5名が回答なしである。一方、後期課程8名では、満足とどちらかということ満足がともに4名ずつである。

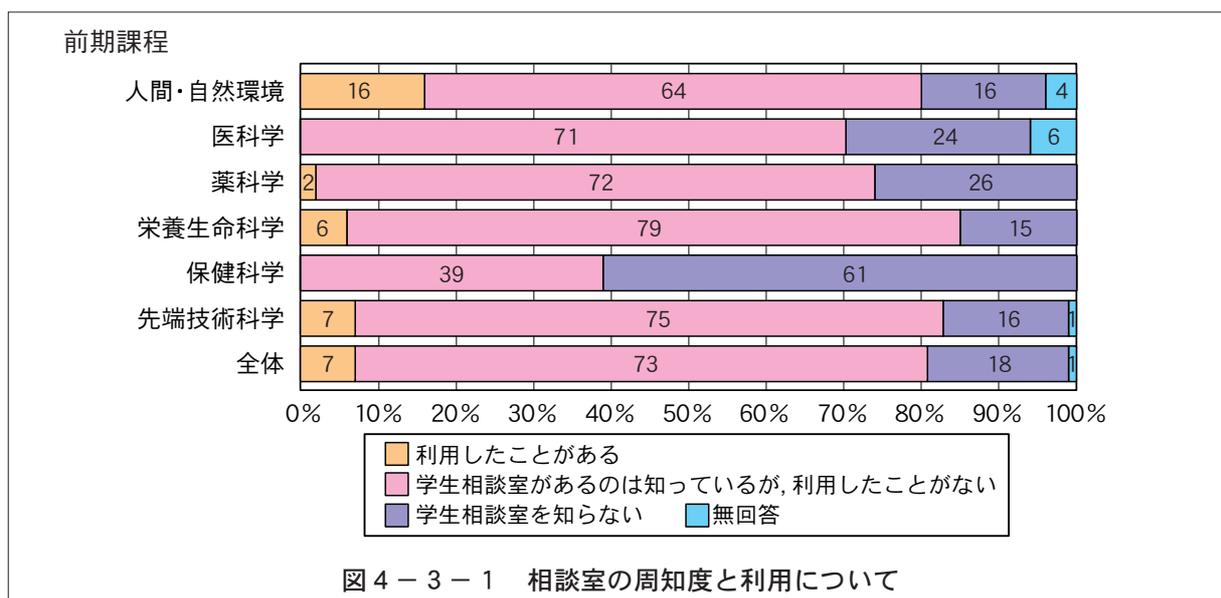


図4-3-1 相談室の周知度と利用について

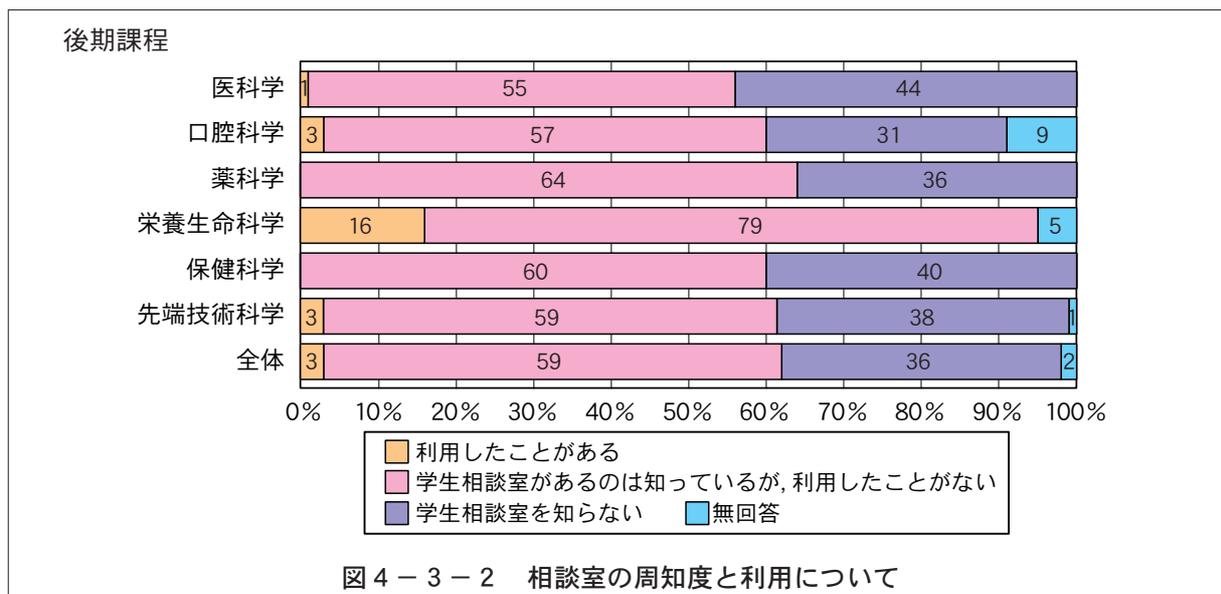


図4-3-2 相談室の周知度と利用について

学生相談室を知っている学生の比率は、学部学生の場合に比べて明らかに低い、大学院生への存在の周知が、学生相談室の緊急の課題である。蔵本地区では、大学院の共通科目である「医療生命倫理入門」の中の1コマを使い、学生相談室の紹介やハラスメントに関する講義を行っている。相談室が常置さ

れていない蔵本地区でも、常三島地区にほぼ匹敵する割合の学生が相談室を知っているのは、この啓蒙・啓発活動の成果と考えられ、常三島地区でも、このような啓蒙・啓発の場を設ける必要がある。また、学生相談室では、前回の学部学生生活実態調査で医学部での周知度の低さが指摘されたため、今年度から医学部も含め、全ての学部の新入生オリエンテーションや大学入門講座で相談室紹介を行うようにした。新入大学院生についても、このような機会を利用した相談室紹介を実施する必要がある。なお、留学生に対しては、国際センターと連携しながら対応していく必要がある。

セクハラやアカハラに際しての学生相談室への相談が少ないが、その背景に「学生相談室が最後の場」との認識がある。上記の啓蒙活動を通して、セクハラやアカハラ対応での学生相談室の役割を、大学院生に認識させ、早期に相談に来てもらえるようにする必要がある。多くの学生は、友人や家族に相談することで、第三者の介入なく、自らの力で乗り切っているようで、これはこれで正しい対応ではあるが、誰にも相談しない学生も少なからずいる。このような学生には、友人や家族の役割を学生相談室が果たせることを知ってもらう必要がある。また、学生相談室でなくとも、教員や学務（教務）係に相談する学生もいることから、教職員の相談力向上も必要で、この面での取組も学生相談室の急務である。しかしながら、何よりも必要なのは、学生との接し方について、教職員に認識してもらうことである。このための取組を、相談室だけでなく、全学的に取り組んでいく必要がある。

4-4 盗難等犯罪の被害（図4-4-1、図4-4-2）

前期課程で18%、後期課程で9%の学生が何らかの被害に遭っている（図4-4-1と図4-4-2）が、前回の前期課程の結果と比較すると、先端技術科学が前回と同様の結果であることを除き、他の研究科・教育部では減少傾向にある。留学生では100の回答があり、91名は被害を受けていない。残り9名の内訳は盗難が7名、無回答が2名である。

〔盗難〕

事件の中で最も多く、前期課程で102名、後期課程で17名の学生が被害に遭っている。計119名の被害者のうち96名が先端技術科学の学生である。

〔強盗〕

2名の学生が被害に遭っている。

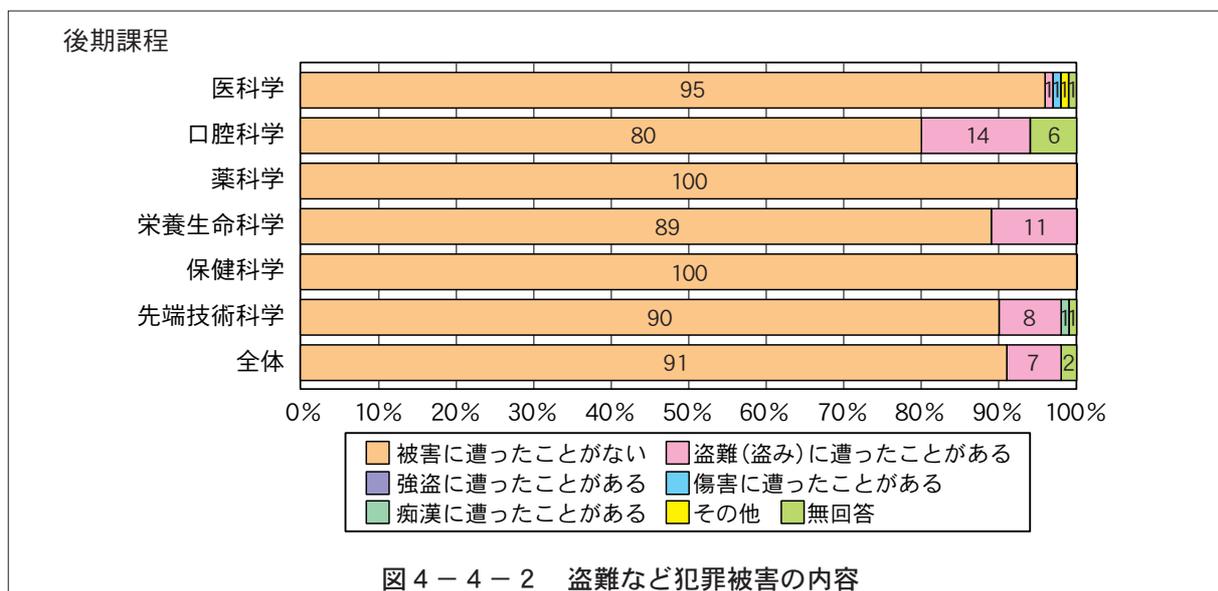
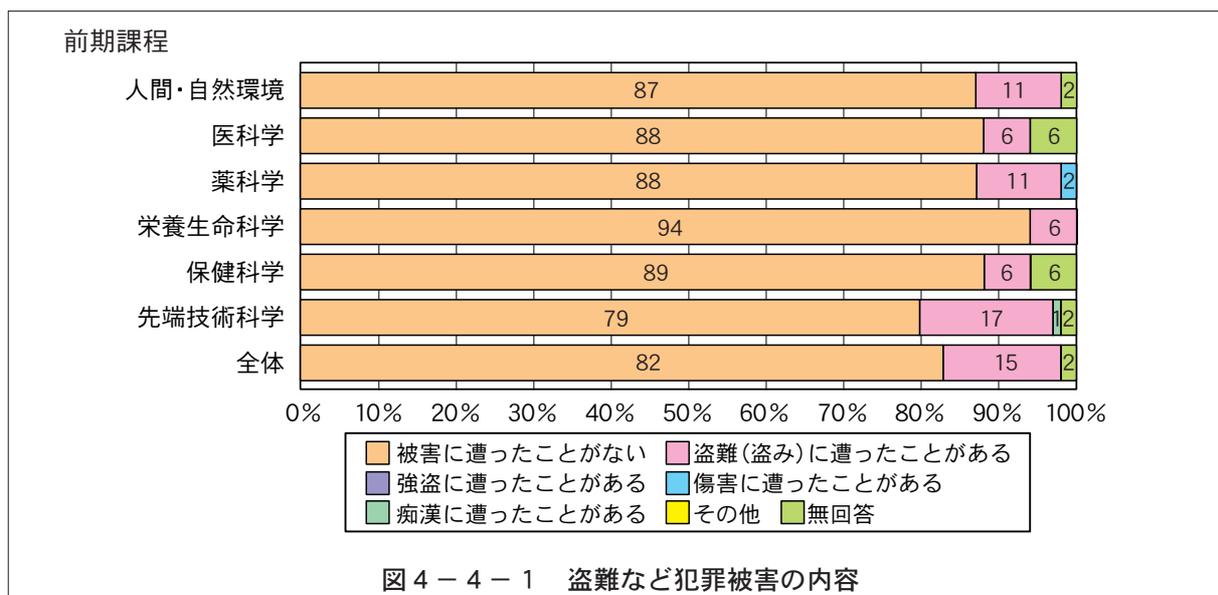
〔傷害〕

4名の学生が被害に遭っている。

〔痴漢〕

4名の学生が被害に遭っている。全てが先端技術科学で、意外なことに男性3名、女性1名の内訳である。

ほとんどが盗難被害である。その予防に関しては、「現金・貴重品を肌身につけておく」ことを周知徹底させる以外にない。学部学生も含め、この観点からの啓蒙活動が必要である。次回からは、学内で遭う確率の高い盗難に絞り、まず、事件（強盗、傷害、痴漢を含む）に出会ったかどうかの設問をし、ついで盗難に関して、どこで盗難に出会ったかを聞く設問をおき、盗難予防について、具体的な対応ができるようにすべきである。



4-5 大学事務室の対応 (図 4-5-1, 図 4-5-2)

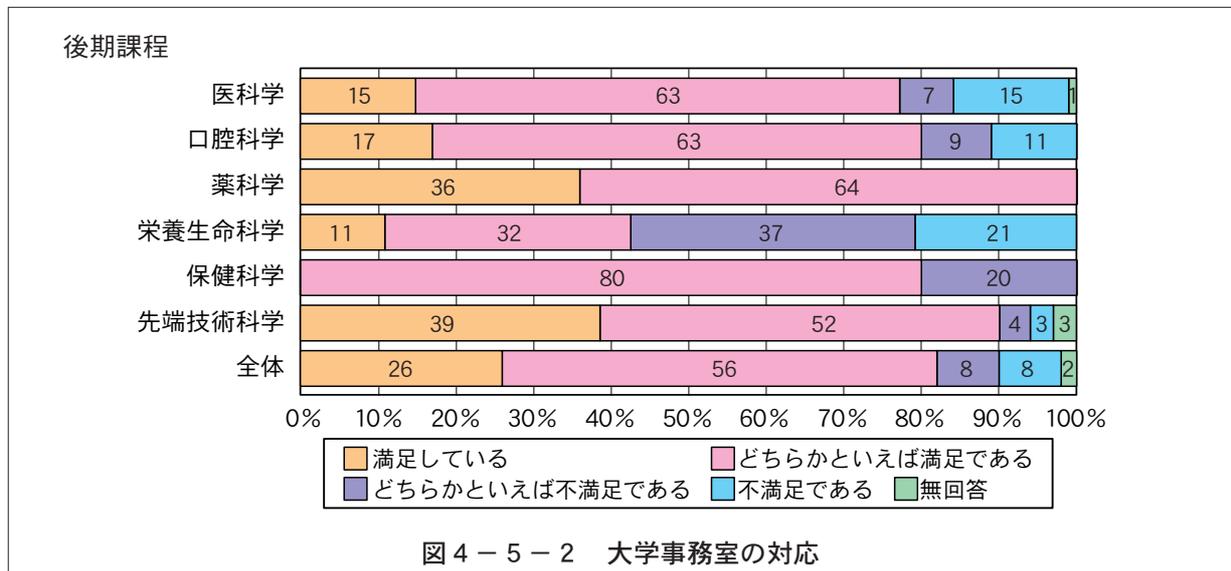
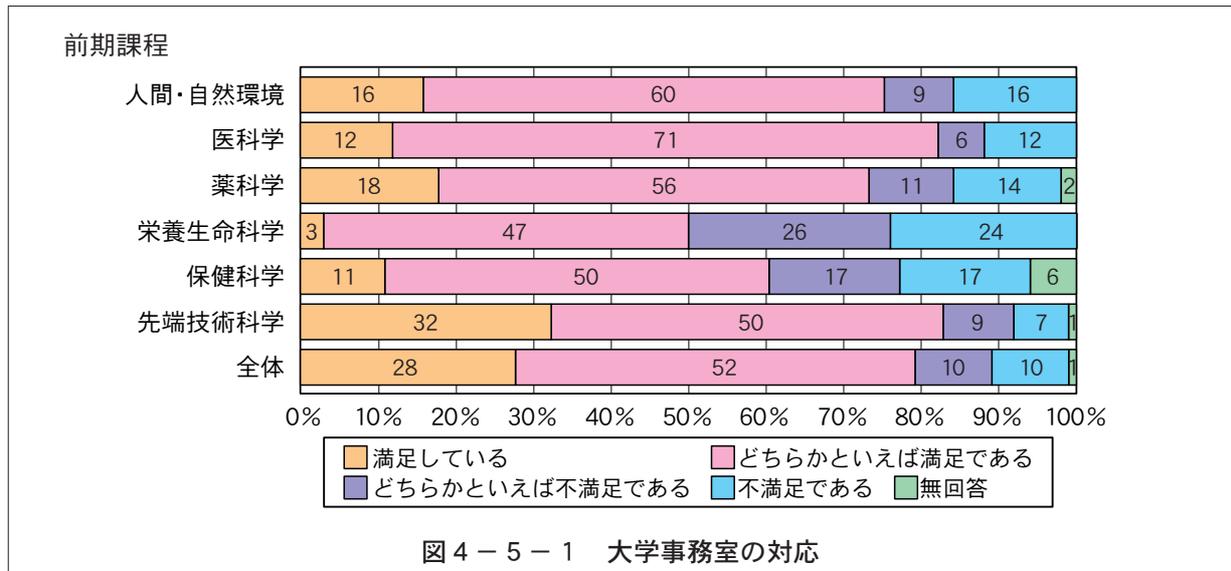
‘どちらかといえば満足’も含め、対応に満足感をもっている学生の割合は、全体で見た場合、前期課程 80%と後期課程 82%で (図 4-5-1 と図 4-5-2), 前回の前期課程での値 (27%) に比べて大きく増加している。留学生に関しては、100 の回答があり、内訳は、満足が 23, どちらかといえば満足が 71, どちらかといえば不満足が 2, 不満足が 0, 無回答が 4 である。

満足度の増加は、学生サービスに対する事務室、ひいては大学の意識が明らかに向上していることを示しており、事務室・大学の努力の結果と評価できる。学生あつての大学であり、学生と接する部署は‘大学の看板’とも言える重要な部署である。大変な割には地味な仕事で、目立つことの少ない部署ではあるが、‘この部署こそが大学の要’という意識を大学の中枢部がもち続け、今後さらなるサービスの向上を図ることが肝要である。

研究科・教育部毎に見ると (図 4-5-1 と図 4-5-2), 前・後期課程の栄養生命科学と前期課程の保健科学で明らかに満足度が低い。後期課程の保健科学は他の研究科・教育部の満足度には達しているが、母数 (5) が少ない。同じ事務室が扱っている医科学では満足度が高いことよりすれば、栄養生

命科学や保健科学での満足度の低さは、学生のいる場所と事務室が離れていることが関連していると思われる。学生サービスに係る事務室は学生の身近にあるべきであり、定員減少と厳しい予算の中でこの点をどう克服するかが、今後の大きな課題である。

なお、自由記述欄には驚くほど多くの苦情が寄せられている。満足していないと回答した者の声が反映されており、一貫して大学事務室のサービスレベルの低さを訴えている。一部の職員の姿勢が問題となっているのかもしれないが、今後の改善には、これらの声に真摯に耳を傾ける必要がある。教員を対象としたFDがさかんに行われているが、今後は、教員のみならず職員も対象として、学生支援のあり方を学び、意識改革をしていく機会を増やす必要がある。



第5章 修学状況について

5-1 教育理念・方針と教育に対する満足度 (図5-1-1~図5-1-10)

図5-1-1に示す前期課程において、全体では、教育理念や教育方針を知っている割合は4割強(5%がよく知っている, 37%がだいたい知っている)であり、あまり知らないが40%, 知らないが17%, 無回答が1%となっている。比較的良好に知られているのが、栄養生命科学(知っている6%, だいたい知っている62%)と留学生(だいたい知っている65%)である。一方、保健科学(知っている6%, だいたい知っている22%)と薬科学(知っている4%, だいたい知っている32%)での認知度が低くなっている。また、図5-1-2に示した後期課程では、全体として5割以上の学生(知っている12%, だいたい知っている40%)に知られており、31%があまり知らない, 16%が知らない, 1%が無回答となっている。特に、保健科学では8割の学生(知っている20%, だいたい知っている60%)に理解されている。

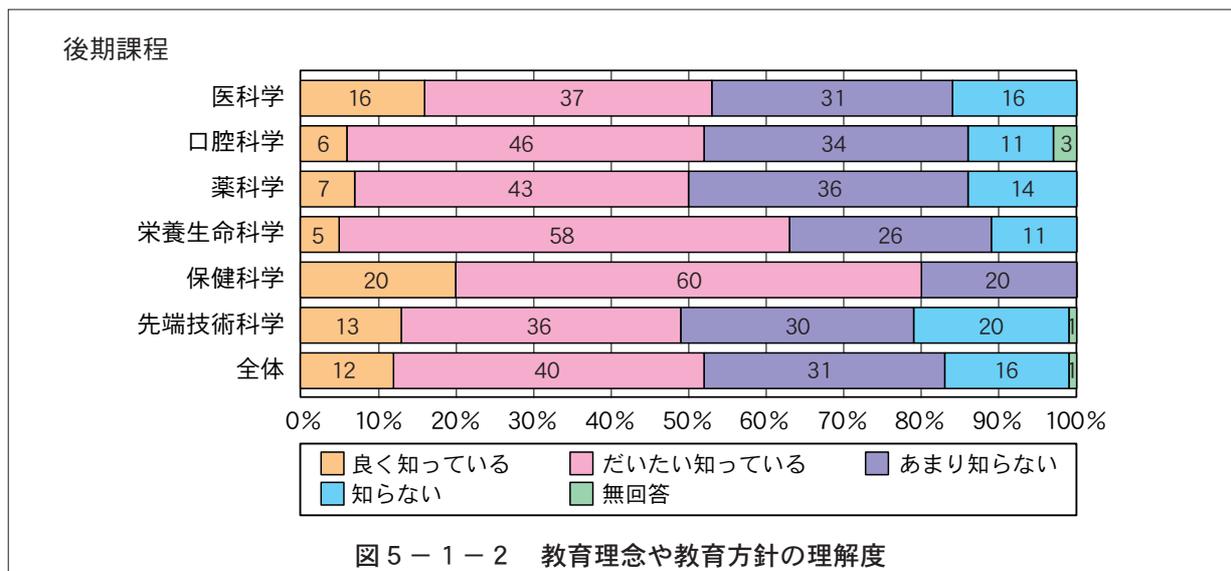
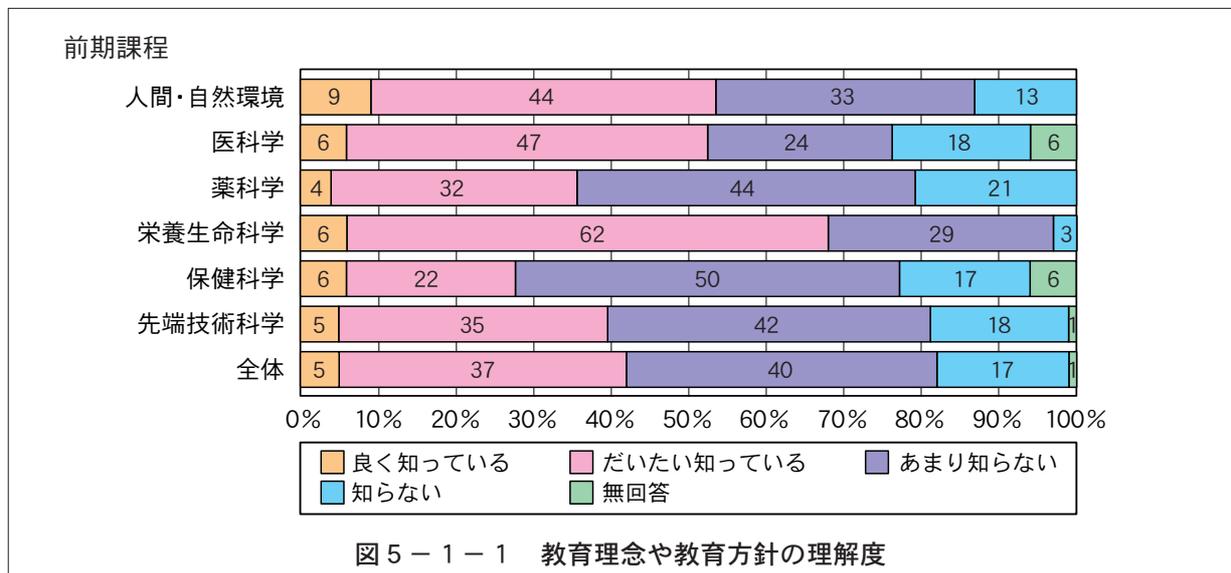


図5-1-3(前期課程)と図5-1-4(後期課程)より、教育理念や教育方針を知っている学生の内、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思う割合が、前期課程では76%(思わないは23%), 後期課程では81%(思わないは17%)となっている。

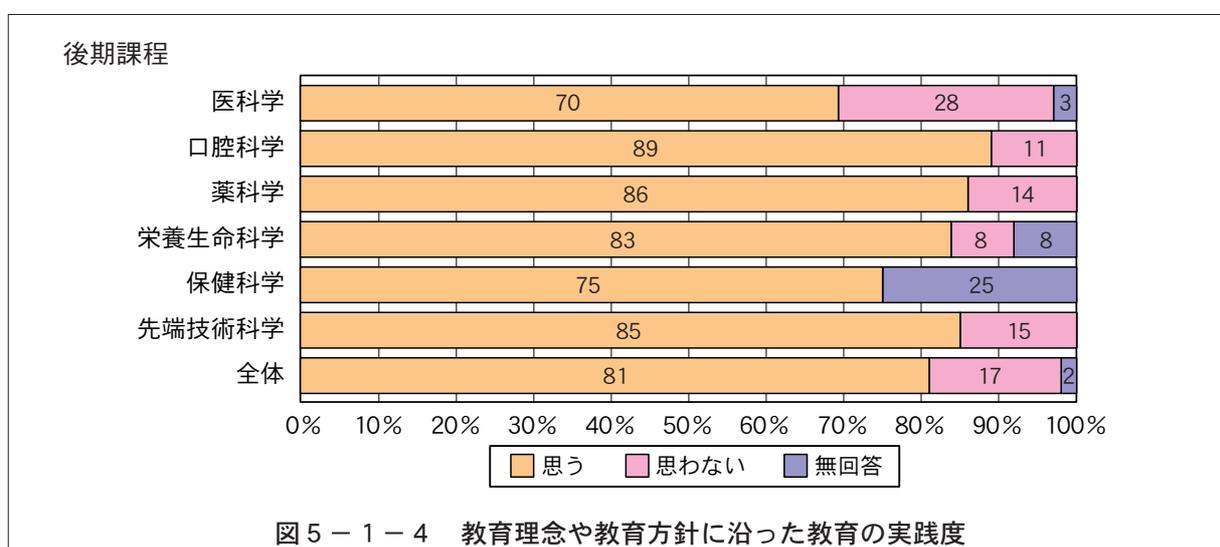
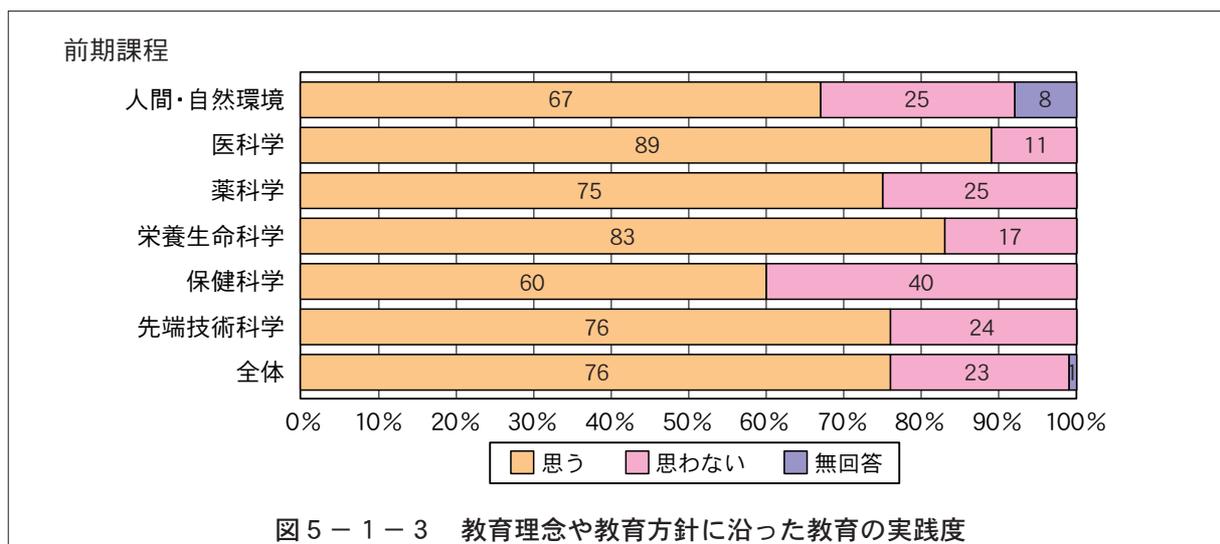
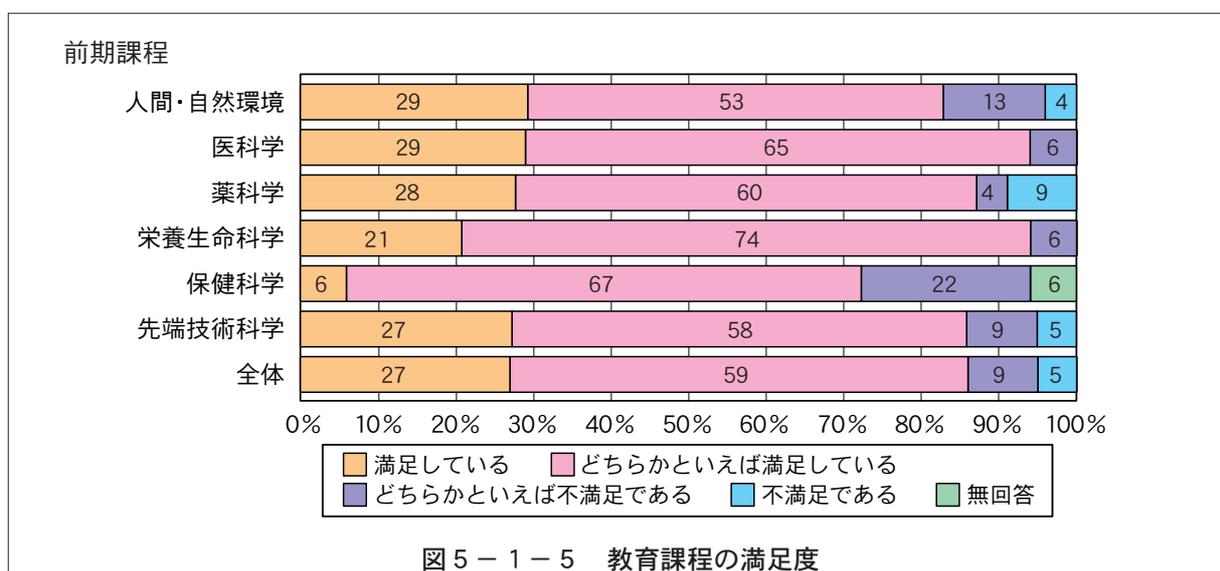
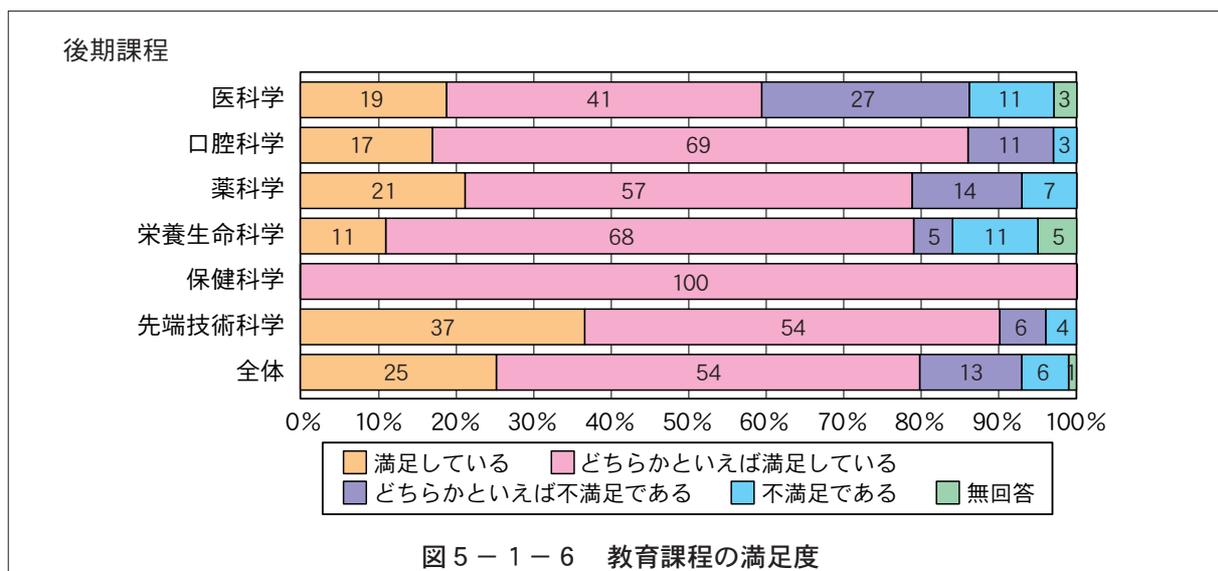


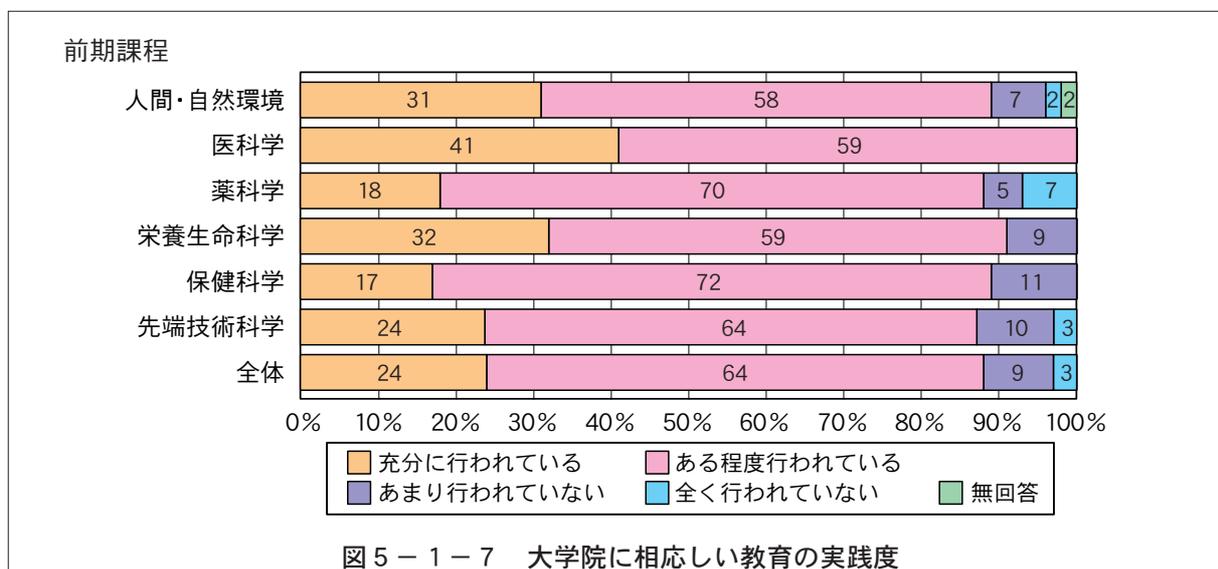
図5-1-5より、前期課程の学生は、全体で27%が教育課程に満足しており、どちらかといえば満足していると答えた学生は59%であり、どちらかといえば不満足は9%、不満足が5%となっている。保健科学の満足度（満足6%、どちらかといえば満足67%）が他教育部と比較して若干低くなっており、自由記載欄には、他分野との交流を深め、チーム医療や連携を教育課程に取り入れる要望が挙げられて

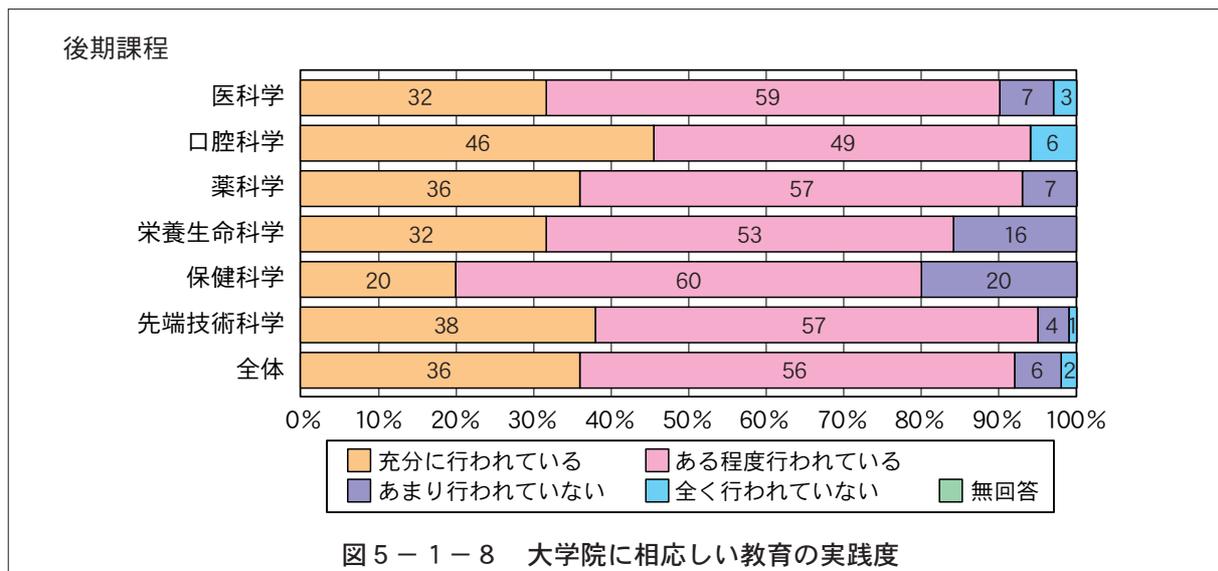




いる。後期課程の結果は図 5 - 1 - 6 に示されており、全体で 80% 程度がほぼ満足（満足 25%，どちらかといえば満足 54%）しており、どちらかといえば不満足が 13%，不満足 6%，無回答 2% となっている。保健科学では、全員がどちらかといえば満足していると回答している。医科学の満足度が 60%（満足 19%，どちらかといえば満足 41%）と他教育部より低くなっている。また、留学生の 88% は教育課程にほぼ満足（満足 18%，どちらかといえば満足 70%）しているようである。なお、不満足の理由には、夜間授業が大変（人間・自然環境）、集中講義が多い（先端技術科学、前期課程）、授業を日本人に対しても英語で行ってほしい（医科学、前期課程）、社会人との両立が難しい（医科学、後期課程）等の意見があった。

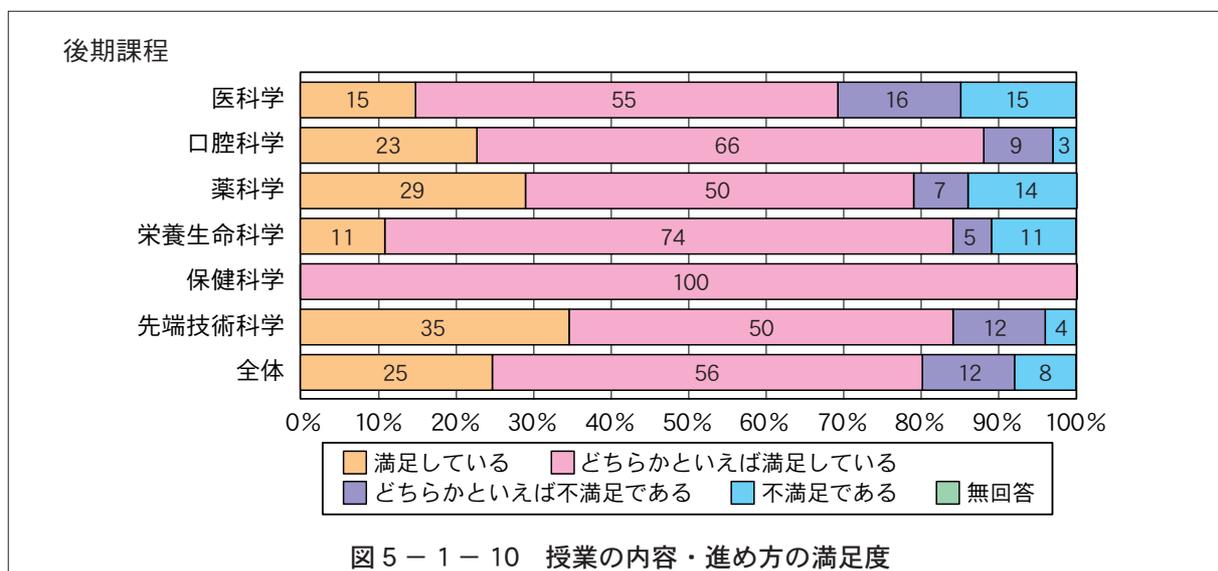
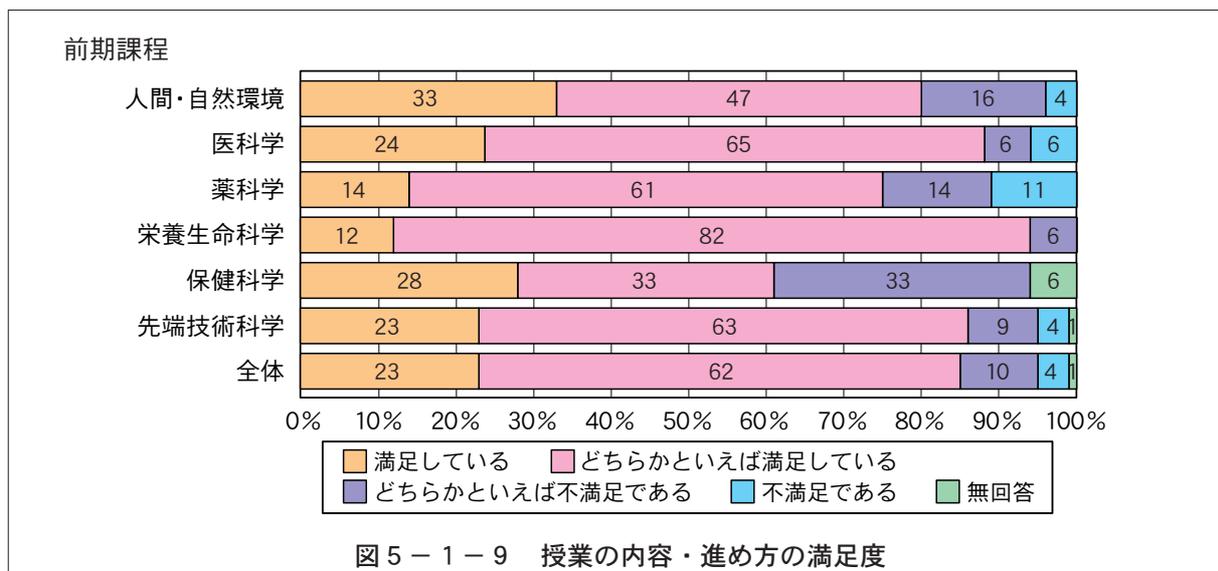
図 5 - 1 - 7、図 5 - 1 - 8 より、大学院に相応しいレベルの授業が充分及びある程度行われていると回答した学生の全体の割合が前期課程（充分 24%，ある程度 64%）、後期課程（充分 36%，ある程度 56%）ともに 90% 前後と高くなっており、若干、後期課程で評価が高くなっている。あまり行われていないは、前期 9%，後期 6% であり、全く行われていないは、前期 3%，後期 2% である。前期課程では、医科学の評価が高く、充分行われているが 41%，ある程度行われているが 59% となっている。後期課程では、保健科学の評価が若干他教育部より低く（充分 20%，ある程度行われている 60%）となっている。なお、大学院に相応しいレベルでの教育があまりまたは全く行われていない理由として、レベルが低いことが人間・自然環境、薬科学、先端技術科学で指摘されており、開講科目の偏り（栄養生命





科学, 保健科学) も挙げられている。

また、授業の内容や進め方に対して、図5-1-9, 図5-1-10より、満足及びどちらかといえば満足している学生の割合は、前期課程（満足23%、どちらかといえば満足62%）、後期課程（満足

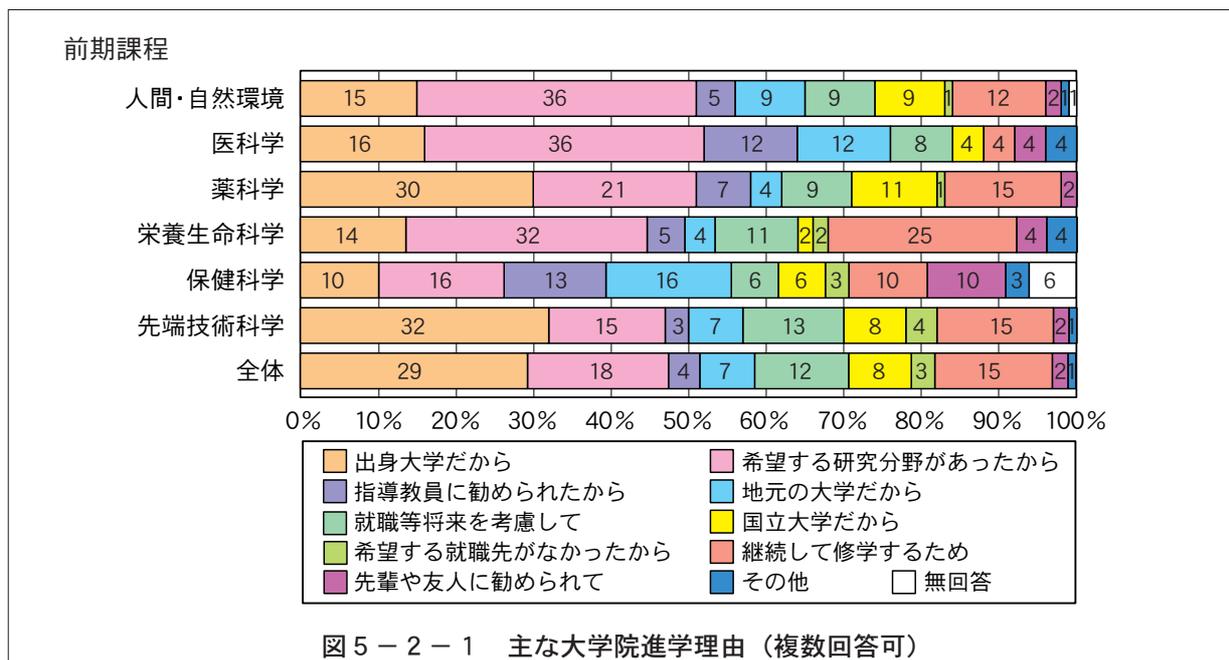


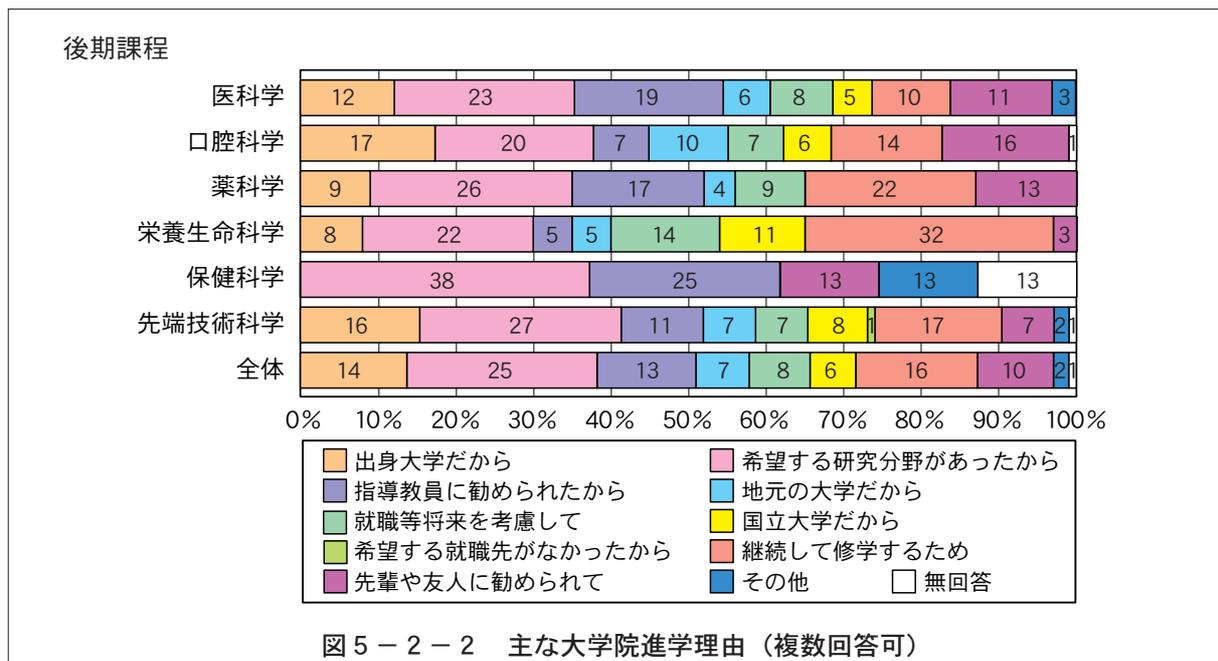
25%、どちらかといえば満足56%)ともに80%強である。どちらかといえば不満足は、前期10%、後期12%であり、不満足は、前期4%、後期8%である。前期課程の保健科学では満足度が60%強(満足28%、どちらかといえば満足33%)と他教育部と比較して若干満足度が低く、どちらかといえば不満足が33%となっている。なお、不満足理由としては、前述の教育課程の不満足や大学院教育レベルに対して述べられたものと同じ理由(集中講義, 社会人, 開講科目の偏り等)も挙げられているが、留学生からは、日本語の授業が多いことへの不満が(先端技術科学, 医科学)記載されており、授業方法・内容等への問題提起(プレゼン技術, 昨年の授業をビデオによるeラーニング, 修士と同じ授業, 期待していた授業がない, 課題が多い, 等)もなされている。

以上のことより、教育理念・方針に対する理解度は、前期課程で40%、後期課程で52%と満足できるものではなく、授業やオリエンテーション等により、学生に告知する必要がある。また、教育課程、教育レベル、教育の内容・進め方については、比較的高い満足度が得られているが、前述の不満足な理由として指摘された項目等について、さらなる改善に努める必要がある。

5-2 本学を選んだ理由と目的 (図5-2-1~図5-2-8)

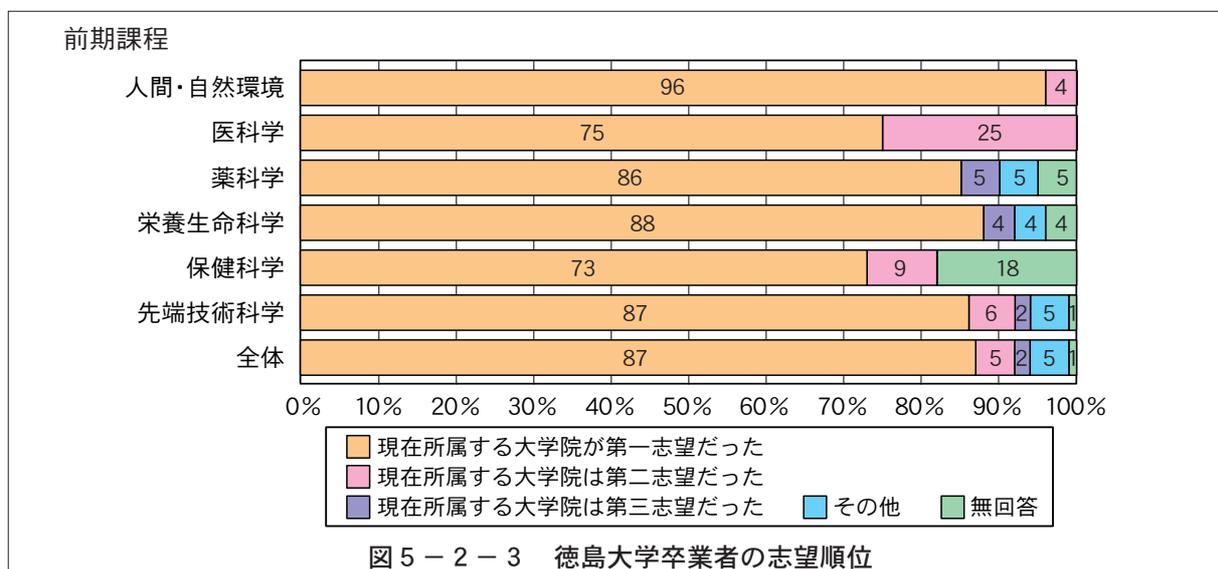
図5-2-1に前期課程の学生の主な入学理由は、全体としては、前回調査とほぼ類似した結果となっており、出身大学が29%、希望する研究分野があるが18%、継続して修学が15%、就職等将来を考慮が12%となっている。薬科学と先端技術科学は、出身大学だからが30%程度で最も多く、次に、希望する研究分野があること、さらに、継続して修学するための割合が高くなるという共通点が見られる。また、人間・自然環境, 医科学, 栄養生命科学では、希望する研究分野の割合が30%強で最も多くなっている。図5-2-2より、後期課程の学生は、全体では、希望する研究分野があるからが最も多く25%であり、全ての教育部で20%以上の割合を占めている。次いで、継続して就学するためと回答した学生が多く16%である。また、出身大学だからが、14%となっているが、前期課程の学生の回答割合と比較すると約1/2と低くなっている。さらに、指導教員(13%)や先輩や友人(10%)に勧められた割合も高くなっている。なお、その他の理由として、希望する指導教員がいるためとした学生が多く(先端技術科学, 医科学, 保健科学, 口腔科学), 会社の勧め(先端技術科学, 前期)や自宅通学可能(人間・自然環境, 前期)等が挙げられている。





また、図 5 - 2 - 3 より、本学の卒業生が本学の大学院を第 1 志望としている前期課程の学生が、全体で 87% となっている。第 2 希望とその他が 5%，第 3 希望は 2% となっている。特に、留学生は、全員第 1 志望であり、人間・自然環境では第 1 志望の割合が 96% と高くなっている。保健科学の第 1 志望が 73%，医科学が 75% と他教育部と比較して若干低くなっている。図 5 - 2 - 4 では、本学卒業生の後期課程学生の 85% が第 1 志望であり、3% が第 2 志望，5% がその他，7% が無回答となっている。特に、保健科学は、全員第 1 志望であり、口腔科学も 94% が第 1 志望である。薬科学の第 1 志望の割合が 73% と他教育部より若干低くなっている。

図 5 - 2 - 5 より、他大学を卒業して本学の前期課程に進学した学生の 64% が第 1 志望であり、第 2 志望が 16%，第 3 志望が 1%，そのほか 13% となっている。薬科学と医科学の第 1 志望の割合がそれぞれ 80%，78% と高くなっている。一方、留学生と栄養生命科学と先端技術科学では第 1 志望の割合がそれぞれ 38%，50%，55% と若干低くなっている。同様に後期課程では、図 5 - 2 - 6 より、第 1 志望が 64%，第 2 志望が 10%，第 3 志望が 4%，そのほか 14% と前期課程の比率と類似している。栄養生命科学と医科学の第 1 志望学生がそれぞれ、75%，74% と比較的高くなっている。口腔科学と薬科学の第 1 志望学生は 50% と他教育部より若干低くなっている。



後期課程

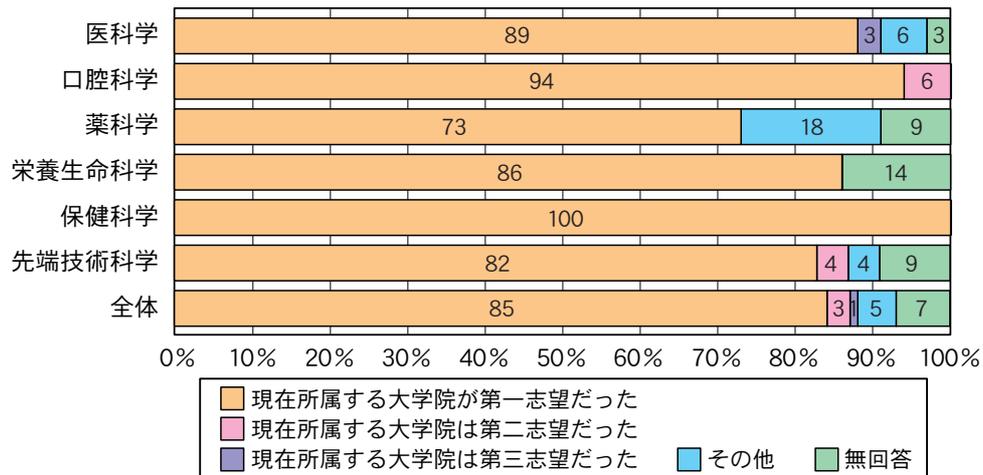


図 5 - 2 - 4 徳島大学卒業者の志望順位

前期課程

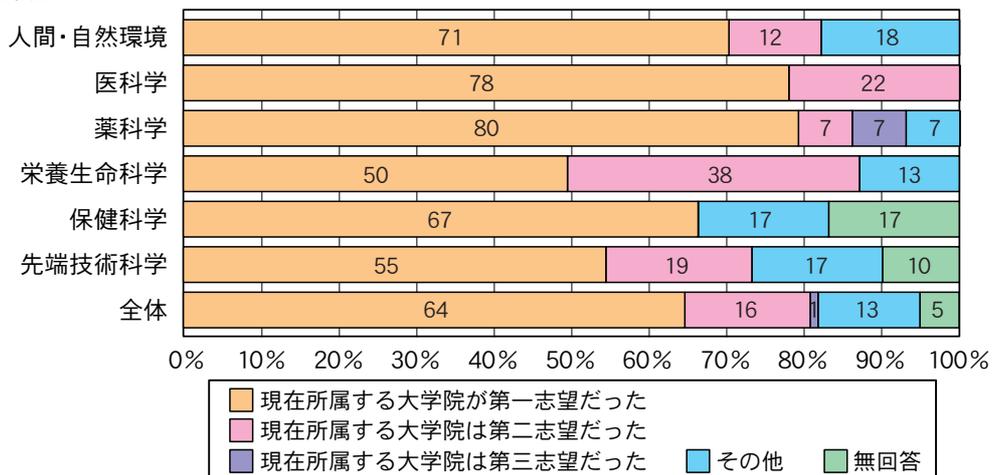


図 5 - 2 - 5 他大学卒業者の志望順位

後期課程

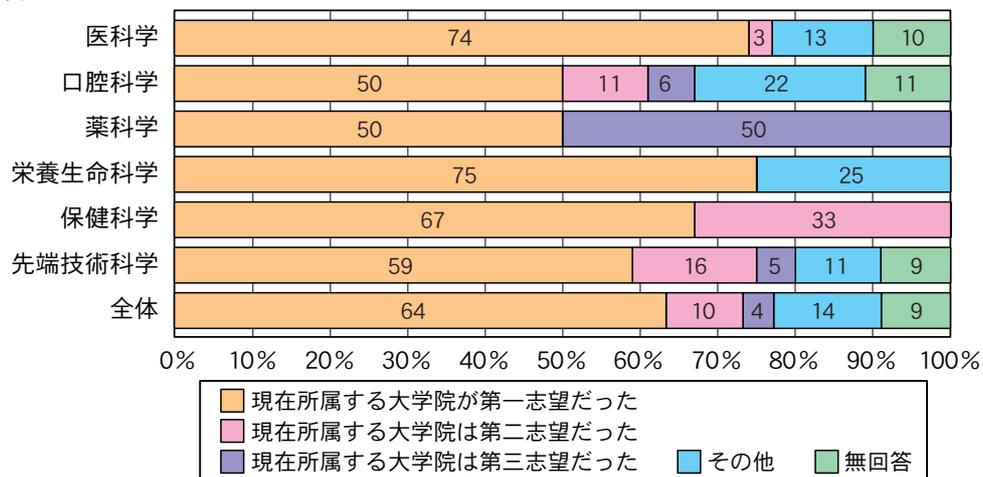
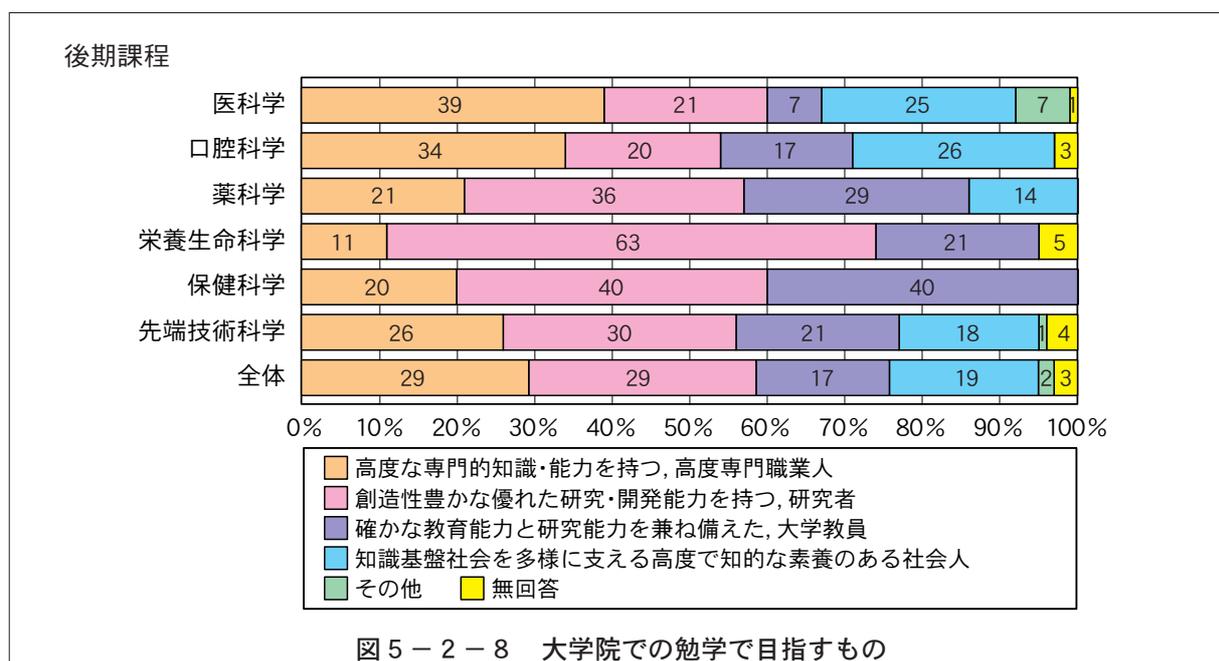
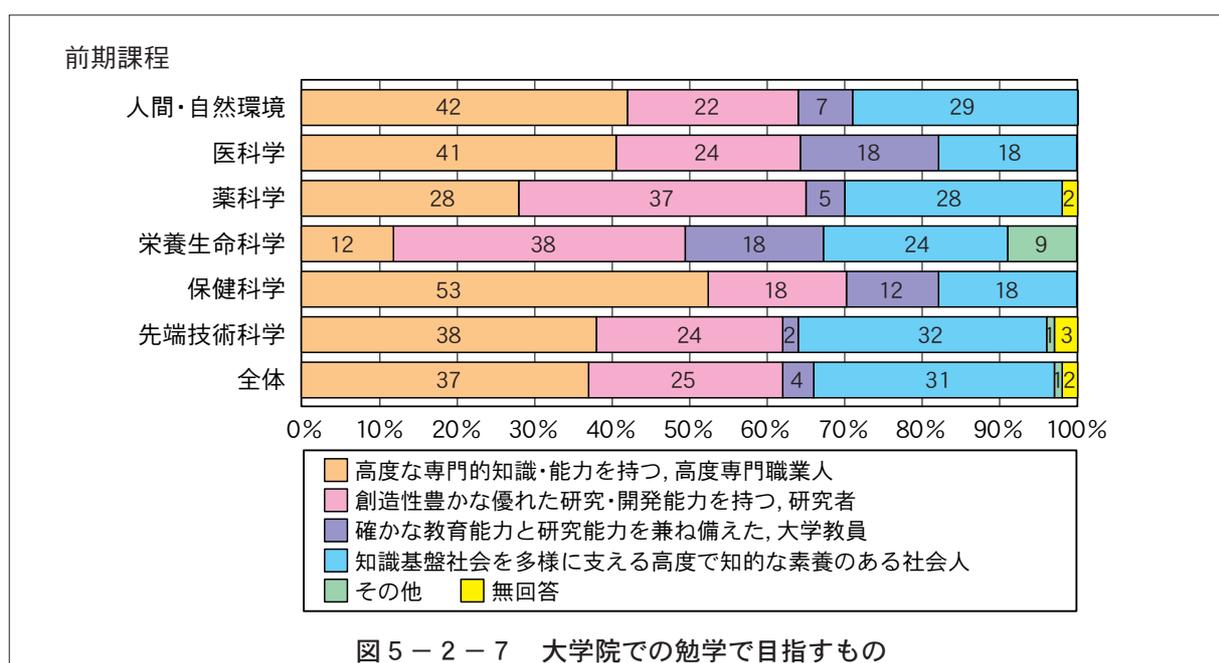


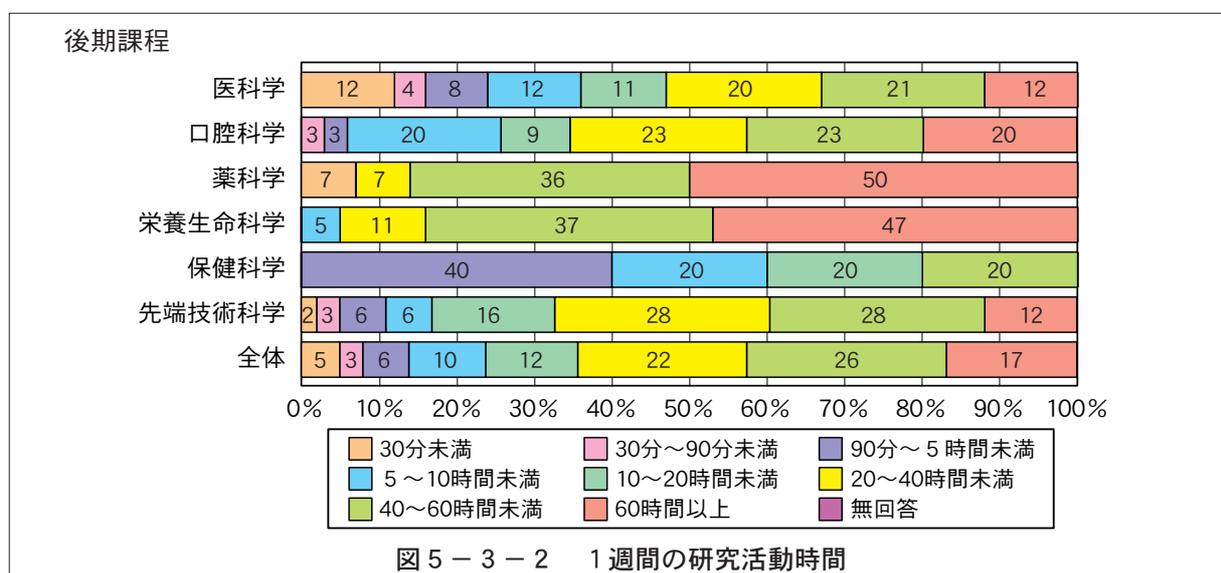
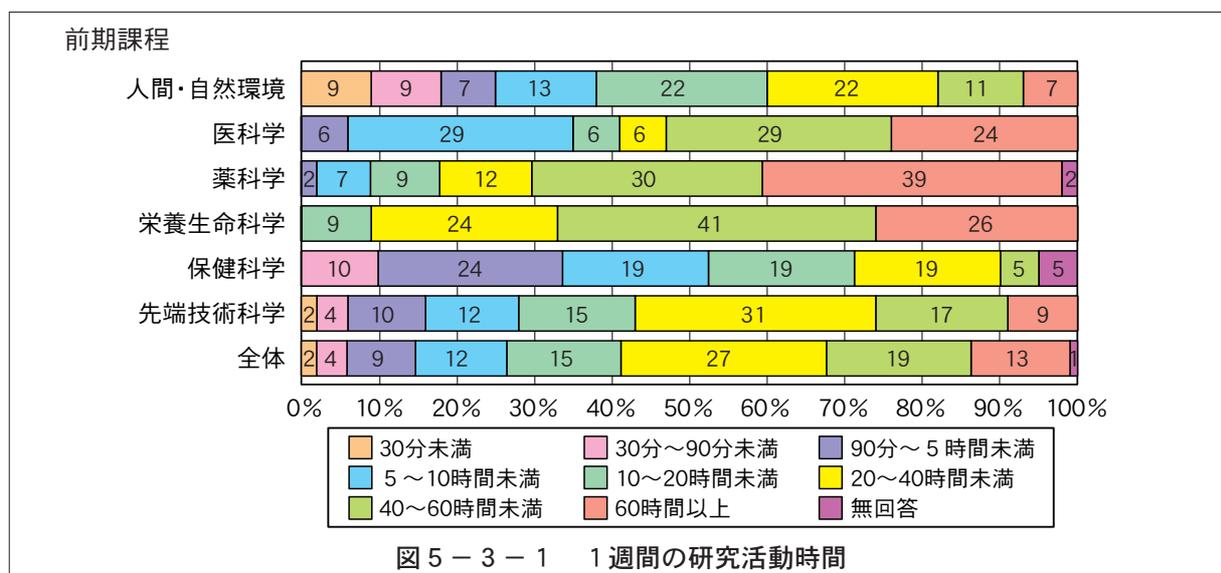
図 5 - 2 - 6 他大学卒業者の志望順位

図5-2-7より、前期課程では全体として、高度な専門知識・能力を持つ高度専門職業人（37%）、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人（31%）、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者（25%）を目指している学生が前回調査と同様多くなっており、4%が確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員となっている。特に、保健科学では半数以上（53%）が高度専門職業人を目指しており、栄養生命科学と薬科学では、研究者の割合が最も多く、それぞれ、38%と37%となっている。図5-2-8より、後期課程の学生全体では、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者と高度な専門知識・能力を持つ高度専門職業人がともに29%と最も多くなり、次いで、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人（19%）となり、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員（17%）を目指している者も比較的多い。栄養生命科学では、研究者を目指す学生が63%と非常に多くなっている。また、保健科学では、研究者と大学教員を目指す学生がともに40%と多くなっている。



5-3 研究活動と研究指導 (図5-3-1~図5-3-12)

図5-3-1より、前期課程の学生全体での授業以外の研究活動に費やす1週間平均時間は、20～40時間の割合が27%と最も高くなり、次いで40～60時間の割合が19%となり、以下順に、10～20時間(15%)、60時間以上(13%)、5～10時間(12%)、90分～5時間(9%)、30～90分(4%)、30分未満(2%)となっている。時間分割が前回調査と異なっているが、週10時間以上の割合が前回の53%から73%と増加し、半数以上(58%)の学生が週20時間以上研究活動を行っている。特に、週20時間以上研究活動を行っている割合が、栄養生命科学(約90%)と薬科学(約80%)で高くなっている。一方、保健科学(約30%)、人間・自然環境(約40%)で、週20時間以上研究活動を行っている割合が低くなっている。図5-3-2より、後期課程では、全体として、研究活動に費やす週平均時間は、40～60時間の割合が25%と最も高くなり、次いで20～40時間の割合が22%となり、続いて、60時間以上(17%)、10～20時間(12%)、5～10時間(10%)、90分～5時間(6%)、30分未満(5%)、30～90分(3%)となっている。また、全体では66%の学生が週20時間以上研究活動を行っている。特に、週20時間以上研究活動を行っている割合が、前期課程と同様に、栄養生命科学(95%)と薬科学(93%)で高くなっている。一方、前期課程と同様に、保健科学(20%)、人間・自然環境(53%)で、週20時間以上研究活動を行っている割合が低くなっている。



週30分未満の研究活動の学生の半数は、両課程ともに1年生であり、授業履修に重点を置いていることも考えられる。しかしながら、上級生においても、研究活動時間が極めて少ない学生も両課程に存在しているが詳細は不明である。

図5-3-3より、前期課程の学生の研究指導を直接行っている教員は、全体として、前回調査とほぼ同様な結果となり、教授46%、准教授31%、講師8%、助教11%、その他3%、無回答1%であり、教員が分担して指導している。保健科学では教授の割合が89%と特に高くなっている。逆に、栄養生命科学では助教が62%と高くなっており、教授21%、准教授・講師各3%を圧倒している。図5-3-4より、後期課程全体では、直接指導しているのは教授53%、准教授20%、講師7%、助教12%、その他4%、無回答4%となっている。保健科学では教授が全ての学生を直接指導している。栄養生命科学(32%)と口腔科学(34%)では、教授の割合が他教育部と比較して若干低くなっており、助教の割合がそれぞれ37%、26%と高くなっている。

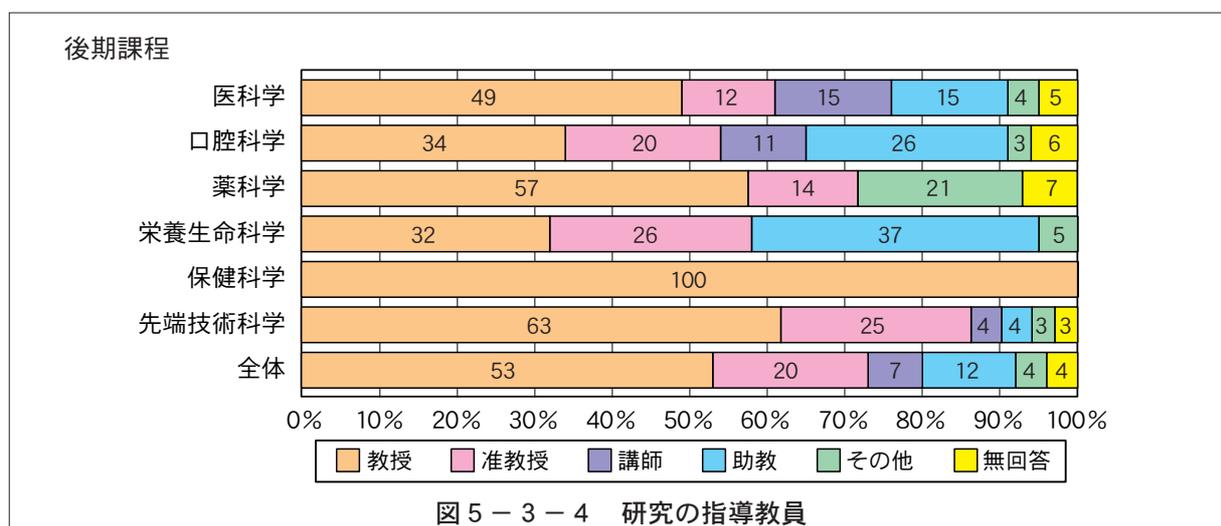
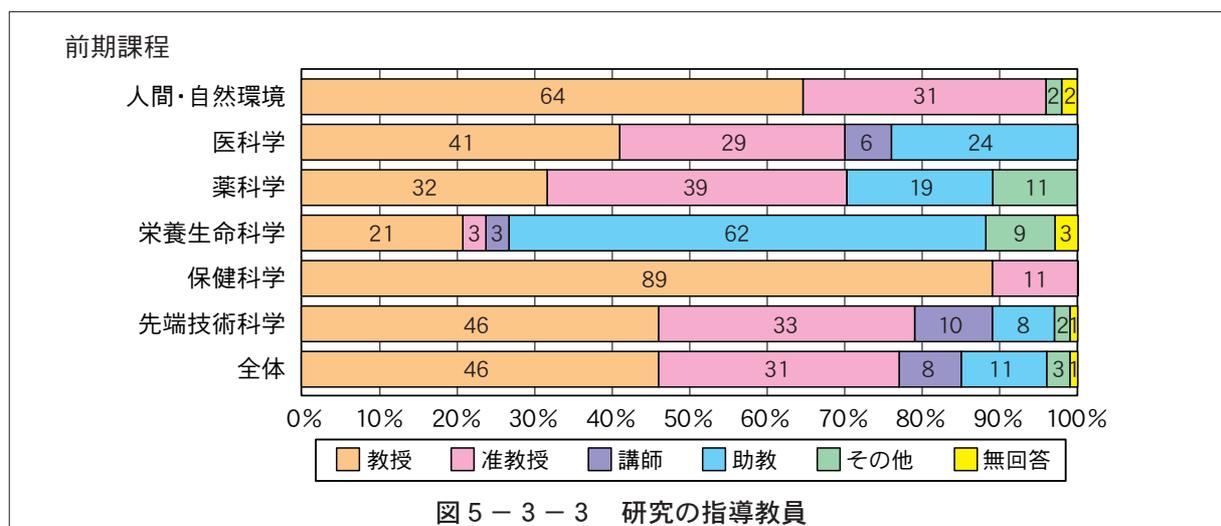
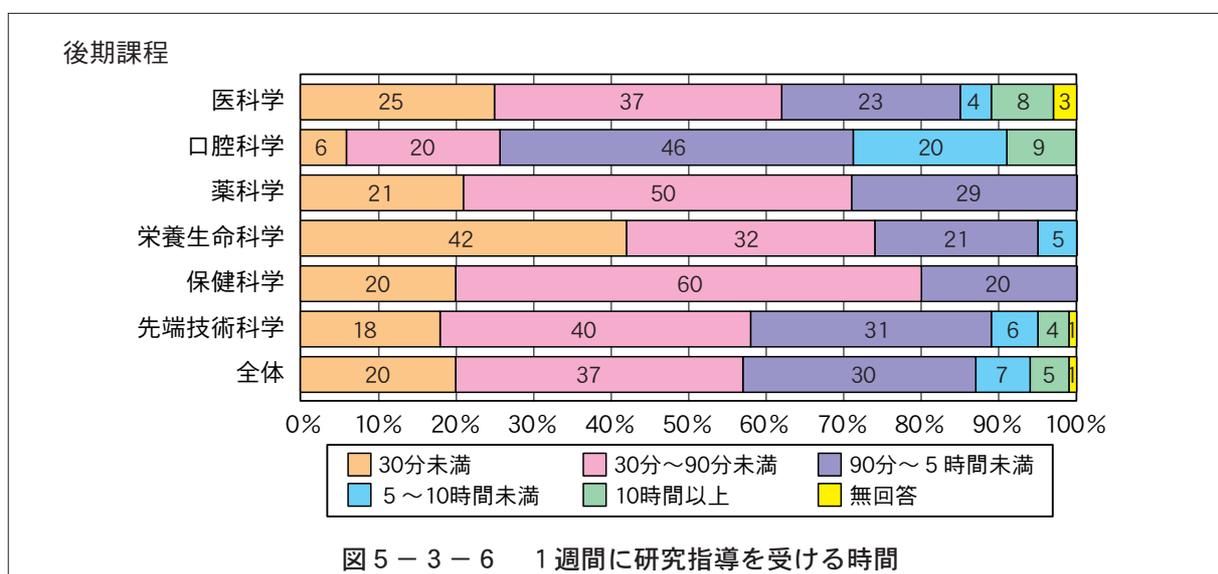
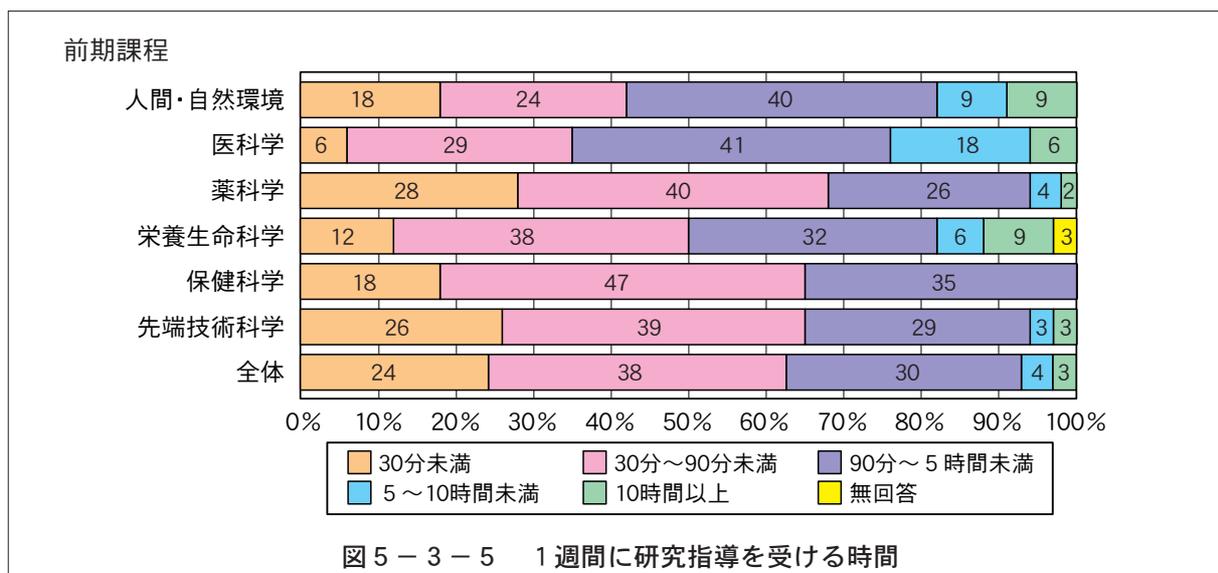


図5-3-5より、前期課程の学生が全体として研究指導を受けている1週間の平均的な時間は、30～90分(38%)が最も多く、以下順に、90分～5時間(30%)、30分未満(24%)、5～10時間(4%)、10時間以上(3%)となっており、前回調査結果と類似している。研究指導時間が90分未満の割合は、全体で62%であるが、薬科学(68%)、保健科学(65%)および先端技術科学(65%)で高く、医科学(35%)と留学生(36%)で低くなっている。図5-3-6より、後期課程の学生が全体として研究指導を受けている1週間の平均的な時間は、30～90分(37%)が最も多く、以下順に、90分～5時間(30%)、30分未満(20%)、5～10時間(7%)、10時間以上(5%)となっている。研究指導時間



が90分未満の割合は、全体で57%であるが、保健科学（80%）、栄養生命科学（74%）、薬科学（71%）で高く、口腔科学（26%）で特に低くなっている。

図5-3-7より、前期課程の学生全体では、研究指導の内容や進め方について、どちらかといえば満足が48%と最も多く、以下順に、満足34%、どちらかといえば不満足が11%、不満足7%となっている。薬科学での満足度が77%（満足26%、どちらかといえば満足51%）と80%を若干下回っているが、他教育部での満足度は80%以上となっている。図5-3-8より、後期課程の学生全体では、研究指導の内容や進め方について、どちらかといえば満足が50%と最も多く、以下順に、満足40%、どちらかといえば不満足が5%、不満足4%となっている。栄養生命科学と医科学の満足度がそれぞれ、79%（満足21%、どちらかといえば満足58%）と84%（満足31%、どちらかといえば満足53%）と90%を若干下回っているが、保健科学が100%等（満足20%、どちらかといえば満足80%）他教育部での満足度は90%以上となっている。なお、不満足の原因としては、指導教員が多忙等で指導時間が確保できない（人間・自然環境、先端技術科学、医科学、栄養生命科学）、教員の考えを押し付ける（先端技術科学、口腔科学）、また、先端技術科学では、研究以外の用件の依頼や教員のコミュニケーション能力不足が、さらに、医科学では、実地臨床で研究時間が取れない、研究内容が過大という理由も挙げられている。

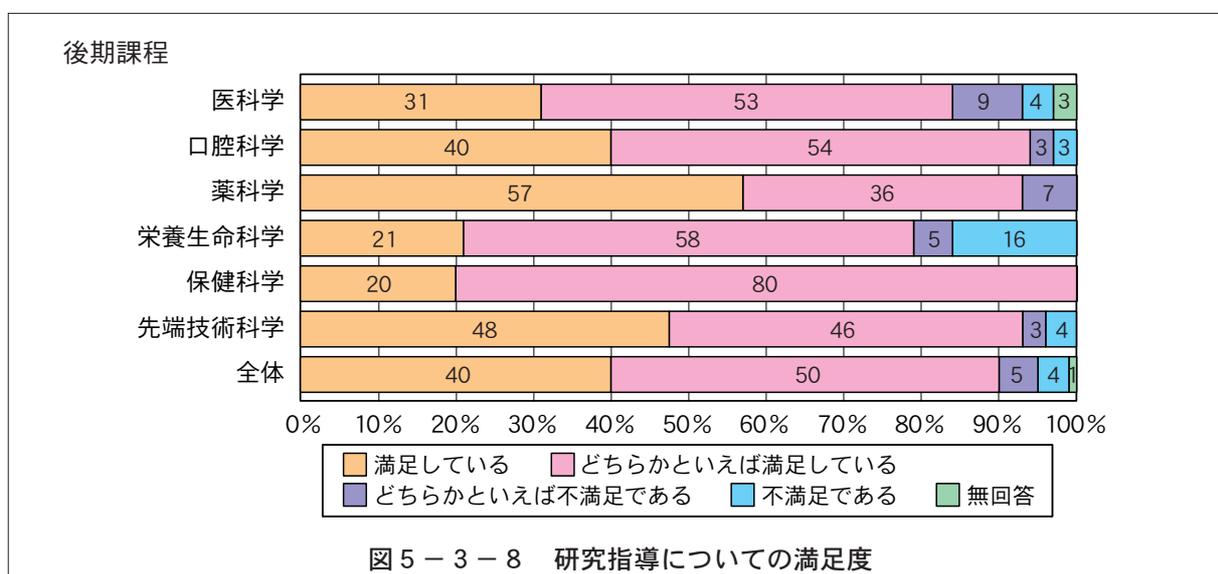
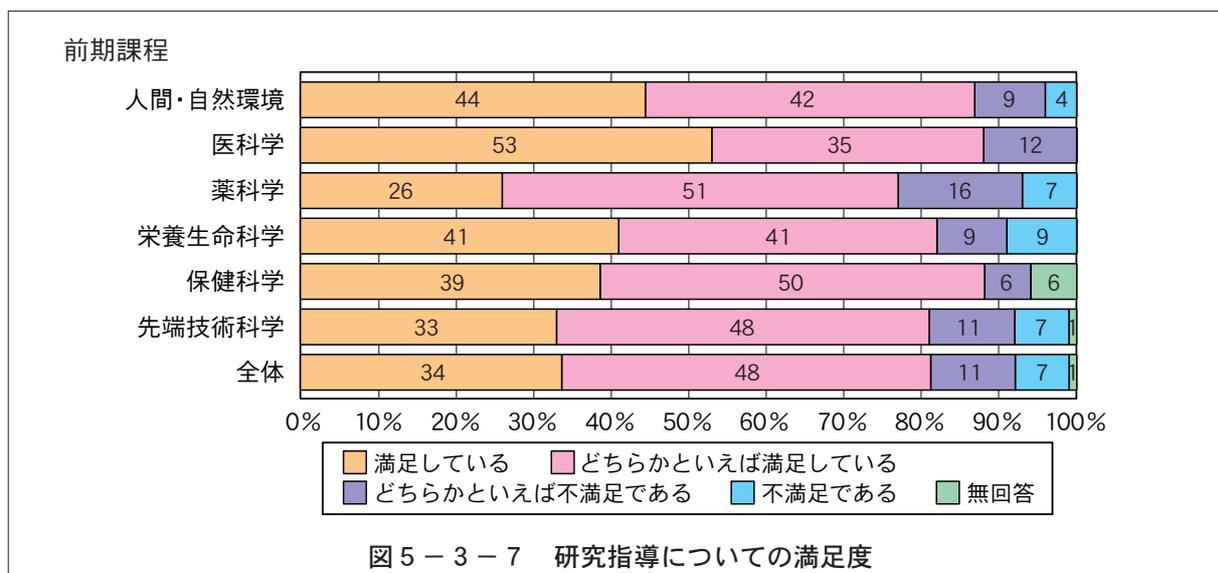
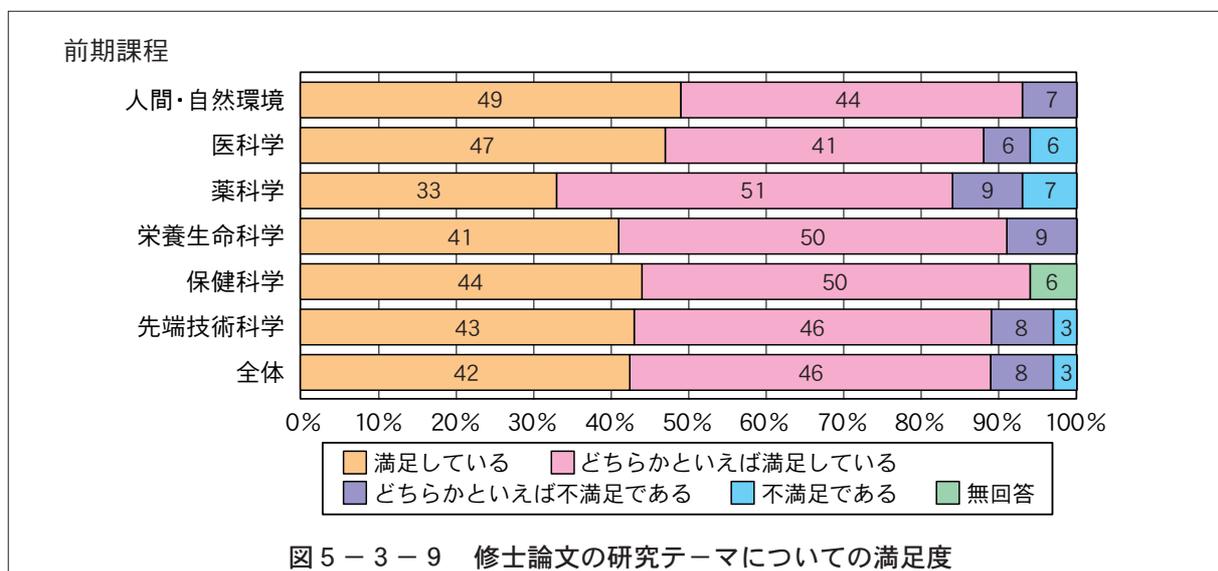
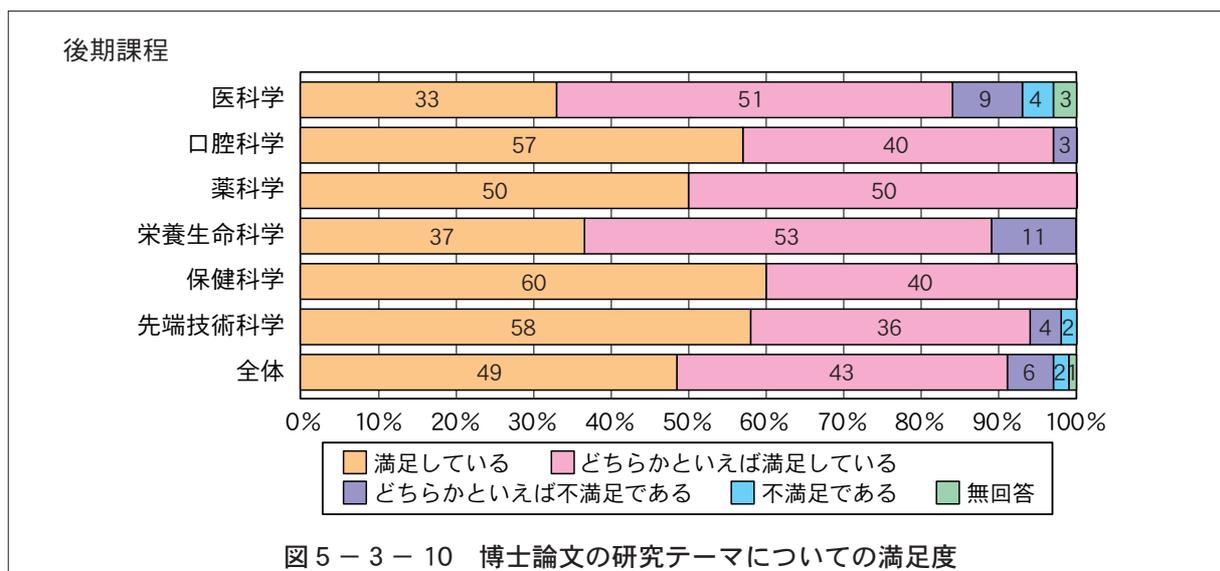


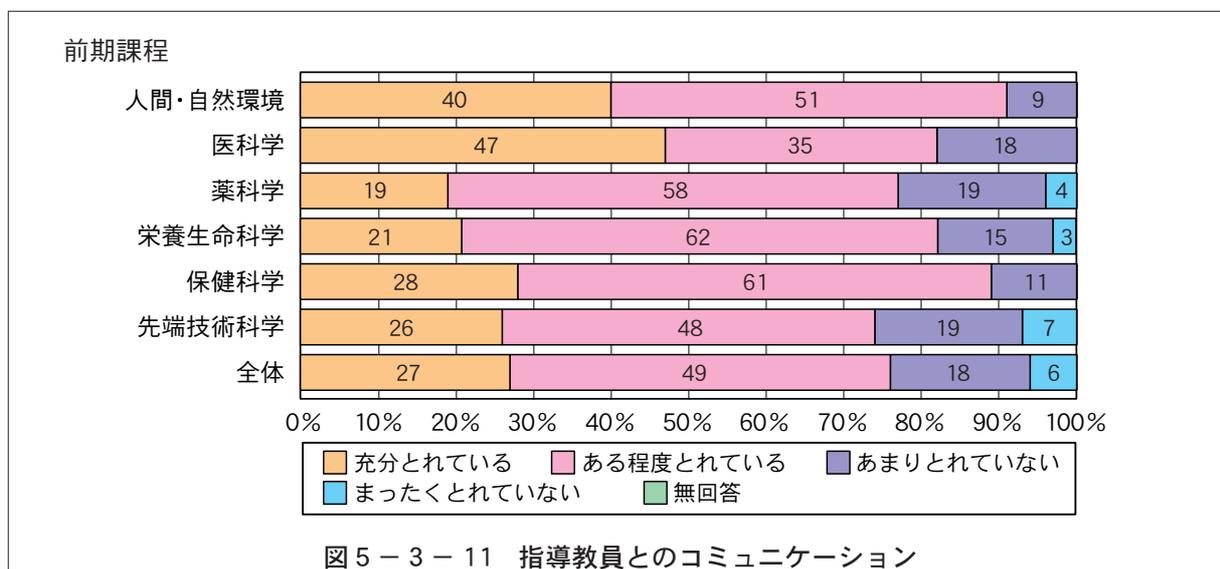
図 5-3-9 より、修士論文の研究テーマに関する全体の満足度は、どちらかといえば満足が 46%で最も多く、以下順に、満足 42%、どちらかといえば不満足 8%、不満足 3%となっている。全ての教育部で 90%前後の満足度が得られている。図 5-3-10 より、博士論文の研究テーマに関する全体の満

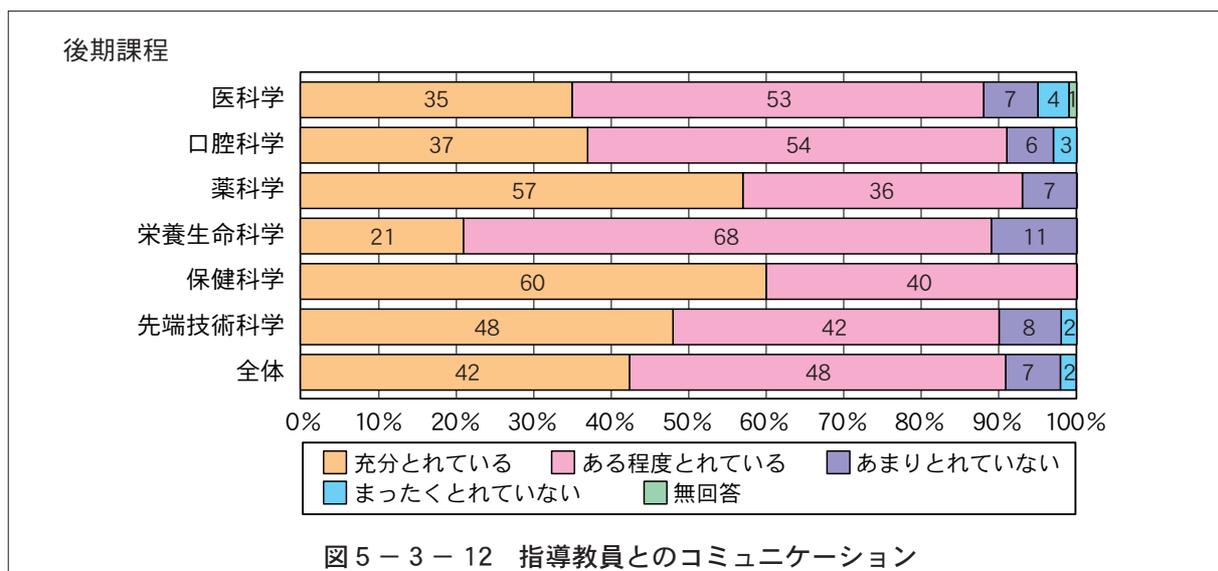




満足度は、満足が49%で最も多く、以下順に、どちらかといえば満足43%、どちらかといえば不満足6%、不満足2%となっている。薬科学では満足度が100%（満足、どちらかといえば満足ともに50%）となる等、全ての教育部で90%前後の満足度が得られている。なお、不満足な理由としては、希望の研究と異なる（医科学、栄養生命科学）、別のテーマに興味があつた（先端技術科学）、レベルが低い（先端技術科学）、在学中に成果を得ることが難しい（医科学、口腔科学）、与えられたテーマ（薬科学）、未決定（医科学）等が挙げられている。

図5-3-11より、指導教員とのコミュニケーションに関して、前期課程の学生全体では、ある程度とれているが49%と最も多く、以下順に、充分取れているが27%、あまりとれていないが18%、まったくとれていない6%となっている。比較的コミュニケーションがうまくとれているのが人間・自然環境（充分40%、ある程度51%）、保健科学（充分28%、ある程度61%）、留学生（充分24%、ある程度65%）であり、全体より悪くなっているのが先端技術科学（充分26%、ある程度48%）となっている。図5-3-12より、指導教員とのコミュニケーションに関して、後期課程の学生全体では、ある程度とれているが48%と最も多く、以下順に、充分取れているが42%、あまりとれていないが7%、まったくとれていない2%となっている。保健科学では充分（60%）とある程度コミュニケーションがとれている（40%）が100%となる等、全ての教育部で90%前後の割合で指導教員とのコミュニケーションがとれている。

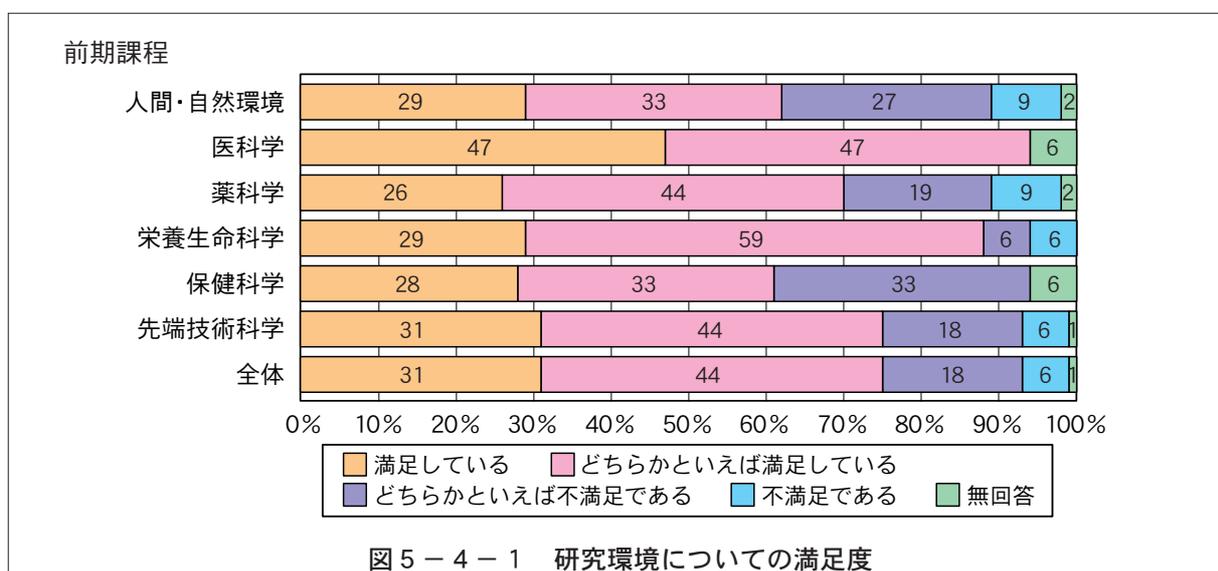




以上より、研究指導の内容・進め方、研究論文のテーマ、指導教員とのコミュニケーション等については、比較的高い満足度が得られているが、指導教員の多忙、研究以外の用件の依頼やコミュニケーション不足等の不満足事項も指摘されており、引き続き改善する必要がある。

5-4 研究環境と所属大学院に対する満足度 (図 5-4-1~図 5-4-6)

図 5-4-1 より、前期課程学生全体では、研究環境にどちらかといえば満足している割合が最も高く 44%となっており、以下順に、満足 31%、どちらかといえば不満足 18%、不満足 6%となっている。医科学の満足度が高く、満足、どちらかといえば満足がともに 47%となっている。保健科学（満足 28%、どちらかといえば満足 33%）と人間・自然環境（満足 29%、どちらかといえば満足 33%）が、若干、他教育部より研究環境に関する満足度が低くなっている。図 5-4-2 より、後期課程学生全体では、研究環境にどちらかといえば満足している割合が最も高く 41%となっており、以下順に、満足 40%、どちらかといえば不満足 13%、不満足 5%となっており、前期課程より、若干満足度が高くなっている。満足度が 90%以上となっているのは薬科学（満足 43%、どちらかといえば満足 57%）と留学生（満足 45%、どちらかといえば満足 51%）であり、保健科学（満足 20%、どちらかといえば満足 40%）が、他教育部より研究環境に関する満足度が低くなっている。



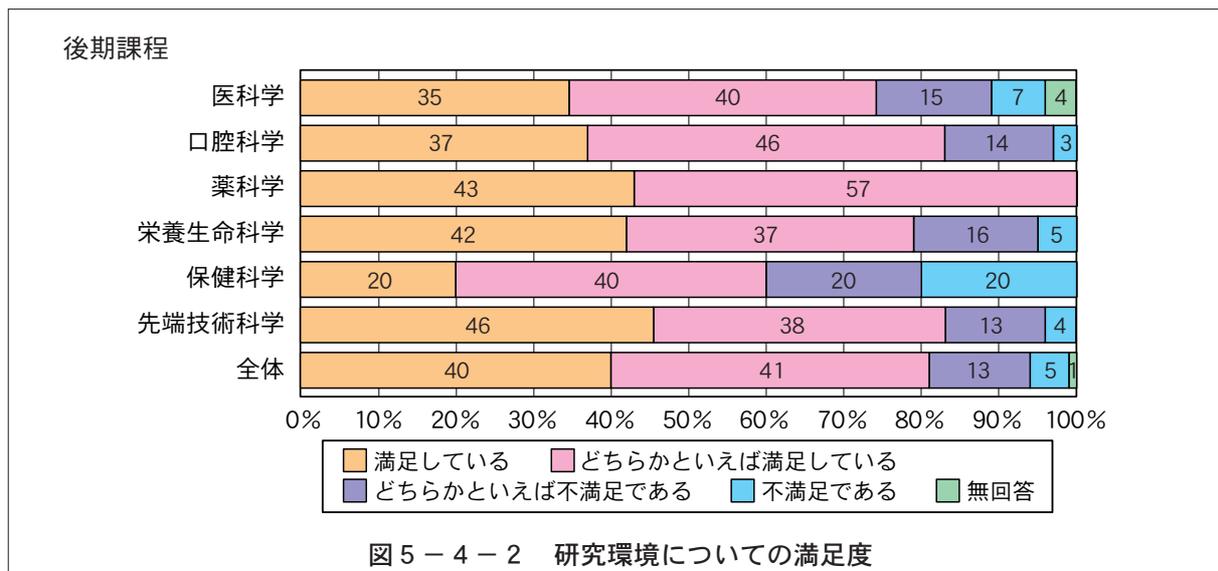
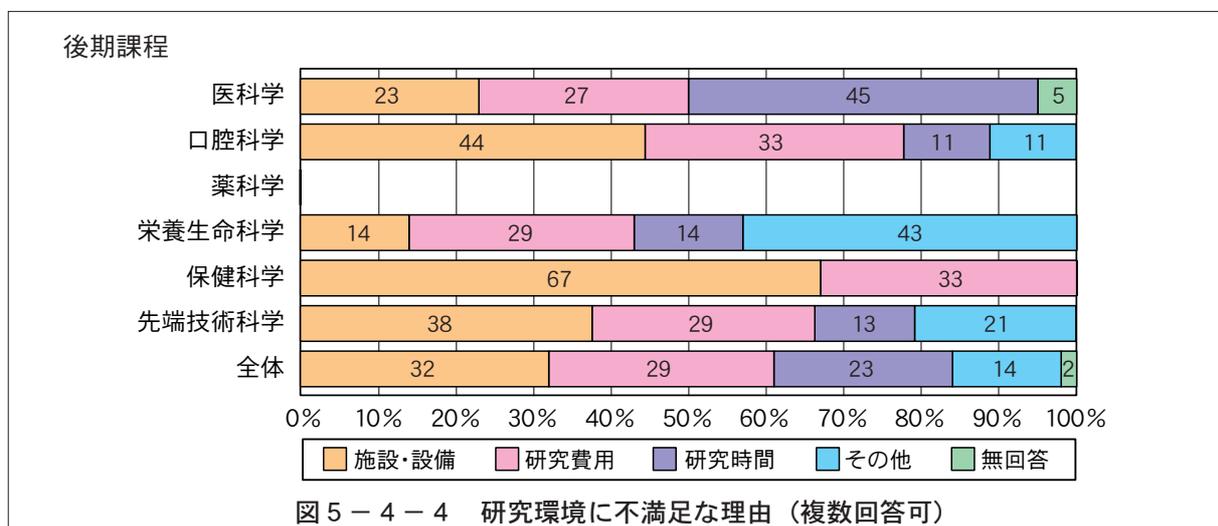
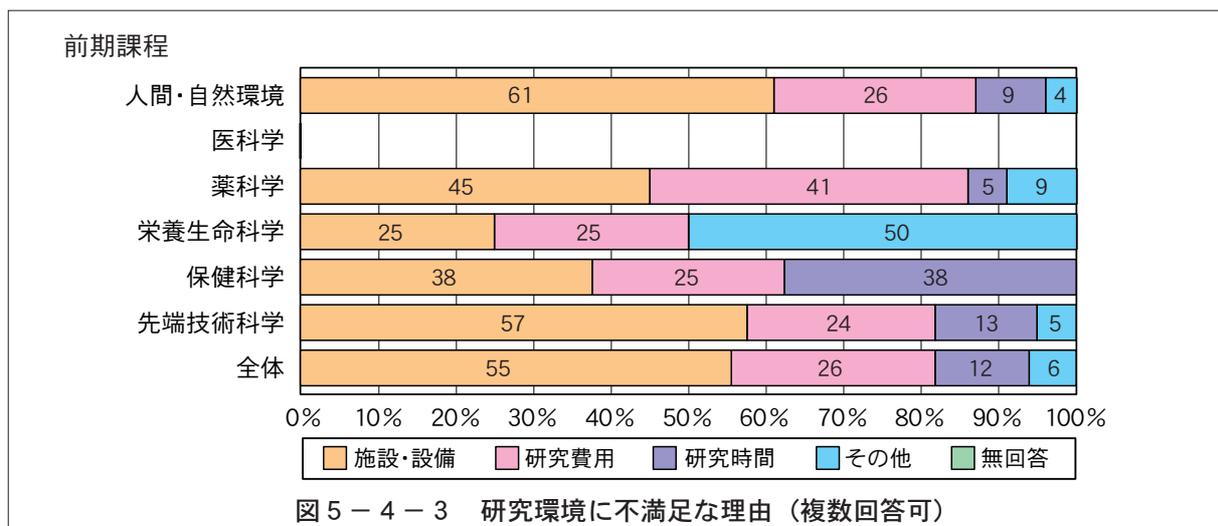
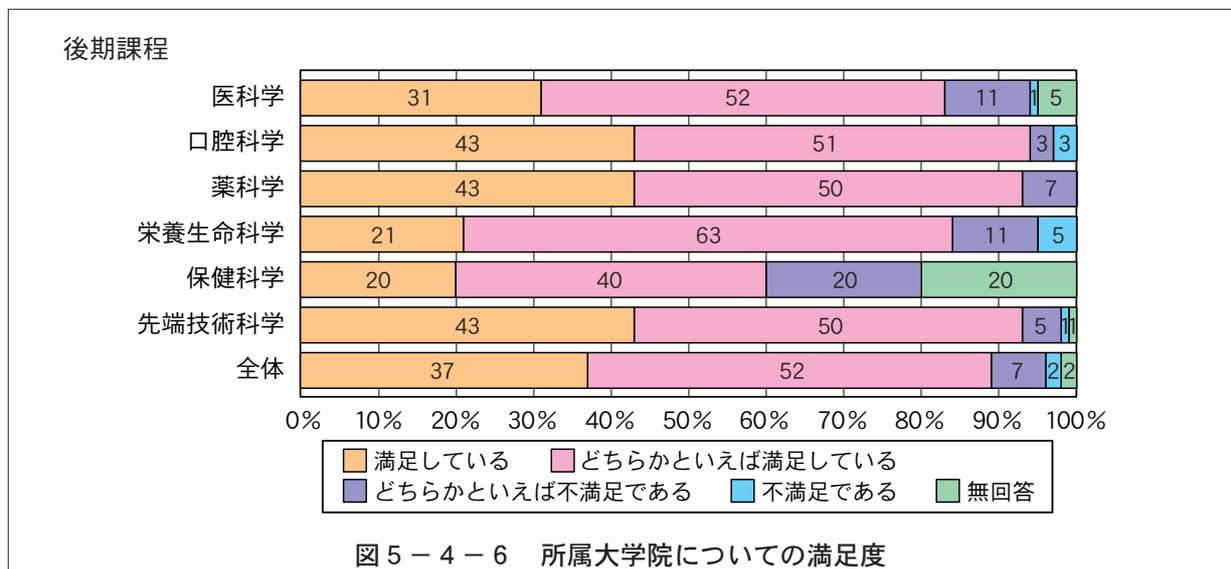
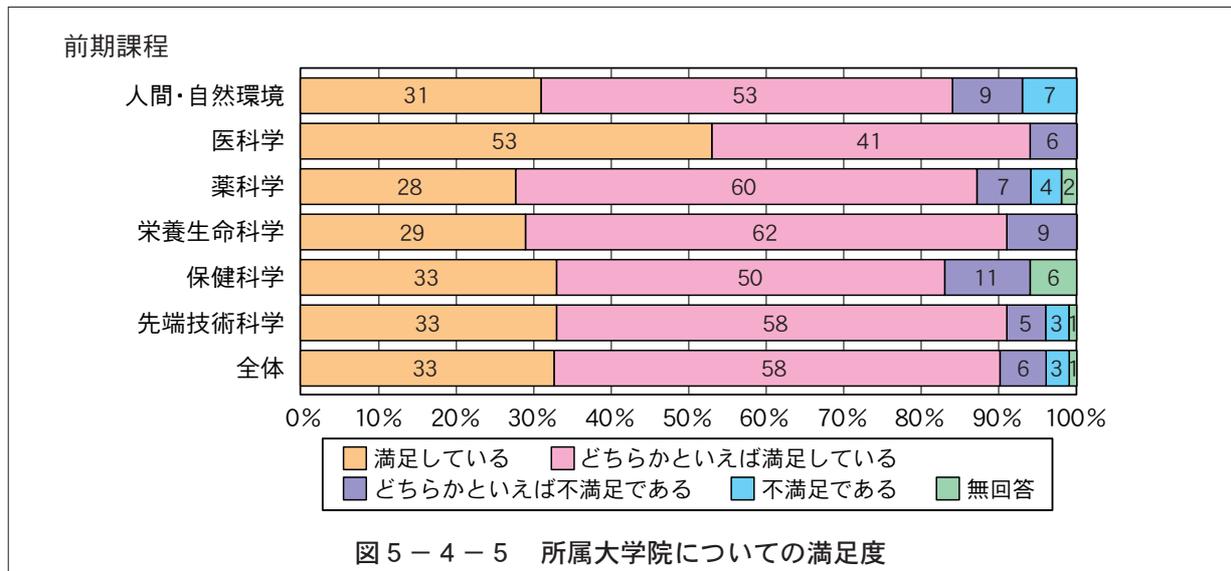


図 5 - 4 - 3 より、前期課程学生全体における研究環境に対する不満理由として、施設・設備が 55% と最も多く、以下順に、研究費用 26%、研究時間 12%、その他 6% となっている。満足度が比較的低かった保健科学では、施設・設備と研究時間が 38%、研究費用が 25% であり、人間・自然環境では、過半数以上の学生が施設・設備 (61%) を指摘し、約 1 / 4 が研究費用を挙げている。また、先端技術科学においても施設・設備を挙げた割合が 57% と高くなっている。図 5 - 4 - 4 より、後期課程学生全



体における研究環境に対する不満理由として、施設・設備が32%、研究費用29%、研究時間23%、その他14%となっており、前期課程と比較して施設・設備の割合が低くなっている。しかしながら、満足度が低かった保健科学では、2/3が施設・設備を挙げ、残り1/3が研究費用としている。なお、その他の理由としては、人間関係（薬科学、先端技術科学）、教員・スタッフが不足（栄養生命科学）、さらに、先端技術科学では、研究室が狭い、同年代の類似した研究テーマの学生の不在、研究以外の用件の依頼も挙げられている。

図5-4-5より、前期課程学生全体では、所属大学院に対して、58%がどちらかといえば満足であり、以下順に、満足33%、どちらかといえば不満足6%、不満足3%となっている。医科学の満足度が高く、満足が53%、どちらかといえば満足が41%となっている。保健科学（満足33%、どちらかといえば満足50%）と人間・自然環境（満足31%、どちらかといえば満足53%）が、他大学院より若干満足度が低くなっている。図5-4-6より、後期課程学生全体では、どちらかといえば満足している割合が最も高く52%となっており、以下順に、満足37%、どちらかといえば不満足7%、不満足2%となっており、前期課程とほぼ同様な分布となっている。満足度が90%以上となっているのは留学生（満足39%、どちらかといえば満足59%）、口腔科学（満足42%、どちらかといえば満足51%）、薬科学（満足43%、どちらかといえば満足50%）および先端技術科学（満足43%、どちらかといえば満足50%）であり、保健科学（満足20%、どちらかといえば満足40%、どちらかといえば不満足20%、無回答20%）

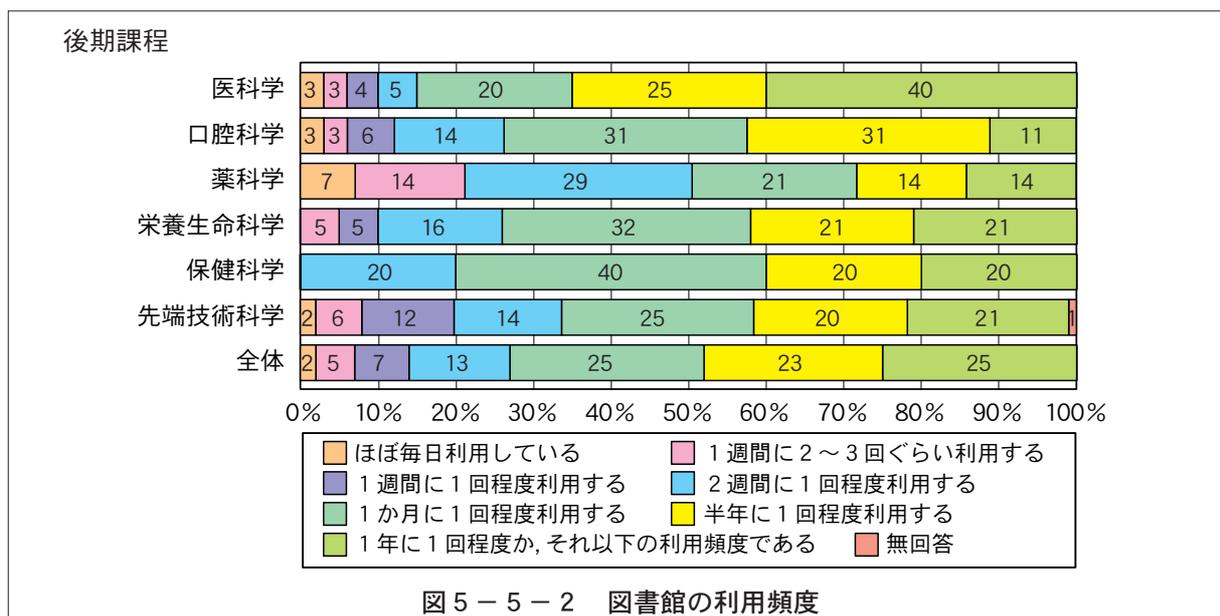
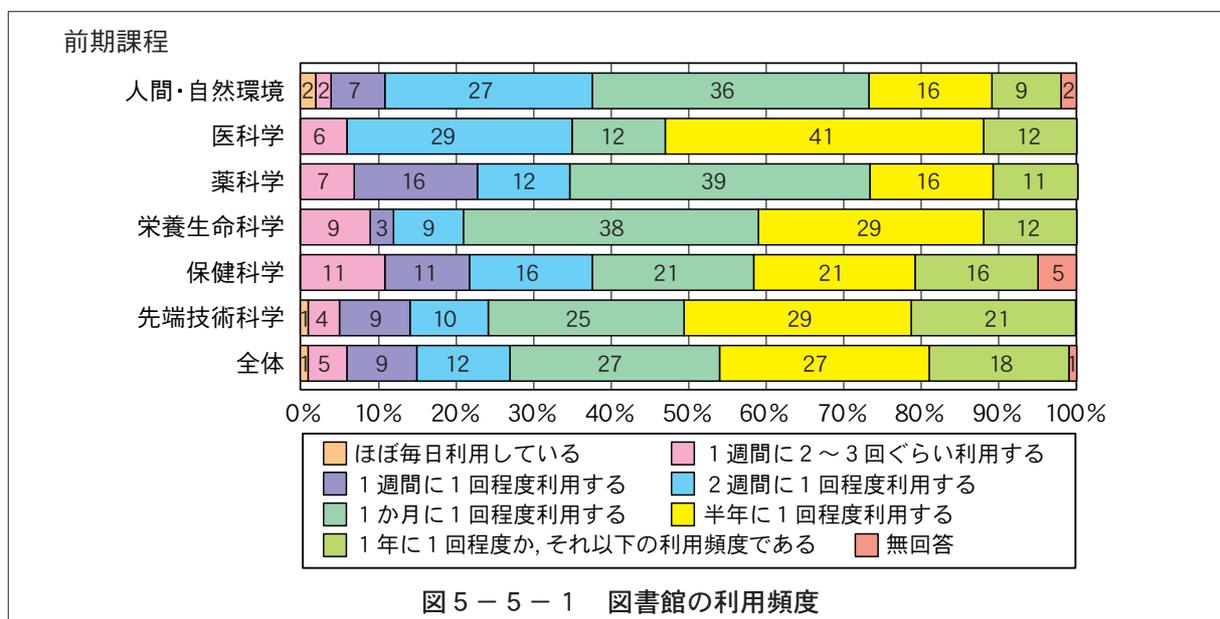


が、他教育部より満足度が低くなっている。なお、不満理由としては、前述の教育課程、大学院の教育レベル、授業の内容・進め方、研究指導の内容・進め方、修士・博士論文の研究テーマ、研究環境における自由記載事項に記されており、さらに、研究費の不足の具体的な例として、学会等への交通費補助が少ない（先端技術科学）ことも挙げられている。

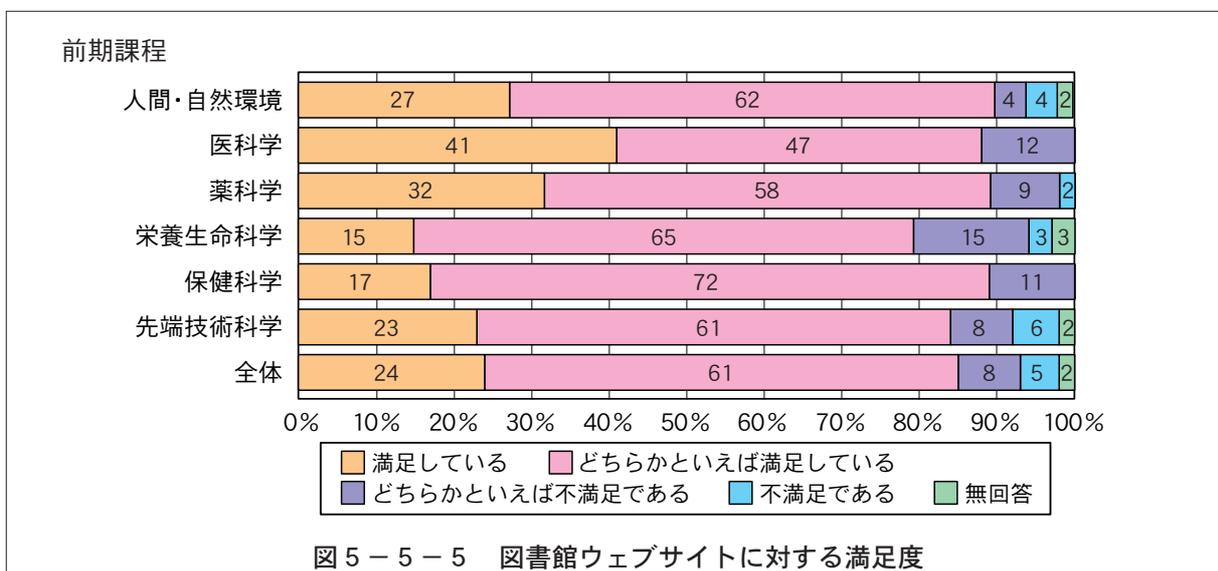
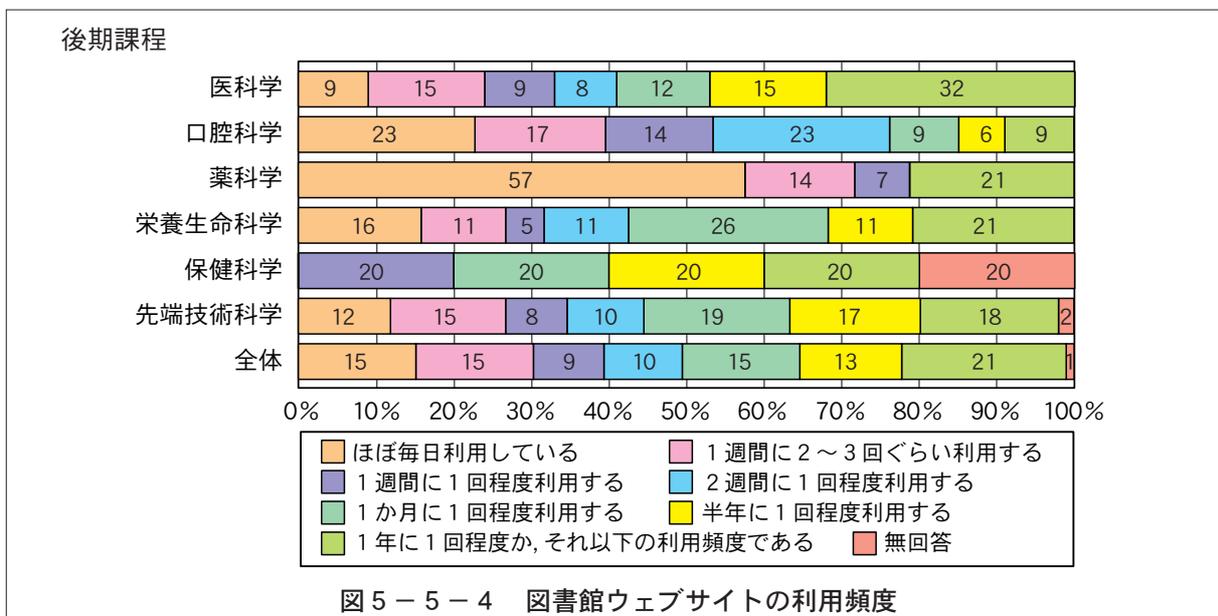
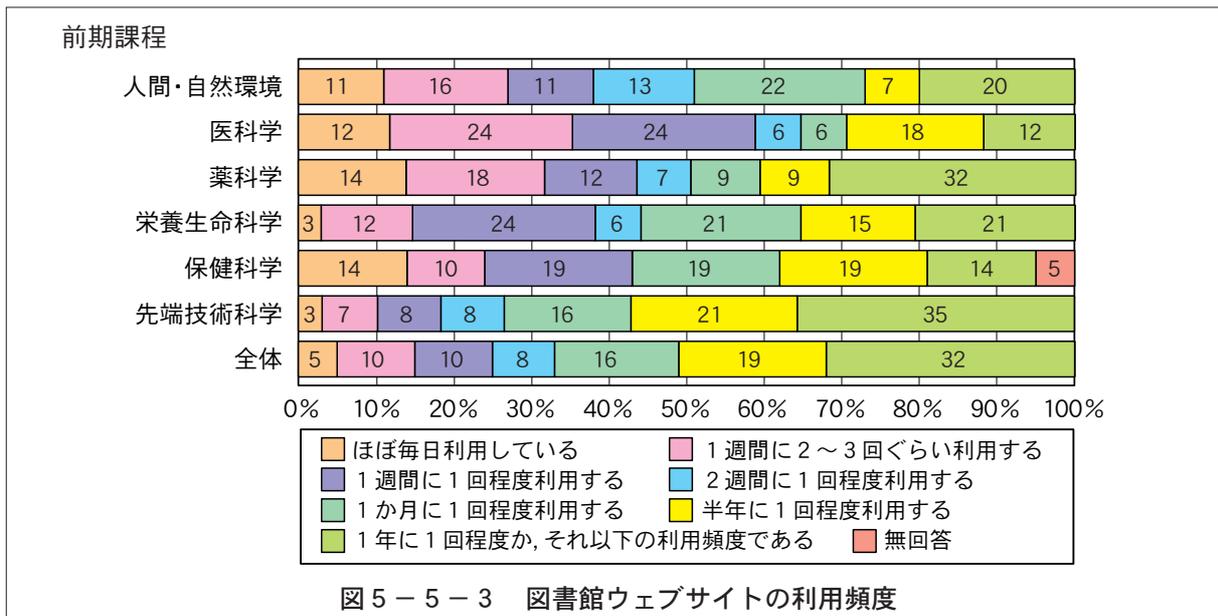
以上より、所属大学院についての満足度は、比較的高いが、自由記載事項に指摘された研究環境や教育環境のさらなる改善に努め、より満足度の高い大学院を目指す必要がある。

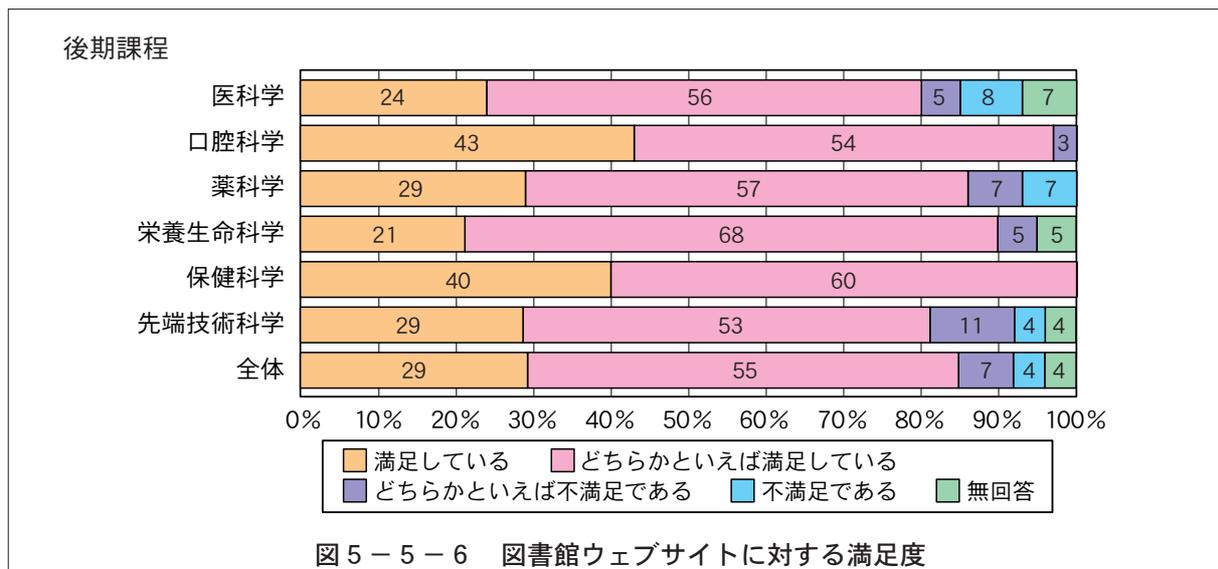
5-5 図書館の利用状況 (図5-5-1～図5-5-6)

図書館を1週間に1回以上利用する学生は前期課程で15%、後期課程で14%となっており、各教育部・研究科間においてもほとんど差は見られない(図5-5-1, 図5-5-2)。しかしながら、図書館ウェブサイトによる文献検索についての質問に対しては、蔵本キャンパスに所属する学生の40%以上(前期課程44%・129人中57人, 後期課程42%・148人中62人)が1週間に1回以上利用すると答えており、学生の研究活動におけるインターネットを利用した文献検索の重要性が伺われる(図5-5



－ 3, 図 5－5－4)。後期課程薬科学の学生の 57%は「ほぼ毎日利用している」と答えており、他教



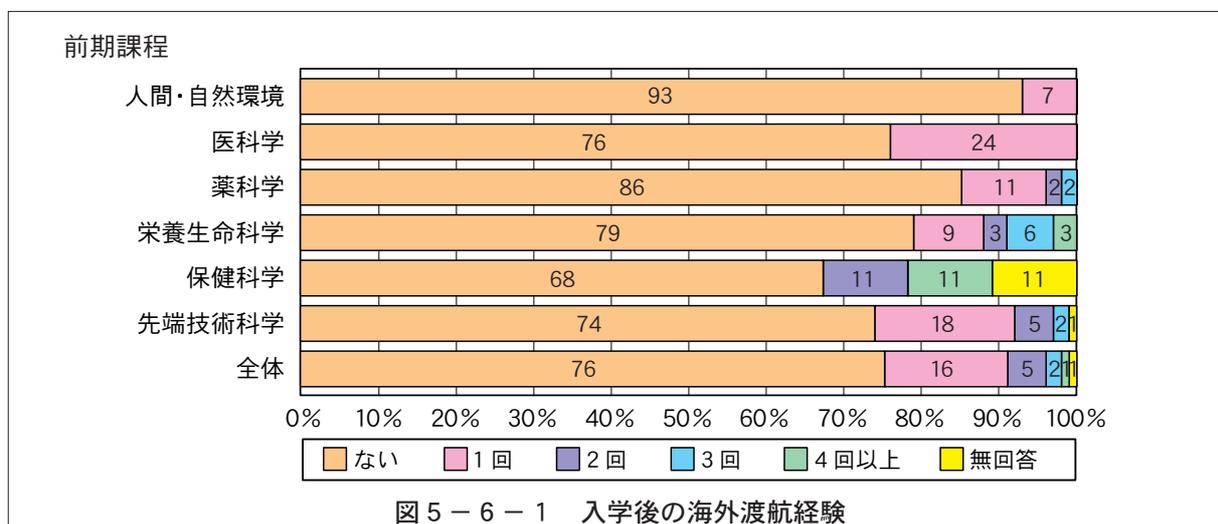


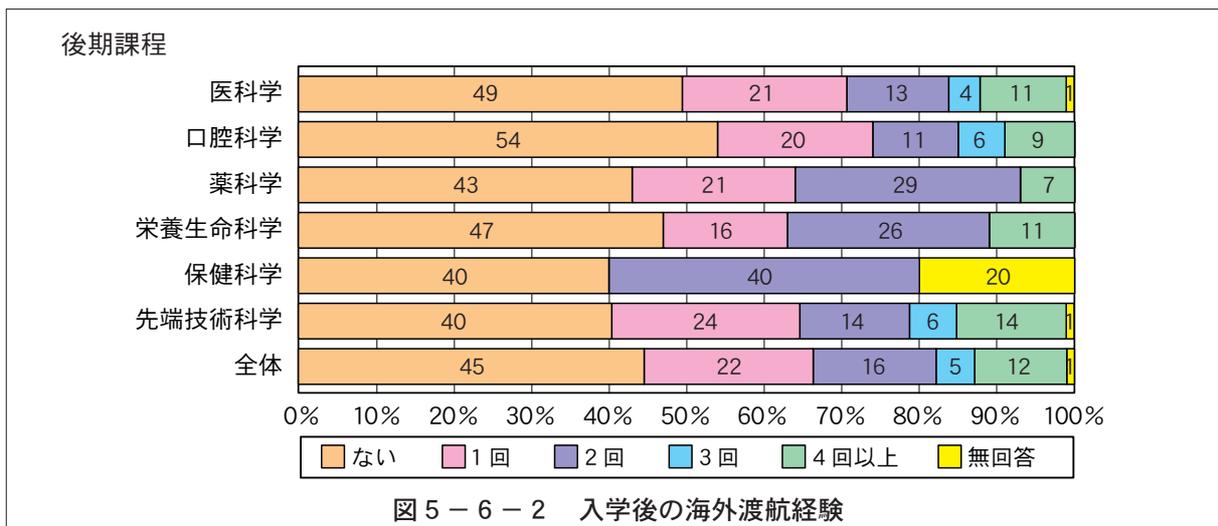
育部・研究科学生に比べて特に利用頻度が高い。

図書館ウェブサイトについての満足度は高く、前期課程および後期課程のいずれにおいても85%の学生が満足していると回答している(図5-5-5, 図5-5-6)。インターネットを利用した文献検索は大学院生の日常生活に必要な不可欠なものとなりつつあることから、学生の自立的な研究活動を強力に支援するためにも、インターネット上で閲覧可能な学術雑誌の維持ならびに拡充といった図書館ウェブサイトの継続的な整備が望まれる。さらに、学生が容易にウェブ検索するための環境づくりといったハード面の充実化も必要であろう。なお、日本人学生と留学生を比較した場合、図書館ならびに図書館ウェブサイトによる文献検索の利用頻度や図書館ウェブサイトに対する満足度に対してはほぼ同様の回答傾向が見られることから、日本人学生と留学生の図書館の利用環境に格段の差異はないものと推測される。

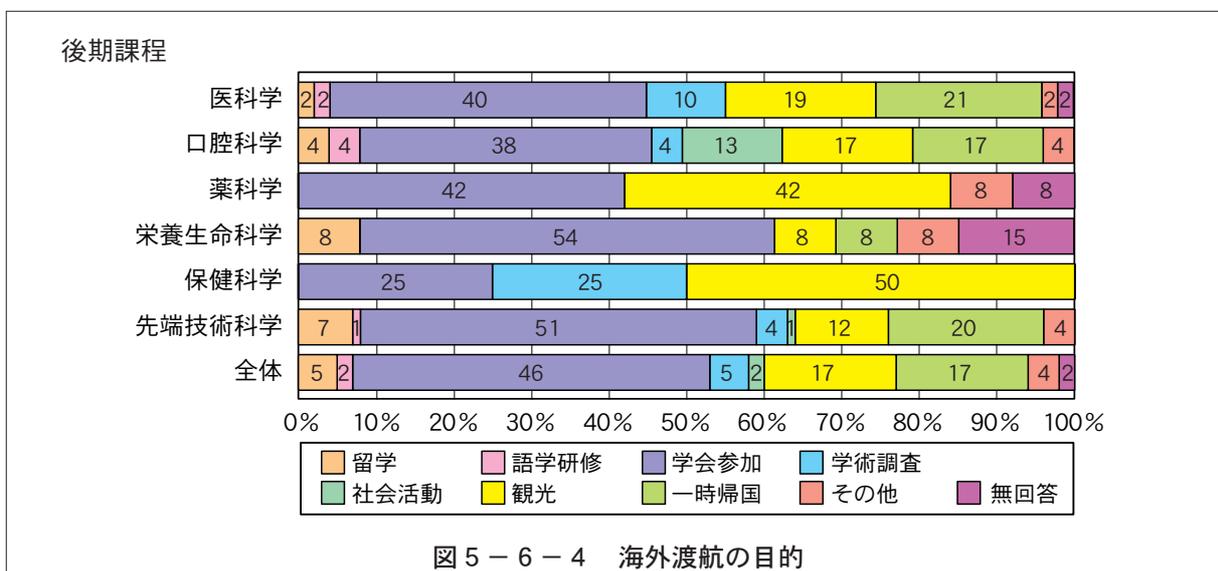
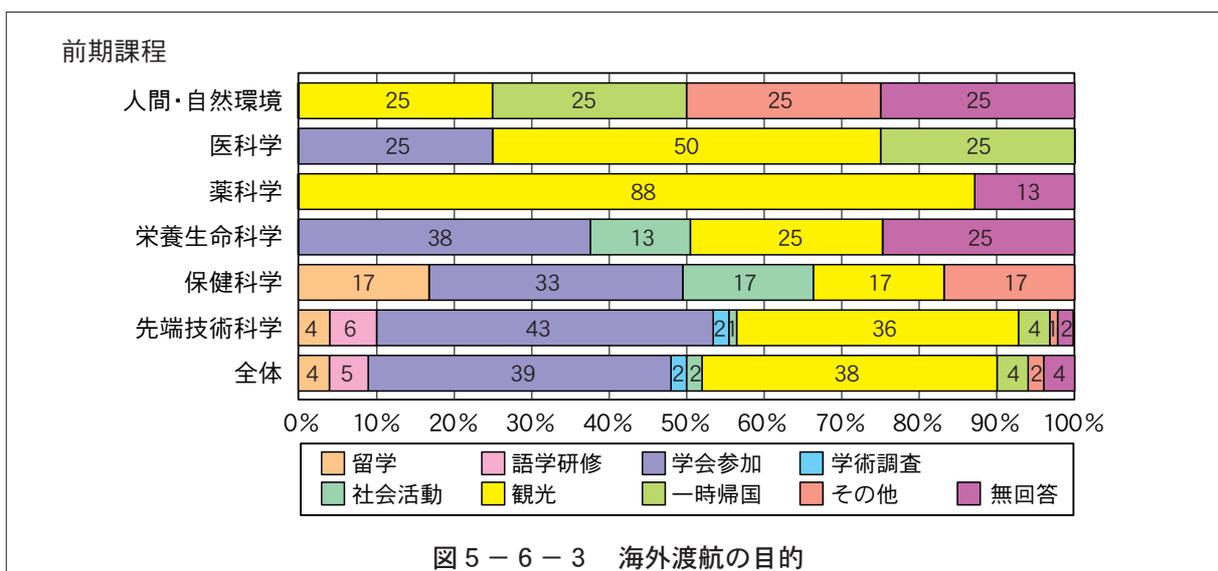
5-6 海外渡航の経験と英会話 (図5-6-1~図5-6-10)

入学後の海外渡航経験については、前期課程全体で76%の学生が「ない」と答えており、海外渡航経験のある学生も1回(16%)程度であり、3年前に実施された第1回の調査とほぼ同じ結果となった(図5-6-1)。学部学生時代を含めると、海外渡航経験者はさらに増えることが予想される。後期課程では全体で半数以上(55%)の学生が海外渡航を経験しており、4回以上と答えた学生も12%であった(図5-6-2)。



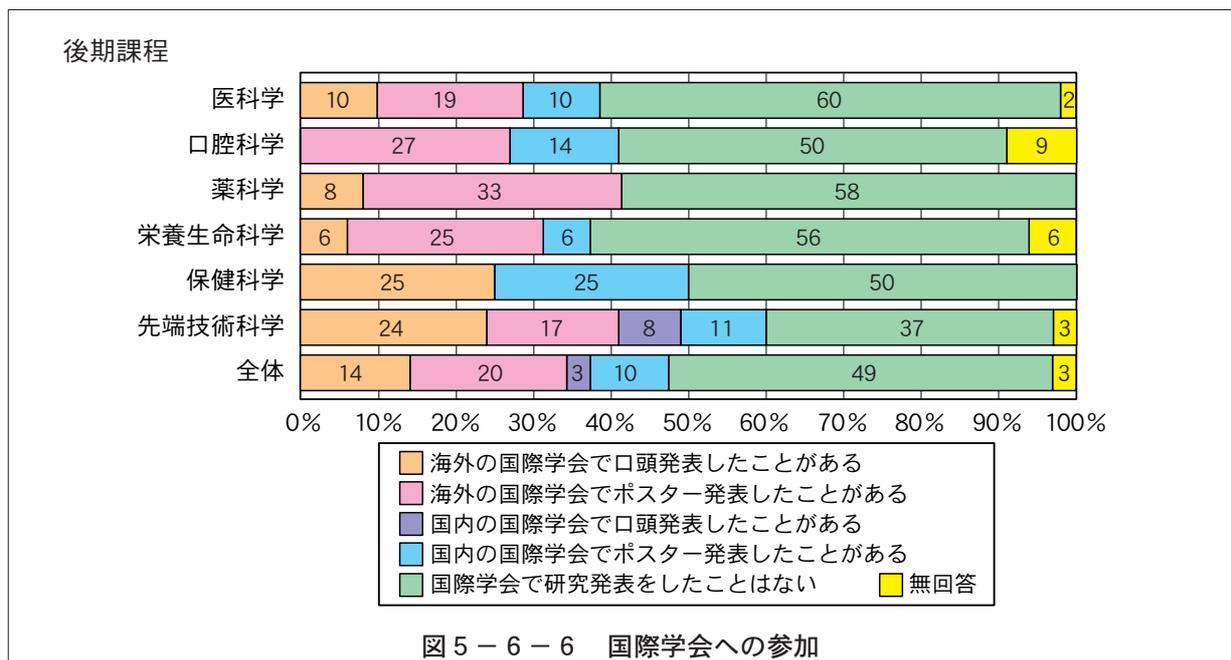
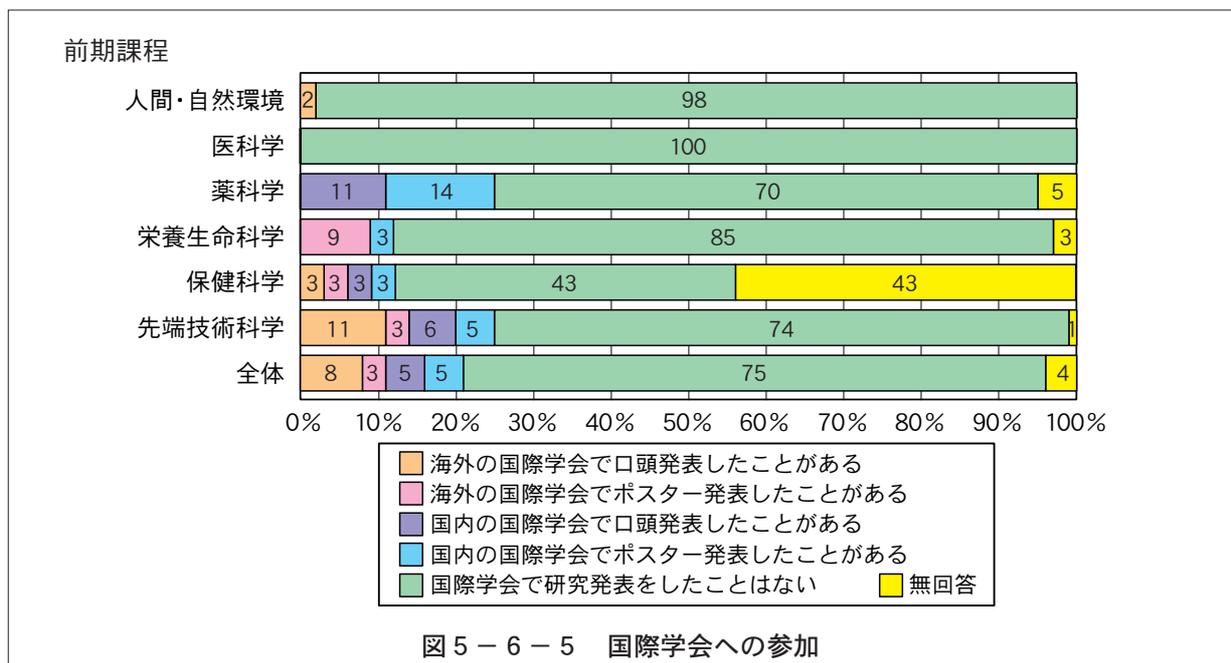


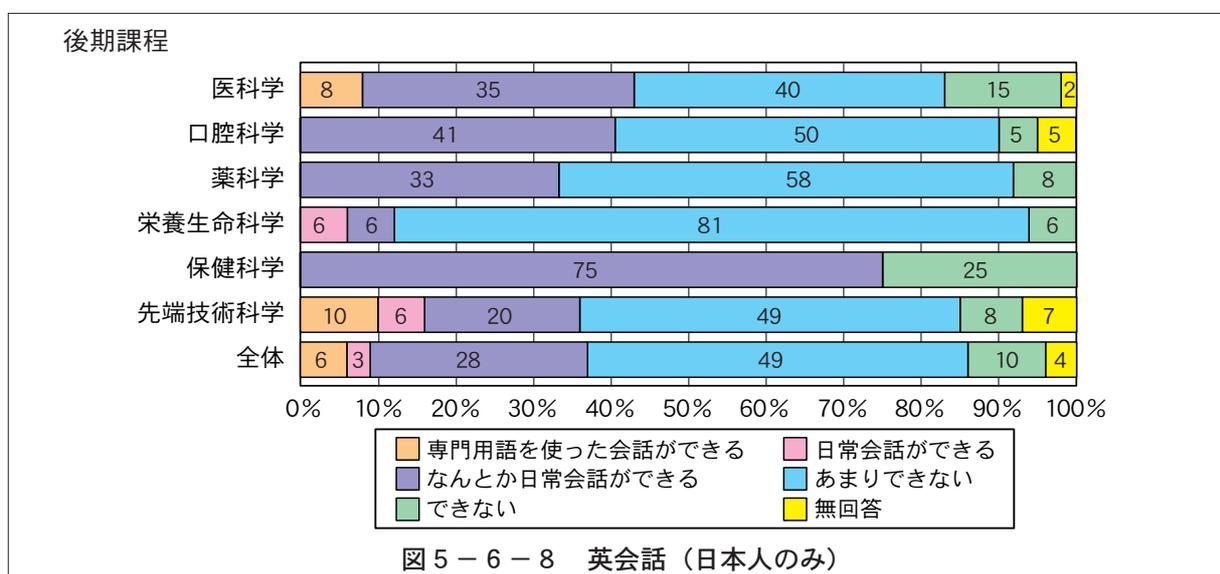
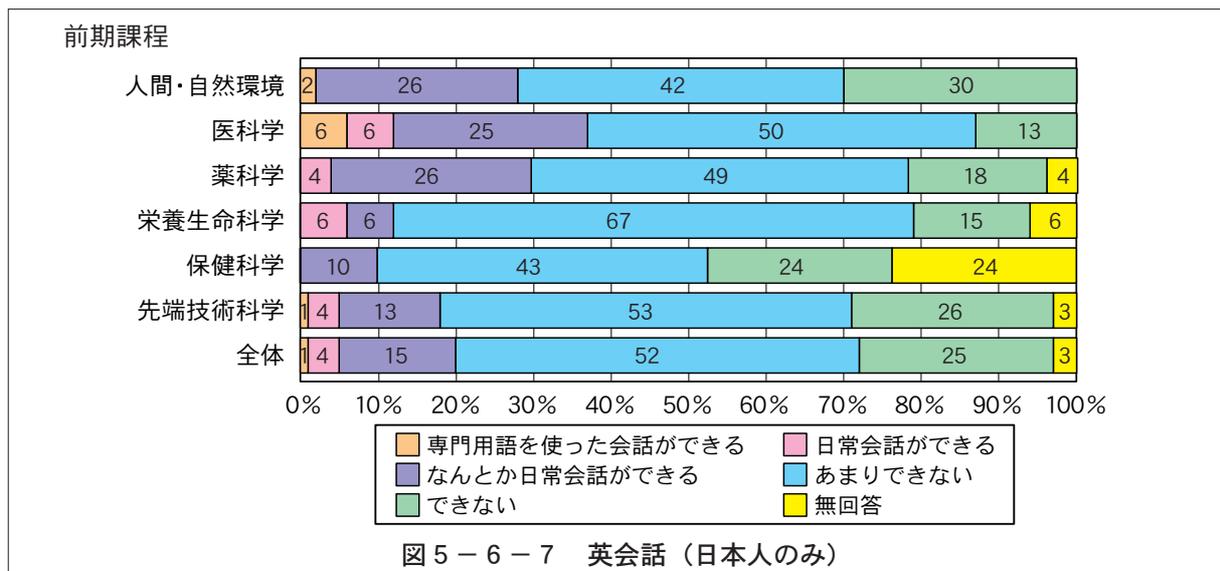
前期課程で海外渡航経験のある学生の83% (161人中133人) は先端技術科学の学生であった。他の教育部・研究科の学生の回答は母数が少ないために傾向は把握しがたい。先端技術科学については「学会参加」が43%と最も多く、次いで「観光」が36%となっている。大学院の早期に海外での学会参加を経験することはたいへん有意義であり、大学としても学生の海外での学会参加を支援するようなシス



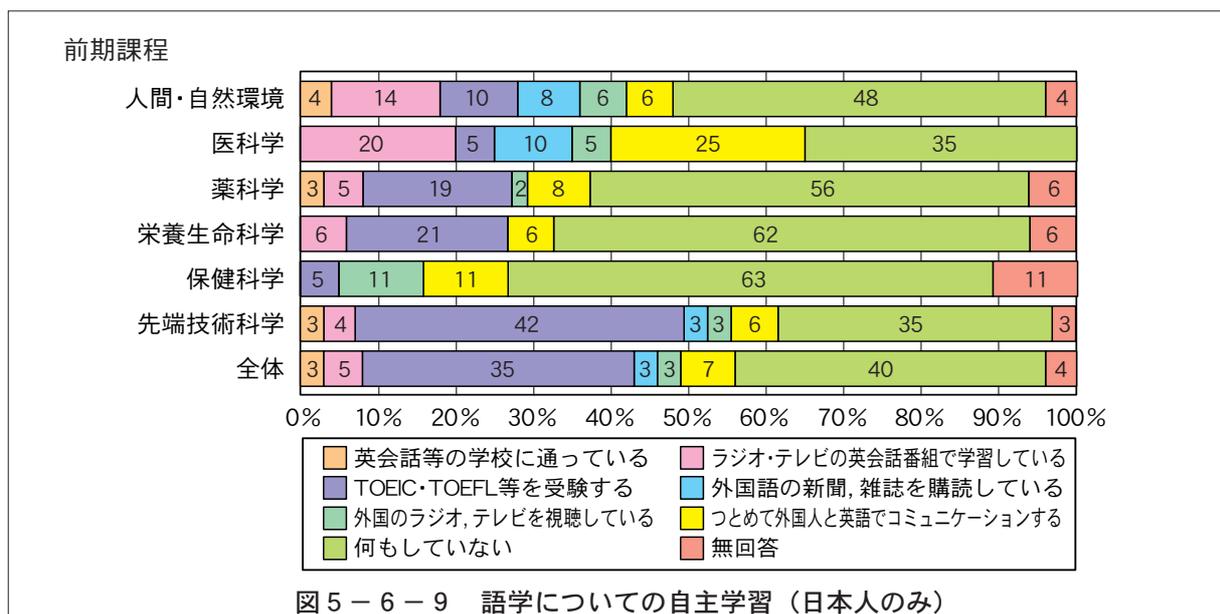
テムを積極的に拡充する必要があると思われる。後期課程では各教育部とも半数ほどの学生が「学会参加」を目的として挙げており、全体でも「学会参加」(46%)が最も多く、国際的な研究活動への学生の取り組み状況が窺われる(図5-6-3, 図5-6-4)。しかしながら、前期課程全体では国内外を問わず国際学会で研究発表をしたことのない学生が75%を占めており、後期課程でも49%の学生は「国際学会で研究発表をしたことはない」と答えている(図5-6-5, 図5-6-6)。今後は国際的に通用する有能な人材を育成するため、大学院教育の国際化強化へ向けた教育カリキュラムの一層の整備が求められる。

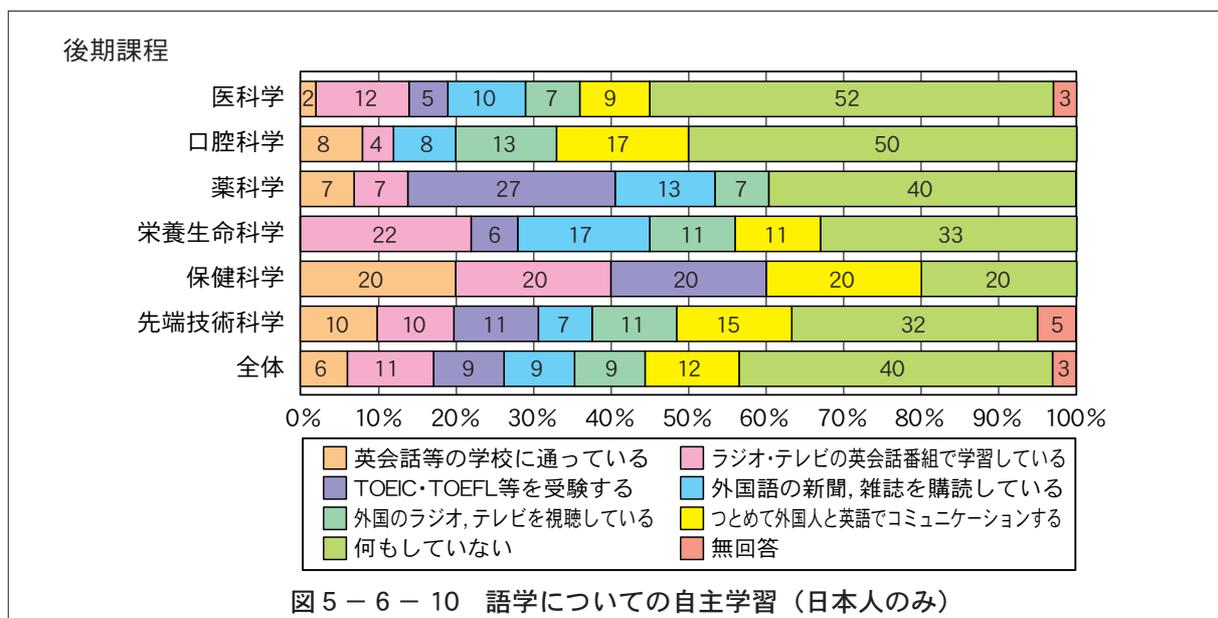
英会話についての質問に対して、前期課程では、栄養生命科学と先端技術科学の約80%の学生ならびに人間・自然環境と医科学、薬科学、保健科学の63~72%の学生が「あまりできない」または「できない」と答えている(図5-6-7)。後期課程においては全体で37%の学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答をしており、「専門用語を使った会話ができる」と答えた学生も6%となっている(図5-6-8)。





語学力を高めるために何かをしているかの質問に対して、前期課程ならびに後期課程のいずれにおいても半数以上の学生が何らかの努力をしており、多くの学生が語学力の重要性を認識していることが窺

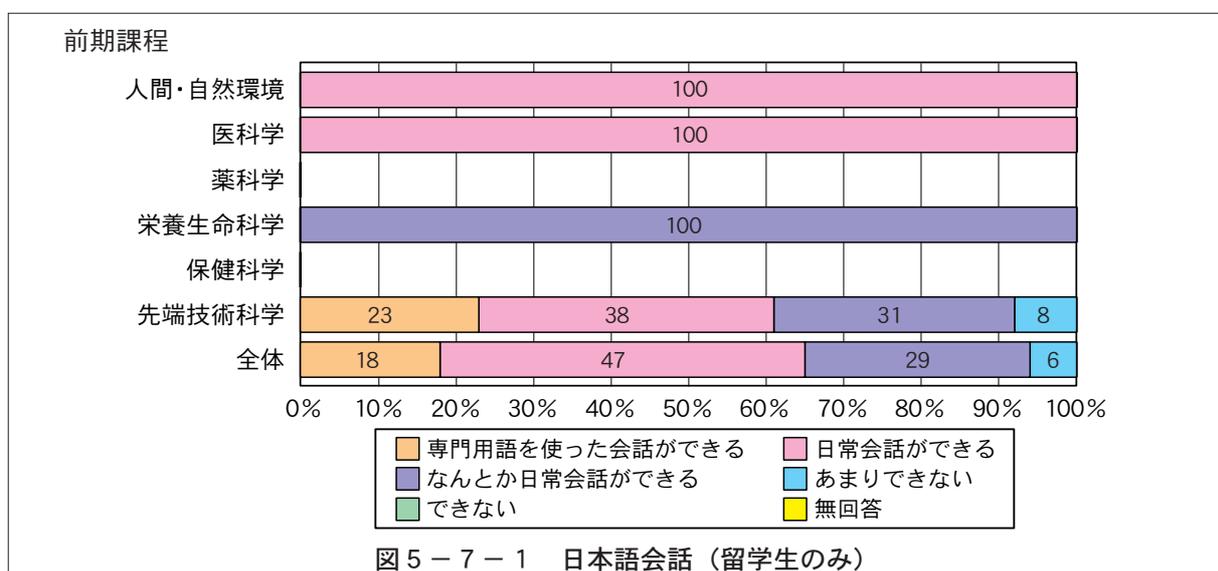


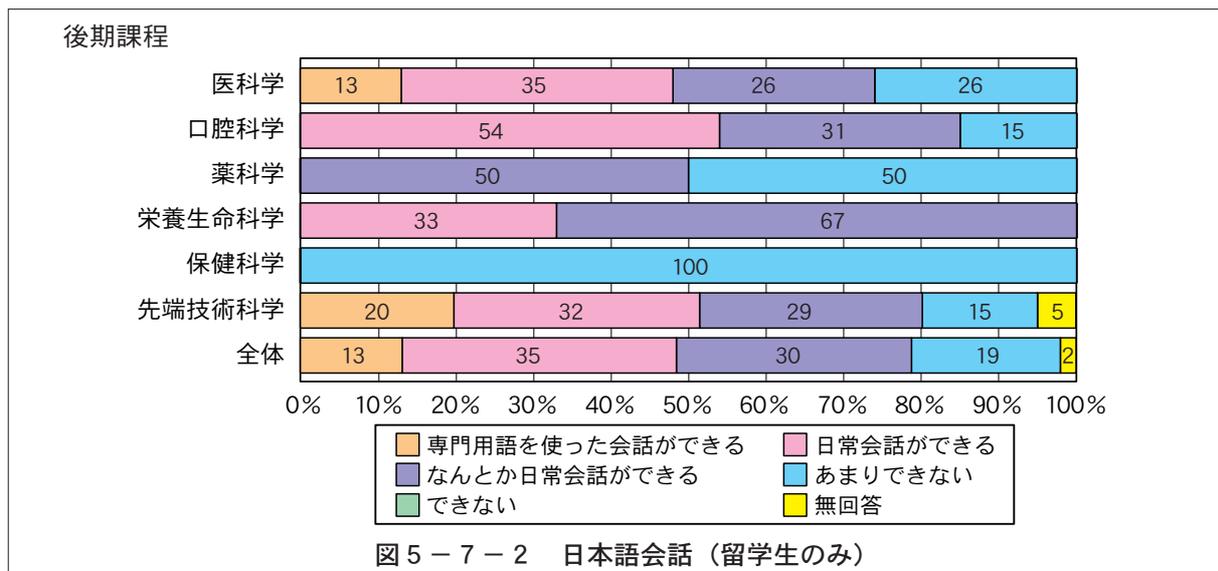


える（図 5-6-9, 図 5-6-10）。具体的な内容については、前期課程では「TOEIC, TOEFL等を受験する」という回答（35%）が最も多いのに対して、後期課程では「TOEIC, TOEFL等を受験する（9%）」に加え、「英会話等の学校に通っている（6%）」、「ラジオ・テレビの英会話番組で学習している（11%）」、「外国語の新聞、雑誌を購読している（9%）」、「外国のラジオ、テレビを視聴している（9%）」、「つとめて外国人と英語でコミュニケーションする（12%）」といった他の項目にも同程度割合で回答があり、学習手段は多様化している。大学院生の語学力をさらに高めるためには、各課程での教育カリキュラムの整備を進めるとともに、学生の個人的な語学学習への経済的援助や環境づくりなどについても検討する必要があるだろう。

5-7 日本語会話（図 5-7-1~図 5-7-6）

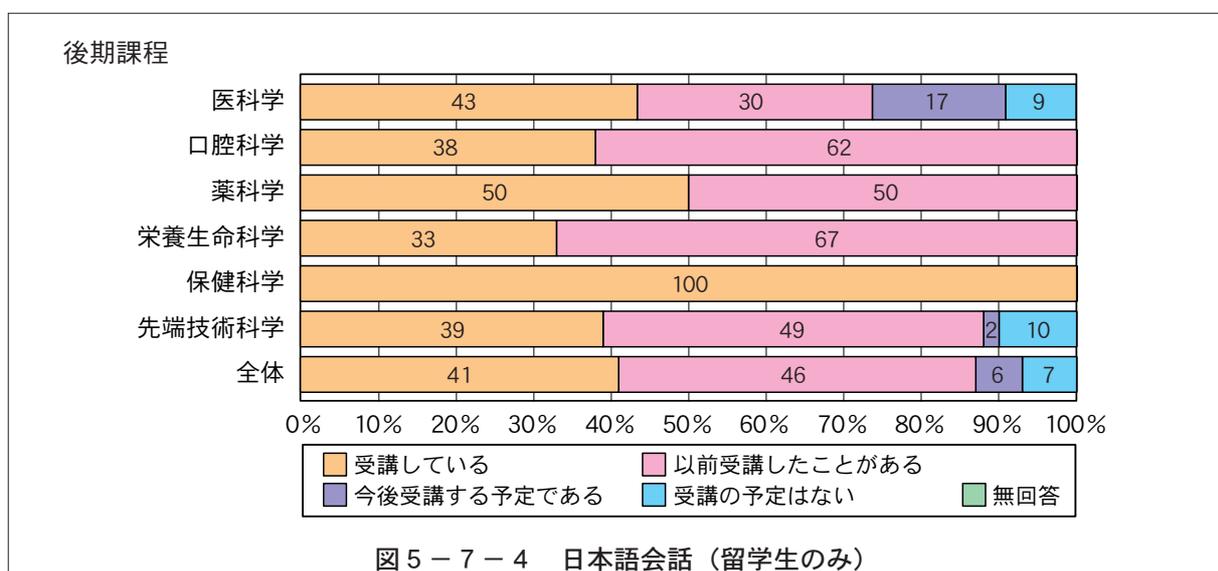
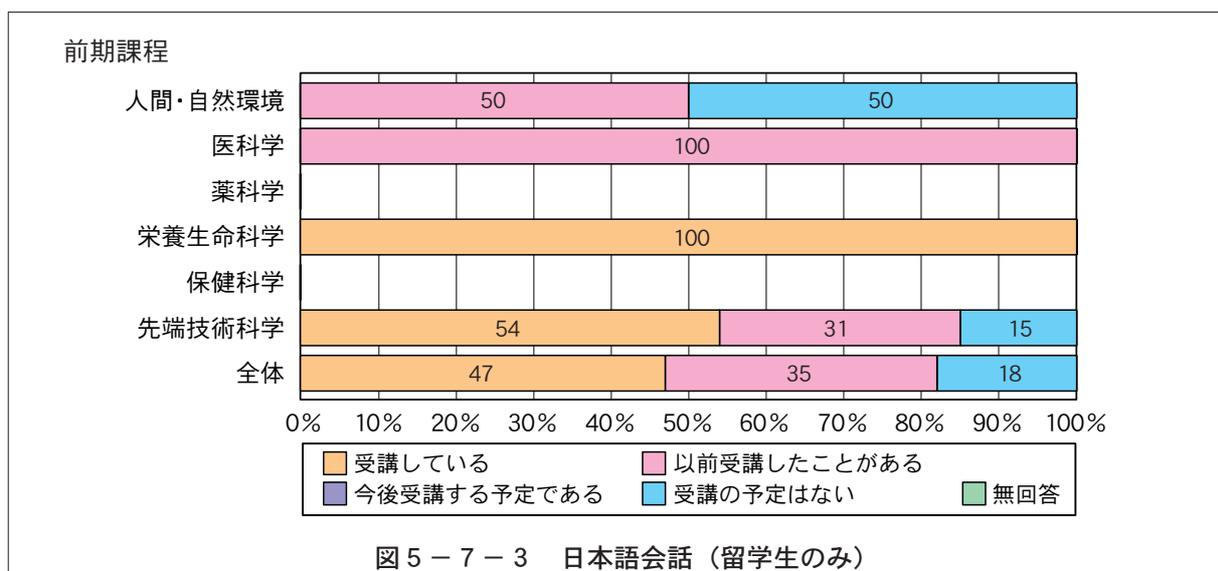
前期課程では94%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答をしているのに対し、後期課程では「なんとか日常会話ができる」以上の回答が78%となっている（図 5-7-1, 図 5-7-2）。後期課程留学生の回答者数（83名）は前期課程留学生の回答者数（17名）の5倍ほどであるが、母数が少ないため教育部・研究科ごとの傾向を読み取ることはできない。前期課程では82%、後期課程では





87%の留学生が日本語コースを「受講している」あるいは「以前に受講したことがある」と回答しており、日本語習得のための日本語コースへの期待の高さが窺われる（図 5-7-3, 図 5-7-4）。

日本語コースへの満足度については、前期課程、後期課程ともに93%の留学生が「満足している」あ



るいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、留学生の日本語学習において「徳島大学が開講する日本語コース」が重要な役割を果たしているといえる（図5-7-5, 図5-7-6）。「どちらかといえば不満である」あるいは「不満である」と回答した留学生（4名）は少数であったが、不満に感じた点を具体的に調査することで「日本語コース」の一層の充実化が期待できるであろう。

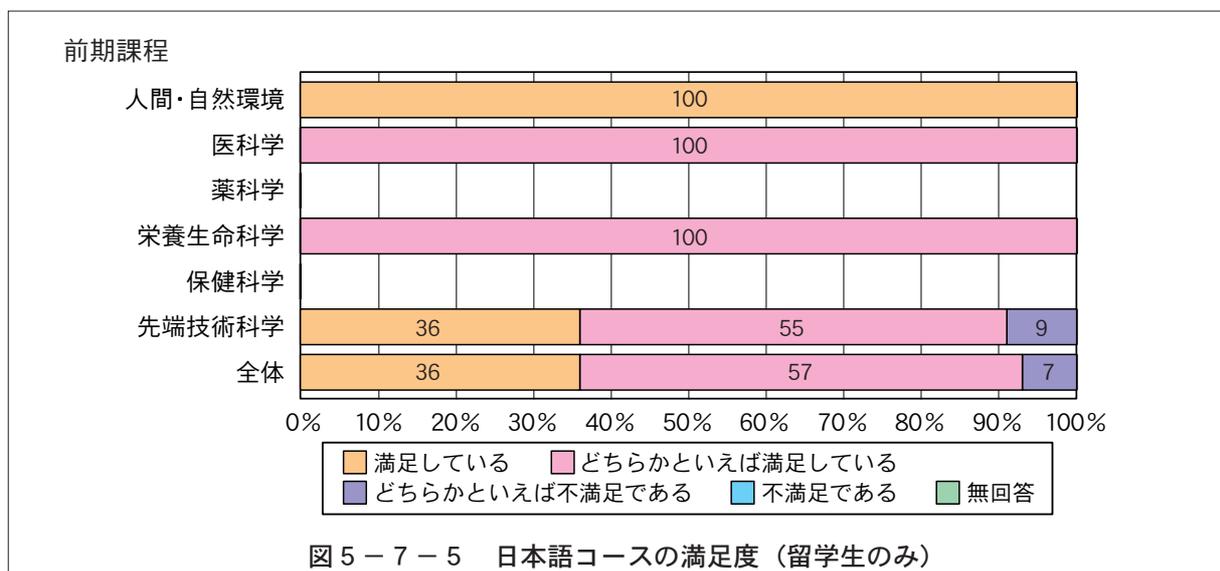


図5-7-5 日本語コースの満足度（留学生のみ）

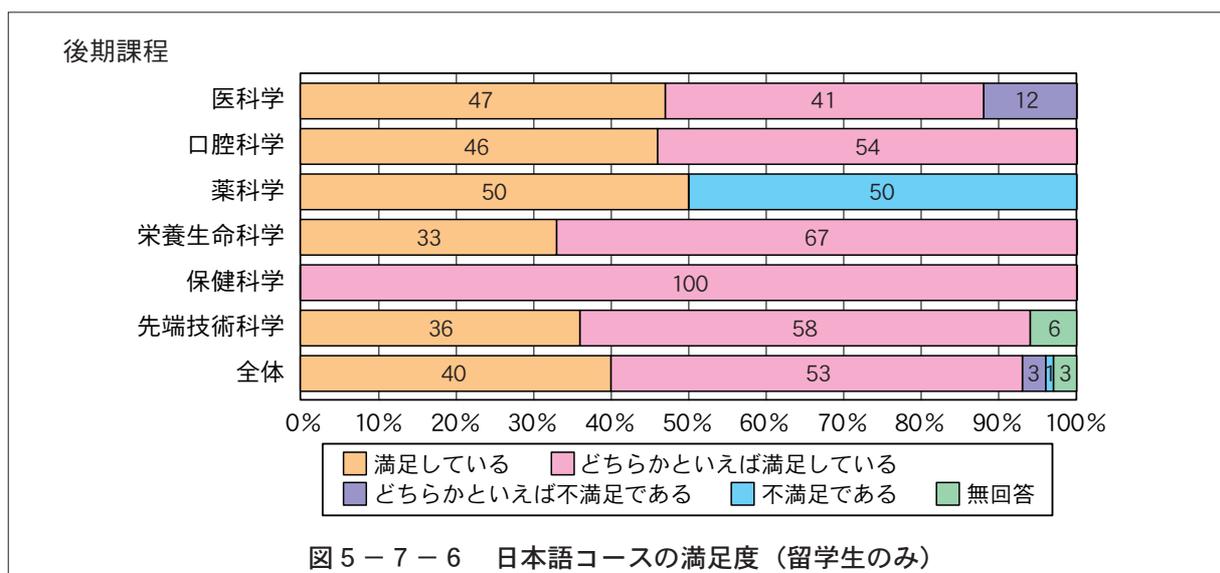
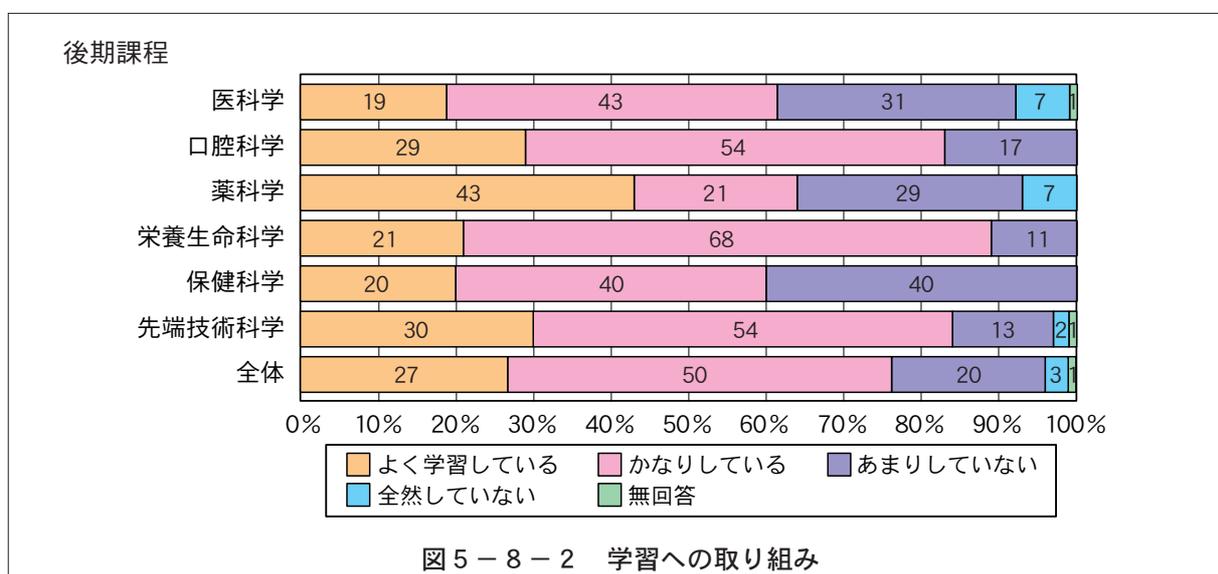
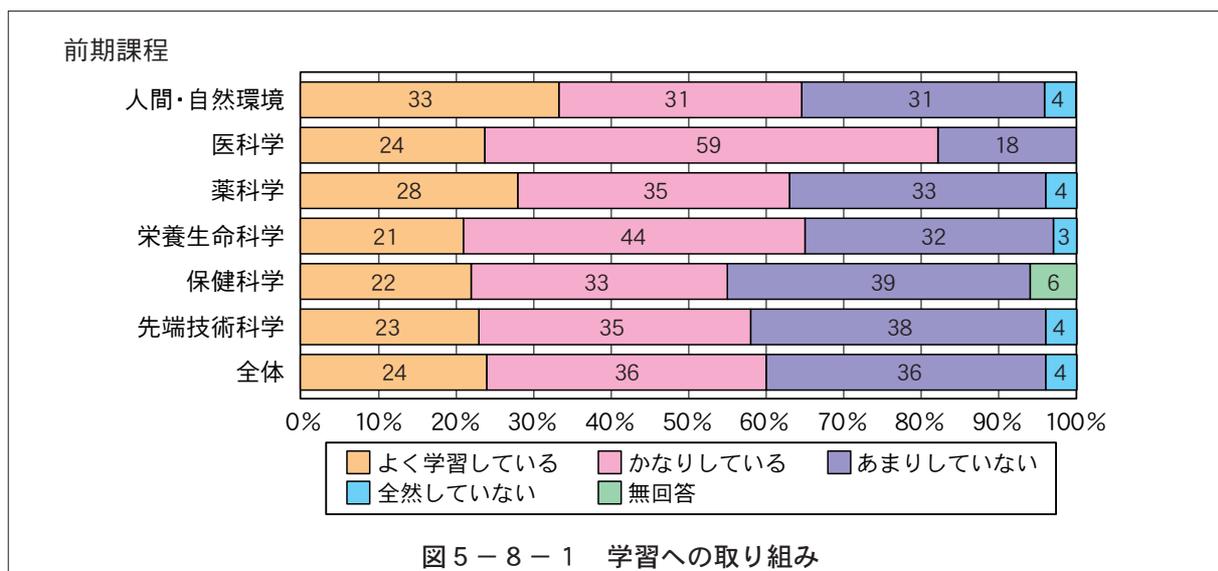


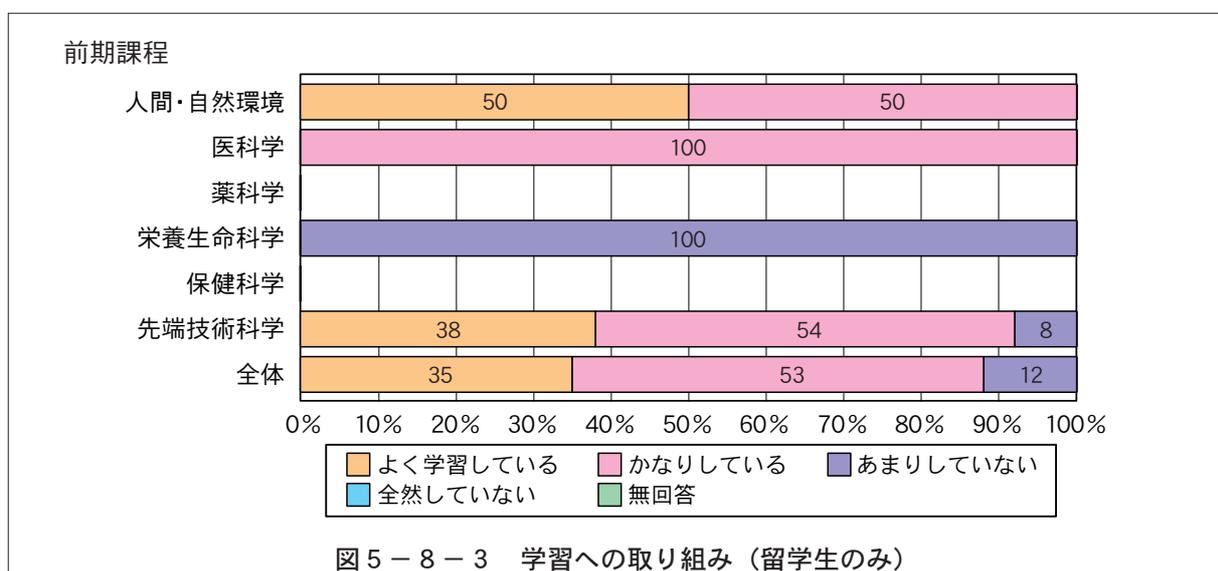
図5-7-6 日本語コースの満足度（留学生のみ）

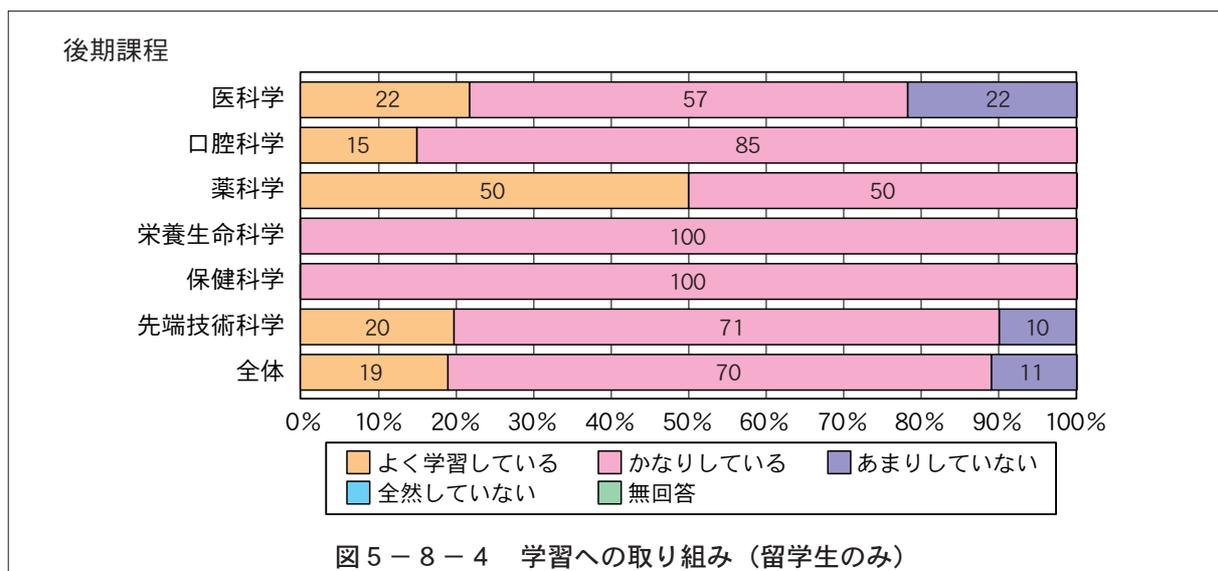
5-8 学習への取り組みと本学の教育への期待 (図5-8-1~図5-8-8)

前期課程全体では約60%の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と答えているが、医科学の学生の同回答は83%にのぼり、医学科以外の出身者であることから高い目的意識を持って学習に取り組んでいることが窺われる（図5-8-1）。後期課程全体では約80%の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と答えているが、医科学、薬科学、保健科学では60%程度にとどまっている（図5-8-2）。また、留学生に着目した場合、「よく学習している」あるいは「かなりしている」と答えた学生は、前期課程（88%）、後期課程（89%）ともに全体での割合を大きく上回っており、それぞれ教育部・研究科において熱心に学習に取り組む姿が窺われる（図5-8-3, 図5-8-4）。今後は、前期課程はもとより後期課程においても、各教育部・研究科の教育理念に基づいた系統的教育カリキュラムの確立が急務であろう。



3年前に実施された第1回大学院生生活実態調査と同様に、中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」（平成17年9月）に挙げられている「新時代の大学院教育の展開方策について質問した。複数回答可で回答項目に列記した6つの方法を選択肢として回答を求

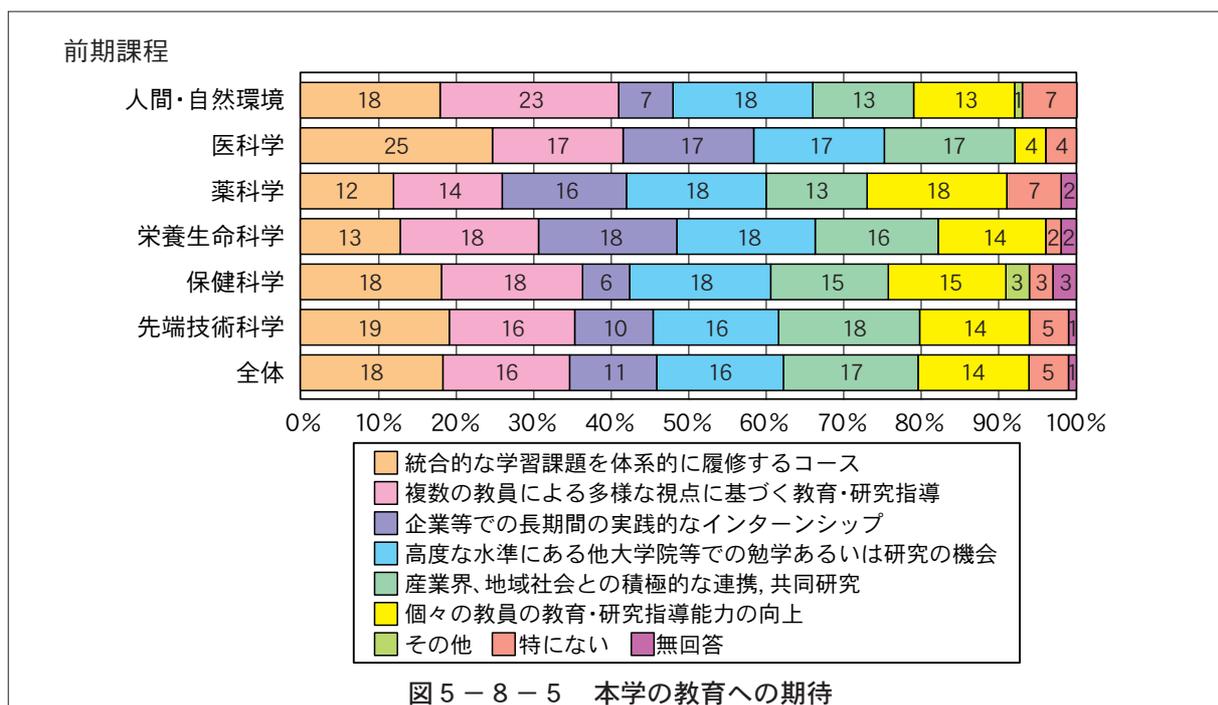




めたが、前期課程、後期課程ともに、ほぼ全ての方法に意見が分かれた。前期課程あるいは後期課程を問わず、学生は各自の目的に応じた多様な教育を求めていることが窺われる(図5-8-5, 図5-8-6)。

さらに、本学の国際化への取組についての質問に対しては、前期課程では68%、後期課程では77%の学生が「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と答えており、国際化を進めるための取組がある程度大学院生にも評価されている(図5-8-7, 図5-8-8)。しかしながら、教育部別に見ると、前期課程では薬科学(49%)と保健科学(45%)において、後期課程では薬科学(43%)において、上記回答の割合が低くなっている。また、留学生に着目した場合、「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と答えた学生は、前期課程(100%)、後期課程(87%)とともに学生全体での割合を上回る結果となっている。

今後は、各教育部・研究科における教育カリキュラムの組織的展開を強化し、国際的に通用する質の高い大学院教育の提供を目指さなければならない。また、国際化への対応が積極的であるとの100%の評価が得られるよう、各教育部・研究科あるいは大学全体としての一層の努力が必要である。



後期課程

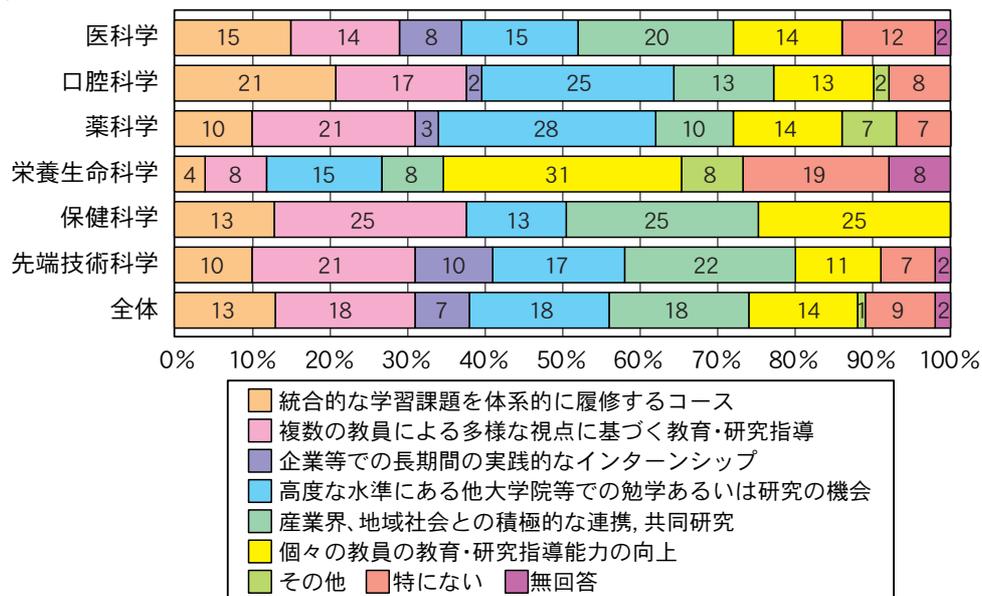


図 5-8-6 本学の教育への期待

前期課程

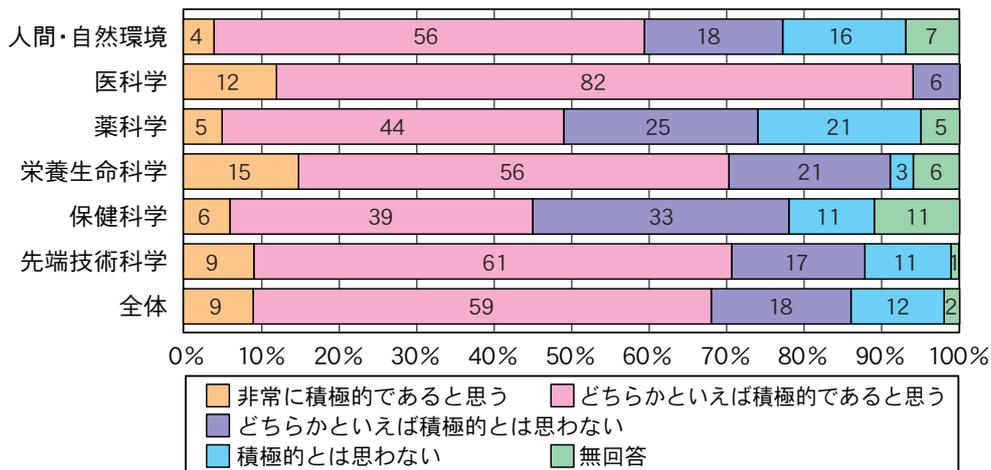


図 5-8-7 本学の国際化への対応

後期課程

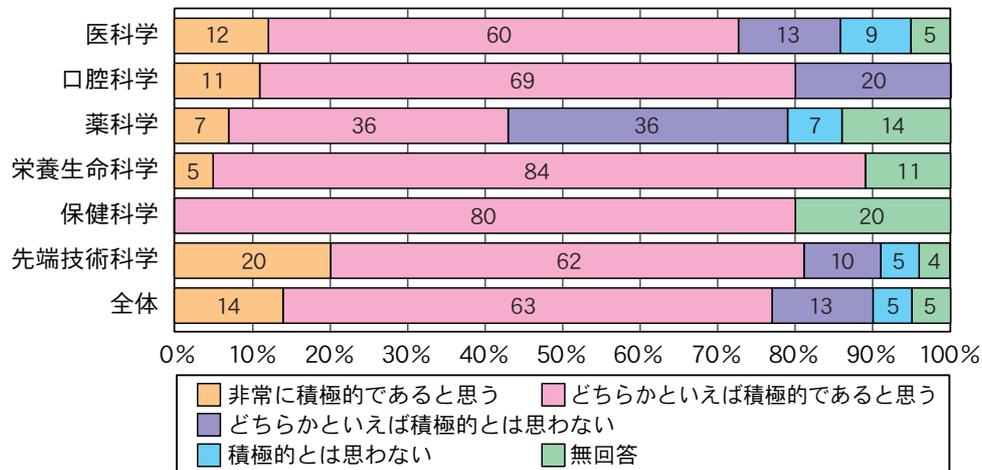


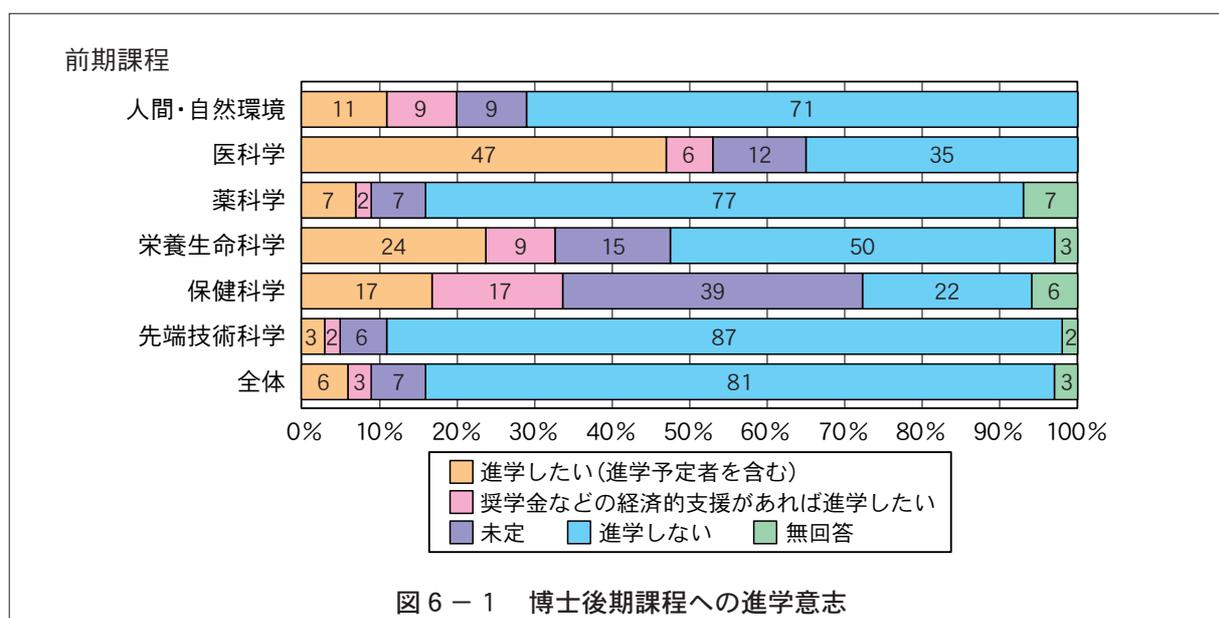
図 5-8-8 本学の国際化への対応

第6章 進路・就職について

6-1 博士後期課程への進学意志 (図6-1)

前期課程学生の後期課程への進学意志が高いのは医科学で、質問項目74で回答1または回答2を選んだものが53%、次いで、保健科学と栄養生命科学それぞれ34%、33%である。逆に、先端技術科学では87%、薬科学の77%、人間・自然環境の71%が回答3「進学しない」と答えている。

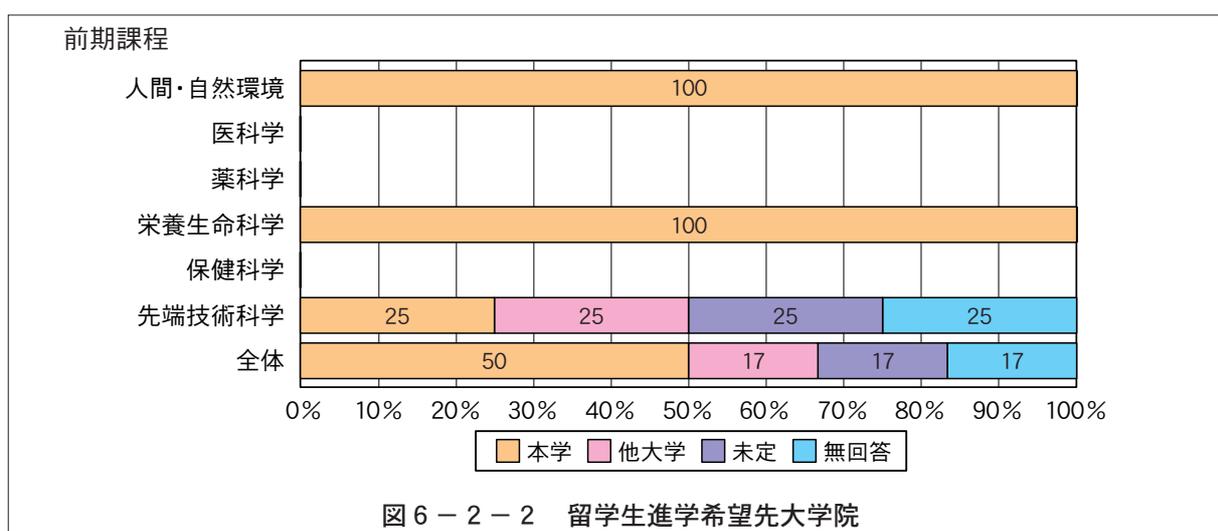
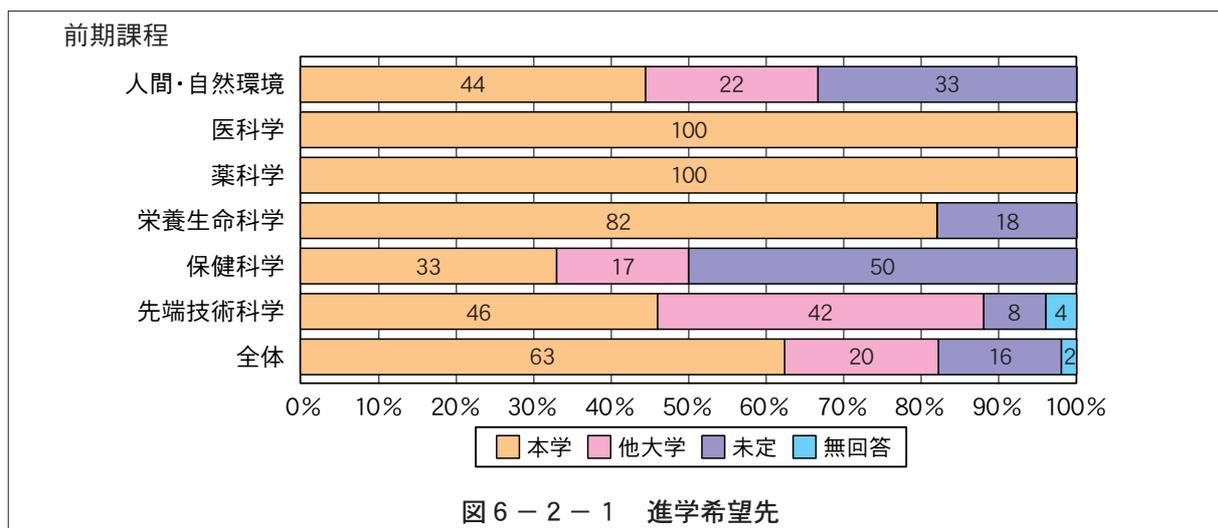
続く項目6-2, 3で詳述するが、進学しないと答えたものは技術職や専門職に就くために前期課程に入学したものと思われ、また進学希望者は研究の継続意志があるものと想像される。



なお、留学生の回答者は、人間・自然環境2名、医科学、栄養生命科学、先端技術科学がそれぞれ1名、1名、13名で先端技術の無回答1名を除き全員「進学しない」と答えている。

6-2 進学希望先 (図6-2-1, 図6-2-2)

前項目で進学意思を示した学生の進学希望先大学院の調査である。この時点(平成20年11月)で人間・自然環境には後期課程が開設されていないので、本学志望者(44%)も他の教育部を志望することになる。医科学、薬科学、栄養生命科学は本学志望者が多く継続した研究環境を望んでいるものと思われる。保健科学は未回答が目立つが実数は回答1, 2, 3がそれぞれ2名, 1名, 3名である。先端技術科学は本学志望と他大学志望に二分している。



6-3 就職希望職種 (図 6-3-1 ~ 図 6-3-4)

図 6-3-1 は項目 6-1 で「未定」「進学しない」と答えた前期課程の学生の就職希望職種である。「進学しない」が 87% の先端技術では、技術職 59%、企業等の研究職 19% と企業への就職を目的に前期課程の修了を目指していることが窺われる。この傾向は薬科学（「進学しない」77%）でも同様で、企業等の研究職と専門職を合わせると 67 パーセントである。保健科学はすでに就職しているものを除くと大学・官公庁の教育・研究職と専門職に集中している。他の研究科や教育部では希望職種が広く分散している。

図 6-3-2 は後期課程の院生に就職希望職種を尋ねたものである。全般に無回答が目立つ。回答した者が項目 1, 3, 5, 8 などに集中しているのは順当であるが、もしも、これらの職種に就職出来そうにないとの考えが無回答に反映しているならば問題である。

留学生に関しては、修士・博士前期の回答者は 9 名（人間・自然環境 1 名、医科学 1 名、先端技術科学 7 名）であり（図 6-3-3）、後期課程の回答者は 87 名（医科学 23 名、口腔科学 13 名、薬科学 2 名、栄養生命科学 3 名、保健科学 1 名、先端技術科学 45 名）である（図 6-3-4）。前期課程、後期課程ともに、大学・官公庁の教育・研究職を志望する者の比率が高い。

前期課程

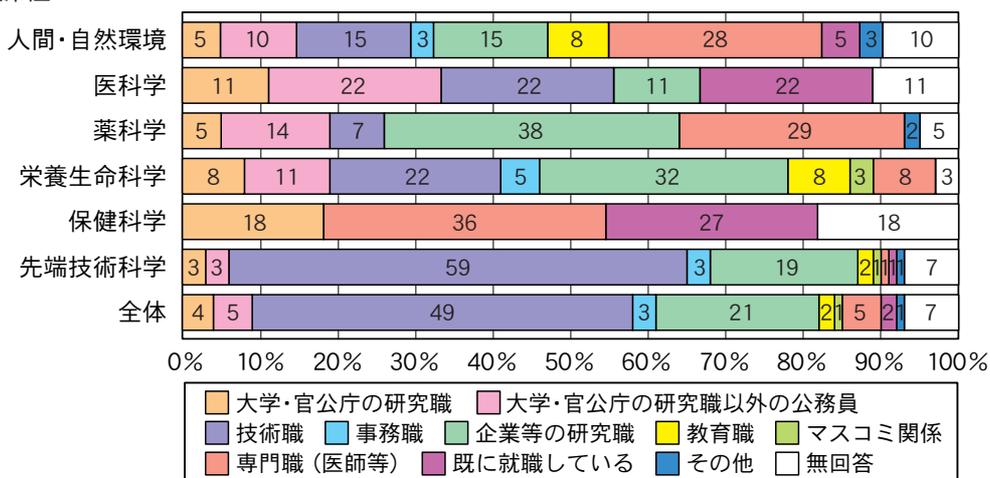


図 6 - 3 - 1 就職希望職種

後期課程

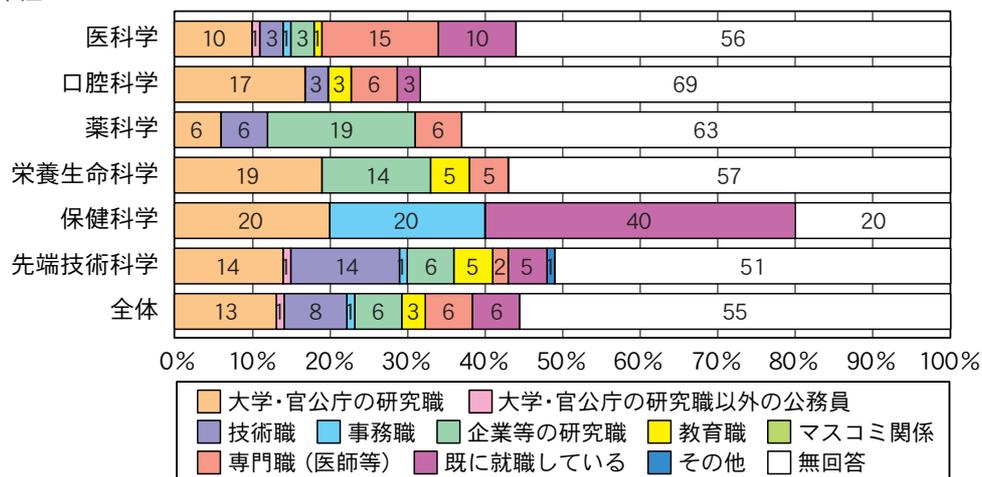


図 6 - 3 - 2 就職希望職種

前期課程

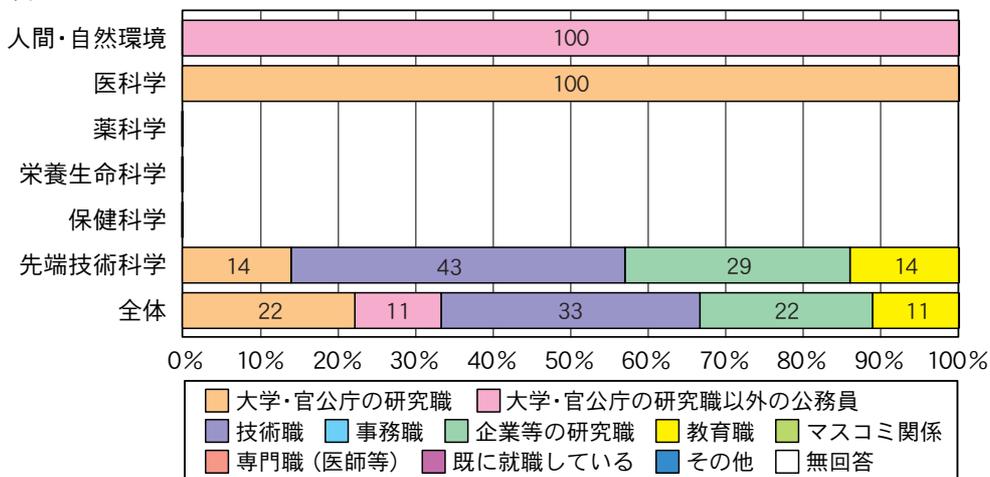
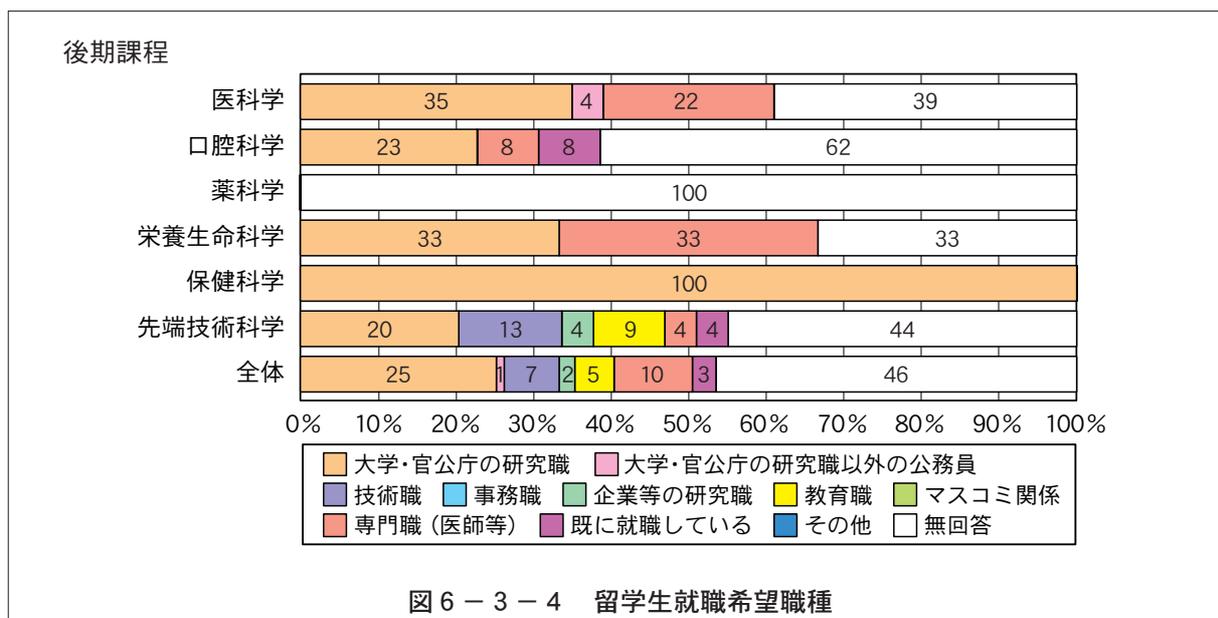


図 6 - 3 - 3 留学生就職希望職種



6-4 進路選択の要件 (図 6-4-1、図 6-4-2)

図 6-4-1 は前期課程の院生に進路選択で重視する要件を問うたもので複数回答結果である。どの教育部においても収入，就職先の将来性・安定性，能力を發揮できることの3点が主要要件になっており，これに勤務地，社会的評価が次いでいる。学部学生の調査では勤務地や人間関係も重要な要件であった。今回の項目には人間関係はないが，勤務地の重要性は少し低い。

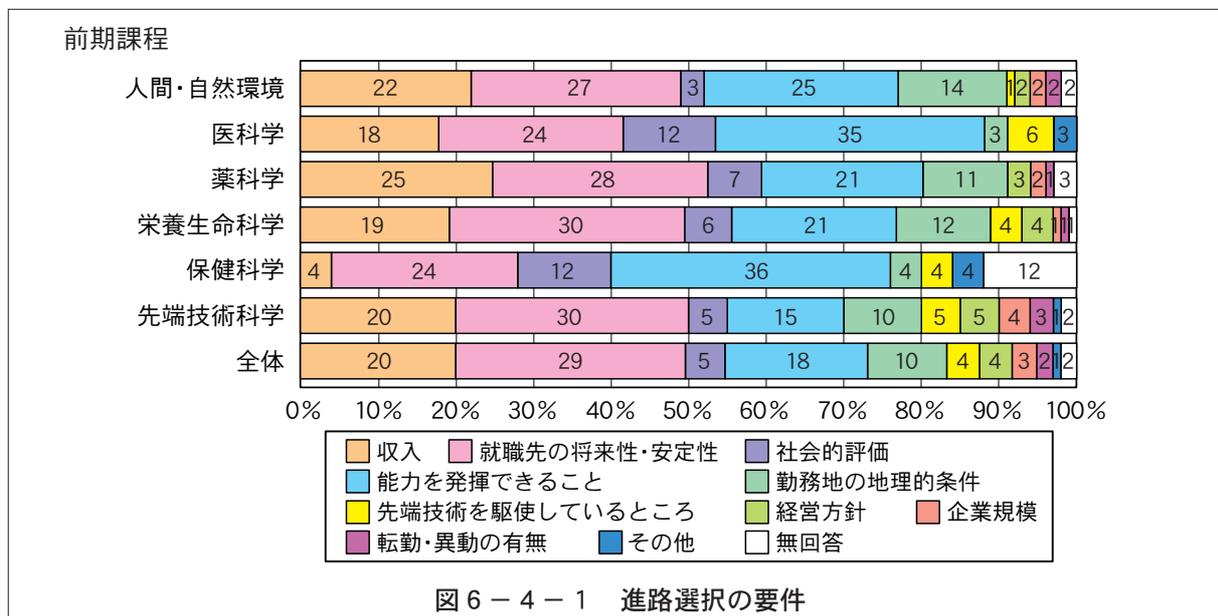
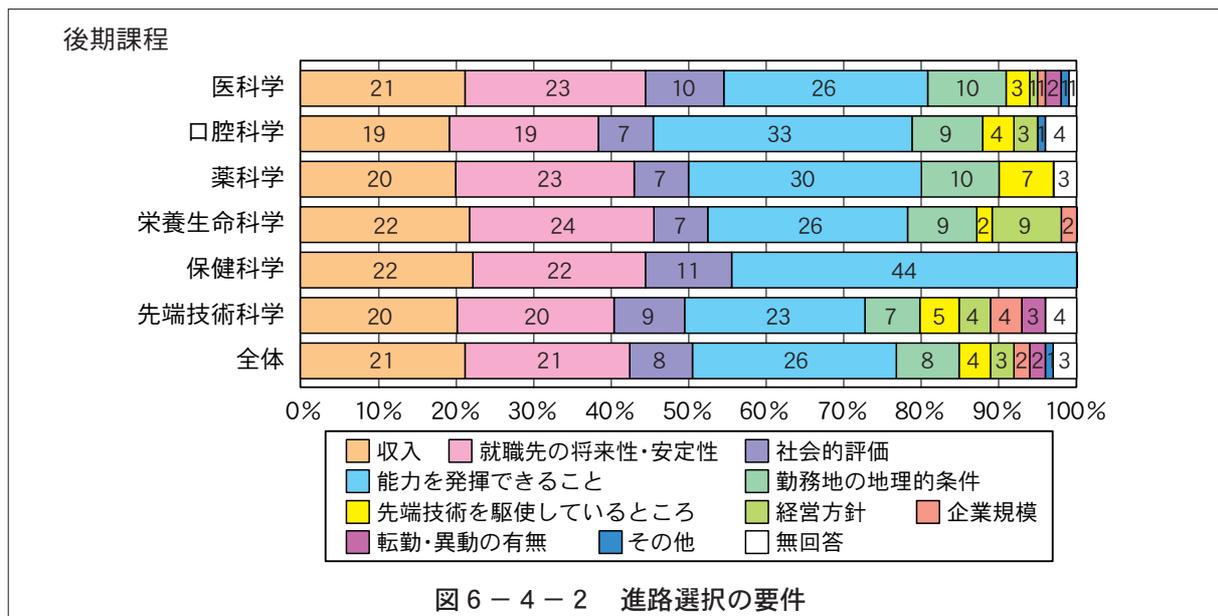


図 6-4-2 は後期課程の院生に進路選択で重視する要件を問うたものである(複数回答可)。前期課程と同じく収入，就職先の将来性・安定性，能力を發揮できること，の3点が主要要件になっており，勤務地，社会的評価，などがこれに次いでいる。

留学生においても同様で，収入，就職先の将来性・安定性，能力を發揮できること，の3点が主要要件である。

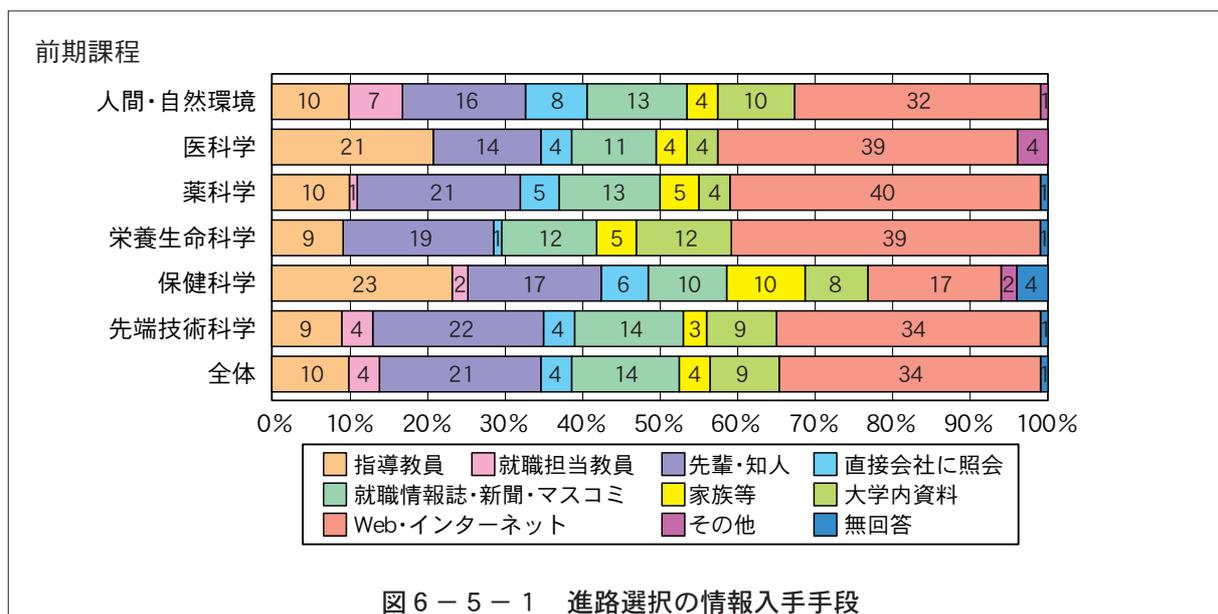


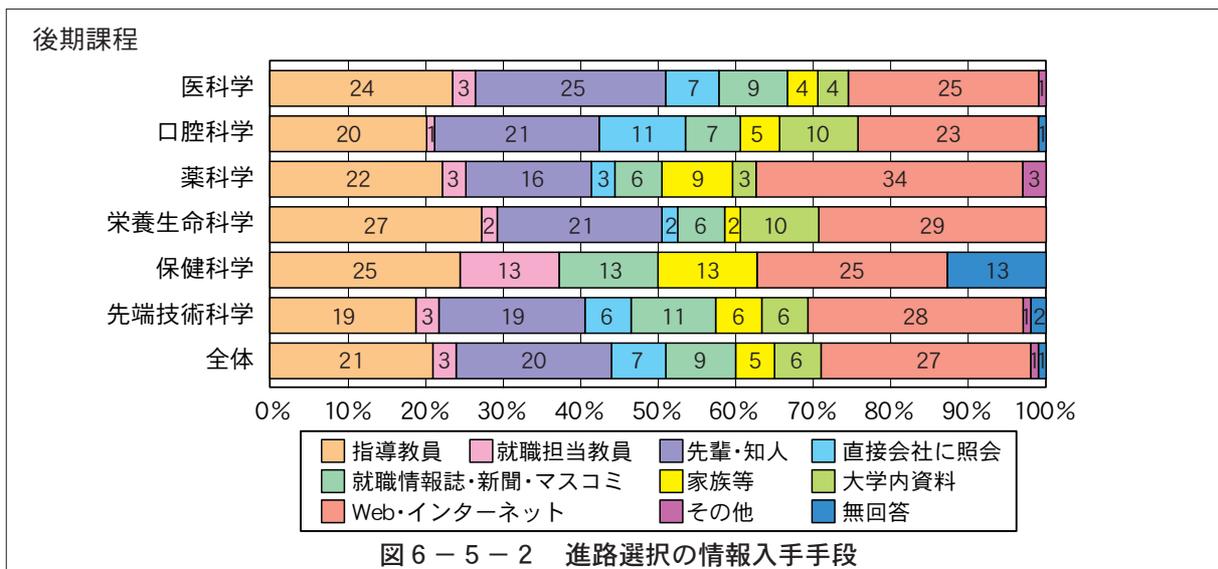
6-5 進路選択の情報入手手段 (図 6-5-1, 図 6-5-2)

進路情報の入手手段で目立つのは Web・インターネットである。前期課程，後期課程ともに高比率を占めている。就職情報誌・新聞・マスコミを加えると，近年，学生がオープンな情報源を活用している様子が窺える。Web・インターネットでは，就職情報のほか他大学院の進学情報の入手が容易であることが比率の上昇に寄与しているかもしれない。

大学院修了者の場合，専門性の高さから指導教員の役割が高いと想像される。しかしアンケート結果によると，後期課程者は前期課程者に比べ若干高いが，それでも栄養生命科学，保健科学を除き 25% を越えない。この調査は複数回答であり，また重要度も反映してないので相対的に指導教員の回答比率が低いかもしれない。先輩・知人の回答比率は指導教員に匹敵するかもしくはそれ以上で，重要な情報源になっていると思われる。

留学生においても同様の傾向にあるが，「先輩・知人」が少し減り，その分，回答 5 の就職情報誌等が増えている。

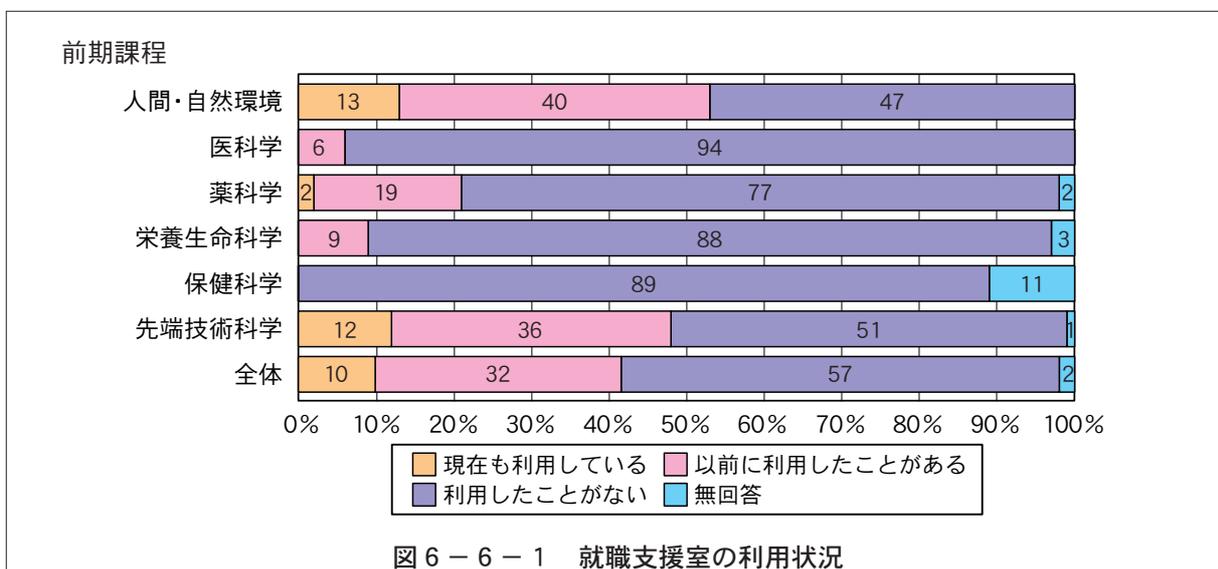


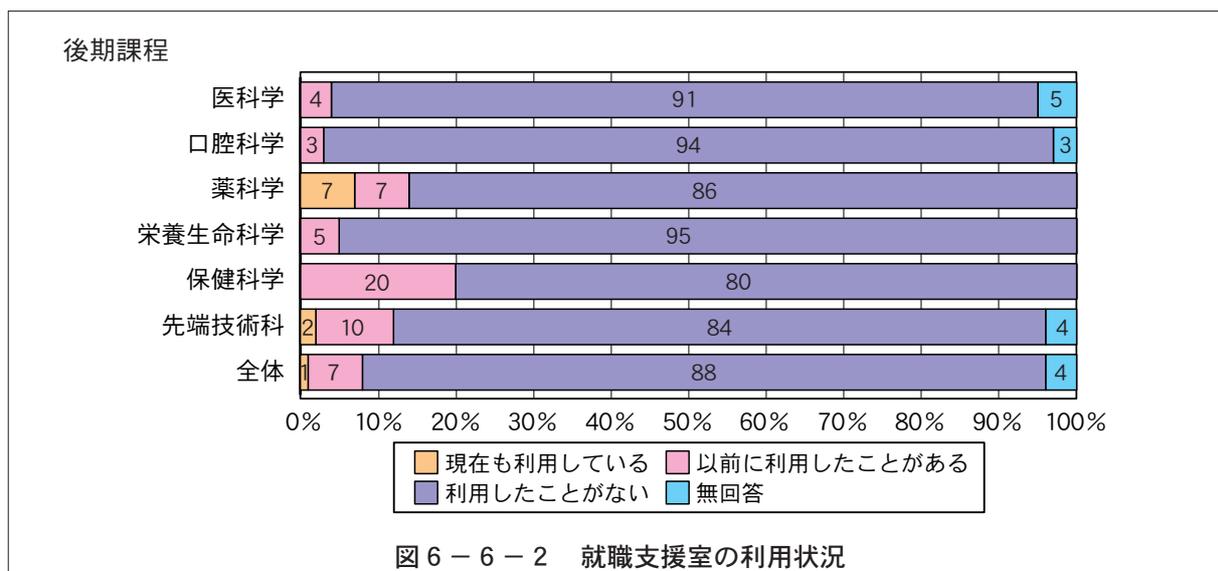


6-6 就職支援室の利用状況 (図 6-6-1, 図 6-6-2)

本学大学院生は、ほとんど就職支援室を利用していないと回答している(図 6-6-1, 6-6-2)。予想をはるかに下回る利用率である。以下の理由が考えられる。就職支援室は主に一般企業情報を扱ってきた。一方、本学大学院の学生は専門性の高い資格を持ち特殊な業種へ就職することが多く、その求人・就職情報は各研究科・教育部経由で入手される場合が多い。この傾向は蔵本地区の教育部では顕著であると思われる。したがって、就職支援室のサービスも常三島地区の学部生を中心に行ってきた。しかし、人間・自然環境及び先端技術科学の学生は、就職支援室の提供する就職ガイダンスや企業説明会にかなり参加(工学部学生に匹敵する人数が参加)しており、意識してなくとも実質の利用率は、より高いと思われる。

入学時や適当な時期に就職支援室の利用ガイダンスがないために、利用方法が分からないという意見を聞くことがあり、来室や、HP を参照などの直接利用がないことからこのような調査結果になったと思われる。前項目で Web・インターネットなどの利用率が高いことを考えると、就職支援室の利用ガイダンスを充実すれば、利用率は向上する可能性がある。なお、2009 年度から就職相談など蔵本地区のサービスも向上している。





留学生では、この傾向はさらに強く先端技術科学の数名を除き全員「利用したことがない」と答えている。就職支援室は、蔵本地区の院生にはなじみのない存在と言える。

6-7 就職に関する大学への要望 (図 6-7-1~図 6-7-4)

この回答項目のなかには、「特になし」がないため、正確なことはわからないが、すべての回答項目をまんべんなく強く要望しているとみるべきであろう。また、前期課程と後期課程の要望においても目立った差は認められない。

前項目 6-6 の結果と、この回答 5 (就職支援室の一層の強化) の比率が高々 10% 程度であることをみると、就職支援室のサービスがほとんど知られていないと痛感させられる。就職支援室の観点では、今回の回答項目は (回答 3 を除き) すべて就職支援室が力を入れているサービスで、学生・院生の参加を呼び掛けているものである。回答 1 は利用者が少ないので部数は少ないが多種そろえている。回答 2 は支援室の主要業務の 1 つで就職相談や就職ガイダンスで繰り返し提供している。熱心に参加する学生が増加している一方、まったく無関心な学生も多い。回答 4 の企業説明会は他大学に比べ充実していると自負するのだが、参加学生は固定化されてきていると感じられる。回答 6 は各教育部でも、また就職支援室でも努力し成果をもっているものと思われる。なお回答 3 は、生協の協力で公務員講座があり受講学生の合格率は高い。

今回のアンケートが院生対象であったことから、最近私学で盛んなカリキュラムに組み込んだような就職指導を要望しているとは考えにくい。以上を考慮すると、次のどちらかが原因で今回の調査結果に表れたのではないかと思われる。

1. 大学の就職支援活動が学生に知られていない。
2. 学生の期待するものと大学が提供するもの間に質の差がある。

いずれにせよ改善が望まれる。

有意の差といえるかどうか判断に苦しむが、留学生においては、回答 2 と回答 6 の比率が少し高い。具体的な対処方法と、留学生を受け入れてくれる企業の開拓を要望していると思われる。

前期課程

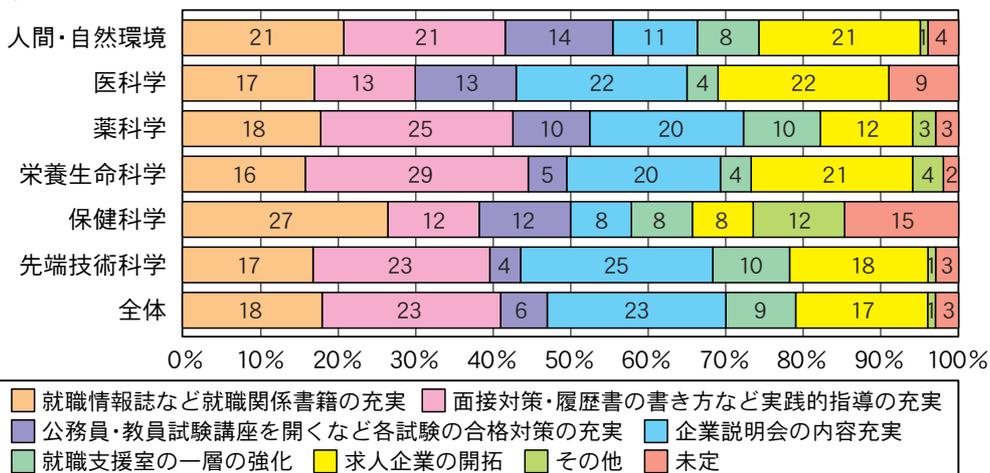


図 6-7-1 就職に関する大学への要望

後期課程

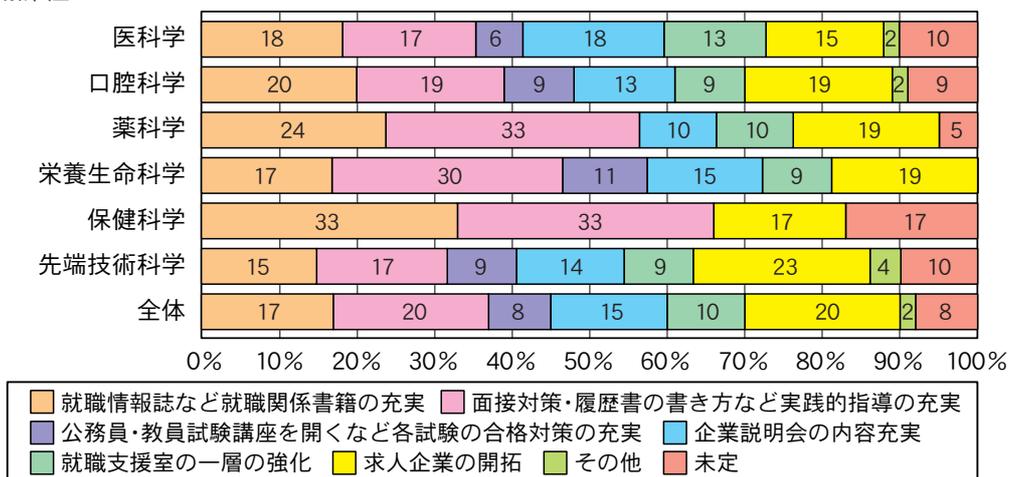


図 6-7-2 就職に関する大学への要望

前期課程

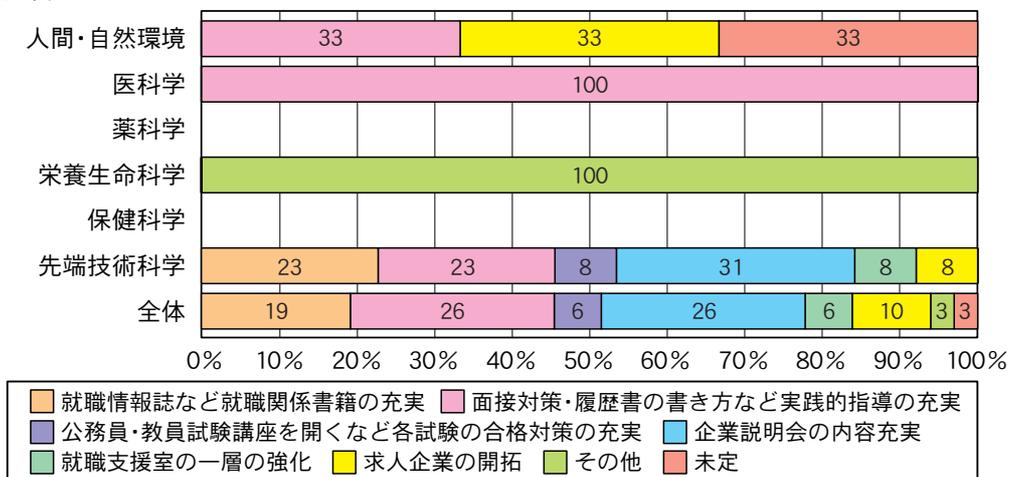
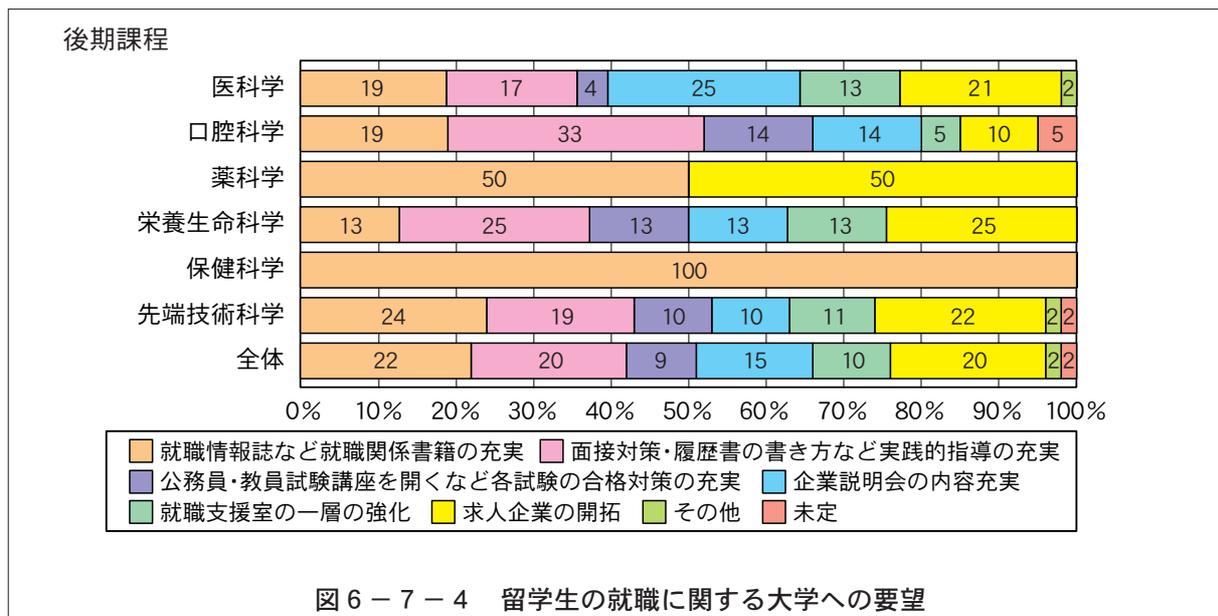


図 6-7-3 留学生の就職に関する大学への要望



以上をまとめると、前期学生の後期課程への進学意志については、比較的高い医科学、それに次ぐ保健科学、栄養生命科学と、多くが「進学しない」と答える先端技術科学、薬科学、人間・自然環境に二極化している。進学しないと答えたものは希望職種を技術職や専門職等と答えており、就職のために前期課程に在籍していると思われる。また進学希望者の多くは、本学を希望していて研究の継続意志があるものと想像される。後期課程の学生の希望職種は、大学・官公庁などの教育・研究職や専門職の比率が高いが無回答も多い。質問項目 80「就職に関し大学に要望すること」の自由記述では、研究職、専門職の就職求人情報を求めるものやポスト対策、教育職への就職支援を求めるものが多数あった。中には卒業後研究継続可能なポストを大学に要求するものもある。博士課程修了後の教育・研究職への就職が厳しいことを反映していると思われる。

進路選択で重視するものとして、自由記述では、職種、仕事内容、興味ある研究テーマなど自分のやりたいことを掲げるものが多数あった。選択肢 4 の「能力を発揮できること」とは別の事柄と捉えている模様である。また休日や福利厚生、家庭・育児との両立を挙げる者もいた。

就職情報の入手法では、Web・インターネット、就職情報誌・マスコミなどの公開情報源の利用が高く、指導教員や、先輩・知人などがこれに続く。一般企業のみならず、教育・研究職、専門職などの求人情報もこれらを通じて得ているものと思われるが、先の質問項目 80 に対する自由記述の要求に見られるように後期課程修了後の就職は厳しそうである。就職支援室は高度に専門な求人情報に関するサービスをしていないため、利用が極端に少ないと思われる。ただし、自由記述には、合同企業説明会や、無料送迎バスの増便に関するものもあり、一般企業志望者の無意識の利用はかなりあると思われる。

留学生は、教育・研究職志望が高く、また要望では「求人企業の開拓」をあげている。大学・官公庁でも一般企業でも就職先を見つけることが難しいようである。大学に対し、よりよい就職支援を求める自由記述もあるが、就職支援室の利用は極端に低いので、専門に特化した支援を教育部に求めているのであろうか。

第7章 研究科・教育部の現状と課題

7-1 人間・自然環境研究科

今回の調査では、人間・自然環境（修士課程）の在学者86名中45名の回答を得た（回収率52.3%）。以下に、アンケート調査からうかがえる本研究科の現状と課題を、主な項目に即して検討する。

まず第1章「家族・住居、通学」についての大学院生の状況を見てみよう。家庭の年間収入は500万円～750万円未満が最も多く（36%）、全学平均の28%と比較してこのグループの比率が高い。前回調査と比較して目につく点は、自宅通学者が減少していることである（46%から31%に減少）。これに対応してか、住居費も、4～5万円が最も多く（48%）、前回調査と比べて増加の傾向を示している。

第2章「収入・支出」については、親からの援助を除いた収入3万円未満が44%で最も多く、この点はほぼ全学の平均に近いが、学生の収入の状況は多様である。親等からの援助額は「まったくない」が38%と全学平均の28%を上回っている。1か月の平均支出額は、5万円未満が合計で45%あり、ほぼ平均的であるが、支出を抑えた生活をしていることが推測される。ティーチングアシスタントについては、62%（全学平均では44%）が従事している。リサーチアシスタントに従事したことのある者は、大学院全体で見ても前期課程では少ないが、本研究科でも2%にすぎない。アルバイトについては、49%がアルバイトに従事しており、従事時間数では、5時間未満が32%、10時間未満が32%である。週15時間以上アルバイトに従事している学生が、合計すると15%にのぼっている。アルバイト収入額は、5万円未満が合計すると81%となる。また前回調査と比べて、アルバイトでトラブルを経験したことがある学生の割合が増加（13%から25%に増加）していることに注意する必要がある。

第3章「健康状態」については、本研究科の大学院生の睡眠時間はほぼ良好であるといえるが、「気になる症状」については、「時々ある」（38%）、「常にある」（14%）と、大学院全体の平均をわずかに上回っており、健康に不安を抱えている学生が多いことに注意が必要であろう。「現在の精神状態」についての回答では、ほぼ全学の平均に近いが、「いらいらする」、「なんとなく不安」、「落ち込みやすい」、「やる気が出ない」などの精神状態を訴えている者が、合計すると35%程度いる。大学院生のメンタルヘルスにさらに留意する必要がある。

第4章「学生生活上の問題点」に関する設問は、「学内でアカハラを受けた」との回答が7%あり、他の教育部と比較しても高い数字を示していることに注意が必要である。学生相談室の周知度は、「利用したことがある」（16%）を含め80%で、他の教育部と比較してもその周知度はまずまずといえるが、今後さらに、これを高める努力が必要と思われる。

第5章「修学状況」について、「教育理念や教育方針」の認知度は全学の平均よりも高いとはいえるが、逆に46%の大学院生が「あまり知らない」「知らない」と回答している。また「知っている」と回答した者のうちでも、25%が「教育部・研究科の教育理念や教育方針で教育を受けていると思いますか」の問いに対して「思わない」と回答していることを重大に受け止める必要がある。「教育課程の満足度」に関する問いでは、「満足している」「どちらかと言えば満足している」を合わせた回答は81%であり、学生の満足度は概ね高いといえる。「授業の内容・進め方の満足度」に関する問いでは、受講している授業の内容や進め方について「満足している」と回答した者が33%、「どちらかといえば満足している」が47%となっているが、「どちらかといえば不満足である」（16%）、「不満足である」（4%）と、否定的な回答も多いことに留意する必要がある。

「本学を選んだ理由と目的」に関する質問では、「希望する研究分野があるから」が最も多く（36%）、全学平均の18%を大きく上回っている。また現在所属する大学院が第一希望だったか、に関する質問に

ついても、「第一希望だった」と回答する者が、他教育部・研究科と比較しても多い（徳島大学出身者のうち96%、他大学出身者のうち71%）。これらのことを合わせ考えると、人間・自然環境は、研究分野として、大学院生からも一定の評価を得ていると判断できる。「大学院で勉学することにより、あなたの目指すものは何ですか」との問いに対する回答は、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」（42%）、「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」（29%）、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」（22%）、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」（7%）の順となっている。前回調査と比較すると、研究者を目指す者の割合が大きく増加した。他教育部・研究科との比較では、人間・自然環境の大学院生の勉学の目的意識が多様であることが目につく点である。

「研究活動と研究指導」について、「授業以外の研究活動に費やす1週間平均時間」に関する質問では、「10～20時間未満」（22%）、「20～40時間未満」（22%）、「5～10時間未満」（13%）の順となっており、5時間未満の者は合計で25%で、前回調査と比べて減少した。ただし、今回の調査結果は、人間・自然環境に在学する学生が自己学習に費やす時間には、極めて大きなばらつきがあることを示している。とくに30分未満の者が9%いる半面、40～60時間未満を研究に費やしている大学院生は11%にすぎず、他の教育部・研究科と比較しても、人間・自然環境の大学院生の研究時間は全体として少ないといえる。

「研究の直接の指導教員」を問うた設問では、「教授」（64%）、「准教授」（31%）となっており、教員が直接大学院生を指導している割合は、他の教育部・研究科と比較しても高い。これには助手の数が非常に少ないことや教室の運営体制の違いも関係しているであろう。「研究指導の内容や進め方の満足度」に関する設問では、「満足している」が44%、「どちらかといえば満足している」が42%であり、この項目における満足度も、全学的にも高い方に属する。この結果は、「修士論文の研究テーマに満足していますか」の問いでも、ほぼ同様である（「満足している」49%、「どちらかといえば満足している」44%）。これらの結果には、教員から比較的多くの時間、直接指導を受けることができる人間・自然環境の条件も作用しているものと思われる。「指導教員とのコミュニケーション」に関する設問でも、コミュニケーションが「あまりとれていない」という回答は9%と、全学的にも最も少なく、「まったくとれていない」という回答はなかった。この点では、人間・自然環境での人的な学習環境はおおむね良好であると判断できる。それでは「研究環境と所属大学院に対する満足度」はどうだろうか。「どちらかといえば満足している」が33%、「満足している」が29%と続くが、「どちらかといえば不満足である」が27%、「不満足である」が9%と否定的な回答も多いことが目につくところである。このうち「研究環境に不満足な理由」として第一に挙げられているのが、「施設・設備」（61%）であり、施設・設備に関する不満が、全学でも最も多い。

次に「図書館の利用状況」に関する回答を見てみよう。毎日利用するというものは全体の2%にすぎず、「1か月に1回程度」（36%）、「2週間に1回程度」（27%）、「半年に1回程度」（16%）などの回答が上位を占め、図書館の利用状況は高いとはいえない。それに比べると、図書館ウェブサイトによる文献検索の利用度は、「ほぼ毎日利用」が11%、「1週間に2～3回くらい」が16%で、図書館利用に比べると幾分高いといえる。このような結果を合わせ考えると、図書館の役割やその活用方法が大きく変化してきていることが読み取れよう。

大学院生の生活や研究活動の国際化はどの程度進行しているといえるだろうか。「海外渡航の経験」についての質問では、経験が「ない」とする者が93%、「1回」あるとする者が7%である。また「国際学会において自身で研究発表をしたことがありますか」との問いには、98%が「ない」と回答している。この点では、前期課程での研究活動では、国際的な活動の割合は極めて低い。ただし、全教育部・研究科の統計を見ると、前期課程では国際学会での発表経験のないものが大多数を占めるものの、これが後期課程になって増加するという傾向を示している。このことから、後期課程の発足によって、今後、海

外の学会に参加する大学院生も増加することが予想される。そこでは大学院生の英語能力が問題となってくるが、「英会話」の能力については、「あまりできない」(42%)、「できない」(30%)との回答が多数を占め、「なんとか日常会話ができる」とするものも26%にすぎない。英会話に自信のない学生が多いことがわかる。「語学力を高めるために何をしていますか」との設問では、半数程度の大学院生が何らかの努力をしていることが分かるが、「何もしていない」との回答も48%あり、英会話が「あまりできない」「できない」との回答と呼応しているといえる。国際化に向けて、大学としてのこの方面での促進策や援助が必要となっているといえよう。

第6章「進路選択・就職」については、後期課程への進学意思を持つ者の割合は11%と低いですが、前回調査の6%からわずかに増加している。博士（後期）課程の発足により、今後進学希望者は少しは増えるかもしれない。「進学したい」と回答したもののうち、「本学」と回答したものが44%で、本学に進学したいと考える学生の割合は、他教育部と比較すると低い。これには、後期課程が発足したばかりであるという事情も作用しているのかもしれない。「進路を考える上での情報入手手段」（複数回答可）の質問では、就職担当教員から情報を得る者、直接会社に照会する者の割合は、他教育部と比較してわずかに多いものの、就職支援室の利用については、「利用したことがない」との回答が47%あり、今後、この方面での支援の拡充が求められよう。

最後に、本調査より明らかとなった人間・自然環境の現状と課題を総括しておきたい。

1. 人間・自然環境の大学院生の経済状況は恵まれたものとはいえず、今後さまざまな支援が必要になってくると思われる。
2. 大学院生の健康、とりわけメンタルヘルスの維持・管理には、さらなる努力が求められる。
3. 人間・自然環境では、大学院生と教員との接触度が高いといえるが、アカハラなどの問題も含め、学生生活のためのよりきめの細かい取り組みが求められる。
4. 大学院の教育理念や教育方針について、さらに周知に努め、これらの対応した教育が実践されるよう努力する必要がある。
5. 人間・自然環境では、とりわけ施設・設備に関する学生の不満が高いことに留意し、改善に努める必要がある。
6. 教育・研究の国際化についての学生の意識は高いとはいえない。英語力の向上も含めたサポートが必要である。

7-2 医科学教育部（医学研究科）

前期課程の医科学専攻（2年制）では、在籍している学生が27名でこのうち回答者が17名で回収率は63%であった。留学生は2名在籍し回答者が1名であった。前期課程の学生は回答をした学生の実数が少ないので、アンケート項目を比率で比較する場合はバラツキがあることを考慮する必要がある。また後期課程（内科学専攻、外科学専攻、医学専攻、プロテオミクス医科学専攻の4専攻で4年制）では、228名の学生が在籍しており、このうち回答者が75名で回収率は23.9%であった。留学生は38名在籍しており、そのうち回答者は23名で回収率は60.5%であった。

第1章の「本調査の対象者について」では、医科学については前期課程で「徳島県出身」が29%で、全学平均の36%より少ない。後期課程では35%で、全学平均の30%より少し多い。また、医科学に進学する前の最終学歴では、「徳島大学以外の国内の大学」の割合が全学平均よりも多くなっている。「社会人大大学院生と留学生」については、社会人大大学院生は前期課程で41%、後期課程で56%を占めており、社会人大大学院生の割合が全学平均（前期課程で5%、後期課程で32%）と比較して多い。

第2章の「住居、通学方法、収入・支出について」では、「住居費」については、後期課程で約半数の

学生が6万円以上のところに住んでおり、全学平均と比べて高額になっている。「1ヶ月の平均収入額」では、前期課程で20万円以上の収入があると回答した学生が36%、後期課程では55%を占めている。

「親等からの援助額」については、前期課程の学生の59%が、後期課程では93%が全くないと回答している。これらのことにより、社会人として働いて収入を得て経済的に自立している大学院生が多いことがわかる。「奨学金」については、「現在受給中であるが更に希望する」と回答した学生は前期課程で44%、後期課程で31%いるが全学平均と比較すると割合は少なくなっている。「ティーチングアシスタント」については、後期課程で20%の学生が「現在している」と回答しているが、全学平均の33%と比較して少ない。「リサーチアシスタント」については、後期課程で17%の学生が「現在している」と回答しており、全学平均の19%とほぼ同じ割合である。「アルバイト」については、前期課程で「アルバイトをしている」が18%で、全学平均の49%と比較して少ない。後期課程では37%で、全学平均とほぼ同じ割合である。「アルバイトの収入」については、後期課程で「15万円以上」と回答した学生が64%を占め、アルバイトで高収入を得ていることがわかる。

第3章の「健康状態について」では、「睡眠時間」については前期課程で「6時間未満」と回答した学生が59%おり、全学平均の38%と比較して睡眠時間が少ない。「気になる症状」では、前期課程で「時々ある」と「常にある」をあわせると35%になり、全学平均の49%と比較すると少ないが、全学的にも多くの学生が健康上の不安を抱えており健康面についての更なる大学の支援が必要である。「主な悩みと不安」については、前期課程で79%の学生が何らかの悩みや不安を持っている。全学平均と比較して、「経済状態」や「勉強」についての悩みや不安の割合が多く、「就職や進路」については少なくなっている。「相談相手」については、前期課程で40%が「家族」となっており、「友人」の36%より多い。これは社会人大大学院生が多いことによるものと思われる。「現在の精神状態」では、「充実している」と「気分は普通」を合わせると71%になり、全学平均の60%より多くなっているが、約3割の学生がなんらかの精神的なストレスを感じていることが示唆され、精神衛生面でのさらなる大学の支援が必要と思われる。

第4章の「学生生活上の問題点について」では、後期課程の男子で「配偶者がある」と回答した学生が65%いて、全学の平均45%より多くなっている。「学生相談室の周知度と利用について」では、前期課程で24%、後期課程で44%の学生が「学生相談室を知らない」と回答しており、全学平均と比較して割合が多い。しかしながら、学生相談室の利用者は全学的に増加しており、今後医科学でも増加するものと思われる。「大学事務室の対応」については、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、前期課程で83%、後期課程で78%となりほぼ全学平均の割合と一致している。

第5章の「修学状況について」では、「教育理念や教育方針に沿った教育を受けているか」という質問に対して、「思う」と回答した学生が、前期課程では89%となり全学平均の76%より多いが、後期課程では70%となり全学平均の81%より少ない。「教育課程の満足度」では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、前期課程では94%になり全学平均の84%より多い。これに対して、後期課程では60%になり全学平均の79%より少い。後期課程の学生は、医師免許を持った社会人大大学院生が多く、専門分野の特殊性が他の分野の学生と大きく異なっているためと思われる。「大学院に相等しい教育の実践度」については、「充分に行われている」と「ある程度行われている」を合わせると、前期課程では100%となり、後期課程では91%になった。「授業の内容、進め方の満足度」については「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、前期課程では89%になり全学平均の85%より多い。これに対して、後期課程では70%になり全学平均の81%より少い。「現在所属する大学院に入学した理由」については、前期課程の学生で「希望する研究分野があるから」と回答した学生が36%おり多い。「大学院の勉強で目指すもの」については後期課程の学生で「高度な専門知識と能力を持つ高度な専門職業人」と回答した学生が39%で多くなっている。「1週間の研究活動時間」

については前期課程の学生で週40時間以上と回答した学生が53%おり、全学平均の31%よりかなり多い。後期課程では33%で全学平均の43%より少なくなっている。「研究指導についての満足度」については、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、前期課程では88%になり全学平均の82%より多い。これに対して、後期課程では84%になり全学平均の90%より少ない。「指導教員とのコミュニケーション」では、「充分にとれている」が前期課程で47%となり、全学平均の27%と比較してかなり多い。後期課程では35%となり、全学平均42%と比較して少し少ない。「研究環境についての満足度」については、「満足している」が全学平均と比較して、前期課程で高く後期課程でやや低いという、他のアンケートと同じような傾向になった。「所属大学院についての満足度」についても同じような傾向が見られた。次に、「図書館の利用頻度」と「図書館ウェブサイトの利用頻度」については、利用頻度が前期課程では全学平均よりも高く、後期課程では全学平均よりも低かった。「入学後の海外渡航経験」については、「ない」と答えた学生が前期課程で76%おり全学平均と同じ割合である。後期課程では49%で全学平均の45%とほぼ同じ割合である。「国際学会への参加」については、「国際学会で発表したことがない」と回答した学生が前期課程では100%、後期課程では60%でどちらも全学平均よりも割合が多い。「学習への取り組み」については、「よく学習している」と「かなりしている」を合わせると、前期課程では83%になり、全学平均の60%と比較するとかなり多い。後期課程では62%となり、全学平均の77%と比較するとすこし少ない。

第6章「進路選択、就職について」では、「博士課程への進学意志」について、前期課程では「進学したい」と回答した学生が47%を占めており、全学平均の6%を大きく上回っている。「進学先」は「本学」が100%になっている。「進路選択の情報入手手段」については、前期課程と後期課程の両方で「指導教員」、「先輩、知人」、「Webインターネット」などの割合が多い。「就職支援室の利用状況」については、「利用したことがない」と回答した学生が前期課程で94%、後期課程で91%を占めている。全学平均（前期課程は57%、後期課程88%）と比較して割合が多い。これは就職先が病院などの医療分野で一般の就職先とは異なることによる。しかしながら今後は蔵本地区の就職支援室に病院などの医療分野の就職情報を集めて医学系の学生の就職支援を充実させることが必要と思われる。

今回の調査で明らかにされた問題点と課題は、

1. 健康面や精神衛生面での支援の充実
2. 後期課程における修学上の満足度向上
3. 国際学会への参加の促進

等が挙げられた。

7-3 口腔科学教育部（歯学研究科）

今回の調査では、口腔科学60名中35名の回答を得た（58.3%）。

口腔科学を取り巻く環境は、ここ数年大きく変化してきている。最大の原因は、臨床研修制度で平成18年より大学を卒業して、国家試験合格後に臨床研修を行うことが必修となったことである。それ以前は、大学卒業後に国家試験の可否に関わらず、基礎系或いは臨床系の大学院に進み、博士課程を修了後に臨床研修を受ける者もいたが、必修化後は大半の学生が卒業後直ちに臨床研修に進むようになった点である。もう一つは、歯科医師過剰問題である。これは以前より問題になっていたが、近年特に卒業後年齢の浅い若年歯科医の中にワーキングプアともいえる現象が見られ始めたことである。以前より、医師、歯科医師は大学附属病院の医員としての修業時代は薄給に甘んじ、知識と技術の習得に専念するものと相場が決まっていたが、歯科に於いては歯科医師の過剰と患者の減少がピークとなり、大学病院といえども患者数は徐々に減少しつつある。

このような状況下で臨床研修医を終了した後、改めて大学院に進学して基礎的な研究に打ち込もうという者が激減した。加えて大学全体で年毎に進行している定員削減方針は、大学院修了後の研究生生活の継続をより困難としている。このため、口腔科学大学院に進学する学生の中で社会人と留学生の占める割合が増加してきている。社会人は医科学、保健科学で多いが、これらの教育部の社会人は、大学卒業とほぼ同時に就職し、それほど日を経ずに社会人大学院生となったものが多いのに対し、口腔科学の社会人大学院生の多くは、就職後数年を経て、或いは歯科医院を開業した後に大学院に入学したものが多く点である。但し、全体を通してアンケートの結果をみれば、他の教育部と大きな相違は見られない。

第1章の「出身地・最終学歴」では、関東以北がいないことと外国の大学出身者（留学生）が多いことで、留学生の占める割合は27%と先端技術科学のシステム創生工学専攻に次いで多い。第2章の「家計・住居」では、医科学と並び年間所得が1,000万円以上の者が多い一方、250万円以下が占める割合も多い。これは社会人大学院生のうち経済的・時間的余裕の出来た者が一定数存在していることと対照的に、歯科医師免許を取得したばかりで臨床経験の乏しい大学院生には条件の良いアルバイトが殆ど無いことから、二極化が起きていると考えられる。奨学金の受給者と、現在未受給で受給を希望する者の割合は77%と最も多く、TAの従事者と希望者も同様に最多である。アルバイトの従事時間は多様であり、5時間未満から20時間～25時間未満までと分散しているが、25時間以上は見られない。アルバイト収入も3万円未満から15万円以上と分散し、他の教育部より収入は良いが、医科学には及ばない。アルバイトにおけるトラブルでは客とのトラブルや雇用者とのトラブルが薬科学に次いで多く、主として留学生のアルバイト先と考えられる。第3章の「健康状態」に関しては、頭痛が3分の1を占めている以外特記事項は見られない。主な悩みや不安、現在の精神状態に関しても口腔科学としての特徴は見られない。第4章の「学生生活上の問題点」では、男子で既婚者が22%、女子で42%と、やや多い傾向にある。迷惑行為のうちアカハラが8%と、今回の調査では他の教育部に比し突出して多い。また盗難の被害も多いことが挙げられる。しかし、学生相談室への相談は少ない。第5章の「修学状況」では、教育理念・方針の周知度は約半数で、教育に対する満足度は8割以上である。大学院に入学した理由及び目的では、大きな特徴は見られない。各個人毎に理由や目的が異なり、複数回答もあり、医科学の個別回答に見られる「学位取得が第一」もあると思われる。1週間の研究時間も多様である。又、1週間に研究指導を受ける時間は、90分から5時間未満が大半でそれ以上の割合も多く、指導や研究テーマについての満足度も平均以上である。但し、直接の指導教員の教授の割合が他の教育部の平均53%に比して34%と低く、その分、准教授、講師、助教の割合が高くなっている。また、個別回答で「自分の意見は全く通らない」「ゴールが見えない」など指導教員のアカハラを窺わせる様な回答もみられる。図書館の使用頻度、ウェブサイトの使用頻度は薬科学に次いで高く、ウェブの満足度も他より高い。日本人院生の英会話力は低く、今後の課題と考えられる。また、個別意見の中に教員の英語能力が不十分な点を指摘しているものがある。第6章の「就職支援」に関しては、口腔科学では積極的に行っていない。これは歯科医の就労事情によるもので、今後口腔保健学科に修士課程ができる際に具体的な問題が提起されると考えられる。

以上を総括すると、以下の諸課題がある。

1. 各個人の経歴や環境が多様であることを踏まえ、それぞれのニーズに答えるために、研究支援体制作りが必要である。
2. 研究指導體制での留意点としてアカハラ等が生じないようにFD活動も重要である。
3. 英会話力向上の支援体制が求められている。
4. 2年後の口腔保健学科の修士課程の設置を鑑み、就職支援体制の構築が必要である。

7-4 薬科学教育部

今回の調査では、薬科学の在学者178名中71名から回答を得た。(39.9%)

薬科学には創薬科学と医療生命薬学の2専攻があり、それぞれに博士前期課程と博士後期課程が設置されている。今回のアンケート調査対象者は創薬科学専攻前期課程57名(留学生1名)、後期課程24名(留学生5名)、医療生命薬学専攻前期課程75名(留学生0名)、後期課程22名(留学生1名)の合計178名である。回答者は創薬科学専攻前期課程27名、後期課程9名、医療生命薬学専攻前期課程30名、後期課程5名となっており、全体でのアンケート回収率は40%であった。前期課程学生のアンケート回収率は43%(同後期課程:30%)であり、前回調査の89%を大きく下回る結果となった。次回の調査にあたっては、本アンケートの周知徹底や回答用紙回収の方法などを再検討し、回収率の向上に努める必要がある。留学生を除いた回答者のうち前期課程で54%(徳島県:26%)、後期課程で29%(徳島県:29%)が四国出身者である。また、全回答者の中で社会人あるいは留学生の占める割合は、前期課程で0%、後期課程で43%であった。なお、平成18年度から薬剤師養成のための学校教育が6年制学部課程へと変化したことに伴い、既存の大学院課程2専攻の改組が予定されており、今回の調査では学部6年制学科「薬学科」を母体とする博士課程(薬学専攻)と、学部4年制学科「創製薬科学科」を母体とする博士前期および後期課程(創薬科学専攻)に在籍する学生が本アンケート調査の対象となる予定である。

第1章「家族・住居、通学」について、家庭の年間所得を見ると、前期課程では「1,000万円以上」が24%であり、他の教育部に比べて多くなっている。住居費については、前期課程では「4万円～5万円未満」が37%で最も多く、後期課程では「5万円～6万円未満」が50%となっている。通学方法としては「自転車」という答えが両課程とも最も多く(前期課程:61%、後期課程:64%)、「15分未満」での通学時間が前期課程で74%、後期課程で71%であった。

第2章「収入・支出」について、親からの援助は前期課程で26%、後期課程で71%の学生が「全くない」と答えており、前期課程で51%、後期課程で57%が奨学金を「現在受給中であるが、更に希望する」と答えている。ティーチングアシスタント(TA)については、前期課程で32%、後期課程で36%が「希望しているが、従事していない」と答えており、「希望しているが、従事していない」と答えた全体での割合(前期課程:13%、後期課程:21%)を大きく上回っていることから、全学的に何らかの措置が望まれる。また、アルバイトについては、前期課程で77%の学生がアルバイトをしているが、後期課程では14%まで減少しており、研究活動時間との相関が窺われる。アルバイト従事時間数(前期課程10時間未満:50%、後期課程10時間未満:100%)とアルバイト収入(前期課程5万円以上:57%、後期課程5万円以上:50%)の関係からは、時間あたりの収入が比較的高額であり、現状では多くの学生が薬剤師としてアルバイトをしていると推察される。しかしながら、平成18年度から薬学部6年制がスタートしたことにより、創薬科学専攻博士前期および後期課程の学生は薬剤師免許を取得できなくなったため、アルバイト収入において少なからず影響が出るものと予想される。なお、前期課程では40%がアルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答したのに対して、後期課程では全員がアルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答していることから、後期課程学生への経済的支援は今後も重要な課題の一つである。

第3章「健康状態」について、前期課程の56%が「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と答えており、症状の内容としては「頭痛(43%)」が最も多い。研究室で過ごす時間がかなりの割合を占めていることから、生活リズムの乱れ等についてもきめ細かく指導する必要があるだろう。また、精神状態について、「充実している」あるいは「気分は普通」と答えたのは前期課程が65%、後期課程が64%となっており、その他の学生は「いらいらする」や「なんとなく不安」、「落ち込みやすい」、「や

る気がでない」と回答している。なお、保健管理センターの認識について「健康診断以外（診療、相談、健康機器の利用、証明書作成など）で利用したことがある」との回答は前期課程で28%にとどまっていることから、薬科学としても3年前に設置された蔵本保健室の存在等を周知徹底し、精神面を含めた健康の維持管理のための有効利用を多くの学生へ呼びかける必要がある。

第4章「学生生活上の問題点」について、前期課程で15%、後期課程で7%の学生が何らかの迷惑行為を受けたと答えている。特に、前期課程では前回の調査で最も多かった「いたずら電話をうけた」が13%から2%に減少したのに対し、「大学内でアカハラを受けた」と「飲酒を強要された」がいずれも5%となっており、教員ならびに学生への注意喚起と意識の向上が求められる。また、学生相談室の認識度に関して、前期課程で26%、後期課程で36%の学生が「学生相談室を知らない」と答えていることから、学生相談室と緊密に連携しながら薬科学としての啓蒙・啓発活動をを進める必要がある。

第5章「修学状況」について、前期課程での教育理念や教育方針への認知度が他の教育部に比べて若干低くなっている。教育課程に対する満足度は、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた学生が前期課程で88%、後期課程で78%であるのに対して、授業の内容・進め方の満足度に対する設問では前期課程で75%、後期課程で79%が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えている。教員には学生の満足度を100%に近づけるためのさらなる努力が求められる。前期課程で授業以外の研究活動に費やす1週間平均時間は20時間以上が81%であり、前期課程全体の59%を上回っている。後期課程では93%の学生が20時間以上と答えており、後期課程全体の66%を大きく上回る結果となっている。直接の研究指導は前期課程で32%、後期課程で57%が教授と答えている。研究指導の内容や進め方については、前期課程で77%、後期課程で93%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えているが、前期課程での満足度は「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた学生の全体での割合（82%）を若干下回っている。指導教員の多忙さ等も原因の一端として考えられるが、満足度を高めるような薬科学での教育システムの整備が望まれる。薬科学に全体として満足していますかとの設問については、前期課程で88%、後期課程で93%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えている。しかしながら、研究環境について後期課程の学生全員が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えているにもかかわらず、前期課程で「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた学生は70%であり、不満足な理由としては施設・設備（45%）や研究費用（41%）が多くなっている。今後は教育システムの細部にわたる点検および改善が必要であろう。図書館については、後期課程の57%がウェブサイトによる文献検索を「ほぼ毎日利用している」と答えており、他の教育部と比べて際立って利用頻度が高い。ウェブ上で閲覧可能な雑誌の維持や拡充は、大学として継続して取り組まなければならない重要な課題である。海外渡航の回数は前期課程よりも後期課程の方が多く、その目的を見ると、前期課程で0%だった学会参加が後期課程では42%となり、後期課程での国際的な研究活動への関与が窺われる。また、語学力を高めるために何をしていますか（日本人）との設問に対しては、前期課程で56%、後期課程で40%の学生が「何もしていない」と答えている。研究活動の国際化に対応するため、薬科学としても何らかの語学学習支援教育システムを構築する必要がある。さらに、本学の国際化への対応についての設問には、前期課程で46%、後期課程で43%が「積極的とは思わない」あるいは「どちらかといえば積極的であるとは思わない」と答えていることから、学生が実感できる国際化への対応をより一層積極的に推進しなければならない。

第6章「進路選択・就職」について、前期課程学生の後期課程への進学希望者は9%であり前回調査（11%）よりも若干少なくなっている。進学を希望していない学生の希望職種としては「企業等の研究職」が38%で最も多く、次いで「専門職」の29%となっている。この順序は前回の調査結果（専門職：36%、企業の研究職：24%）と逆転しており興味深い。進路選択の情報入手手段についての設問回答か

らは「Web・インターネット」の重要性が窺われる。一方、本学の就職支援室を利用したことがありますかとの設問に対しては、前期課程で77%、後期課程で86%が「利用したことがない」と答えている。本年度からは、蔵本地区においても就職支援室の分室が開設され就職相談が受けられるようになったことから、模擬面接やエントリーシートの添削といったサービスについて周知徹底するとともに、就職支援室とも連携した薬科学独自の組織的な就職支援体制の確立が急務である。

最後に、本調査より明らかとなった薬科学の現状と課題を総括する。今後は、課題の克服に向けて鋭意努力しなければならない。

1. 後期課程学生への経済的支援体制は必ずしも十分でなく、改善が望まれる。一つの改善策として、平成21年度より新設される「徳島大学ゆめ奨学金」の有効活用が期待される。
2. 精神面を含めた健康の維持管理のための支援体制は必ずしも十分ではなく、保健管理センターならびに学生相談室との連携強化が望まれる。
3. 教育課程や研究指導に対する満足度をより高めるため、大学院課程の改組を期に学生のニーズに合った新しい教育システムの構築が望まれる。
4. すべての学生が国際化への対応を実感することができるよう、大学院課程の改組を期に国際化への取組の一層の強化が望まれる。
5. 就職支援室をはじめとする就職支援体制は蔵本地区において必ずしも十分でなく、大学院課程の改組にも対応した組織的就職支援体制の早期の確立が望まれる。

7-5 栄養生命科学教育部（栄養科学研究科）

前期課程では、42名が在籍しそのうち34名がアンケートに回答し回収率は81%であった。回答者の男女比は、男性が6名で女性が28名いて女性が多い。留学生は1名が在籍し1名が回答した。後期課程では、41名が在籍しそのうち19名が回答し回収率は46.3%であった。回答者の男女比は、男性が10名で女性が9名である。留学生は8名が在籍し3名が回答した。後期課程のアンケートの回答者数が少し少ないので、アンケート項目を割合で比較する場合にはバラツキがあることを考慮する必要がある。

第1章の「本調査の対象者について」では、留学生をのぞいた回答者の出身地を見ると、「徳島県出身」は前期課程で18%になり、全学平均の36%よりかなり少ない。後期課程では26%で、全学平均の30%とほぼ同じである。「社会人大学院生」については、前期課程では0%、後期課程では5%（1名）で、社会人大学院生はほとんどいない。

第2章の「住居、通学方法、収入・支出について」では、「住居区分」について、「自宅」と回答した学生が前期課程は15%、後期課程は21%で、他の教育部と比較して少ない。これは徳島県出身以外の学生が多いためである。「住居費」については、6万円未満の学生が前期課程では96%、後期課程では100%であった。「通学時間」については、「15分未満」が前期課程では79%、後期課程では68%となり、他の教育部と比較して通学時間が短く、大学の近くのアパートやマンションに住んでいる学生が多いことがわかる。「1ヶ月の平均収入」では、前期課程で「3万円未満」と回答した学生が62%、後期課程は32%あり、他の教育部と比較して「3万円未満」が多い。「親等からの援助額」については、前期課程と後期課程の両方の学生で、他の教育部と比較して援助額が多くなっている。「ティーチングアシスタント」については、「現在している」と答えた学生の割合が前期課程では100%、後期課程では58%になった。他の教育部と比較して、「現在している」と回答した学生が多い。「リサーチアシスタント」については、「希望しているが従事していない」と答えた学生が、前期課程と後期課程の両方で他の教育部よりも多く、希望者が多いことがわかる。「アルバイトの収入」については、「3万円未満」の割合が前期課程は58%、後期課程は60%あり、他の教育部と比較して「3万円未満」の割合が多い。

第3章「健康状態について」では、「主な悩みや不安」については、前期課程の学生で「就職や進路」についての回答が29%あり、最も多くなっている。「現在の精神状態」については、「充実している」と「気分は普通」を合わせた割合が前期課程で41%となり、他の教育部と比較して割合が少なくなっており、なんらかの精神的なストレスを感じている学生が多い。

第4章「学生生活上の問題点について」では、「配偶者や子供の有無」については、「配偶者なし子供なし」が前期課程と後期課程の両方で100%であった。「学生相談室の周知度と利用」では、「利用したことがある」が後期課程の学生で16%おり、他の教育部と比較して割合が多い。「大学事務室の対応」については、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が、前期課程では50%、後期課程では43%となり、どちらも他の教育部と比較して満足している割合が少ない。

第5章「修学状況について」では、「教育理念や教育方針の理解度」について、「よく知っている」と「だいたい知っている」と回答した学生の割合が、前期課程で68%、後期課程で63%となり、他の教育部と比較してかなり高い。「教育理念や教育方針に沿った教育の実践度」については、「教育理念や教育方針に沿った教育で教育を受けている」と回答した学生が前期課程で83%、後期課程で83%おり全学平均よりも多い。「教育課程の満足度」では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、前期課程では95%になり全学平均の84%より多い。これに対して、後期課程では79%になり全学平均と同じ割合である。「大学院に相等的な教育の実践度」については、「充分に行われている」と「ある程度行われている」を合わせると、前期課程では91%となり、後期課程では85%になった。「授業内容、進め方の満足度」については、「満足している」と「どちらかという満足している」の合計が前期課程では93%、後期課程で85%になっており、全学平均と比較して満足している学生が多い。「主な大学院進学理由」については前期課程では「希望する研究分野があるから」が多く、後期課程では「継続して修学するため」が多い。「大学院での勉学で目指すもの」については、「創造性豊かな優れた研究開発能力をもつ研究者」と回答した学生の割合が、前期課程では38%、後期課程では63%となり多く、他の教育部と比較して研究者を目指す学生が多いことがわかる。「1週間の研究活動時間」については、40時間以上と回答した学生の割合が前期課程では67%、後期課程では84%を占めており、薬科学と同じように非常に多くの時間、研究に従事していることがわかる。「研究の指導教員」については、前期課程と後期課程の両方も他の教育部と比較して「教授」の割合が少なく、「助教」の割合が非常に多い。「研究指導についての満足度」については、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、前期課程では82%になり全学平均と同じ割合である。これに対して、後期課程では79%になり全学平均の90%より少なくなっている。「修士論文や博士論文の研究テーマについての満足度」については「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が全学平均とほぼ同じである。「指導教員とのコミュニケーション」では、「充分にとれている」と「ある程度とれている」を合わせた割合が前期課程で83%となり、全学平均の76%と比較して多い。後期課程では89%となり、全学平均90%とほぼ同じ割合である。「研究環境についての満足度」では、前期課程の学生で「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が88%を占めて多くなっている。後期課程では79%で全学平均とほぼ同じ割合である。「所属大学院についての満足度」について「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、前期課程では91%になり全学平均と同じ割合である。これに対して、後期課程では84%になり全学平均の89%と比較してすこし少ない。次に、「図書館の利用頻度」と「図書館ウェブサイトの利用頻度」については、利用頻度が全学平均と比較して前期課程で少し高く、後期課程では全学平均とほぼ同じである。「入学後の海外渡航経験」については、「ない」と答えた学生が前期課程で79%おり全学平均とほぼ同じ割合である。後期課程でも47%で全学平均とほぼ同じ割合である。「国際学会への参加」については、「国際学会で発表したことがない」と回答した学生が前期課程では85%、後期課程では56%でどちらも全学平均よりも割合が多い。「学習への取り

組み」については、「よく学習している」と「かなりしている」を合わせると、前期課程では65%になり全学平均の60%と比較するとすこし多く、後期課程では89%となり全学平均の77%と比較するとかなり多い。

第6章「進路選択、就職について」では、「博士課程への進学意志」について、前期課程では「進学したい」と回答した学生が24%を占めており、全学平均の6%を大きく上回っている。「進学先」は「本学」が82%になっている。「就職希望職種」については前期課程で「企業等の研究職」を希望する学生が32%で最も多い。後期課程では「大学官公庁の教育研究職」を希望する学生が19%で多い。「進路選択の情報入手手段」については、前期課程では「Web インターネット」、「先輩、知人」、「大学内資料」、「就職、情報誌、新聞、マスコミ」の順で、後期課程では「Web インターネット」、「指導教員」、「先輩、知人」の順で多い。「就職支援室の利用状況」については、「利用したことがない」と回答した学生が前期課程で88%、後期課程で95%を占めている。全学平均（前期課程は57%、後期課程88%）と比較して割合が多い。

今回の調査で明らかになった問題点と課題は、

1. メンタルヘルス面での支援の充実
 2. 就職支援の充実
 3. 教育指導法による満足度向上
- などが挙げられる。

7-6 保健科学教育部

保健科学では、前期課程に36名在籍して回答者は18名で回収率は50%であった。前期課程に留学生は在籍していない。後期課程は今年度設置されたので、1学年の学生6名が在籍して回答者は5名で回収率は83.3%であった。留学生は1名が在籍し1名が回答した。後期課程は回答した学生数が少ないため、アンケート項目について比率による比較は困難であるので、実数により記述する。

第1章「本調査の対象者について」では、回答者の出身地を見ると、「徳島県出身」は前期課程で36%となり全学平均と同じ割合である。後期課程は5名中2名が徳島県出身である。「社会人大学院生」については61%となり、全学平均の5%と比較して割合が多くなっている。後期課程では5名中3名が社会人大学院生である。保健科学の大学院生は、すでに医療の現場で医療技術者として働いている人が社会人大学院生として入学する場合や、保健学科を卒業してすぐ大学院に入学する場合でも大学院の在籍中に医療現場で働き始める場合が多い。後者では、大学院を卒業して就職をする時に医療技術者としての実務経験（2年間）があるほうが就職に有利になるという理由による。最近は卒業して大規模な病院に就職を希望する場合、他大学の卒業者との競争が激しくなってきている。

第2章「住居、通学方法、収入・支出について」では、「住居区分」については、「自宅」と回答した学生が前期課程では56%、後期課程では5名中4名となり、全学平均の割合を大きく上回っている。

「通学方法」では、「自動車」と回答した学生が前期課程では61%、後期課程では5名中3名であった。これは社会人大学院生が多く、職場からの通学に自動車を使っているためと思われる。「通学時間」については、「30分以上」の割合が他の教育部と比較して多い。「1ヶ月の平均収入額」については、「20万円以上」の割合が前期課程で44%、後期課程で5名中4名おり、全学平均と比較して非常に大きな割合になっている。これは社会人大学院生が多いことによる。「親等からの援助額」については、「全くない」と回答した学生が前期課程では89%を占めている。「奨学金」については、「現在受給していない」と回答した学生が前期課程で78%を占めた。後期課程についても5名中4名が同じ回答をした。

第3章の「健康状態について」では、「睡眠時間」については「6時間未満」と回答した学生が、前期

課程で67%おり全学平均の38%と比較して睡眠時間が少なくなっている。これは社会人として働き、また大学院生として研究を行い忙しい日々を過ごしているため睡眠時間が少なくなっているものと思われる。「主な悩みや不安」については、前期課程で「勉学」についての悩みがあると回答した学生が26%いて、悩みの原因としては一番多かった。次に「就職や進路」が19%で多かった。

第4章の「学生生活上の問題点について」では、「配偶者、子供の有無」については「配偶者あり、子供あり」と回答した学生が前期課程の男子で13%、女子で30%いた。これは社会人大大学院生で家庭を持っている学生が多いことによる。

第5章の「修学状況について」では、「教育理念や教育方針に沿った教育を受けているか」という質問に対して、「思う」と回答した学生が、前期課程では60%となり全学平均の76%より少なかったが、後期課程では4名中3名が「思う」と回答した。「教育課程の満足度」では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、前期課程では73%になり全学平均の86%より少ない。しかしながら、後期課程では5名全員が「思う」と回答した。「大学院に相等的な教育の実践度」については、「充分に行われている」と「ある程度行われている」を合わせると、前期課程では89%となり全学平均と同じ割合となった。後期課程では5名中4名が同じ回答をした。「授業の内容、進め方の満足度」については「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、前期課程では61%になり全学平均の85%よりかなり少ない。しかしながら後期課程では5名全員が同じ回答をした。「大学院での勉学で目指すもの」については「高度な専門知識、能力を持つ高度専門職業人」と回答した学生が、前期課程では53%で半数を超えており他の教育部と比較して割合が多い。保健科学は、看護学領域、医用情報科学領域、医用検査学領域の3領域から構成され、学生は卒業後はそれぞれの領域の高度な知識と技術を備えた医療技術者（看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など）として病院で仕事をする場合が多い。このため、それぞれの領域の高度専門職業人を目指して、目的意識を持って大学院で勉学する学生が多いことによる。後期課程では、5名中2名が「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」と回答している。「1週間の研究活動時間」については、前期課程で72%の学生が週20時間未満と回答している。後期課程では5名中4名が、週20時間未満と回答している。これは、昼間は社会人として働いている学生が多く研究時間が夜間になるためと思われる。「研究の指導教員」について、指導教員が「教授」と回答した学生は前期課程で89%、後期課程で100%であった。この割合は他の教育部と比較して多い。「研究指導についての満足度」については「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は、前期課程で89%になり、全学平均の82%と比較して多い。後期課程では5名全員が同じ回答をした。「修士論文の研究テーマについての満足度」では「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は、前期課程で94%になり、全学平均の88%と比較して多くなっている。「博士論文の研究テーマについての満足度」については「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は100%になった。「指導教員とのコミュニケーション」については、「充分取れている」と「ある程度取れている」をあわせると、前期課程では89%、後期課程では100%になっており、全学平均と比べて割合が多い。「研究環境についての満足度」については、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を回答した学生が、前期課程では61%、後期課程では5名中3名で、全学平均の75%と比較すると少ない。不満足な理由として「研究時間」を回答した学生が多い。これは社会人大大学院生が多く、十分な研究時間が取れないためと思われる。また、保健科学は設置されてからまだ2年半しか経過していなく教室や実習室などの教育環境や研究設備などの整備がまだ十分でなく、このため教育研究設備や制度の充実が今後の課題である。次に、「図書館の利用頻度」と「図書館ウェブサイトの利用頻度」については、利用頻度が前期課程では全学平均と比べて少し高い。「入学後の海外渡航経験」については、「ない」と答えた学生が前期課程で68%いて全学平均の76%と比べて少ない。後期課程では5名中2名が「ない」と回答した。「国際学会への参加」については、「国際学会で発

表したことがない」と回答した学生が前期課程では43%で「無回答」も43%であった。後期課程では4名中2名が「ない」と回答した。「学習への取り組み」については、「よく学習している」と「かなりしている」を合わせると、前期課程では55%になり、全学平均の60%と比較するとほぼ同じ割合である。後期課程では5名中3名が同じ回答した。

第6章「進路選択、就職について」では、「博士課程への進学意志」について、前期課程では「進学したい」と回答した学生が17%いて、全学平均の6%を上回っている。「進路選択の情報入手手段」については、前期課程と後期課程の両方で「指導教員」、「先輩、知人」、「Web インターネット」などの割合が多い。「就職支援室の利用状況」については、「利用したことがない」と回答した学生が前期課程で89%、後期課程では5名中4名いる。全学平均（前期課程は57%、後期課程88%）と比較して割合が多い。これは就職先が病院などの医療分野で一般の就職先とは異なることによる。しかしながら、今後は蔵本地区の就職支援室に病院などの医療分野の就職情報を集めて医療系の学生の就職支援を充実させることが必要と思われる。

今回の調査から示された問題点と課題は、

1. 社会人学生のための研究時間の確保
2. 教育研究設備の充実
が挙げられる。

7-7 先端技術科学教育部（工学研究科）

先端技術科学と工学研究科における学生数は、前期課程が691人、後期課程が197人であり、今回の調査における学生の回答割合は、前期課程が73.5%、後期課程が56.9%である。

第1章「本調査の対象者について」より、前期課程の出身地は、徳島県38%、近畿30%、徳島以外の四国15%、中国10%と徳島県と近隣府県の占める割合が極めて高くなっているが、後期課程では関東が30%、徳島27%、近畿13%、徳島以外の四国12%となり、関東圏から社会人を多数受け入れている状況が窺える。また、本学出身者の割合は、前期課程で92%と高い割合となっているが、後期課程では、本学出身者が61%で、26%が国内他大学、12%が外国の大学となっている。社会人と留学生の割合は、前期課程でそれぞれ2%、3%と極めて少数であるが、後期課程では、それぞれ、26%、37%と増加している。

第2章「住居、通学方法、収入・支出について」より、通学方法は、両課程ともに自転車が約6割と最も多く、前期課程では、次いでバイク、徒歩、自動車となり、後期課程では、自動車、バイク、徒歩となる。15分未満の通学時間の割合は、前期課程で68%、後期課程では49%と後期課程において相対的に通学時間が長くなり、2時間以上の割合も3%となっている。

また、平均収入月額、前期課程では、3万円未満が53%と最も多く、収入額の増加とともに割合が減少する傾向があるが、後期課程では、3万円未満から30万円以上まで、収入額に偏りが見られず広く分布している。また、親等からの援助は、平成17年度に実施した前期課程の実態調査結果と比較すると高額な援助の割合が減少し、全くない（19%から26%）と3万円未満の援助（20%から23%）の割合が増加しており、親等からの援助が減少していると考えられる。後期課程では、76%が全く援助を受けていないと回答している。奨学金については、受給中であるが、更に希望する割合が、前期課程で43%、後期課程で54%と高くなっている。また、現在受給していないが希望するものの割合は前期課程で8%、後期課程で15%であり、両課程において、奨学金をより充実させる必要があるが、後期課程における強い要望に優先して応える必要がある。

TAは、前期課程で54%が従事しているが、希望しているが従事していないものが12%存在している。

後期課程では、TA 従事者が 30%と少なく、希望しているが従事していないものが 24%と多数存在している。後期課程の学生に対して TA 従事の希望を確認し、希望者を積極的に採用する必要がある。一方、RA については、従事者が前期課程で 2%，後期課程で 10%と従事者数が極めて少なく、希望しているが従事していない割合は、前期課程 8%，後期課程 38%と多数存在している。このことより、RA の予算の増額に向けた取組みが必要である。

アルバイトは、前期課程で 48%，後期課程で 32%の学生が従事している。前回調査時には、前期課程で 53%が従事しており、今回は、5%程従事者が減少している。アルバイト従事時間数は前回調査と比較して、5 時間未満が 37%から 21%と急減し、長時間従事者数が増加している。しかしながら、アルバイト収入額は、前回調査とほとんど変わっていない。また、アルバイトの目的も生活費や学費のためが最も多く、39%で前回と同じ（後期課程では 40%）である。また、アルバイトにおいて、前期課程の 3 割が何らかのトラブルを経験し、後期課程では 14%と前期課程より減少しているものの、トラブルに遭遇している。

第 3 章「健康状態について」より、気になる症状が、時々あると常にあるの割合が前期課程で 46%，後期課程で 61%であり、前期課程では、前回調査より 13%程度増加している。主な悩みや不安やその相談相手は、前期課程においては前回調査と類似した結果であり、就職や進路と勉学が多くなり、友人や家族に相談する割合が高くなっている。しかし、誰にも相談しないものも 16%存在しており、自己解決できる場合には問題ないと思われるが、ストレスを抱え込むと問題となる可能性がある。後期課程においても就職や進路と勉学が多くなり、家族や友人に次いで教員に相談する割合が高くなっている。前期課程ほど多くはないものの、11%が誰にも相談しないと回答しており、学生相談室や教員等に容易に相談できることを周知する必要がある。

現在の精神状態については、前回調査と回答項目に一部変更（気分は普通が追加）されており、直接的な比較はできないが、普通か充実していると回答した割合が、前期課程で 61%，後期課程で 72%に留まっており、残りの 39%と 28%の学生が、なんとなく不安、やる気が出ない、いらいらする、落ち込みやすい等精神状態に問題を抱えており、対策が必要になると考えられる。

第 4 章「学生生活上の問題点について」より、迷惑行為は、前回調査において受けたことがないものの割合が 68%と低かったが、今回は、前期課程で 84%，後期課程で 91%が迷惑行為を受けていないと回答しており、迷惑行為が減少したものと考えられる。しかし、悪徳商法を挙げた学生 16 名中 14 名が先端技術科学であり、アカハラも前期課程 24 名中 17 名が先端技術科学である。さらにセクハラ被害も挙げられており、被害実態の詳細な調査や対策等を検討する必要がある。

盗難等犯罪の被害については、前期課程では前回調査とほぼ同じく 19%が何らかの被害を受けており、後期課程でも 9%が被害を受けている。事件の中では盗難が最も多く、全学 119 名中 96 名が先端技術科学であり、強盗、傷害、痴漢も発生している。「現金・貴重品の常時携行」、「自転車の施錠」等盗難予防の周知徹底に努める必要がある。

大学事務室の対応は、回答項目が一部異なる（「どちらともいえない」が前回に含まれていた）ため直接的な比較はできないものの、前期課程においては、どちらかといえば不満足と不満足との割合がそれぞれ、15%から 9%と 28%から 7%と大幅に減少し、後期課程ではそれぞれが 4%と 3%とであり、満足度が 91%と高くなっている。一部自由意見で改善事項が挙げられているが、引き続き改善に重ね、満足度の更なる向上に努める必要がある。

第 5 章「修学状況について」より、教育部の教育理念や教育方針は、前期課程でだいたい知っているものを含めて、40%，後期課程では 49%の割合でしか知られておらず、今後の更なる周知に努める必要がある。教育課程、教育レベル、授業の内容や進め方に対しては後期課程の満足度がやや高い傾向が見られるが、両課程において、80%から 90%の満足度が得られており、一定の評価が得られていると考え

られる。しかし、集中講義が多い、社会人への配慮不足、留学生に対する英語授業の不足等の課題も挙げられており、更なる改善が必要である。また、学生自身の学習への取り組みについては、かなり学習しているものの割合が前期課程で58%、後期課程で84%、留学生で92%となっており、前期課程の学生に対して教育理念に基づいた授業の充実が必要であると考えられる。

本学への進学理由は、前期課程では前回調査と類似しており、「出身大学（32%）」が最も多く、「希望する研究分野（15%）」、「継続して修学（15%）」、「就職等将来を考慮（13%）」と続いている。後期課程では、「希望する研究分野（27%）」が最も多く、「継続して修学（17%）」、「出身大学（16%）」、「指導教員の勧め（11%）」となっており、研究分野を重要視していると考えられる。また、本学出身者は、本学の大学院を第1志望とする割合が前期課程で87%、後期課程で82%と高くなっているが、他大学卒業者では、前期課程で55%、後期課程で59%が第1志望となっており、第2志望や第3志望の割合が増加している。後期課程への進学希望者は、前回調査から進学したいが6%から3%、奨学金等の経済的支援があれば進学したいが4%から2%と半減し、他教育学部より圧倒的に低い進学希望となっている。さらに、進学希望者の本学後期課程への志望割合は46%と前回の62%から低下しており、本学の博士後期課程の魅力を積極的に広報する必要がある。

研究活動の1週間平均時間として、10時間以上と回答した割合が、後期課程では83%、前期課程では72%以上となっており、前回調査における前期課程の53%から増加している。しかしながら、週30分以下の研究活動の学生が前期課程で12名（1年生、2年生ともに6名）、後期課程の1年生で2名存在している。1年生は、授業に重点的に取り組んでいることも考えられるが、前期課程の2年生の活動時間としては疑問を感じざるを得ない。また、直接的に研究指導を受けている教員の比率は、前期課程では、前回と類似した傾向で全員が分担して行っている。後期課程では、63%が教授、25%が准教授、講師、助教がそれぞれ4%となっており、前期課程（教授46%）より、教授が指導する学生の割合が増加している。研究指導を受ける時間は、前期課程では前回調査とほとんど変化しておらず、週30分未満の割合が26%と比較的高くなっている。後期課程では、30分未満の割合は18%と少なくなっている。留学生の週30分未満の割合は、前期課程で15%、後期課程で10%であり、指導時間は、留学生が最も長く、後期課程、前期課程の順に短くなっている。研究指導、研究論文のテーマ及び指導教員とのコミュニケーション、研究環境、大学院に対する満足度は、前期課程、後期課程、留学生の順に高くなり、75%から95%程度の比較的高い満足度となっている。しかし、指導教員が多忙、研究以外の用件の依頼、指導教員のコミュニケーション不足等の理由で、指導に不満を持っている学生も存在しており、指導時間の確保やコミュニケーションを深める等の改善に取り組む必要がある。研究環境の満足度は、前期課程で72%、後期課程で82%と比較的高くなっているが、施設・設備、研究費を不満足の原因としてあげる学生が多く、研究環境の充実も今後の課題である。

海外渡航経験は、前期課程では前回調査とほぼ同様で、26%が1回以上経験しており、後期課程では、59%が経験している。渡航目的は、学会参加が最も多くなり前期課程で30%から43%に増加し、後期課程で51%と半数となっている。前回調査で最も多かった観光が前期課程で47%から36%に減少し、後期課程では12%と留学生の一時帰国20%より少なくなっている。国際会議での発表は、前期課程で25%、後期課程で60%が経験している。学会参加への資金援助をより充実し、より多くの学生が参加できるように支援する体制が必要である。

英会話については、前期課程において、何とか日常会話ができるレベル以上と回答した割合は18%と前回の25%から減少し、後期課程においても36%に留まっている。TOEIC、TOEFL等の受験等語学力の向上に努めている割合は前期課程で62%、後期課程で63%であり、残りの約3割が何もしておらず、英語による外国人とのコミュニケーションを日常的に行える環境の整備等の語学力向上に向けた支援策を検討する必要があると考えられる。

第6章「進路・就職について」より、就職希望職種としては、前期課程で技術職が59%と前回調査より7%増加し、公務員や大学教員を希望する割合がそれぞれ8%から3%に減少している。後期課程では、51%が無回答を選択しており、大多数が就職先を検討中とも考えられる。次いで、研究職、教育職、技術職が多くなっている。進路選択で重要視しているのは、両課程とも就職先の将来性・安定性、収入、能力を發揮できることを挙げている。進路の情報入手先は、前期調査項目になかったWeb・インターネットが前期課程で34%、後期課程で28%と最も多くなっている。前期課程では先輩・知人(22%)や就職情報誌等(14%)より、指導教員(9%)や就職担当教員(4%)の割合は、低くなっており、後期課程でも、指導教員は先輩・知人と同じ割合(19%)で2位であり、自由応募で就職活動する学生の割合が増加していることが窺える。就職支援室の認知度は前回調査時より増加しているが、前期課程は51%が、後期課程では84%が利用したことがないと回答しており、就職支援室が提供している模擬面接や就職ガイダンス等の利用も就職活動に有益であることの周知が必要であろう。

最後に、その他の要望等として、夜間の安全確保のためセンサー式照明や外灯の増設、先端技術科学**専攻++コースとコース名まで記載(説明)しなければ研究・学習分野を理解されないため簡略化を検討してもらいたい、女子更衣室の設置、女性でも子育てしながら研究・学習ができる社会環境整備(授業料免除・減額、保育料補助等)、休日・夜間一早朝専用の入校カードの発行等があった。

本調査から明らかにされた問題点と課題を列挙すると以下のとおりである。

1. 教育部の教育理念や教育方針の周知徹底
2. 研究環境のさらなる充実
3. TA・RA、奨学金制度の充実
4. 語学学習支援教育システムの充実

(特記) 留学生の現状と課題

留学生の現状と課題をアンケートの関連項目から検討する。留学生の回答者数は96名である。うち、前期課程が13名、後期課程が83名である。

留学生の住宅区分では8割以上がアパート・マンション、国際交流会館が14%であった。これに対応して、住宅費用は3万円未満(37%)、3~4万円未満(37%)、4~5万円未満(20%)であった。住宅費用が4万円以上の場合、住宅手当付きの外国政府派遣留学生が多いと思われる。また、通学方法は自転車と徒歩が殆どで、自動車通学は数名であった。通学時間は30分以内が殆どで、30~1時間未満(8%)は国際交流会館からの通学と考えられる。家庭の年収については、250万未満の割合が全体の前期課程が14%、後期課程が35%に対して、留学生は前期課程が71%、後期課程が86%である。また、88%が親等からの援助額は「全くない」と回答している。留学生の経済状況がよいとは言えない。奨学金については、83%が「現在受給中であるが、更に希望する」と回答しており、「現在受給していないが、希望する」も16%あった。アルバイトに関しては、「アルバイトをしていない」が75%で、「アルバイトをしている」が24%あった。また、TA、RAの希望者が多かった。

留学生の健康状況については、気になる症状が「常にある」か「時々ある」学生が、前期72%、後期84%と高率になっており、健康面の問題や不安に対する支援の必要性を示している。また、主な悩みは、「勉学」に続いて「進路や就職」であり、全体と同じだが、悩みがないという学生が3~4%とわずかであり、「経済状態」が悩みである学生が多くなっている。悩み事をほとんどの学生が友人、家族、教員などの誰かに相談していることが分かる。学生相談室を知っている留学生比率はかなり低いことから、大学院生への存在の周知が、学生相談室の緊急の課題であり、国際センターと連携しながら対応していく必要がある。

修学状況については、留学生と学生全体の平均的な意見分布に大きな差は見られないが、以下の事項で留学生と学生平均と若干の差が生じている。

- ・前期課程において、教育理念や教育方針を知っている割合は4割強（5%がよく知っている、37%がだいたい知っている）であるが、留学生の65%は、だいたい知っていると認知度が高くなっている。後期課程の留学生の88%は教育課程にほぼ満足（満足18%、どちらかといえば満足70%）しており、全体の平均（満足25%、どちらかといえば満足54%）より若干高くなっている。授業の内容や進め方に対する不満として、留学生から、日本語での授業が多いことが（先端技術科学、医科学）挙げられている。
- ・本学の卒業生が本学の大学院を第1志望としている前期課程の学生が、全体で87%となっているが、留学生は全員第1志望である。他大学を卒業して本学の前期課程に進学した学生の64%が第1志望であるが、留学生では第1志望の割合がそれぞれ38%と若干低くなっている。
- ・前期課程の学生が全体として研究指導を受けている1週間の平均的な時間は、30～90分（38%）が最も多く、以下順に、90分～5時間（30%）、30分未満（24%）、5～10時間（4%）、10時間以上（3%）となっている。留学生の研究指導時間が90分未満の割合は、36%と若干低くなっており、十分ではないものの比較的多くいる。
- ・指導教員とのコミュニケーションに関して、留学生は、充分24%、ある程度65%と回答されており、比較的コミュニケーションがうまくとれている。
- ・後期課程学生全体では、研究環境にどちらかといえば満足している割合が最も高く41%となっており、以下順に、満足40%、どちらかといえば不満足13%、不満足5%となっており、留学生の満足度は、90%以上（満足45%、どちらかといえば満足51%）と高くなっている。

前期課程では94%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答をしているのに対し、後期課程では「なんとか日常会話ができる」以上の回答が78%となっている。前期課程では82%、後期課程では87%が日本語コースを「受講している」あるいは「以前に受講したことがある」と回答しており、日本語習得のための日本語コースへの期待の高さが窺われる。日本語コースへの満足度については、前期課程、後期課程ともに93%の留学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、留学生の日本語学習において「徳島大学が開講する日本語コース」が重要な役割を果たしているといえる。「どちらかといえば不満である」あるいは「不満である」と回答した留学生（4名）は少数であったが、不満に感じた点を具体的に調査することで「日本語コース」の一層の充実化が期待できるであろう。

進路情報の入手手段については、留学生は日本人学生と同様、目立つのはWeb・インターネットである。「先輩・知人」が少し減り、就職情報誌等が増えている。留学生は、教育・研究職志望が高く、収入、就職先の将来性・安定性、能力を發揮できることが進路選択の主要件である。また、就職支援室の利用状況については、先端技術科学の数名を除き全員「利用したことがない」と答えている。大学に対し、よりよい就職支援を求める自由記述もあるが、就職支援室の利用は極端に低い。専門に特化した支援を教育部に求めているのであろうか。

「留学生30万人計画」を踏まえ、留学生に対する住宅、奨学金や授業料免除制度の拡充、TA、RA制度の活用などの支援策を考える必要がある。

第8章 総括と提言

第2回の大学院生生活実態調査では、大学院修士課程、博士前期課程、博士後期課程、および4年制博士課程の全大学院生（1,592名）を対象に実施され、939名（59%）から回答を得た。今回の調査では博士後期および4年制博士課程の学生も調査対象に加わった。徳島大学の大学院生の構成は、81%が一般の大学院生で、8%は社会人大大学院生、11%が留学生である。調査項目は、第1回の調査と同様に、基本的情報、生活一般、経済的側面、健康、生活上の問題、修学、および進路選択・就職の7項目である。

徳島大学の第二期中期目標・中期計画を策定する時期に当たって、大学院を含め組織の見直しが求められている。また、第一期中期目標・中期計画の暫定評価を終えた段階でもあることから、先の中央教育審議会の答申（平成17年9月）で提示された「大学院教育の実質化」と「国際的通用性」といった課題を含め、学生の視点で学生生活全般を再点検し、課題を整理する必要がある。学生生活支援室では、大学院の課題と問題点を整理し、改善を図っていくために、今回の調査結果をもとに、以下の総括と提言を取りまとめた。

1. 経済的課題

教育部によっては、従事を希望しながら、ティーチングアシスタント（TA）とリサーチアシスタント（RA）の従事者の割合にばらつきがある。生活支援の一助としてTAやRAの活用促進の必要性がある。また、後期課程の学生では61%の者が奨学金を希望していることから、新設される「徳島大学ゆめ奨学金」のようなあらたな学生支援の手だての積極的な活用が期待される。

2. 健康面

全学的に学生が学修・研究活動中に少なからず健康上の不安を訴えている。保健管理センターが学生の健康管理に必要なサービスを十分に提供すると同時に、学生相談室との連携の強化を図ることでメンタルヘルス面での支援サービスを提供することが期待されている。また、各教育部での学修・研究活動における健康面や精神面での配慮や支援体制も必要であるといえる。

3. 生活面

不安や悩みのある時に誰にも相談しない学生が少なからず（10～20%程度）おり、メンタルヘルスの面から、容易に相談できる体制の整備が求められている。後期課程の学生では配偶者と子供がいる者の割合が多く、子育てしながらの学修・研究活動が出来るような環境整備が求められている。また、盗難被害も比較的多く認められている。防犯灯の整備などを含め、学内のセキュリティーの確保も必要である。さらに、セクハラ・アカハラといった人権問題には継続的な指導・啓蒙をFD等によって教職員、学生双方に提供し、学習環境の整備が必要である。

4. 修学面

所属する教育部の教育理念や教育方針の認知度は比較的高く、満足度も高い反面、研究時間の確保や長時間の研究従事など健康管理との兼ね合いで、良好なコミュニケーション（意思疎通）を確保すると同時に、研究指導や研究環境整備において留意点が認められた。国際性に関して、後期課程の学生では、前期課程の学生に比べ、海外に研究発表する機会が多くあるにもかかわらず、英語力について不安も指摘されている。英語力育成の教育体制も必要であろう。さらに、教員側の英語力の乏しさを指摘する意見もあることから、教員側の自助努力や英語力支援の取り組みも重要な課題といえる。国際学会での発表の機会を増やすなど、学生が実感できる国際化への対応を教育・研究面で実施していくことが求められる。また、研究活動を支える電子ジャーナルやウェブについては、その利用割合は高いことから、図書館の電子ジャーナルのサービスはととても重要といえる。一層の拡充が期待されている。

5. 進路・就職の課題

全学の就職支援活動はこれまで主に常三島地区の学部学生を対象にされてきた。本調査結果からは、蔵本地区での就職支援のニーズもあることが分かった。今後新設された教育部での卒業生が続々出てくることから、全学の就職支援会議や各教育部の就職支援担当でニーズの分析と対応を進め、就職支援を充実させることが必要である。

6. 留学生への対応

経済面では、TA、RAの従事希望が多いにもかかわらず、採用されていない割合がそれぞれ35%、39%と高く、日本人学生並みに採用を増やすことが求められている。健康面で不安を有している学生は、前期、後期課程でそれぞれ72%、84%と高い割合でいることから、健康面での問題や不安に対する支援等の対応が強く望まれていることが分かる。指導に当たる教員や学生支援職員のきめ細かい対応とともに、国際センター、保健管理センターおよび学生相談室の連携による組織的な学生支援機能の強化・充実が必要である。生活上の課題としては、子供を有する学生の場合は保育所利用のサポートなども求められている。学習面では、留学生は良く学修している姿がアンケート結果に現れている。ただ、教育部によっては授業の多くで日本語が使用されているというクレームがあり、英語による授業の割合を増やす努力も強く求められている。これは国際性を指向する上でも重要な課題である。進路・就職では日本での就職を希望する者も少なからずいることから、求人企業の開拓が期待されている。

あ と が き

「知識基盤社会」の今日、国際競争が激化する中で、個々の大学院はその底力が問われ出した。すなわち、徳島大学大学院が国際競争の環境下で科学技術や学術活動の基盤となる人材をいかに養成していくかが重要な課題となっている。そのためには、大学院教育の実質化を図り、魅力ある大学院教育を実践するとともに国際的通用性・信頼性を向上させていくことが必要である。平成17年9月の中央教育審議会の答申(新時代の大学院教育—国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて)でも、大学院改革の必要性とそれを推進する施策等が述べられている。

このような潮流の中で、平成20年11月に第2回大学院生の生活実態調査を実施した。今回は、7部局の大学院学生、修士課程、博士前期・後期課程、博士課程(医・歯)全員に対して調査を実施した。その準備として、平成17年度に修士課程と博士前期課程の学生を対象にして実施した第1回の大学院生の生活実態調査の際の質問項目をすべて点検し直した。さらに、先の中央教育審議会の答申と徳島大学の第1期中期計画・中期目標の視点も踏まえて、日本語と英語の質問用紙を用意するのみならず、委員が何度も議論をし、新たな質問項目も付け加えた。本調査報告書中の各項目の分析で示されているように、いくつかの調査項目の回答では、各大学院間や修士・博士前期課程の学生と博士後期・博士課程(医・歯)の学生との間で、顕著な違いも現れている。第1回大学院生の生活実態調査の結果とも見比べて頂くと、現在の徳島大学の大学院生像が見えてくると思われる。この調査結果が、これからの徳島大学の大学院教育、学生支援、大学運営等へフィードバックされ、多いに活用されていくことを期待している。

最後に、今回の調査にご協力頂きました大学院生全員と調査・分析のお骨折りを頂きました委員の方々、さらに報告書作成作業にご支援頂きました学務課職員諸氏にこの場をお借りし、深く感謝と御礼を申し上げます。

平成21年3月

学生支援センター学生生活支援室長

野 間 隆 文



UNIVERSITY
ACCREDITED
Mar. 2007

徳島大学は、学校教育法第69条の3

第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、
「大学評価基準を満たしている」と認定されました。

(平成19年3月28日)

・認定評価機関:独立行政法人大学評価・学位授与機構

・認証期間:7年間(平成19年4月1日～平成26年3月31日)



第2回大学院生生活実態調査報告書

キャンパスライフ

平成21年3月

徳島大学